



# 歴代大管長の教え

エズラ・タフト・ベンソン





歴代大管長の教え

# エズラ・タフト・ベンソン

発行

末日聖徒イエス・キリスト教会  
ユタ州ソルトレーク・シティー

『歴代大管長の教え』シリーズの書籍

- 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』（アイテム番号 36481 300）  
『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』（35554 300）  
『歴代大管長の教え——ジョン・テーラー』（35969 300）  
『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』（36315 300）  
『歴代大管長の教え——ロレンゾ・スノー』（36787 300）  
『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』（35744 300）  
『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』（35970 300）  
『歴代大管長の教え——ジョージ・アルバート・スミス』（36786 300）  
『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』（36492 300）  
『歴代大管長の教え——ジョセフ・フィールディング・スミス』（36907 300）  
『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』（35892 300）  
『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』（36500 300）  
『歴代大管長の教え——エズラ・タフト・ベンソン』（08860 300）

これらの書籍を注文するには、地元の配送センターで購入するか、store.lds.org にアクセスしてください（訳注—— store.lds.org での日本語版書籍の入手可能時期は未定）。また、LDS.org およびモバイル用アプリ「福音ライブラリー」でも入手できます。

本書に関するご意見、ご提案をお寄せください。宛て先は以下のとおりです。Curriculum Development, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-0024 USA.

電子メール：cur-development@ldschurch.org

お名前、ご住所、所属ステーク名、ワード名を明記してください。また本書の題名も忘れずにお書きください。ご意見やご提案には、本書の良い点や改善できると思われる点についてお書きください。

© 2014 Intellectual Reserve, Inc.

All rights reserved.

印刷：日本

英語版承認：2011年3月

翻訳承認：2011年3月

原題：Teachings of Presidents of the Church: Ezra Taft Benson

Japanese

08860 300



# 目次

序	v
経歴のまとめ	ix
エズラ・タフト・ベンソンの生涯と教導の業	1
1 一番大切な戒め——主を愛する	33
2 常に祈る	41
3 選ぶ自由, 永遠の原則	53
4 苦難の時代に喜びをもって生活する	63
5 真の悔い改めの原則	71
6 イエス・キリスト, わたしたちの救い主, 贖 <sup>あがな</sup> い主	83
7 ジョセフ・スミス, 主の御手 <sup>みて</sup> に使われる者	97
8 御言葉 <sup>みことば</sup> の力	107
9 モルモン書——わたしたちの宗教のかなめ石	117
10 モルモン書で地と自分自身の生活を洪水のごとく満たす	127
11 生ける預言者に従う	137
12 全てのことにおいて御霊 <sup>みたま</sup> を求めてください	145
13 主の宮からもたらされる貴重な祝福	155
14 神により定められた結婚と家族	167
15 父親・母親という神聖な召し	177
16 教会の高齢者	189
17 純潔の律法を守る	201
18 高慢に気をつけなさい	213
19 指導力	225
20 「わたしの羊を養いなさい」	235
21 物質のおよび霊的な福祉の原則	245
22 福音を世界に携えて行く	257
23 「あなたの杭 <sup>くい</sup> を強固にせよ」	269
24 キリストを中心とする生活	277
絵画・写真リスト	287
索引	289



*Gene A. Brown*



# 序

大管長会ならびに十二使徒定員会は、教会員が天の御父にさらに近づけるように、またイエス・キリストの回復された福音への理解を深められるように、『歴代大管長の教え』シリーズを作成した。本シリーズに新たな書籍が追加されるにつれ、家庭で活用するための福音の参考図書のコレクションが増えるであろう。本シリーズの書籍は、個人学習と日曜日のレッスンの両方における使用を目的として作成されている。また、そのほかのレッスンや話を準備する際、および教会の教義についての質問に答える際にも役立てることができる。

本書では、1985年11月10日から1994年5月30日まで末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長を務めたエズラ・タフト・ベンソン大管長の教えを採り上げている。

---

## 個人学習

エズラ・タフト・ベンソン大管長の教えを研究するとき、よく祈って御霊みたまの導きを求めるようにする。各章の最後に載っている質問は、ベンソン大管長の教えについて深く考え、教えを理解し、生活に応用する助けとなるであろう。以下のアイデアも役立つであろう。

- 研究するときに聖霊から受けた考えや思いを書き留める。
- 覚えておきたい語句に下線を引く。そのような語句を暗記したり、聖典の関連聖句の横にそれを書き込んだりするとよい。
- 理解を深められるよう、章や文章を複数回読む。
- 次のように自問する。「ベンソン大管長の教えは、福音の原則に対するわたしの理解をどのように深めてくれるだろうか。」「主は、これらの教えからわたしが何を学ぶよう望んでおられるだろうか。」
- 学んだ事柄を家族や友人と分かち合う。
- 自分の問題や心配事に対処するうえで本書の教えをどのように役立てられるか自問する。

---

## 本書から教える

本書は家庭と教会で使用するために作成されたものである。本書から教える際に、以下の指針が役立つであろう。

### 教える準備をする

教える準備をするときに聖霊の導きを求める。該当する章をよく祈って研究し、ベンソン大管長の教えを理解できたという確信を持てるようにする。教師自身がベンソン大管長の言葉から影響を受けるとき、よりいっそう心から力強く教えられるようになるであろう（教義と聖約 11:21 参照）。

メルキゼデク神権や扶助協会のレッスンを教える場合、本書を無視したり、別の資料からレッスンを準備したりするべきではない。該当する章から、自分が教える人々にとって最も役立つと感じる教えを、よく祈って選ぶ。章によってはクラスの時間内に十分話し合えない量の内容が含まれている。

参加者には、レッスンの前に該当する章を研究しておくように、また本書を持って来るように勧める。そうするとき、話し合いに参加して互いに教化し合う準備がさらによくできるであろう。

教える準備をする際には、各章の最後にある「研究とレッスンのための提案」に特に注意を払う。この項には、質問、関連聖句、学ぶ際のヒントや教える際のヒントが書かれている。質問と関連聖句は、各章の内容と具体的な関連がある。学ぶ際のヒントと教える際のヒントは、ほかの人々が福音を学び、福音に従って生活することに喜びを見いだせるよう教師が働きかける際の指針となる。

### レッスンの導入を行う

該当する章についての導入を行うとき、またレッスン全体を通じて、<sup>みたま</sup>御霊が参加者の心と思いに触れることのできる雰囲気を作るように努める。レッスンを始める際に、参加者がその章で採り上げられている教えに注意を向けるように助ける。以下の方法を一つ、あるいは複数用いるとよい。

- 章の冒頭にある「エズラ・タフト・ベンソンの生涯から」の項を読み、話し合う。
- 章に載っている写真や絵、引用されている聖句について話し合う。
- 関連のある賛美歌を歌う。
- テーマに関する個人的な経験を簡潔に述べる。

### ベンソン大管長の教えについての話し合いを促す

本書から教えるときには、自分の考えを述べ、質問をし、互いに教え合うように人々に勧める。人は積極的に参加するとき、学び、個人的な啓示を受ける備えがさらによくできるようになる。すべての教えを網羅しようとせず、有意義な話し合いを続けさせる。話し合いを促すために、章の最後にある質問を活用する。また、レッスンを受ける人々のために特別に教師自身で質問を用意してもよい。

ほかにも以下のような方法が考えられる。

- 参加者に、その章について個人学習で学んだことを発表してもらう。その週に数人の参加者に連絡を取り、学んだことを発表する準備をしておくように依頼するとよいであろう。
- 章の最後にある質問を幾つか選び、それを読むように参加者に割り当てる（個人または小さなグループで行わせる）。質問に関連のある教えを章の中から探すように言う。その後、自分の考えや理解したことを発表してもらう。
- 章の中から選んだベンソン大管長の教えを幾つか一緒に読む。参加者に、その教えを説明する事例を、聖文や自分自身の経験から紹介してもらう。
- 参加者に、一つの項を選んで黙読するように言う。同じ項を選んだ人同士で2、3人のグループを作り、学んだことを話し合うように勧める。

### 分かち合いと応用を促す

ベンソン大管長の教えが最も大きな意味を持つのは、参加者がそれをほかの人々に分かち合い、また自分の生活に応用するときである。以下の方法を一つ、あるいは複数用いるとよい。

- 家庭や教会で責任を果たす際に、ベンソン大管長の教えをどのように応用できるか参加者に尋ねる。例えば、夫や妻、親、息子や娘、ホームティーチャーや訪問教師として大管長の教えをどのように応用できるかについて深く考え、話し合ってもらおうとよい。
- ベンソン大管長の教えの幾つかを家族や友人に分かち合うように、参加者に勧める。
- 学んだことを応用し、その経験について次回のクラスの冒頭で話すように、参加者に勧める。

### 話し合いを終える

教師がレッスンを簡単に要約するか、または一人か二人の参加者に要約してもらう。話し合ってきた教えについて証する。また、証を述べるようにほかの人に勧めてもよい。

---

### 本書で引用されている資料に関する情報

本書に収められている教えは、エズラ・タフト・ベンソン大管長の説教、記事、著書、日記から直接引用したものである。出版物からの引用文は、読みやすくするために編集上または印刷上必要な変更が加えられている場合を除いて、原文で使われている句読点、語のつづり、大文字の使用、段落分けをそのまま使用している。このため、読者は本文に多少統一を欠く点があることに気づくかもしれない。例えば、神会を指す代名詞は小文字で始まっている場合とそうでない場合とがある。

また、ベンソン大管長は度々、男性と女性の両方に対して“*men*”, “*man*”, “*mankind*”などの用語を使用している。また男女両方を指す代名詞として頻繁に“*he*”, “*his*”, “*him*”を使用している。これは当時の言葉遣いにおいて一般的なことであった。当時の言語慣習と現在の用法には相違があるものの、ベンソン大管長の教えは女性と男性の両方に当てはまるものである。



## 経歴のまとめ

以下の年表は、本書で紹介されているエズラ・タフト・ベンソン大管長の教えの歴史的な背景を簡単に紹介するものである。

1899年8月4日	アイダホ州ホイトニー近郊で、ジョージ・タフト・ベンソン・ジュニアとサラ・ダンクレー・ベンソンのもとに誕生する。
1912 - 1913年	父親が合衆国北部で伝道する間、家庭で多くの責任を担う。
1914 - 1919年	アイダホ州プレストンのオネイダステーク・アカデミーに在籍し卒業する。
1918年	ホイトニーのワードでスカウト隊副長(若い男性の指導者)として召されて奉仕する。
1920年	後に妻となるフローラ・スミス・アムッセンと出会う。
1921年	ユタ州ローガンのユタ州立農業単科大学(現在のユタ州立大学)に在籍する。
1921年7月13日	父親により長老に聖任される。
1921年7月15日 - 1923年11月2日	専任宣教師としてイギリス伝道部で伝道する。
1924年8月25日 - 1926年6月	フローラ、ハワイ島で専任宣教師として伝道する。
1924年秋	弟のオーバルと共同で、ホイトニーに農場を購入し家族で営む。
1926年春	ブリガム・ヤング大学を卒業する。
1926年9月10日	ソルトレーク神殿でフローラと結婚する。

- 1926年9月－1927年6月 アイオワ州立農工大学(アイオワ州立科学技術大学の前身)に在籍し、農業経済学の修士号を取得して卒業する。
- 1927年6月 ホイットニーで家族が営む農場に戻る。
- 1929年 アイダホ州フランクリン郡の郡農事指導員の職を引き受ける。農場を離れ、アイダホ州プレストン近郊に移る。
- 1930－1939年 アイダホ大学発展研究学科の農業経済学者兼スペシャリストの任に就く。
- 1935年1月－1938年11月 ボイシステークの会長会第一顧問として奉仕する。
- 1938年11月－1939年3月 ボイシステークの会長として奉仕する。
- 1939－1943年 ワシントン D.C. に本部を置く農業協同組合全国協議会の事務局長として働く。メリーランド州ベセスダで家族と暮らす。
- 1940年6月 ワシントン D.C. におけるワシントンステーキの会長に召される。
- 1943年7月26日 十二使徒定員会会員に召される。
- 1943年10月7日 ヒーパー・J・グラント大管長より使徒に聖任され、十二使徒定員会の会員に任命される。
- 1946年1月－1946年12月 ヨーロッパ伝道部の会長として奉仕し、第二次世界大戦による荒廃を経験した末日使徒に物質的、霊的な支援を行う。
- 1946年7月16日 福音を<sup>の</sup>宣べ伝える地としてフィンランドを奉獻する。
- 1953年1月－1961年1月 ドワイト・D・アイゼンハワー大統領の下で合衆国農務長官を務める。
- 1964年1月－1965年9月 ヨーロッパ伝道部の会長として再び奉仕する。
- 1966年11月10日 福音を宣べ伝える地としてイタリアを再奉獻する。
- 1969年4月14日 福音を宣べ伝える地としてシンガポールを奉獻する。

- 1969年10月26日 福音を宣べ伝える地としてインドネシアを奉獻する。
- 1973年12月30日 十二使徒定員会会長に任命される。
- 1985年11月10日 末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長に任命される。
- 1986年10月24日 コロラド州デンバー神殿を奉獻する。
- 1987年8月28日 ドイツ・フランクフルト神殿を奉獻する。(大管長に在任中, 9つの神殿が奉獻された。)
- 1988年10月2日 総大会で最後の説教を直接行う。(1988年10月以降, 体調が思わしくなかったため総大会で直接話すことができなかった。大管長会顧問が説教を代読するか, 過去の説教を引用した。)
- 1992年8月14日 妻フローラの死を悼む。
- 1994年5月30日 95歳の誕生日の約2か月前, ソルトレーク・シティーの自宅で死去。



乳児の頃のエズラ・タフト・ベンソン, 1900年



## エズラ・タフト・ベンソンの 生涯と教導の業

1994年6月4日、ユタ州ローガンとアイダホ州ホイトニーを結ぶ幹線道路を通る旅行者は、珍しい光景を目にした。39キロに及ぶその道路沿いのあちこちに人が立っていたのである。翌日、人が集まっていた理由について、十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老が説明した。人々は、ユタ州ソルトレーク・シティーで催された葬儀の後でエズラ・タフト・ベンソン大管長の遺体を故郷の墓地まで運ぶ葬列を待っていたのだった。そのときの光景についてヘイルズ長老は次のように語っている。

「アイダホ州ホイトニーまで続く葬列は、神の預言者への賛辞を表す感動的な光景でした。

教会員たちが幹線道路沿いに並び、幹線道路を見下ろす陸橋の上にも立っていました。土曜日の午後であったにもかかわらず、日曜日の晴れ着を着ている人や、車を止めて敬虔な面持ちで立ち、預言者が通るのを待っている人もいました。農夫たちは帽子を胸に当てて畑の中に立っていました。さらに印象深かったのは、少年たちが野球帽を脱ぎ、胸に当てている姿でした。亡くなった預言者が通り過ぎるとき、何人もの人が旗を振って別れを告げました。『ベンソン大管長が大好きです』『モルモン書を読みましょう』と書いてあちこちに掲げていました。」<sup>1</sup>

人々が表した大管長への愛は、もちろん預言者を追悼するものだったが、それだけではなかった。預言者の勧告に従ったことで、人々の人生が変わったことが目に見えて分かった。そして、幹線道路沿いに集まった人々はさらに多くのことを表していた。エズラ・タフト・ベンソンはアイダホ州ホイトニーで生まれたときから、遺体はその地に埋葬されるまで、主の御手に使われる者として奉仕し、世界中を回って何百万もの人々がキリストのもとに来るのを助けたのである。

---

### 家族の農場で学んだ教訓

1899年8月4日、サラ・ダンクレー・ベンソンとジョージ・タフト・ベンソン・ジュニアは、初めての子供を家族に迎え入れた。二人はその子を、十二使

徒定員会の一員として奉仕した曾祖父エズラ・T・ベンソンにちなんで、エズラ・タフト・ベンソンと名付けた。

エズラは、その1年前に父親が農場に建てた二間しかない母屋で生まれた。長時間に及ぶ難産で、診察していた医師は、5,300グラムで生まれたその新生児は生きられないかもしれないと思った。しかし彼の祖母たちはそのようには考えず、二つのたらいを用意し、片方を湯で、もう片方を冷水で満たした。そして、孫をそれぞれのたらいに代わる代わる浸し、やがてその子は産声を上げたのである。

家族や友人からしばしば「T」と呼ばれた幼いエズラ・タフト・ベンソンは、生まれた母屋を囲む農場で満ち足りた子供時代を過ごした。33年近くの間、十二使徒定員会や大管長会で一緒に奉仕したゴードン・B・ヒンクレー大管長は、幼いエズラが学んだ教訓について次のように語っている。

「彼は文字どおり、ほんとうに農場育ちの少年でした。オーバーオールを着た、日焼けした少年で、かなり若いうちから、『人は自分のまいたものを、刈り取ることになる』という刈り入れの律法を学んだのです（ガラテヤ6：7）。

エズラはその貧しい時代に、一生懸命に働かなければ雑草しか育たないことを知りました。収穫を得るためには、絶え間なく働き続けなければなりません。こうして、彼は秋も春も畑を耕し、汗水垂らしながら頑強な馬の後ろで畝の間を歩きました。当時は鋤を使っていて、とがった先を土の中に突っ込んで丁寧に裏返すとき、取っ手が回転したり揺れたりするのをいつもしっかり持たねばなりませんでした。その作業を一日中行い、少年は疲れてぐっすり眠ってしまいました。しかし、すぐに朝がやって来ました。

再び馬にまぐわを引かせて土の塊を碎き、種をまく苗床を畑に作らなければなりませんでした。植え付けは骨の折れる大変な作業で、そこにさらに水を引く必要がありました。ベンソン家の農場は乾燥した地域にあり、灌漑のおかげで作物がよく育つのです。日中だけでなく、夜通し水の状態を監視しなければなりませんでした。懐中電灯やプロパンガスのランプはなく、弱々しい淡黄色の光をともし灯油ランプしかありませんでした。一番端の畝まで水が行き渡らなければなりません。それは、決して忘れることのない教訓でした。

わたしは心の中で、幼い少年がシャベルを肩に乗せて溝や畑を歩き、渴いた土地に命が育つための潤いが行き渡るように働いている姿を思い浮かべることができます。

間もなく、広大な土地の牧草を刈り取る季節になりました。馬が草刈り機につながれ、少年が古い鉄製の座席に登ると、馬が進むのに合わせて鎌が前後に素早く動いて5フィート（約150センチ）幅で草を刈っていきました。ハエや蚊が飛び交い、ほこりと灼熱の中での過酷な作業でした。その後、レーキ〔訳

注——短い鉄の歯を筒状に並べて柄を付けた農具]で牧草を集め、フォーク〔訳注——干し草を扱う農具〕で大きな山状に積み上げ、乾燥させました。タイミングが重要で、ちょうどよい状態になったときに、まぐさ台と呼ばれる大きい、平らな台の付いた馬車に干し草を積み込みました。干し草置き場では、馬に引かせてつり上げるデリック〔訳注——干し草をつり上げて干し草置き場に積み上げるためのもの〕を使って干し草を馬車から下ろし、巨大な山になるように積みました。当時は干し草を圧縮し形成する機械も運搬用の車両もなく、フォークと人の力だけで作業を行いました。

……その結果として、エズラの骨格がしっかりして、体がたくましくなったことは不思議ではありません。後年の彼を知る人々は、彼の手首の太さについてよく話しました。少年時代が基礎となった剛健さは、生涯にわたって大きな祝福の一つとなりました。最後の数年を除いて、エズラはとてつもないエネルギーの持ち主でした。

壮年期に入り、大統領や王と並んで歩いているときも、農場で過ごした少年時代の面影を失いませんでした。働く力が衰えることはなく、夜明けとともに起き夜遅くまで働こうという意欲をなくしませんでした。

しかし、少年時代に家で学んだことはすばらしい労働の習慣だけではありませんでした。農業を通して、ある強さを身につけていました。アダムとエバが園から追い出されたときに与えられた命令を絶えず思い起こさせられたのです。『あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る。』（創世3：19）土を耕す人々には自立の精神が培われました。当時は政府による農業プログラムはなく、助成金もありませんでした。四季の気まぐれな気候を受け入れなければなりませんでした。作物を駄目にする霜や季節外れの嵐、暴風、干ばつはどれも生きていくうえで防ぎようのない危機として受け入れる他なかったのです。いざというときのために貯蔵することは必須で、蓄えがなければ飢えてしまいます。命の危険を乗り越えるのに助けとなる一つの不変の方法が、祈り、すなわち永遠の愛ある御父、宇宙の全能の神への祈りでした。

アイダホ州ホイトニーの小さな家では、たくさんの祈りがささげられました。夜と朝には家族の祈りがささげられ、困難も好機も含めて生活できることに感謝し、一日の仕事を行う力があるように願い求めました。助けの必要な人々を忘れることもありませんでした。家族の祈りを終えて皆が立ち上がると、ワード扶助協会会長であった母親は困っている人々に分ける食糧を馬車に積みせ、長男を御者にして出かけました。これらの教訓はいつまでも忘れられませんでした。』<sup>2</sup>

## 忠実な両親から学んだ教訓

勤勉に働くこと、家族の一致、奉仕、福音に沿った生活について学んだ事柄は、エズラが12歳のある日、さらに大きな意味を持つことになった。教会の集会から帰宅した両親が予期しない知らせを持って帰って来たのだった。ベンソン大管長は後に次のように回想している。

「家への帰り道、手綱を取る父の脇で、母が郵便物を開けました。すると、驚いたことに、差し出し人住所がソルトレーク・シティーの『私書箱 B』となっている手紙がありました。伝道の召しが来たのです。準備はできているか、意志はあるか、行くことはできるかといった質問は誰もしませんでした。ビショップは知っていたはずです。ビショップとは、祖父ジョージ・T・ベンソン、つまりわたしの父の父でした。

父と母は馬車の上で泣きながら、庭に入って来ました。これまでわたしたちが家族の中で見たことのない涙でした。当時7人いた子供全員が馬車に駆け寄り、周りを囲んで、『どうしたの』と尋ねました。

『何でもないよ』と両親は言いました。

『じゃあ、なぜ泣いているの』とわたしたちは聞きました。

『中に入ろう。説明してあげるから。』

わたしたちが居間にある長年使い慣れたソファの周りに集まると、父は伝道の召しが来たことを話してくれました。すると母が言いました。『お父さんが伝道に出るのにふさわしいとみなされたということは、とても名誉なことよ。二人とも少し泣いていたのは、2年間会えなくなるからなの。お父さんとお母さんは、結婚以来、2日以上離れたことがなかったんですもの。それはお父さんが峡谷に、材木や杭くわいにする木やまきを取りに行くときくらいだったわ。』<sup>3</sup>

父が伝道に出ている間、エズラは家族の農場の仕事を大部分果たさなければならなかった。妹のマーガレットは後に、エズラは「少年ながらも成人男性並みに働きました」と回想している。「父の代わりに2年近く務めました。」<sup>4</sup> サラの指揮の下、エズラときょうだいは一緒に働き、一緒に祈り、父からの手紙を一緒に読んだ。75年後、ベンソン大管長は、父親が伝道に出たおかげで家族が受けた祝福を振り返ってこのように語った。

「伝道の召しを受け入れたのは、自分の家族をほんとうに愛する気持ちが父になかったからだ、と言う人が世の中にはいるかもしれませんが。7人の子供と妊娠中の妻を残して2年間も留守にするなど、どうしてほんとうの愛と言えるだろうか、と言うことでしょう。

しかし、わたしの父が抱いていた愛は、もっと大きなものでした。父は、『神は、神を愛する者たち……と共に働いて、万事を益となるようにして下さること』を知っていました（ローマ8:28）。家族のためにできる最高のことは神に従うことであると考えていたのです。

父がいない間、わたしたち家族は確かにとても寂しく、多くの困難にぶつかりましたが、父が伝道の召しを受け入れたことはわたしたちにとって慈愛の賜物<sup>たまもの</sup>となりました。父は母と7人の子供を家に残して、伝道に行きました。（8人目は父が伝道地に到着してから4か月後に生まれました。）しかし、それ以来、我が家には伝道の精神が生まれ、その精神が我が家を離れることはありませんでした。もちろん、犠牲がなかったわけではありません。父は伝道の資金を工面するために農場の一部を売却しなければなりませんでした。ある夫婦を我が家の一角に住まわせて、一部の作物の世話を任せ、妻と息子たちには牧草地や放牧地、乳牛の世話を任せました。

父の手紙は家族にとって実に大きな祝福でした。子供たちは、手紙は地球の反対側から来るような思いがしたのですが、実際は、マサチューセッツ州スプリングフィールドや、イリノイ州シカゴ、アイオワ州のシーダーラピッズやマーシャルタウンからでした。ほんとうに、父が伝道に出たおかげで、我が家には伝道の精神が生まれ、その精神は二度と我が家を離れることはありませんでした。

その後、家族の人数は増え、子供は息子7人、娘4人の計11人になりました。7人の息子は全員伝道に出ました。中には2度、あるいは3度出た者もいます。二人の娘は夫とともに2年間の伝道をしました。他の二人は、一人は8人の子供の母親、もう一人は10人の母親となり、両方とも夫を亡くしたので、イギリスのバーミンガムで同僚となって伝道しました。

伝道の精神はベンソン家の3世代目、4世代目の子孫にも受け継がれ、祝福をもたらしています。これこそほんとうに愛の賜物ではないでしょうか。」<sup>5</sup>

---

### 青年期に教会で行った奉仕

両親の模範に促され、また主の王国を地上に築く助けをしたいという自身の望みに駆り立てられて、エズラ・タフト・ベンソンは、奉仕の召しを意欲的に受け入れた。19歳のとき、自分の祖父でもあったビショップから、ワードの24人の若い男性を教える成人指導者として奉仕してほしいと言われた。若い男性たちはボーイスカウトアメリカ連盟の活動に参加し、エズラはスカウト隊副長を務めた。

この召しにおいて、エズラの多数ある責任の一つは、若い男性が合唱するのを助けることだった。エズラの指導の下、若い男性たちはステーク内の他のワードの合唱団と競うコンクールで優勝し、地区コンクールの出場資格を手にした。エズラは、若い男性が練習に励み最高の歌を歌えるように、彼らの意欲をかき立てようと、ある約束をした。すなわち、地区コンクールで優勝したら、皆で山の向こうの湖まで 56 キロのハイキングをしようと約束したのである。エズラの作戦は成功し、ホイトニーの若い男性が優勝した。

「わたしたちはハイキングの計画を始めました」とベンソン大管長は回想している。「すると、話し合いの中で 12 歳の小さな少年が手を挙げて、とても改まった口調でこう言いました。『……提案したいことがあります。』……わたしは『よろしい。何でしょうか』と言いました。彼はこう答えました。『ハイキングの間、髪をくしでといたり、ブラシをかけたりしなくていいように、全員丸坊主にしてはどうですか。』」

最終的に若い男性が全員、ハイキングに備えて丸坊主にすることに同意した。すると、誰かが隊長たちも髪を切りましょうと提案したため、彼らの気持ちはますます盛り上がった。ベンソン大管長は続けて次のように語っている。

「二人の隊長が床屋の椅子に座ると、床屋はうれしそうにそれぞれの髪の毛にバリカンを当てました。ところが終わり近くになって、床屋の主人はこう言いました。『もしお二人の頭を剃らせてくれれば、お代は要りません。』こうして、丸坊主の少年 24 人と頭を剃った隊長二人でハイキングに出発したのでした。」

ワードの若い男性との経験を思い出しながら、ベンソン大管長はこう述べている。「少年たちと何かを一緒にする喜びの一つは、一緒に活動している間に報いがもたらされることです。年を経て彼らがたくましい青年へと成長し、男性としてのチャレンジや責任を受け入れていく姿を見て、自分の指導の成果を毎日見ることができます。このような満足は金銭では買えません。奉仕と献身によって手に入れなければならないものです。少年たちを男に、すなわち真の男に育てることに、ほんの少しでも貢献できることは何と名誉なことでしょう。」<sup>6</sup>

ベンソン大管長はこの若い男性たちを決して忘れず、連絡を取り続けようと努めた。56 キロのハイキングから何年も後、十二使徒定員会の一員としてホイトニーワードを訪問した折には、その何人かと話をした。彼らの話では、24 人のうち 22 人が忠実に教会に来続けていた。しかし、あと二人の連絡先は分からなくなっていた。ベンソン大管長は後にその二人の男性を見つけて、彼らが教会に戻るのを助け、彼らの神殿の結び固めの儀式を行った。<sup>7</sup>



エズラ・タフト・ベンソンと結婚する前のフローラ・アムッセン

### フローラとの交際

1920年の秋、エズラはユタ州立農業単科大学（現在のユタ州立大学）に通うため、ホイトニーからおよそ40キロ離れたユタ州ローガンに行った。ある日、友人たちと一緒にいたとき、一人の若い女性が目に留まった。後にこのように回想している。

「わたしたちが搾乳小屋付近にいたとき、非常に魅力的で美しい若い女性が小型の車に乗ってやって来ました。搾乳場へ牛乳を買いに来たのでした。友人たちが手を振ると、彼女は手を振り返しました。『あれは誰だい』と尋ねると、彼らは『あれがフローラ・アムッセンさ』と答えました。

そこでわたしは言いました。『ぼくはあの人と結婚する気がする。』」

友人はエズラの言葉を笑って言った。「彼女はすごくもてるんだ。田舎者の君なんか相手にされないよ。」しかし、エズラはくじけずにこう答えた。「それなら余計に闘志が湧くさ。」

このやりとりの後、間もなくフローラとエズラはホイトニーで初めて顔を合わせた。フローラがエズラのいとこの家に招待されて泊まったのである。それ

からすぐに、エズラはフローラをダンスパーティーに誘った。彼女は承諾し、二人はさらにデートを重ね、「すばらしい交際」をした。ところが、エズラがイギリス伝道部で専任宣教師として奉仕する召しを受けたことで、二人の交際は中断した。しかし、この召しは、様々な面で二人のきずなをますます強めた。

エズラの伝道に備えて、彼とフローラは二人の関係について話し合った。交際を続けたいと思ったが、エズラが宣教師として献身的に働くことの必要性も理解していた。「出発する前、フローラとわたしは毎月1度だけ手紙を書くことを決めました」と彼は語っている。「さらに、手紙には励ましと信頼の言葉、近況報告を書くことにし、実際にそうしました。」<sup>8</sup>

---

## 二人の宣教師

初期の末日聖徒の宣教師に多くの改宗者をもたらしたイギリス伝道部だったが、ベンソン長老と同僚たちにとっては状況が違っていった。何人かの聖職者を含め、イギリス諸島で教会に反対する人々が、反モルモンの記事や小説、演劇や映画などを発表し、末日聖徒に対する反感を広くおこり立てていた。当然ながら、ベンソン長老は回復された福音に対する人々の反感が募っていることに悲しみを覚えたが、そのような試練が彼の信仰を弱めることは許さなかった。実際、彼の日記には、現地の若者が「モルモンだ!」と叫んで彼と同僚たちをはやし立てた出来事について記されている。彼は、口には出さなかったが、「自分がその一人であることを主に感謝する」と心の中で言い返した。<sup>9</sup>

教会員でない人々に福音を伝えることに加え、ベンソン長老は、イギリスの末日聖徒の間で神権指導者、また書記として奉仕した。この様々な奉仕の機会には、しばしば味わたった困難とは対照的にすばらしい経験となった。ベンソン長老は何人かにバプテスマと確認の儀式を行い、さらに多くの人が主に近づくのを助けた。例えば、忠実な教会員たちが開いた特別集会で御霊に導かれて語ることによって、会員の友人たちがジョセフ・スミスは神の預言者であるという<sup>あかし</sup>証を得られるように助けたのであった。<sup>10</sup> あるときに非常に重い病気にかかった女性に神権の祝福を授け、10分後には治ったという経験も記録している。<sup>11</sup> 書記の務めを果たしていたときに、地元の指導者が情報をなくしていた聖徒たちの名前を教会の記録の中に見つけて喜んだこともあった。<sup>12</sup> 十二使徒定員会の会員でもあったオーソン・F・ホイットニー長老とデビッド・O・マッケイ長老という二人の伝道部会長の下で奉仕したことにより、ベンソン長老は指導者として貴重な訓練を受けた。

ベンソン長老は、福音を<sup>お</sup>宣べ伝えるときに主の守りがあることに感謝した。ある夜、彼と同僚は暴徒化した集団に囲まれ、川に投げ込むと脅された。ベンソン長老は心の中で助けを祈り求めた。すると、「体の大きな見知らぬ男性が

人々の間をかき分けてわたしの横に来ました。彼はわたしの目をじっと見て、力強くはっきりと言いました。『お兄さん、あなたが今夜言った言葉を全部信じるよ。』男性の言葉を聞いて、わたしを取り囲んでいた人々は後ずさりしました。わたしの祈りが直接応えられたのです。そのとき警官がやって来ました。』<sup>13</sup>

ベンソン長老は人々への奉仕に積極的でなかったとき、『「モルモン書を夢中で読む」こと、とりわけモーサヤの息子たちの経験を読むことで力を得ました。』<sup>14</sup> 彼はまた、家族からの手紙を「何度も何度も読み返し」、慰めと心の支えを得た。伝道を振り返って、次のように語っている。「母と父は手紙の中で心からの愛を伝えてくれて、若いわたしにとって大きな支えとなりました。フローラの〔手紙〕は御霊と励ましにあふれ、感傷的な内容はまったくありませんでした。それで、わたしは何にも増してますます彼女を愛し、彼女に感謝するようになったのだと思います。』<sup>15</sup>

ベンソン長老は1923年11月2日に専任宣教師の任を解かれた。彼はイギリスを離れることをためらった。イギリスの「愛する善良な聖徒たち」に別れを告げることは「伝道で最もつらいこと」だったと述べている。<sup>16</sup> しかし、家族と再会できることは幸せであり、フローラと顔を合わせることも楽しみだった。

フローラもエズラに会うのが楽しみだった。しかし、間もなく一緒に過ごせるようになることを楽しみに待つだけではなかった。フローラはエズラの未来と可能性に心から期待していた。10代のときから「農夫と結婚したい」と周囲に言っていたので、<sup>17</sup> アイダホ州ホイトニーにある実家の農場に住みたいというエズラの望みを喜んでいた。しかし、その前にエズラは学校を卒業する必要があると、彼女は感じた。後にこう語っている。「〔わたしは〕祈って断食し、エズラが同胞はらからに最もよく仕えるのを助けるために、自分が何をしたらよいかを知ることができるよう、主に助けを求めました。すると、わたしがふさわしいとビショップが判断すれば、伝道に召してくれるだろうという導きを感じました。エズラにとって教会は何よりも大事なので、彼は反対しないだろうと、わたしは確信していました。』<sup>18</sup>

二人が再び交際を始めた後、フローラがハワイ諸島における伝道の召しを受けたと告げたとき、エズラは驚いた。フローラは1924年8月25日に任命を受け、翌日に出発した。彼女が出発した直後、エズラは日記にこのように記した。「二人とも幸せだった。未来にはたくさん喜びが待ち受けており、この別れは後に埋め合わせられると感じたからである。そうは言っても、望みが碎かれるのを目にするのはつらいことである。わたしたちは時にはそれについて涙を流すこともあったが、すべてうまくいくという確信を主から受けた。』<sup>19</sup>

そして、ほんとうにすべてがうまくいったのであった。伝道部会長はフローラについて、「非常に優秀な、精力的な宣教師」<sup>20</sup> であり、「主の業のために心と霊

と時間と才能を尽くして」働いたと語っている。<sup>21</sup> 彼女は伝道部内の幾つかの地区で初等協会を管理し、小学校で子供に勉強を教え、神殿で奉仕し、地元の末日聖徒を強めるために尽力した。自分の母親バーバラ・アムッセンの同僚としてさえしばらくの間奉仕した。母親は夫を亡くして、短期伝道に召されたのだ。ある日、同僚として奉仕していたこの母と娘は、ある男性と出会った。フローラの父カール・アムッセンの働きかけによってかつて合衆国本土で教会に入った人だった。この改宗者はその後、教会から足が遠のいていたが、フローラと母親は彼に働きかけ、教会に戻るのを助けたのだ。<sup>22</sup>

フローラがいない間、エズラは忙しくしていた。弟のオーバルとともに農場を購入し、また学業にいそしんだ。一時、エズラはユタ州プロボにあるブリガム・ヤング大学（BYU）で学び、オーバルがホイットニーにとどまって農場の仕事をした。二人の計画では、エズラが卒業したら農場に戻り、今度はオーバルが伝道に出て、学校を卒業することになっていた。BYUを早く卒業するため、エズラは意欲的に授業を取った。また、ダンスやパーティーや演劇公演など、大学の社交活動にも参加した。

エズラは最後の1年に「BYUで最も人気のある男性」に選ばれたが、フローラ以外の女性に心を引かれることはなかった。1926年6月にフローラが伝道を終えたとき、エズラは彼女の帰還を「待っていた」わけではないと言いつ張ったものの、会えることを「熱望して」いた。<sup>23</sup> エズラはフローラが帰還する数か月前に、優等で卒業した。

---

### 結婚生活を始める

フローラが伝道から帰還して1か月後、彼女とエズラは婚約を発表した。中にはフローラの選択を疑う人もいた。彼女ほど教養があり、裕福で、人気のある女性が農家の青年と結婚する理由が理解できなかったのである。しかし、フローラは、「ずっと農夫と結婚したいと思っていました」と言い続けた。<sup>24</sup> エズラは「経験豊かで、思慮深く、堅実だ」と彼女は言い、次のように語った。「彼は両親に優しく接していました。両親を敬う人なら、きっとわたしも大切にしてくれると確信したのです。」<sup>25</sup> エズラが「ダイヤモンドの原石」であることにフローラは気づき、「この狭い地域だけでなく、全世界に彼の名前が知られ、彼の善い影響力が広まるよう、全力を尽くして支えるつもりです」と言った。<sup>26</sup>

フローラとエズラは、1926年9月10日に、ソルトレーク神殿で十二使徒定員会のオーソン・F・ホイットニー長老によって結び固めを受けた。結婚式の後に開かれた唯一の祝宴は、家族と友人のための朝食会だった。朝食の後、結婚したばかりの二人は、すぐにT型フォード小型トラックに乗り込み、アイオワ州エイムズへ向かって出発した。エズラはアイオワ州立農工大学（現在のアイ



ブリガム・ヤング大学を卒業したときのエズラ・タフト・ベンソン, 1926年

オワ州立科学技術大学)で農業経済学の修士課程に入学することになったのである。

旅路のほとんどは、民家の少ない、舗装されていない田舎道だった。二人は道中、雨漏りのするテントで8泊した。エイムズに到着した後、大学のキャンパスから1ブロック離れた所にあるアパートを借りた。アパートは狭く、ベンソン夫妻は何匹ものゴキブリと同居したが、「程なくして最も居心地のよい田舎の家のようにになりました」とエズラは語っている。<sup>27</sup> エズラは再び学業に専念した。研究と講義と論文作成に何時間も費やした後、1年足らずで修士号を取得して卒業した。こうして、ベンソン夫妻は最初の赤ちゃんの誕生を控えながら、ホイットニーにあるベンソン農場に戻った。

---

### 仕事の機会と教会の召しのバランスを図る

ベンソン夫妻がホイットニーに戻ったとき、エズラは搾乳、養豚と養鶏、てんさいと穀物とアルファルファなどの作物の栽培を含めて、農場での日々の作業に専念した。オーバルはデンマークで専任宣教師として奉仕する召しを受けた。

それから2年もたたないうちに、地元自治体の役人がエズラに、郡の農事指導員の仕事を引き受けてほしいと申し入れた。フローラの勧めもあり、エズラは引き受けた。しかし、それは農場を離れて近隣のプレストンの町に引っ越すことを意味した。こうして彼は地元の農夫を雇って、オーバルが戻るまで農場を任せただった。

エズラの新しい責任の一つは、生産力を左右する問題について地元の農夫たちに助言を与えることだった。エズラは、農夫たちには何よりもマーケティング技術の改善が必要だと感じた。大恐慌が始まるとマーケティング技術の必要性はますます高まり、農業経済学を学んでいた彼はその技術を提供することができた。経費を削減し、労働に対して最高の代価を得られるように、エズラは農夫たちに農業協同組合への加入を勧めた。<sup>28</sup>

農事指導者としての手腕により、エズラには他の雇用の機会も訪れた。1930年から1939年にかけて、アイダホ州都ボイシにあるアイダホ州立大学発展研究学科で農業経済学者兼スペシャリストとして働いた。1936年8月から1937年6月まではこの仕事を一時中断し、エズラがカリフォルニア州立大学バークレー校で農業経済学を学ぶ間、ベンソン家はカリフォルニア州に住んだ。

職場や家庭で差し迫った責任に追われながらも、エズラとフローラは、教会で奉仕する時間を取った。ホイットニー、プレストン、ボイシの各地で青少年を教え、指導する召しを受けた。<sup>29</sup> 二人は「青少年は教会の未来である」ことを信じ、これらの召しを熱心に果たした。<sup>30</sup> さらに、エズラは地元の伝道活動を助ける機会も受けた。<sup>31</sup> ボイシではステーキ会長会の顧問として奉仕する召しを受け、家族でカリフォルニアに住んでいた間もその責任を果たし続けた。ボイシステーキは急速に発展し、1938年11月に、十二使徒定員会のメルビン・J・バラード長老はこのステーキを3つに分割した。エズラ・タフト・ベンソンはステーキ会長の一人として召された。

1939年1月、エズラはワシントンD.C.にある農業協同組合全国協議会の事務局長になる誘いを受けて驚いた。彼はこの機会についてフローラに相談した。わずか2か月前にステーキ会長に任命されたばかりだったため、大管長会にも連絡し、助言を仰いだ。その職を受けるように大管長会から勧められ、エズラと家族は、1939年3月にボイシの友人たちに別れを告げて、ワシントンD.C.に近いメリーランド州ベセスダに引っ越した。彼は1940年6月に再びステーキ会長の召しを受け、ワシントンD.C.で新しく組織されたワシントンステーキを管理した。

---

### 愛ある、一致した家族

エズラとフローラは、互いとの関係、また子供たちや年老いた両親、きょうだいたちとの関係が永遠に大切であることを常に覚えていた。家族が一致し続けることを大事にした二人の思いは、義務感以上のものだった。二人は心から互いに愛し合い、この世でも永遠の世でも一緒にいたいと願ったのだった。

教会の召しと職業上の任務に伴う多くの責任のために、エズラは家を留守にすることがよくあった。幼い子供たちの言葉がこの事実をよく表している。例えば、ある日曜日、エズラが教会の集会に出かけるとき、娘のバーバラはこう言った。「さようなら、パパ。またいつか来てね。」<sup>32</sup> 夫が頻繁に家を空ける中で6人の子供を育てることはフローラにとって大変で、「独りで寂しく、ちょっぴり気落ちする」こともあったと語っている。<sup>33</sup> それでも、彼女は妻として、また母親としての務めを大切にし、主と家族に対する夫の献身に満足した。エズラに宛てた手紙の中で、次のように述べている。「いつものように、あなたが出かけてから数日が数か月のように感じます。……〔しかし、〕もしすべての男性が……あなたのように自分の宗教を愛し、それに従って生活していれば、世の悲しみや苦しみはほとんどなくなることでしょ。……あなたはいつも家族を深く愛していて、しかも困っている人を助ける備えをいつでも整えています。」<sup>34</sup>

エズラは家にいるときはいつでもこの深い愛を示した。時間を取って、6人の子供とともに笑い、遊び、彼らの話に耳を傾けた。また、重要な問題について彼らの意見を求め、福音を教え、家事の手伝いを一緒に行い、一人一人と過ごした。両親が一致して彼らを愛していたことで、子供たちは安心感と強さを見いだした。(エズラ・タフト・ベンソンにとって家族が非常に重要であったため、本書にはこのテーマに関する教えをまとめた章が二つある。「神より定められた結婚と家族」「父親・母親という神聖な召し」と題されたこれらの章には、ベンソン家の子供たちが子供時代の愛に満ちた家庭を回想して語った言葉が含まれている。)

---

### 使徒の召し

1943年の夏、エズラは、農業協同組合全国協議会の仕事の一環として、カリフォルニア州の幾つかの農協を巡回するため、息子のリードとともにメリーランドを出発した。また、ソルトレーク・シティーで教会指導者に会い、アイダホ州にいる親族を訪ねる計画も立てていた。

7月26日、旅の目的を遂げた彼らは、家路に着く前にもう一度ソルトレーク・シティーに戻った。すると、エズラに会って2週間もたないデビッド・O・マッケイ管長がエズラを探しているとの知らせを受けた。そこで、エズラがマッ

ケイ管長に電話すると、当時教会の大管長だったヒーバー・J・グラント大管長が彼に会いたがっていることを告げられた。エズラとリードは、ソルトレーク市街から数分の場所にあるグラント大管長の別荘まで車で連れて行かれた。到着すると、「エズラは直ちにグラント大管長の寝室に案内されました。年老いた預言者はそこで横になっていました。大管長に言われて、エズラはドアを閉めて彼に近寄り、ベッドの横の椅子に座りました。グラント大管長は両手でエズラの右手を握って、目に涙を浮かべながら簡潔な言葉でこう言いました。『ベンソン兄弟、本当におめでとう。神の祝福がありますように。あなたは十二使徒定員会で最年少の会員として選ばれました。』」<sup>35</sup>

エズラは日記に、その経験を次のように記している。

「その信じられないような言葉に、圧倒されてしまいそうだった。……それから数分間、[わたしの]口からは、『グラント大管長、まさか』という言葉しか出てこなかった。事の次第を落ち着いて理解できるようになるまで、その言葉を何回か繰り返していたに違いない。……長い間手を握られたまま、大管長とともに涙を流した。……1時間以上、二人だけで過ごした。その間ほとんど、互いの温かい手をしっかりと握り合っていた。[大管長の体は]弱っていたが、思考はしっかりと研ぎ澄まされていた。わたしの心の奥底を見ているかのような、大管長の優しい、思いやりに満ちた、謙遜な態度に強い感動を覚えた。

わたしは自分にまったく力がなく、ふさわしくないと感じていたが、大管長がその後につけてくれた慰め元気づける言葉に心から感謝した。中でも大管長はこう言った。『主は指導者の職に召された人々を大いなる者とする方法を御存じです。』弱気になりながらも、わたしが教会を愛していると伝え、大管長はこう言った。『知っています。主は御業のために全力を尽くす人を求めているのです。』」<sup>36</sup>

この面接の後、エズラとリードは車でマッケイ管長の家に送られた。途中、エズラはグラント大管長との対話について何も語らず、リードも尋ねなかった。マッケイ家に着いたとき、マッケイ管長は一連の出来事についてリードに告げた。それからエズラとリードは抱き合った。

その夜、リードとともに列車で帰路に着いたエズラは眠れなかった。翌日、彼はフローラに電話をし、使徒職に召されたことを告げた。「妻は、すばらしいことだと思われ、必ず立派に務めを果たせると確信していると言ってくれました」とエズラは回想している。「妻と話してほっとしました。彼女はいつも、わたし以上にわたしを信頼してくれています。」<sup>37</sup>

次の数週間、エズラとフローラはユタ州に引っ越し準備をし、エズラは農業協同組合全国評議会の後任者に業務を円滑に引き継げるよう最善を尽くした。



1950年10月から1951年4月の間に撮影された十二使徒定員会。後列左から  
デルバート・L・ステイブレー、ヘンリー・D・モイル、マシュー・カウリー、  
マーク・E・ピーターセン、ハロルド・B・リー、エズラ・タフト・ベンソン、  
スペンサー・W・キンボール。前列左からジョン・A・ウイツォー、  
ステイーブン・L・リチャーズ、デビッド・O・マッケイ（十二使徒定員会会長）、  
ジョセフ・フィールディング・スミス（会長代理）、ジョセフ・F・メリル、  
アルバート・E・ポーエン。

1943年10月1日、彼はスペンサー・W・キンボールとともに十二使徒定員会の会員として支持を受け、10月7日、キンボール長老に続いて使徒に聖任された。

このようにして、「全世界におけるキリストの名の特別な証人」の一人として、エズラ・タフト・ベンソン長老の教導の業が始まった（教義と聖約 107:23）。

---

### 戦後のヨーロッパに食糧と衣類と希望を届ける

1945年12月22日、当時教会の大管長だったジョージ・アルバート・スミス大管長は、大管長会と十二使徒定員会を招集して特別な集会を開いた。ヨーロッパ伝道部を管理し、現地における教会の活動を監督するために使徒の一人を派遣するよう、大管長会は靈感を受けたと、発表があった。この年、しばらく前に第二次世界大戦が終わっていた。そして、ヨーロッパの多くの国々が、戦争の広範囲にわたる甚だしい破壊からまさに復興し始めていたのである。大

管長会は、エズラ・タフト・ベンソン長老こそ、この務めを行うのにふさわしい人であると感じた。

この発表は、十二使徒定員会で最も新しい最年少のベンソン長老には「大きな衝撃」だった。34年前に父に届いた伝道の召しと同じように、彼はこの割り当てを果たすために家族と離れなければならなかった。現地にどれくらいの期間とどまるかは、大管長会も断定できなかった。エズラはそれでも、妻と子供たちは支持してくれるだろうと彼らに伝え、心から奉仕したいと述べた。<sup>38</sup> 後年、彼は自分が受けた割り当てについて次のように語っている。

「その務めの大きさに圧倒されそうでした。大管長会から4つの指示を受けました。まず、ヨーロッパにおける教会の霊的な業務を行うこと。第2は、ヨーロッパの各地で苦しむ聖徒に食糧と衣類と寝具を提供するために働くこと。第3に、ヨーロッパにおける各伝道部の再組織を指揮すること。そして、第4は、この国々に宣教師を戻す準備をすることでした。」<sup>39</sup> しかし、スミス大管長は次の約束をしてエズラを安心させた。「あなた自身についてはまったく心配していません。あなたが自分の体を大事にしていれば、世界の他の地域にいるときと同じように安全でしょう。そして、偉大な働きを成し遂げるでしょう。」<sup>40</sup>

ベンソン長老はこのことを妻と家族に告げたときのことについて次のように述べている。「涙で清められ、妻とすばらしい感動的な語らいをしました。フローラは愛情深い感謝の言葉を述べ、心から支えると言ってくれました。夕食のときに子供たちにも話しましたが、彼らは驚き、興味を持ち、心から応援してくれました。」<sup>41</sup>

ベンソン長老と同僚のフレデリック・W・バベルは、ヨーロッパに到着したとき、至る所で病氣と困窮と荒廃があるのを見て、心を痛めた。例えば、フローラに宛てた手紙に、ベンソン長老は、せっけん、縫い針と糸、オレンジの贈り物をもって感謝していた母親たちについて書いた。彼女たちはそのようなものを何年もの間目にしていなかったのである。過去に与えられていたわずかな配給を、「自分は空腹に耐えながら、まことの母親の精神で子供たちになるべく多く与えようとしてきた」のを、ベンソン長老は知ることができた。<sup>42</sup> 「爆撃で破壊された建物」や「ほとんど暗闇くらやみの中」で教会の集会を開いたことについて述べ、<sup>43</sup> また、「かつては幸福に満ちていた家庭から未知の場所へ追い出された……貧しい、必要とされない」難民についても述べた。<sup>44</sup> さらに、戦争がもたらした悲惨な状況の中で起きた奇跡についても手紙に書いた。

ヨーロッパの各地の末日聖徒の生活に、ある奇跡が起きていたのは明白だった。現地に向かっているとき、ベンソン長老は聖徒たちがどのような顔で出迎えてくれるのか心配した。「聖徒たちは辛辣しんらつな思いに満ちているだろうか。憎



ノルウェー、ベルゲンで福祉物資を点検するベンソン長老(右)

しみを抱いているだろうか。教会を嫌いになってしまっただろうか。」ところが、実際に目にした光景に、長老は深い感動を覚えた。

「青白く痩せた顔でわたしたちを見詰める多くの聖徒は、ぼろぼろになった服を身に着けていました。はだしの人もいました。わたしは、この偉大な末日の業が神の業であることを証し、主の祝福に感謝の言葉を述べる彼らの目に信仰の光を見ることができました。……

わたしたちは、教会員が驚くほどの忍耐を持ち続けていたことを知りました。彼らは信仰篤く、すばらしい献身を示し、この上なく忠実でした。辛辣な態度や憎しみはまずありませんでした。それぞれの伝道部から伝道部へ、仲間意識と兄弟愛の精神が広がっていて、わたしたちが各地を回っていると、聖徒たちは他の国の兄弟姉妹によろしく伝えてほしいと言いました。たとえその国が、つい数か月前まで敵国であっても、です。」難民でさえも「熱意を込めて……シオンの歌を歌い」、「夜も朝も一緒にひざまずいて祈り、……福音の祝福について証を述べました。」<sup>45</sup>

もう一つの奇跡は、教会の福祉プログラムの力だった。10年前から始まったこの活動は、ヨーロッパにいる多くの末日聖徒の命を救った。聖徒たちが祝福を受けたのは、彼ら自身が福祉の原則を心から受け入れたからだった。助けが必要なときは助け合い、食糧や衣服、その他のものを分け合い、爆撃で破壊された建物の庭に畑も作った。また、世界の他の地域に住む末日聖徒が支

援物資を寄付したことで祝福を受けた。寄付された物資はおよそ2,000トンだった。ベンソン長老は、現地の会員に配れる基本的な食糧が届いたのを見て教会指導者たちが泣いたことや、会衆の前に立ったとき、その場にいる人たちが着ていた衣服の80パーセントは福祉プログラムを通して送られてきたものであると思われたことについて述べている。<sup>46</sup> 帰還して間もない総大会の説教で、ベンソン長老は次のように語った。「兄弟姉妹の皆さん、このプログラムの必要性和その背景にある靈感について、これ以上の証拠が必要でしょうか。……わたしは皆さんに申し上げます。このプログラムを指揮しておられるのは、神です。これは靈感によって与えられているのです。」<sup>47</sup>

ベンソン長老とバベル兄弟は、戦争の爪痕が残るヨーロッパの国々を旅する方法を主が備えてくださったとき、新たな奇跡を経験した。ベンソン長老は何度も何度も、聖徒たちに会って物資を配るため、軍の将校から特定の地域に入る許可を得ようとした。「ここで戦争があったのを知らないんですか。民間人の旅行者は入ることができません。」ベンソン長老はそのたびに軍指導者の目をじっと見詰めながら、自分の任務を穏やかな口調で説明した。こうして、彼とバベル兄弟は目的の場所へ行く許可を与えられ、主が命じられたことを成し遂げることができたのである。<sup>48</sup>

約11か月が過ぎた頃、ベンソン長老の後を十二使徒補助のアルマ・ソニ長老が引き継ぎ、妻レオナとともにヨーロッパで奉仕した。バベル兄弟はソニ夫妻を助けるために現地に残った。ベンソン長老は、ソルトレーク・シティーを出発した1946年1月29日から1946年12月13日に帰還するまでの間に、合計9万8,550キロを旅した。ベンソン長老は、任務は成功したと感じていたが、すぐさまこう語った。「わたしたちの働きに常に伴い、成功に導いたその源が何なのかわたしは知っています。全能者の力による導きがなくてもわたしや同僚たちは割り当てられた使命を果たすことができると思ったことは、一度たりともありません。」<sup>49</sup> 任務が成功したことは、ヨーロッパ各国において新しく組織され、発展し始めた教会の強さから見て取れた。任務の成功は他にも、個々の聖徒の生活の中に見られた。例えば、何年も後にドイツ・ツビッカウの集会で、トーマス・S・モンソン大管長に話し掛けてきた男性もその一人であった。男性はモンソン大管長に、エズラ・タフト・ベンソンによろしく伝えてほしいと言って、このように力強く語った。「ベンソン長老はわたしの命を救ってくれました。食べ物と着る衣服をくれました。希望も与えてくれました。神の祝福がベンソン長老のうえにありますように！」<sup>50</sup>

## 合衆国政府における愛国心と政治的な手腕と功績

母国を離れている間、ベンソン長老は、少年の頃から大切にしてきたことを思い出した。それは、自分がアメリカ合衆国の市民だということである。父親のジョージ・タフト・ベンソン・ジュニアから、母国と母国の礎となっている原則を愛することを学んでいた。また、国の法律の規範となるアメリカ合衆国憲法が、靈感を受けた人々によって起草されたことを知っていた。選挙権を大切に考え、選挙の後に父親とともに話したときのことをいつも思い出した。ジョージはある候補者を公式に応援したことがあり、家族の祈りの中でもその人のために祈っていた。その候補者が選挙に負けたと知った後、ジョージが当選した人のために祈るのをエズラは耳にした。エズラは、どうして自分が選んでいない候補者のために祈るのか父親に尋ねた。「息子よ」とジョージは言った。「わたしが応援していた候補者以上に、この人にはわたしたちの祈りが必要になると思うんだ。」<sup>51</sup>

1948年4月の総大会で、ベンソン長老は、アメリカ合衆国について「預言者が語った使命」と自由の大切さに焦点を当てた説教をし、その後何度も同じテーマを採り上げて話した。長老は、福音がこの地で回復されるように、主が合衆国を「自由の揺り籠<sup>かご</sup>」として備えられたことを証<sup>あかし</sup>した。<sup>52</sup>「わたしたちは平和の君に従う者です」と長老はその説教の最後に述べた。「わたしたちは真理と義を広め、……自由を守るために自分の生涯を再奉獻すべきです。」<sup>53</sup> その後の説教では、アメリカ合衆国が「末日における主の作戦基地」であると語った。<sup>54</sup>

ベンソン長老は、合衆国に、また世界中に自由を脅かす勢力があると警告した。「永遠の原則と相いれない」「人間が作った高圧的な制度」にしばしば力強く反対した。<sup>55</sup> また、不道德な娯楽や安息日を尊ぶ気持ちの欠如、自己満足、偽りの教えを含め、自由を脅かすその他の影響力についても警告した。<sup>56</sup> 全世界の末日聖徒に、各自が持つ影響力を使って、賢明で善良な人々が公職に選ばれるように働きかけることを勧めた。<sup>57</sup> ベンソン長老は次のように宣言している。「福音を効果的に宣<sup>の</sup>べ伝えるうえで、自由な環境は不可欠です。わたしたちは皆、自由を愛していると言いますが、言うだけでは不十分です。わたしたちが愛する自由を守り、擁護しなければなりません。自由を保たなければならないのです。」<sup>58</sup>

1952年11月24日、愛国心あふれる力強い言葉を語ったベンソン長老は、試しを受けることになった。母国に仕えるよう招かれたのである。合衆国大統領に当選したばかりのドワイト・D・アイゼンハワー氏に招待されてニューヨーク・シティに赴いた。アイゼンハワー次期大統領は、ベンソン長老を内閣に入れることを検討していた。すなわち、自分の最高顧問の一人である合衆国農

務長官とすることを検討していたのである。ベンソン長老は名誉に思った。しかし、後にこう語っている。「その職に就きたいと思いませんでした。……正気の人なら誰でも、このような時代に農務長官になりたいと思わないでしょう。……その職にどのようなものが伴ってくるか、わたしはある程度知っていました。議論の応酬、すさまじいプレッシャー、複雑な問題などがそれです。……

しかし、問題やプレッシャーだけが心配だったわけではありません。そのようなものは誰にもあります。多くのアメリカ人と同じように、わたしは積極的に政治に関わることに気が進みませんでした。もちろん、高い志とすばらしい人格を持つ人々が選ばれ任じられて国政をつかさどる姿を見たいと思いました。しかし、わたし自身がそこに飛び込むことはまったく別の話でした。……

何より、わたしは十二使徒定員会の一員としてすでに行っていた務めに十分満足していました。……それを変えたいと望むことも、変えるつもりもありませんでした。」<sup>59</sup>

ベンソン長老はアイゼンハワー次期大統領に会いに行く前に、当時の大管長だったデビッド・O・マッケイ大管長に助言を仰いだ。マッケイ大管長は彼にこう告げた。「ベンソン兄弟、この件に関して、わたしの考えははっきりしています。適切な方法で機会が訪れた場合、それを受け入れるべきだと思います。」<sup>60</sup> この率直な助言と、「アメリカ人として〔自分の〕信念のために効果的に戦〔いたい〕』というベンソン長老の基本的な望みから、彼は「心の葛藤」を味わった。<sup>61</sup>

アイゼンハワー氏とベンソン長老が初めて顔を合わせたとき、次期大統領がベンソン長老に農務長官に就任してほしいと切り出すまで時間はかからなかった。ベンソン長老は自分が適任者でないと思う理由をすぐさま並べたが、アイゼンハワー次期大統領は折れなかった。「我々にはやるべきことがあります。周りから圧力がかかり始めたとき、はっきり言って、わたしは大統領になりたくありませんでした。しかし、アメリカに仕えることを拒むことはできません。あなたもこのチームに入ってほしいのです。『ノー』とは言わせませんよ。」<sup>62</sup>

「それが決め手でした」とベンソン長老は回想している。「マッケイ大管長が助言したとおりの条件が整いました。政府が提供できるどんな名誉よりもはるかに大きな名誉を、教会から既に受けているとわたしは感じていました。大統領にもそのように伝えて、大統領が望む限り、農務長官の責任を2年以上務めることを引き受けたのです。」<sup>63</sup>

就任を引き受けるとすぐに、ベンソン長老はアイゼンハワー次期大統領とともに記者会見に出席し、就任が全国に発表された。会見が終わるやいなやホテルに戻り、フロラに電話をかけて、アイゼンハワー次期大統領から就任の要請があり、それを受け入れたことを告げた。

フローラはこう答えた。「そうだと思ったわ。そして、あなたは承諾すると分かっていたわ。」

長老は、「とてつもなく大きな責任だし、わたしたち二人にとって前途多難だよ」と言った。

「そうね」とフローラは言った。「でも、それが神の御心のようだよ。」<sup>64</sup>

ベンソン長老が予想したとおり、農務長官としての務めは、彼と家族にとって波乱に富んでいた。しかし、彼は「人気投票で勝とう」としているのではなく、「農業のため、アメリカのために働き」たいだけであると言い、<sup>65</sup> 次の決意を貫いた。「たとえ評判が良くなくても、正しいことを擁護することは良い戦略だ。むしろ、評判が良くないときは、特にそうだ。」<sup>66</sup> エズラが自分の評判を気にしなかったことは彼にとって良いことだった。確信を揺るぎなく貫く一方で、政治家や市民の間で評判は激しく揺れた。人々は、あるときは農務長官の職からエズラを退けようとし、<sup>67</sup> また別のときは合衆国の副大統領に適任だと言った。<sup>68</sup>

政府首脳として務める中でも、ベンソン長老は、クリスチャンとしての理想や回復された福音についての証、末日聖徒イエス・キリスト教会への献身を公にした。農務省の同僚と会議をする際は、祈りでその会を始めた。<sup>69</sup> アメリカ合衆国の行く末に関して預言されているモルモン書の言葉をアイゼンハワー大統領に送ると、大統領は後に「強い興味を持って」読んだと語った。<sup>70</sup> エズラは世界の多くの指導者にモルモン書を渡した。<sup>71</sup> 1954年、合衆国の著名なニュースレポーターであるエドワード・R・マロー氏が「パーソン・トゥー・パーソン」という金曜日の夜の番組でベンソン家の特集をしたいと言った。初め、ベンソン長老夫妻は断ったが、すばらしい伝道の間になるという息子リードの言葉を聞いて、受け入れることにした。1954年9月24日、全国の人々が、ベンソン家の、リハーサル抜きの家庭の夕べを生中継で視聴した。その放送で、マロー氏は他のどの回よりも多くのファンレターを受け取った。合衆国各地から様々な宗教の人々が、ベンソン家のすばらしい模範に感謝の言葉をつづった。<sup>72</sup>

ベンソン長老は、アイゼンハワー大統領が合衆国を導いていた間、すなわち8年間、農務長官を務めた。マッケイ大管長は、ベンソン長老の働きが「教会とこの国にとっていつまでも誉れとなる」だろうと語った。<sup>73</sup> ベンソン長老は国家の注目を浴びていた時期を振り返ってこう述べた。「この偉大な国を愛しています。母国に仕えることは名誉でした。」<sup>74</sup> さらに、「もしもう一度初めからやり直すことになっても、ほぼ同じ道を通るでしょう。」<sup>75</sup> その後も続く使徒としての務めについては、「さて、農業以上にわたしが唯一愛しているものにすべてをささげる時です」と述べている。<sup>76</sup>

政府におけるベンソン長老の任務は1961年に終わったが、母国と自由の原則を愛する心は持ち続けた。総大会の多くの説教で、ベンソン長老はこれらの



ドワイト・D・アイゼンハワー大統領が見守る中、合衆国農務長官として、フレッド・M・ベンソン最高裁判所長官の前で宣誓するベンソン長老

テーマを採り上げ、アメリカ合衆国は「わたしが心から愛する国」であると語った。<sup>77</sup> また、「わたしはすべての国々における愛国心と母国愛を大切にしています」とも語った。<sup>78</sup> 長老はすべての末日聖徒に、それぞれの国を愛するように勧め、次のように教えた。「愛国心とは、国旗を振ることや勇ましい言葉を語ることに上のもので、それは、公的な問題にどのように対処するかです。真実の意味で愛国者として再び自分自身をささげましょう。」<sup>79</sup> 「政治的な日和見主義者とは異なり、真の政治家は人気よりも原則を重んじ、賢明且つ適正な政治信条に人々の心を向けさせるように働きかけます。」<sup>80</sup>

---

### キリストの名の特別な証人

エズラ・タフト・ベンソン長老は、主イエス・キリストの使徒として、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝え」(マルコ 16:15)、「イエス・キリストの福音を宣言することによって門を開きなさい」という戒めに従った(教義と聖約 107:35)。伝道部を巡回し、人々を教え、世界の様々な国で奉仕した。

ベンソン長老は、末日聖徒に会う特権を大切にされた。ある総大会の説教で次のように語っている。「わたしはステーキの訪問から戻ると、時々、妻にこう言っていました。『天がどのようなものか、正確には分からないけれど、シオンのステーキやワード、また地上の伝道部で指導している人々と交わることから生まれる楽しみや喜び以上にすばらしいものを天で求められるとは思えないよ。』わたしたちは実に豊かに祝福されています。』<sup>81</sup> 別の説教では、次のように述べている。「教会にはまことの兄弟愛と仲間意識があります。とても力強いもので、多少漠然としていますが、実際にあります。わたしや同僚たちは、シオンのステーキやワード、全世界の伝道部を訪問するときにそれを感じます。……いつも仲間意識と兄弟愛を感じます。これは教会員であることと神の王国に関連するすばらしい祝福の一つです。』<sup>82</sup>

ベンソン長老は、他の宗教を持つ人々に救い主についての証<sup>あかし</sup>を伝えるのが大好きだった。例えば、1959年にベンソン姉妹と合衆国農務省の職員4人を連れて、ソビエト連邦を含む7か国を訪問した。農務長官として各地を訪問していたものの、使徒として述べた証は、多くの人々の心に深い感動を与えた。長老は次のように回想している。

「モスクワでの最後の夜、空港へ向かう途中、わたしは……案内係の一人に、ロシアで教会に行く機会がなかったことを残念に思うと話しました。案内係が運転手に何かを告げると、通りの真ん中で車が方向転換しました。しばらくすると、車は、赤の広場からあまり遠くない、暗くて狭い石畳の横道にある、古いスタッコ（化粧しっくい）仕上げの建物の前に止まりました。そこは中央バプテスト教会でした。

雨の降る陰気な10月の夜で、とても冷え込んでいました。しかし教会に一歩入ると、人であふれ返っていました。廊下や玄関、道端にまで人が立っていました。毎週日曜日と火曜日と木曜日に同じように大勢の人が集まって来ることを、わたしたちは知りました。

わたしは人々の顔を見渡しました。多くは中高年でしたが、驚くほどたくさん若い人がいました。5人のうち4人は女性で、そのほとんどが頭にスカーフを巻いていました。わたしたちは説教壇に近い席に案内されました。……

牧師が少し話した後、オルガンが鳴って賛美歌の演奏が始まり、会衆全員が声を合わせて歌いました。その場で1,000人から1,500人の歌声を聞いたことは、わたしの生涯で最も感動的な経験の一つとなりました。クリスチャンとしての共通の信仰によって、彼らは言語や政治や歴史の違いをすべて超えて、歓迎の言葉をもって手を差し伸べてくれました。わたしがこの感動的な場面で心の高まりを抑えようとしていると、牧師はそこに立っている通訳者を通して、会衆に話をしてほしいと頼んできました。

わたしは一瞬手間取りつつも、感動で高まっていた気持ちを何とか静めて話すことに同意し、おおよそこのように語りました。『御親切に、皆さんに挨拶する機会を下さり、ありがとうございます。』

わたしはアメリカと世界各地で教会に集う何百万もの人々に代わって、御挨拶申し上げます。』突如として、わたしは、人類が知る最も神聖な真理について同じクリスチャンの仲間に話すことが、何よりも自然なことに感じました。

『天の御父がおられる場所はそれほど遠くなく、御父はわたしたちのすぐそばにおられることがあります。神が生きておられることを知っています。神はわたしたちの御父であられ、世の贖い主であるイエス・キリストは地上を見守っておられます。あらゆることにおいて導いてくださいます。恐れずに主の戒めを守り、互いに愛し合い、平安を求めて祈ってください。そうすれば、万事うまくいきます。』

会衆のために一言一言通訳されていく間、女性たちがハンカチを取り出し、ある人の言葉を借りれば、『母親が一人息子との永遠の別れを惜しむときのようにハンカチを振り』始めたのでした。会衆は『ヤア、ヤア、ヤア!』(はい、そのとおり!)と叫び、勢いよくなってきました。わたしはそのとき初めて、廊下までもが人でいっぱいになっており、多くの人が壁に沿って立っていることに気づきました。わたしは自分の前の年老いた女性を見ました。彼女は無地のスカーフを頭にかぶり、肩にはショールを巻いていました。年を重ね、しわの寄った顔は、信仰あふれる穏やかな表情をしていました。わたしはその女性に向かって話しました。

『現世の生活は永遠の一部にすぎません。わたしたちはこの世に来る前に、神の霊の子供として生活していました。現世を去った後に再び生きます。キリストは死の縄目を解き、復活されました。わたしたちも皆復活します。』

わたしは祈りの持つ力を心から信じています。手を伸ばして求めれば、目に見えない力によって、必要なときに勇気と支えを得ることができると知っています。』わたしが一言語るごとに、年老いた女性はうなずいて賛同しました。高齢で、弱々しく、しわが寄っていましたが、美しい信仰心を持っていました。

わたしは自分が語ったすべての言葉を覚えてはいません。しかし、自分たちが愛し仕える神への信仰をしっかりと固く守っている男性たちや女性たちの顔を見て、わたしの霊は鼓舞されました。

話の終わりに、わたしはこう言いました。『長年教会で奉仕してきた僕として、皆さんにわたしの証を残します。真理が減びることはありません。真理が報われる時が必ずやって来ます。神が皆さんを祝福し、生涯の終わりまで皆さんを守ってくださいますよう、イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。』

わたしはそれ以上話せなくなり、即席の話を終えて席に着きました。その後、会衆全員で、わたしが子供の頃に大好きだった賛美歌『神よ、また逢うまで』を歌いました。彼らが歌っている間にわたしたちは教会を出ました。わたしたちが通路を通ると、彼らは別れの挨拶としてハンカチを振りました。去って行くわたしたちに、1,500人全員が手を振ってくれているように思えました。

わたしは世界中の多くの教会の会衆の前で話す特権にあずかってきましたが、あのときの感動は言葉で言い表せないほどでした。あの夜の出来事は、いつまでも決して忘れないでしょう。

あのときほど、人の心が一つになるのを、そして抑え切れないほど自由を渴望するのをはっきりと感じたことは、まずありません。……

わたしはこの出来事について度々話そうと決心して〔家に〕帰りました。なぜなら、この出来事は、自由の精神、兄弟愛の精神、また宗教の精神を打ち砕くためにどんな力が働こうと、それらが存在し続けることを表しているからです。』<sup>83</sup>

## 十二使徒定員会会長

1973年12月26日、ベンソン長老は、教会の大管長であるハロルド・B・リー大管長が突然亡くなったという思いがけない知らせを受けた。リー大管長が亡くなったことで、大管長会の二人の顧問は十二使徒定員会に戻ることになった。4日後、スペンサー・W・キンボールが教会の大管長として、またエズラ・タフト・ベンソンが十二使徒定員会会長として任命された。この責任に伴って、ベンソン会長は管理の務めも負うことになった。毎週の定員会集會を管理し、他の使徒の働きを調整するのである。これには、ステーク大会の管理、伝道部訪問、ステーク祝福師の召しに関して、使徒に割り当てを行うことが含まれる。また、他の中央幹部を管理する責任も一部負った。彼と他の使徒たちが働きを調整するのを助けるため、管理職員が実務を行った。<sup>84</sup>

十二使徒定員会の集會で、ベンソン会長は、彼らの会長を務めることについて自分の思いを次のように語った。「この大きな責任について、わたしはとても不安を抱いていました。恐れる気持ちではありません。わたしたちが最善を尽くすなら……この業において失敗することはないと知っているからです。主が支えてくださると分かっていますが、主イエス・キリストの特別な証人である皆さんの組織を管理する指導者の職に召されるのは大変なことです。』<sup>85</sup>

ベンソン会長は、この謙遜けんそんさに加えて、特有の雄々しさと熱心に働く勤勉さを備えていた。人々が奉仕する機会を得られるように、責任を委任することもしばしばあった。自分に最良の働きを求めると同様、自らが指導する相手にも

最良の働きを期待した。要求が厳しい面もあったが、優しい人であった。他の使徒たちの意見に耳を傾け、定員会集会で自由に話し合うことを推奨した。ベンソン会長の下で使徒に召されて間もなかったボイド・K・パッカー長老、ラッセル・M・ネルソン長老、ダリン・H・オクス長老は、彼らの考えがベンソン会長と異なっているにもかかわらず、会長は意見を述べることをいつも奨励したと語っている。<sup>86</sup>

十二使徒定員会の会員たちは、ベンソン会長が不変の原則に基づいて彼らを導いていることを知ったのである。例えば、ベンソン会長は繰り返しこう語っていた。「兄弟の皆さん、覚えていてください。この業においては、御霊が重要なのです。」<sup>87</sup> ベンソン会長には、定員会の下したあらゆる決定を吟味する際に用いる基準があり、必ずこう尋ねた。「王国にとって何が最善でしょうか。」ベンソン会長とともに十二使徒定員会で奉仕したマーク・E・ピーターセン長老は次のように述べている。「何か重要な問題がエズラ・タフト・ベンソン大管長の前に持ち出されると、ベンソン大管長は生涯を通じて必ずこのように問うてから決めていました。」<sup>88</sup>

---

## 大管長

スペンサー・W・キンボール大管長は、闘病の末、1985年11月5日に亡くなった。これで教会を指導する職は、エズラ・タフト・ベンソン会長が会長および前任使徒を務める十二使徒定員会に委ねられた。5日後に、ソルトレーク神殿において、十二使徒定員会の集会が厳かで敬虔な雰囲気の下で開かれ、ベンソン会長が教会の大管長として任命された。ベンソン大管長は靈感によって、ゴードン・B・ヒンクレ管長に大管長会第一顧問として、トーマス・S・モンソン管長に第二顧問として奉仕するよう依頼した。

ベンソン大管長は、キンボール大管長の体調が不安定であることを知っていた。そのため、大管長の体力が再び活性化することを願っていた。「今日のことは予期していませんでした。」ベンソン大管長は教会の大管長として任命された直後、記者会見の席上、次のように語った。「妻のフローラとわたしは、この世においてキンボール大管長の命が延ばされるように、そして彼に再び奇跡が訪れるようにと祈り続けていました。主が語られた今となっては、最善を尽くし、この地上において主の導きの下に業を推し進めるだけです。」<sup>89</sup>

教会の大管長になってから初めての総大会で、ベンソン大管長は、主の業を前進させるために第一に強調したいことは何かを述べた。「主は今、モルモン書を再強調する必要があるということを啓示しておられます。」<sup>90</sup>

十二使徒定員会会長として、ベンソン会長は、モルモン書の重要性について繰り返し教えていた。<sup>91</sup> 教会の大管長になってからは、それをさらに強調するよ



ベンソン大管長、大管長会顧問のゴードン・B・ヒンクレー管  
長(左)とトーマス・S・モンソン管長(右)とともに

うになった。ベンソン大管長は、末日聖徒が十分にモルモン書を研究しておらず、その教えを心に留めていないために、「全教会が呪いのもとにある」と語った。「わたしたちは今もそうですが、これまで聖典の学習の中心にモルモン書を置いてきませんでした。家族に教える場合でも、人々に福音を教えたり、伝道活動を行ったりする場合もそうでした。この点について悔い改めが必要です。」<sup>92</sup> 大管長は「人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる」という預言者ジョセフ・スミスの宣言を頻繁に引用し、<sup>93</sup> その約束について詳しく説明した。「モルモン書には力があって、真剣に読み始めるやいなやその力は読む者の人生に流れ込み……ます。」<sup>94</sup> 大管長は末日聖徒に、「モルモン書で地と自分自身の生活を洪水のごとく満たす」ように勧めた。<sup>95</sup>

末日聖徒は、世界各地で預言者のこの勧告に従った。その結果、個人的にも、全体としても強められた。<sup>96</sup> ハワード・W・ハンター大管長は次のように述べている。「今後生まれる世代も含めてあらゆる世代の人々は、エズラ・タフト・ベンソン大管長の管理した時代を振り返るとき、直ちにモルモン書に対する一方ならぬ愛着を思い浮かべるのではないのでしょうか。預言者ジョセフ・スミス以降の大管長の中でベンソン大管長ほどモルモン書の真理を教え、全教会員に毎日モルモン書を研究するよう求め、モルモン書で『洪水のごとくに地を満たした』大管長はいたでしょうか。」<sup>97</sup>

モルモン書に対するベンソン大管長の証に密接に関連していたのは、イエス・キリストに対する彼の証だった。多くの人々が「救い主の神性」を否定した時代に、「神から与えられたこの靈感あふれる書物は、イエスが救い主であられるという、世の人々に宣べ伝える証のかなめ石なのです」と彼は語った。<sup>98</sup> 1943年に使徒に聖任されて以来、ベンソン大管長は救い主が実在されることをたゆまずに証してきた。教会の大管長になってからは、イエス・キリストとその贖罪について、さらに力強く、熱心に証した。大管長は聖徒たちに「キリストを指導者と仰ぐ」ように、「キリストにすべてをささげ尽くす」ように<sup>99</sup>、また「キリストを基とした生活をする」ように勧めた。<sup>100</sup> そして、救い主について語り、次のように述べた。「わたしは全身全霊を込めて、イエスを愛しています。」<sup>101</sup>

ベンソン大管長は、他のテーマについても、熱心に力を込めて教えた。高慢の危険性について警告し、家族が永遠に大切であることについて証した。信仰と悔い改めの原則を教え、献身的な伝道活動が必要であると強調した。

召された初めの頃ほどアメリカ合衆国について話さなくなったものの、教会の1987年10月の総大会で、合衆国憲法が署名されてから200周年を迎えたことについて述べた。また、全世界における自由と真実の愛国心に強い関心を持ち続けた。1980年代後半から1990年代の初めにかけて、ベルリンの壁が崩壊したことやロシアと東ヨーロッパの人々が以前よりも自由を得てそれぞれの政府が宗教の自由を認めたことを、非常に喜んだ。<sup>102</sup>

ベンソン大管長は、特定の教会員のグループに向けて話すことが何回かあった。1986年4月に始まり、若い男性、若い女性、母親、ホームティーチャー、父親、独身の男性、独身の女性、子供、高齢者に当てた説教を準備した。ハワード・W・ハンター大管長は次のように述べている。「ベンソン大管長はすべての人に語りかけ、関心を寄せていました。教会の女性と男性に語りかけました。高齢者に語りかけました。独身の会員に、また若い会員に語りかけました。教会の子供たちに話すのが大好きでした。それぞれの個人的な状況を問わず、ベンソン大管長は、教会のすべての会員にすばらしい、個別の勧告を与えました。これらの説教はわたしたちを支え続け、わたしたちがこの先何年にもわたってそれについてよく考えるときに、わたしたちを導くものとなることでしょう。」<sup>103</sup>

ベンソン大管長は、これらの説教の一つに影響を受けたという家族から手紙をもらい、涙を流した。その家族の若い父親は手紙の中で、彼と彼の妻が総大会をテレビで視聴していたことを説明した。彼らの3歳の息子が近くの部屋で遊んでいて、その部屋には総大会の様子がラジオで流されていた。ベンソン大管長の子供向けの話を聴いた後、母親と父親は息子が遊んでいた部屋に行った。すると幼い男の子は、「ほんとうにうれしそうな様子でこう言うのです。『ラジオの人が言ってたよ。たとえぼくたちが間違ったことをしても、それでも

天のお父様はぼくたちのことを愛してくれるんだって。』父親はこのように述べている。「大管長の簡潔な言葉が、息子の心に永遠に消えることのない深い感動を与えたのです。今でも、ベンソン大管長が何とおっしゃったか、と息子に尋ねると、あの日と同じ興奮した答えが返ってきます。息子は、優しく、愛の深い御父が天におられることを知って、心に深い慰めを得ています。」<sup>104</sup>

1988年10月の総大会のすぐ後、ベンソン大管長は脳卒中を患い、公の場で話すことができなくなった。一時期、総大会や他の公の集会に出席した。1989年の総大会では、大管長が用意した原稿を顧問が読み上げた。1990年からは、大管長が聖徒たちを愛していることを顧問たちが述べ、過去の説教から引用して話した。1991年4月の総大会に出席したのを最後に、ベンソン大管長はテレビで大会の模様を見る以外のことをするのは肉体的に難しくなった。<sup>105</sup>

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう回想している。「予想されるように、ベンソン大管長の肉体は年齢とともに衰え始めました。かつてのように歩けなくなりました。かつてのように話すこともできません。少しずついろいろなことができなくなってきましたが、それでも生きている間は主の選ばれた預言者でした。」<sup>106</sup> ヒンクレー管長とトーマス・S・モンソン管長は、ベンソン大管長から委任された権能によって教会を導いたものの、教会が新しいことを始めるときには、必ずベンソン大管長に相談し、承認を得てから行われた。<sup>107</sup>

ベンソン大管長がさらに肉体的に衰弱していくのと同時に、フローラの健康も衰え、彼女は1992年8月14日に亡くなった。それから2年もたたない1994年5月30日、ベンソン大管長はフローラのもとへ旅立ち、大管長の遺体は、夫妻が愛したホイトニーでフローラの隣に埋葬された。ベンソン大管長の葬儀で、モンソン管長は次のように回想している。「あるとき、大管長はこのように言いました。『モンソン兄弟、忘れないでください。他の人がどんな提案をしようと、わたしはアイダホ州ホイトニーに埋葬されたいのです。』ベンソン大管長、今日その望みがかないます。大管長の遺体はホイトニーに帰りますが、永遠に生き続ける大管長の霊は、神のみもとへ帰りました。大管長は家族や友達、愛するフローラとともにきっと喜んでいてことでしょう。……

神の預言者となった農家の少年は故郷へ帰りました。大管長と出会えたことを神に感謝します。」<sup>108</sup>

## 注

1. ロバート・D・ヘイルズ, "A Testimony of Prophets" 1994年6月5日, speeches.byu.edu。ツイラ・バン・リアー, "Church Leader Buried beside Wife, Cache Pays Tribute as Cortège Passes," *Deseret News*, 1994年6月5日付も参照
2. ゴードン・B・ヒンクレー, "Farewell to a Prophet" *Ensign*, 1994年7月号, 37-38
3. エズラ・タフト・ベンソン「神の性質」『聖徒の道』1987年1月号, 51-52参照
4. マーガレット・ベンソン・ケラーの言葉, シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography* (1987年), 34で引用

5. エズラ・タフト・ベンソン「神の性質」54 参照
6. エズラ・タフト・ベンソン, "Scouting Builds Men" *New Era*, 1975年2月号, 15 - 16
7. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 44 参照
8. "After 60 Years 'Still in Love,'" *Church News*, 1986年9月14日付, 4, 10 参照
9. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 58 で引用
10. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 55 参 照。本書第7章も参照
11. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 59 参照
12. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 59 参照
13. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 62 で引用
14. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 59
15. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 53 で引用
16. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 63 で引用
17. フローラ・アムッセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 75 で引用
18. フローラ・アムッセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 79 で引用
19. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 79 で引用
20. ユージーン・J・ネフの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 84 で引用
21. ユージーン・J・ネフの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 87 で引用
22. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 87 参照
23. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 87 参照
24. フローラ・アムッセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 96 で引用
25. フローラ・アムッセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 88 で引用
26. フローラ・アムッセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 89 で引用
27. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 92 で引用
28. フランシス・M・ギボンス, *Ezra Taft Benson: Statesman, Patriot, Prophet of God* (1996年), 85 - 89
29. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 99 - 100, 101, 115 参照
30. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 115 で引用
31. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 100 参照
32. バーバラ・ベンソン・ウォーカーの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 130 で引用
33. フローラ・アムッセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 121 で引用
34. フローラ・アムッセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 121 で引用
35. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 174; エズラ・タフト・ベンソン, 個人的な日記, 1943年7月26日からの引用を含む
36. エズラ・タフト・ベンソン, 個人的な日記, 1943年7月26日。 *Ezra Taft Benson: A Biography*, 174 - 175 で引用
37. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 176 で引用
38. エズラ・タフト・ベンソン, *A Labor of Love: The 1946 European Mission of Ezra Taft Benson* (1989年), 7 参照
39. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1947年4月, 152 - 153
40. ジョージ・アルバート・スミスの言葉, #A Labor of Love#, 7 で引用
41. エズラ・タフト・ベンソン, #A Labor of Love#, 7 - 8
42. エズラ・タフト・ベンソン, #A Labor of Love#, 120
43. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1947年4月, 154
44. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1947年4月, 155
45. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1947年4月, 153 - 155
46. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1947年4月, 155 - 156 参照
47. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1947年4月, 156
48. フレデリック・W・バベル, *On Wings of Faith* (1972年), 28 - 33, 46 - 47, 106 - 108, 111 - 112, 122, 131 - 134, 136, 154 参照
49. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1947年4月, 152
50. トーマス・S・モンソン, "President Ezra Taft Benson - A Giant among Men," *Ensign*, 1994年7月号, 36
51. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 37 参照
52. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1948年4月, 83 参照
53. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1948年4月, 86
54. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1962年4月, 104
55. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1948年4月, 85 参照
56. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1962年4月, 104 - 105 参照
57. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1954年10月, 121 参照

58. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1962年10月, 19
59. エズラ・タフト・ベンソン, *Cross Fire: The Eight Years with Eisenhower* (1962年), 3 - 4
60. デビッド・O・マッケイの言葉, *Cross Fire*, 5で引用
61. エズラ・タフト・ベンソン, *Cross Fire*, 10で引用
62. ドワイト・D・アイゼンハワーの言葉, *Cross Fire*, 12で引用
63. エズラ・タフト・ベンソン, *Cross Fire*, 12
64. エズラ・タフト・ベンソン, *Cross Fire*, 13
65. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 355で引用
66. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, シェリー・L・デュー, "President Ezra Taft Benson: Confidence in the Lord," *New Era*, 1989年8月号, 36で引用
67. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 313, 345 参照
68. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 331 参照
69. 本書第2章参照
70. ドワイト・D・アイゼンハワーの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 292で引用
71. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 292 参照
72. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 297 - 299 参照
73. デビッド・O・マッケイの言葉, *Cross Fire*, 519で引用
74. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1961年4月, 113
75. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 358で引用
76. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 355で引用
77. エズラ・タフト・ベンソン, "A Witness and a Warning," *Ensign*, 1979年11月号, 31
78. エズラ・タフト・ベンソン, "The Constitution - A Glorious Standard," *Ensign*, 1976年5月号, 91
79. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1960年4月, 99
80. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1968年10月, 17
81. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1948年10月, 98
82. エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1950年10月, 143 - 144
83. エズラ・タフト・ベンソン, *Cross Fire*, 485 - 488
84. フランシス・M・ギボンズ, *Statesman, Patriot, Prophet of God*, 270 - 271 参照
85. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 430 - 431
86. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 429 - 430 参照
87. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, トーマス・S・モンソン, "A Provident Plan - A Precious Promise," *Ensign*, 1986年5月号, 63で引用
88. マーク・E・ピーターセン, "President Ezra Taft Benson" *Ensign*, 1986年1月号, 2 - 3
89. エズラ・タフト・ベンソンの言葉, *Church News*, 1985年11月17日付, 3で引用
90. エズラ・タフト・ベンソン「神聖な務め」『聖徒の道』1986年7月号, 78
91. 例えば, "The Book of Mormon Is the Word of God" *Ensign*, 1975年5月号, 63 - 65; 「キリストに対する新しい証人」『聖徒の道』1985年1月号, 6 - 8 参照。 *Ezra Taft Benson: A Biography*, 491 - 493も参照
92. エズラ・タフト・ベンソン「器の内側を清める」『聖徒の道』1986年7月号, 5
93. ジョセフ・スミス, モルモン書序文で引用
94. エズラ・タフト・ベンソン「モルモン書 —— わたしたちの宗教のかなめ石」『リアホナ』2011年10月号, 57
95. エズラ・タフト・ベンソン「高ぶりを心せよ」『聖徒の道』1989年7月号, 4
96. 本書第10章参照
97. ハワード・W・ハンター, "A Strong and Mighty Man," *Ensign*, 1994年7月号, 42
98. エズラ・タフト・ベンソン「モルモン書 —— わたしたちの宗教のかなめ石」55
99. エズラ・タフト・ベンソン「神によって生まれる」『聖徒の道』1989年10月号, 6
100. エズラ・タフト・ベンソン「キリストのみもとに来て」『聖徒の道』1988年1月号, 91
101. エズラ・タフト・ベンソン「イエス・キリスト —— 救い主, 贖い主」『聖徒の道』1990年12月号, 8
102. ラッセル・M・ネルソン「ヨーロッパに展開するドラマ」『聖徒の道』1992年5月号, 22 - 23 参照
103. ハワード・W・ハンター, "A Strong and Mighty Man," 42
104. トーマス・S・モンソン「主があなたを祝福してくださるように」『聖徒の道』1992年1月号, 97
105. フランシス・M・ギボンズ, *Statesman, Patriot, Prophet of God*, 315 参照
106. ゴードン・B・ヒンクレー, "Farewell to a Prophet," 40
107. フランシス・M・ギボンズ, *Statesman, Patriot, Prophet of God*, 317 - 318 参照
108. トーマス・S・モンソン, "President Ezra Taft Benson - A Giant among Men," *Ensign*, 1994年7月号, 36



救い主が金持ちの青年にお教えになったように、わたしたちはほかの人々を助  
けるとき、主への愛を示していることになる（マタイ 19：16-21 参照）。



## 一番大切な戒め——主を愛する

「神を第一にすると、ほかのすべての事柄は正しい位置に落ち着くか、またはわたしたちの生活の中から消えていくかのどちらかです。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

エズラ・タフト・ベンソン大管長の生涯は、主に対する愛と、福音に従って生きる確固とした決意を表している。ある近親者はかつてこのように語った。「エズラとエズラの家族にとって、宗教は生活様式そのものです。週7日を生活するためのものです。何らかの決定をする時が来たら、最初に宗教の教えに基づいて検討を始めるのです。」<sup>1</sup>

ベンソン家族以外の人々も、ベンソン大管長の主に対する愛を認めていた。1939年、ベンソン大管長はステーキ会長として奉仕していたとき、農業協同組合全国評議会の理事と面談するためにワシントン D.C. に招かれた。「ベンソン会長がどういう人物であるかを見て質問をした後に、理事会は、その組織の事務局長に就任するよう彼に要請しました。……ベンソン会長は、この職に対する予期せぬ誘いに心を躍らせましたが、それを受けたいとは思いませんでした。その仕事にはカクテルパーティーを利用したロビー活動が付き物で、自分の宗教とは両立しないと思ったからです。

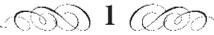
この全国評議会の会長であるジョン・D・ミラー審査官が言いました。「ベンソンさん、それがあなたを選んだ理由なのです。わたしたちは、あなたがどのような倫理観をお持ちか存じています。」ベンソン会長は、カクテルパーティーを通して農業問題の解決に取り組むようには期待されていないという完全な約束を理事会から得たので、その職を喜んで受けたいと思いました。しかし、引き受けるのは大管長会と妻に相談してからのことでした。」<sup>2</sup>

ベンソン大管長は、主の御心<sup>みこころ</sup>を喜んで行うことによって主への愛を表すことを教え、次のように述べている。「わたしは、すべての末日聖徒が言葉だけではなく、心の底から次のことが言えるように願っています。『御旨<sup>みひね</sup>のまま行かん。御旨のまま言わん。御旨に添いません。』（『賛美歌』172番参照）このこ

とがすべてできたら、わたしたちはこの世では最高の幸福を得て、その後、神の日の栄えの王国における昇栄を確かなものにする事ができるのです。」<sup>3</sup>

1988年4月の総大会の説教（この章はその説教に基づいている）で、ベンソン大管長は、神を愛するという一番大切な、第一の戒めに焦点を当てている。この説教に関して、七十人のフランシス・M・ギボンズ長老は次のように述べている。「エズラ・タフト・ベンソン大管長が、自分自身のため、自分の家族のため、教会のために達成しようと努めてきたすべてのこと、擁護してきたすべてのこと、希望を持ってきたすべてのことが、この説教に集約されています。」<sup>4</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え



### 一番大切な、第一の戒めは主を愛することである

人生における大いなる試しは、神に従うことです。主は言われました。「わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」（アブラハム 3：25）

人生における大いなる務めは、主の御心みこころを知り、それを行うことです。

人生における大いなる戒めは、主を愛することです。

モロナイは最後の証の中で次のように勧めています。「キリストのもとに来て……勢力と思いと力を尽くして神を愛〔しなさい〕。」（モロナイ 10：32）

そして、一番大切な、第一の戒めはこれです。「心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」（マルコ 12：30。マタイ 22：37；申命 6：5；ルカ 10：27；モロナイ 10：32；教義と聖約 59：5も参照）

モルモン書が最も大いなるものと証しているのは、キリストの純粋な愛、すなわち慈愛です。これはいつまでも絶えることがなく、とこしえに続くものです。すべての人が持つべきものであり、この慈愛がなければ、人は何の価値もないのです（モロナイ 7：44 - 47；2 ニーファイ 26：30 参照）。

モロナイは次のように嘆願しています。「したがって、わたしの愛する同胞ほらからよ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、また神の子となれるように、……また、御子が御自身を現されるときに、……御子に似た者となれるように、……熱意を込めて御父に祈りなさい。」（モロナイ 7：48）

ヤレド人とニーファイ人に関する記録の最後の部分で、モロナイは、慈愛と呼ばれるこのキリストの純粋な愛を持たなければ、人はキリストが御父の住まい

に用意して下さった場所を受け継ぐこともできないし、神の王国に救われることもできないと述べています（エテル 12：34；モロナイ 10：21 参照）。

リーハイが示現の中で食べた実は神の愛でした。それはリーハイの心に非常に大きな喜びを満ちし、どんなものよりも好ましいものでした。<sup>5</sup>

慈愛について考えるとき、……わたしの父のこと、そして父が伝道に召された日のことを思い出します〔本書 4－6 ページ参照〕。父がその召しを受け入れたのは、自分の家族を本当に愛する気持ちがなかったからだ、と言う人が世の中にはいるかもしれません。7人の子供と妊娠中の妻を残して2年間も留守にするなど、どうして本当の愛と言えるだろうか、ということでしょう。しかし、わたしの父が抱いていた愛は、もっと大きなものでした。父は、「神は、神を愛する者たち……と共に働いて、万事を益となるようにして下さい」と知っていました（ローマ 8：28）。家族のためにできる最善のことは神に従うことであると考えていたのです。<sup>6</sup>

心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、神を愛するという事は、すべてを燃焼し尽くすということです。いいかげんな努力ではだめです。肉体的に、精神的に、情緒的に、また霊的に、わたしたちの存在のすべてを懸けて主を愛するのです。

この神の愛の広さ、深さ、高さは、人生のあらゆる面に広がります。わたしたちの望みは、霊的なものであれ、物質的なものであれ、主への愛に根ざしたものでなければなりません。思いや感情は主を中心としたものであるべきです。アルマは次のように述べています。「あなたの思いを常に主に向けるようにしなさい。まことに、あなたの心の愛情をとこしえに主に向けるようにしなさい。」（アルマ 37：36）<sup>7</sup>

---

## 2

---

### 生活の中で神を第一にするとき、神への愛を示すことになる

神はなぜ第一の戒めを第一にされたのでしょうか。それは、わたしたちが心から神を愛するなら、ほかのすべての戒めも守りたいと思うことを御存じだったからです。ヨハネはこう言っています。「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。」（1ヨハネ 5：3。2ヨハネ 1：6も参照）

わたしたちは生活の中で、何よりも神を優先しなければなりません。十戒の一番目に神が宣言されたように、神が最初に来なければならないのです。「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。」（出エジプト 20：3）



エジプトのヨセフは、神への忠誠を否定するよりも喜んで獄屋に入った。

神を第一にすると、ほかのすべての事柄は正しい位置に落ち着くか、またはわたしたちの生活の中から消えていくかのどちらかです。主への愛が、感情の欲求や時代の要求、興味、物事の優先順位を左右するのです。

生活の中で神をすべての人に優先するべきです。

ヨセフはエジプトで何を第一としたのでしょうか。神でしょうか、仕事でしょうか、それともポテパルの妻でしょうか。ポテパルの妻の誘惑に対してヨセフはこう言いました。「どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができましょう。」(創世 39 : 9)

ヨセフは神を第一としたために投獄されました。同じような選択を迫られたら、わたしたちは何に一番の忠誠を尽くすのでしょうか。神を安全や平安、情欲、富、人の誉れに優先させることができるのでしょうか。

ヨセフはこの選択を迫られたとき、雇い主の妻ではなく、神に喜んでいただくことを考えました。わたしたちも選択しなければならないとき、上司や教師、隣人、恋人ではなく、神に喜んでいただく方を選ぶのでしょうか。

主は言われました。「わたしよりも父または母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりもむすこや娘を愛する者は、わたしにふさわしくない。」

(マタイ 10:37) だれにとっても最も困難な試しの一つは、愛し尊敬する人、特に家族を喜ばせるか、神を喜ばせるかのどちらかを選ぶように迫られることです。

ニーファイは、彼の善良な父が一時主に対してつぶやいたときにこの試しに遭いましたが、賢明に対処しました(1ニーファイ 16:18-25 参照)。妻から神をのろって死ぬように言われたヨブも、主への誠実さを保ちました(ヨブ 2:9-10 参照)。

聖文にはこうあります。「あなたの父と母を敬え。」(出エジプト 20:12。モーサヤ 13:20 も参照) 時には、肉親の父親よりも天の御父を敬うことを選ばなければならないときがあります。

人生にあって、わたしたちは霊の御父である神を何よりも優先しなければなりません。神はわたしたちの永遠の幸福について、親としての優先的な権利を持っておられます。それは現世から来世にかけてわたしたちを結び合わせるほかのすべてのきずなに先じるものなのです。

父なる神と、長子であり贖い主であるイエスと、証人である聖霊は、完全です。この方々はわたしたちを一番よく知っておられ、深く愛しておられ、わたしたちの永遠の幸福のためにやり残されることは何一つありません。そのような方々に一番の愛と尊敬を示すべきではないでしょうか。

この世の親族の反対にもかかわらず教会に加入した忠実な会員たちがいます。その多くの人が、神を第一にすることによって、後にその愛する人々を神の王国に導き入れる仲立ちとなってきました。

イエスは言われました。「わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしている……。」(ヨハネ 8:29)

わたしたちの家庭ではどうでしょうか。主を第一にして、主に喜んでいただけるように努力しているでしょうか。

父親の皆さん、毎日家族で祈り、家庭で聖文を読むなら、主に喜んでいただけるのではないのでしょうか。毎週家庭の夕べを行い、定期的に妻や子供たち一人一人と個人的な時間を過ごすことについてはどうでしょうか。皆さんの子供が一時的に道を踏み外したとき、皆さんが続けて模範的な生活をし、その子供のために常に祈り、しばしば断食をし、その息子や娘の名前を神殿の祈りの名簿に加えるなら、主がそれを喜んでくださり、皆さんの努力に報いてくださると思いませんか。

シオンの若人を義にかなって育てるという特別な責任を託されている母親の皆さん、神から与えられた召しを尊ぶとき、皆さんは神を第一にしているのでは

ないでしょうか。……末日聖徒の母親は、家庭という囲いの中でその最も気高い使命を果たすとき、神を第一にしているのです。

子供の皆さん、両親のために祈っていますか。両親がその気高い務めを果たせるように助けていますか。両親も皆さんと同じように間違いを犯します。それでも両親には、皆さんの人生の中で果たさなければならない神聖な使命があります。それを助けてくれませんか。両親の名を高め、彼らの晩年に慰めと支えを与えてくれませんか。

もし誰かから神殿以外で皆さんと結婚したいと言われたら、皆さんは神と人のどちらに喜んでもらおうとしますか。神殿結婚を選ぶなら、主は喜んでくださり、相手の人も祝福されます。なぜでしょうか。それは、祝福されて、相手の人が神殿に入る資格を得ることになるか、または離れていくかのどちらかだからです。離れていくことも祝福になるでしょう。釣り合わないくびきを共にすることがないからです（2コリント6：14 参照）。

皆さんは神殿に参入する資格を得るべきです。そうすれば、皆さんにとって神殿以外で結婚してもよいと思うほどの人はいないことが分かるでしょう。それほど良い人であれば、自らを神殿で結婚できる状態に備えるでしょう。<sup>8</sup>

---

### 3

---

#### 生活の中で神を第一にすると、神の祝福が豊かに注がれる

自分の人生を神にゆだねる男女は、人の力で出来ることよりもたくさんのごちを神が人生に与えてくださることを知るでしょう。神はそのような人々の喜びを深め、視野を広げ、知性を活気づけ、筋肉を強め、霊を高め、祝福を増し加え、多くの機会を与え、慰めを与え、友人を元気づけ、平安を与えてくださいます。神のために務めて命を失う者はだれでも、永遠の命を見いだすでしょう。<sup>9</sup>

神はイサクを犠牲としてささげるようにアブラハムにお求めになりました。アブラハムが神よりもイサクを愛していたら、神の命令に従えたでしょうか。主が教義と聖約の中で告げておられるように、今やアブラハムもイサクも神々として王座に着いています（教義132：37 参照）。二人は神の求めに応じて、進んで犠牲をささげようと、あるいは犠牲になろうとしました。二人とも神を第一にしていたので、互いに深く愛し、尊敬し合っていたのです。

「すべての事物には反対のものがなければならない」とモルモン書が教えているとおり（2ニーファイ2：11）、確かに反対のものが存在します。反対のものがあれば選択する機会が生まれ、選択があれば善か悪かの結果が生じます。

モルモン書はこう説明しています。人は、「すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。」(2 ニーファイ 2:27)

神はわたしたちを愛しておられ、悪魔はわたしたちを憎んでいます。神は御自身が感じておられる満ちみちる喜びをわたしたちに味わってほしいと思っておられます。それに対して、悪魔はわたしたちが自分と同じように惨めになることを望んでいます。神はわたしたちを祝福するために戒めを与えてくださっていますが、悪魔は呪うためにわたしたちに戒めを破らせようとするのです。

わたしたちは望みと思いと行いによって、毎日、絶えず、祝福か呪い、幸福か不幸を選択しています。人生の試練の一つは、通常、義に対するすべての祝福や悪に対するすべての呪いをすぐに受けるわけではないことです。選択の結果は必ず受けるのですが、ヨブやヨセフの場合のように、往々にしてそれが起こるまでしばらく待たなければならぬことがあります。

その間、悪人は、罪を犯しても自分は罰せられずに済むと考えます。そのような人々についてモルモン書はこう述べています。「彼らはしばらくの間は自分たちの業を楽しむが、[しかし]やがて最後が来て、彼らは切り倒されて火の中に投げ込まれ、そこから二度と戻ることができない。」(3 ニーファイ 27:11)

この試しの期間中、義人は神を愛し、神の約束を信頼し、忍耐強くあり、確信を持って過ごし続けるに違いありません。次のような詩があります。「神の業を行う者は神から報いを受けるであらう。」……

わたしは、神からの報いがこの世やほかのどの世界も知り得ない最善の報いであることを証<sup>あかし</sup>します。そしてそれは、主を愛し、主を第一にする人にもみ豊かに注がれるのです。

人生における大いなる試しは、神に従うことです。

人生における大いなる務めは、主の御心<sup>みこころ</sup>を知り、それを行うことです。

人生における大いなる戒めはこれです。「心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」(マルコ 12:30)

神の祝福があって、わたしたちが第一の戒めを第一にし、その結果として、この世において平安を、また来るべき世において満ちみちる喜びを伴う永遠の命を受けることができますように。<sup>10</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- 第1項で、ベンソン大管長は「一番大切な、第一の戒め」について教えています（マタイ 22：38 参照）。なぜこの戒めを第一にするべきなのでしょう。ベンソン大管長が慈愛とこの戒めを関連付けて説明したことから、どのような理解が得られるのでしょうか。
- 「神を第一にする」ことは、あなたにとってどのような意味があるのでしょうか（幾つかの例について、第2項を参照してください）。神を第一にするとき「ほかのすべての事柄は正しい位置に落ち着くか、またはわたしたちの生活の中から消えていくかのどちらかです」ということを、あなたが経験したのはいつでしょうか。
- 「自分の人生を神にゆだねる」人に対するベンソン大管長の約束について考えてみてください（第3項）。自分の人生を神にゆだねている人々からあなたはどのような模範を見ただしょうか。神はどのようにその人々を、自分の力だけではなれないより良い人にされたのでしょうか。

### 関連聖句

ヨシュア 24：14 - 15；マタイ 6：33；7：21；ヨハネ 14：15，21 - 24；17：3；1 コリント 2：9；1 ニーファイ 3：7；モロナイ 10：32

### 教える際のヒント

「あなたは『真の教師』ではないことを忘れてはなりません。それは重大な間違いです。……御霊<sup>みたま</sup>のじゃまにならないように注意しなければなりません。教師のおもな役割は人々が主と霊的な経験を持つことができるように道を備えることです。」（ジーン・R・クックの言葉。『教師、その大いなる召し』41 で引用）

### 注

1. *Descendants of the George T. Benson Jr. Family* (1968 年), 原典に刊行地の記載なし
2. メルロウ・J・ピュージー, "Ezra Taft Benson: A Living Witness for Christ," *Improvement Era*, 1956 年 4 月号, 269
3. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988 年) 344
4. フランシス・M・ギボンス, *Ezra Taft Benson: Statesman, Patriot, Prophet of God* (1996 年) 313
5. Conference Report, 1988 年 4 月, 3。「偉大な戒め——主を愛する」『聖徒の道』1988 年 6 月号, 4 も参照
6. 「神の性質」『聖徒の道』1987 年 1 月号, 54 参照
7. Conference Report, 1988 年 4 月, 3。「偉大な戒め——主を愛する」『聖徒の道』1988 年 6 月号, 4 も参照
8. Conference Report, 1988 年 4 月, 3 - 5。「偉大な戒め——主を愛する」『聖徒の道』1988 年 6 月号, 4 - 6 も参照
9. 「イエス・キリスト——<sup>たまもの</sup>賜と私たちへの期待」『聖徒の道』1987 年 12 月号, 4 参照
10. Conference Report, 1988 年 4 月, 5 - 6。「聖徒の道』1988 年 6 月号, 6；ラルフ・S・クックの引用によるデニス・A・マッカーシーの詩の一行, *The Message of Stewardship* (1922 年) 191 も参照



## 常に祈る

「わたしはへりくだってすべての人に、……祈りを通して天の御父と親しく交わるように勧めます。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう述べている。「これまでの人生を通じて、祈りに頼りなさいという勧告は、わたしが受けてきたどの助言よりも大切にしてきたものです。祈りはわたしにとって欠くことのできないものであり、<sup>いかり</sup> 錨であり、絶えざる力の源であり、そして聖なる事柄に対するわたしの知識の土台となってきました。

『どんなことをするときも、どこにいても、決して一人ではないことを覚えておきなさい。』これはわたしが少年の頃、父からよく受けた勧告でした。『天のお父様はいつも近くにおられる。だから、祈りを通して手を伸ばせば、天のお父様の助けが受けられるんだよ。』父のこの勧告は正しいものでした。わたしたちが手を伸べて、その目に見えない力を引き出すことができるようにして下さった神に感謝してください。それがなくては、人は誰も最善を尽くすことはできないのです。』<sup>1</sup>

ベンソン大管長は、人生のあらゆる局面でこの勧告に従った。ベンソン大管長がアメリカ合衆国農務長官として働くように任命されたとき、一緒に働く人々を「識別の霊を与えてくださるように神に願い求め、祈りを通して注意深く」選んだ。<sup>2</sup> 最初の会議でベンソン長官は、「祈りで会議を始めることに反対の人はいますか」と尋ねた。「異論を唱える人は誰もいませんでした。こうして8年間続いた慣例が始まりました。各スタッフがベンソン長官から割り当てを受けて交代で開会の祈りをささげるようになりました。』<sup>3</sup> ベンソン長官の同僚たちは、最初は違和感があったものの、この慣例に感謝するようになった。ある職員は、男性の幾人かが子供のとき以来、声を出して祈っていなかったことを認めて、後日こう述べている。「わたしたちは言葉に詰まり、しどろもどろでした。でも、上司（ベンソン長官）は、決してそのことを気に留めませんでした。そして、数回祈ってみた後には、全員の気持ちが楽になりました。効果があったか、ですって？ そうですね、祈りで会議を始めたときは、意地を張って自分の意



「これまで以上に<sup>きよ</sup>聖くなり、もっと神に愛されたいと願うなら、祈りに勝る方法はありません。」

見に固執することがなくなりました。どのような状況にあっても実行するのが当然である事柄に関して、非常に速く合意に達するようになりました。」<sup>4</sup>

大管長会と十二使徒定員会の中央幹部も、ベンソン大管長の祈りに満ちた特質から恩恵を受けた。大管長会でベンソン大管長の第一顧問を務めたゴードン・B・ヒンクレー管長は、次のように述べている。

「わたしはベンソン大管長と一緒にひざまずき、大管長の祈りに耳を傾けました。

大管長の祈りは常に興味深いものでした。ほとんど例外なく、感謝が祈りの大部分を占めていました。願い事はほんの少しで、非常にたくさんのごことに感謝をささげていました。

ベンソン大管長は、人生、家族、福音、信仰、太陽の光と雨、豊かな自然、自由を愛するという人の天性について主に感謝しました。友人と同僚について主に感謝しました。救い主への愛と主の贖いの犠牲への感謝を示しました。人々に仕える機会について主に感謝しました。」<sup>5</sup>

ベンソン大管長とその妻フローラは、家族の誰もが、個人でも一緒にでも祈る家庭を築いた。息子のマークはこう述べている。「父がひざまずいて祈るとき、急いで終わらせようとはしませんでした。父の言葉の奥には意味がありました。父が天の御父と交わっていたことは明らかでした。」<sup>6</sup> ベンソン大管長と姉妹は、個人的な導きと強さを求めて祈るように、また互いのために祈るように子供に教えた。かつてベンソン家族とともに総大会の部会に出席した友人は、その教えの影響力を目の当たりにした。彼女はこう書いている。

「4月のある日……、わたしは中央幹部の力の源を知ることになりました。

わたしはエズラ・タフト・ベンソン長老の6人の子供たちと一緒に大会の席に着いていました。そのうちの一人が大学のルームメイトでした。マッケイ大管長が立ち上がって次の話者を発表したとき、わたしの関心は極度に高まりました。まだ一度も会ったことはありませんでしたが、マイクに向かって歩いて行くベンソン長老を尊敬のまなざしで見守りました。ベンソン長老は大きな人で、背丈は優に180センチを超えていました。……アメリカ合衆国の農務長官として世界的に知られていて、しかも主の特別な証人で、穏やかで自信に満ちた人、世界中の聴衆に語りかけてきた人です。すると突然、誰かの手がわたしの腕に触れました。小さな女の子がわたしの方に身を寄せて、緊迫した様子でささやいたのです。『お父さんのために祈って。』

一瞬驚いたわたしは思いました。『この伝言は、同じ列の人から伝わってきたんだわ。それでわたしも次の人に伝えるのよね。「ベンソン長老のために祈って」と言えばいいかしら。それとも「お父さんのために祈るのよ」とでも言

えばいい?』すぐに伝えなければいけないと思ったわたしは、次の人に身を寄せて『お父さんのために祈って』とだけ小声で言いました。

その伝言が列を伝わってベンソン姉妹の席まで行くのが見えたのですが、ベンソン姉妹はすでに頭を垂れていました。……

月日がたち、総大会が何回も開かれました。そしてベンソン大管長が立って話をする度に、こう思ってきました。『このアメリカ大陸のどこかに住んでいるベンソン大管長の子供たちは、今この瞬間に父親のために心を一つにして祈っているのだ』と。』<sup>7</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え



### イエス・キリストは、常に祈るべきであると教えられた

イエスはこの地上で教導の業に携わっておられたとき、次のように語って祈りの方式を示されました。

「だから、あなたがたはこう祈りなさい、天にいますわれらの父よ、御名<sup>みな</sup>があがめられますように。

御国<sup>みくに</sup>がきますように。みこころが天に行われるとおおり、地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。

わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください。

わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。」(マタイ 6:9 - 13)

さらに、「失望せずに常に祈る」ように教えられました(ルカ 18:1)。

主は言われました。「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。」(マタイ 26:41)

主はまたこの神権時代に次のように勧告しておられます。「あの邪悪な者があなたがたの中で力を持ち、あなたがたの場所からあなたがたを退けることのないように、常に祈りなさい。」(教義と聖約 93:49)

救い主はジョセフ・スミスを通して次のように宣言されました。「すべてのことの中に神の手を認めない者と、神の戒めに従わない者のほかに、人はどのようなことについても神を怒らせることはない、すなわち、ほかのどのような人に向かっても神の激しい怒りは燃えない。」(教義と聖約 59:21)

よみがえられた主は、西半球のニーファイ人の間で教え導かれたとき、次のように勧告しておられます。「あなたがたは悪魔に誘惑されないように、また悪魔に捕らえられないように、常に目を覚ましていて祈らなくてはならない。……

あなたがたは誘惑に陥らないように、常に目を覚ましていて祈らなければならない。サタンはあなたがたを小麦のようにふるいにかけることを願っているからである。

だからあなたがたは、わたしの名によって常に父に祈らなければならない。

与えられると信じて、わたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、見よ、何でもあなたがたに与えられる。」(3 ニーファイ 18:15, 18 - 20)<sup>8</sup>

これまで以上に<sup>きよ</sup>聖くなり、もっと神に愛されたいと願うなら、祈りに勝る方法はありません。したがって、日々の祈りであれ、ひそかな祈りであれ、生活の中で祈りを最優先にしてください。一日として祈らずに過ごす日がないようにしてください。全能者との交わりは、洋の東西を問わず、あらゆる時代において、個人や国家の行く末を良い方向に導いた人々の力と靈感と啓発の源でした。<sup>9</sup>

## 2

### 一緒に祈る家族は、祝福として愛のきずなが強められ、 天からの平安を授けられる

子供に祈ることを教えるのは親の責任であると主は教えられました〔教義と聖約 68:28 参照〕。これは、ひそかな祈りだけを意味するものではありません。家族の祈りを通して模範によって教えるという意味であると、わたしは確信しています。わたしたちは、家庭における祈り、すなわち家族の祈りからもたらされる神聖な影響力を必要としています。<sup>10</sup>

わたしたちは夜と朝に家族でひざまずいて、家族の祈りをする必要があります。食事の祝福に少しの言葉を付け加えることは、ある程度習慣になっていますが、それでは十分ではありません。ひざまずいて祈り、感謝を述べる必要があります。<sup>11</sup>

祈りは、過去も現在も、強さを得るために常に存在する<sup>いかり</sup>錨であり、家族の活動の在り方を決めるよりどころです。わたしは幼い子供たちのベッドの傍らでひざまずいたこと、まだ年若い彼らの祈りを助けたこと、その後、兄や姉が弟や妹を助けているのを目にしたことを思い出します。子供たちに祈りをリードする機会を与えて、夜と朝に家族の祈りを行い、また個別の問題に取り組むために特別な祈りをしました。例えば、家族の祈りの中で、〔教会から〕割り当てを受けた子供のことを祈りの言葉に加えました。……子供の一人が高校で難しい試験を受けようとしているときに神に助けを願いました。家族から一時的に



「わたしたちは……家族としての祈りからもたらされる神聖な影響力を必要としています。」

離れて生活している子供たちのために特別な願いを祈りの言葉に加えました。……このように助けが必要な事柄を家族の祈りの中に特に加えることにより、難しい問題や責任に直面している家族に自信と確信と強さをもたらししました。<sup>12</sup>

家族がそろって天の御座に近づくと、その日の争いやいらだちは消えてなくなります。家族の和が深まり、愛と思いやりのきずなが再び強められ、天の平安がもたらされます。

そのような家庭では、家族によってひそかな祈りが夜と朝にささげられます。天の助けを祈り求めると、その後、個人や家族の問題に自信を持って取り組むことができます。そのような家族の祈りに加わっている若い人たちは、夕べの娯楽のために家を離れるとき、どのような悪をも行う望みを持つことはないでしょう。彼ら〔若い人たち〕は、うわべを飾った誘惑を受けるとき、仲間の中で抑止力を発揮するようになります。毎日の祈りの清らかな影響力で子供を包み込む親は、……家庭を守ることに貢献しているのです。<sup>13</sup>

## 3

## わたしたちは天の御父との交わりを改善することができる

ここで、天の御父との交わりを改善するための方法を5つ提案します。

1. **しばしば祈る。**聖文に「朝も昼も晩も」(アルマ 34:21)とあるように、毎日少なくとも2, 3回は天の御父と交わる一人だけの時間を持つべきです。さらに、わたしたちは常に祈るように求められています(2ニーファイ 32:9; 教義と聖約 88:126 参照)。これは、絶えず天の御父に対して、心を満たし、一心不乱に祈ることを意味しています(アルマ 34:27 参照)。

2. **黙想し祈ることのできるふさわしい場所を見つける。**わたしたちは、「自分の部屋でも、人目に触れない場所でも、荒野でも」祈るように勧告されます(アルマ 34:26)。これは、気を散らすものから離れてひそかに祈るべきであるということです(3ニーファイ 13:5-6 参照)。

3. **祈るために自らを備える。**祈る気持ちにならないときは、祈りたくなるまで祈るべきです。<sup>けんそん</sup>謙遜になる必要があります(教義と聖約 112:10 参照)。<sup>ゆる</sup>赦しと<sup>あわ</sup>憐れみを求め(アルマ 34:17-18 参照)、快く思っていない相手を赦さなければなりません(マルコ 11:25 参照)。しかし聖文は、「乏しい人や着る物のない人を追い払ったり、病気の人や苦しんでいる人を見舞わなかったり、自分には持ち物がありながら、それを必要としている人々に分け与えなかったりするならば」、わたしたちの祈りはむなしいものになると警告しています(アルマ 34:28)。

4. **祈りは明確な目的を持ち、現実に即したものでなければならない。**祈りの度に同じ言葉を繰り返すべきではありません。もし友人が毎日同じ言葉を語り、自分との会話を面倒な仕事とみなし、話し終えたとたん待ち切れなようにテレビをつけ、わたしたちのことを忘れてしまったら、誰でも感情を害するのではないのでしょうか。

わたしたちは何のために祈るべきでしょうか。自分の仕事について、敵対するものや悪魔の力を防ぐことができるように、また自分と周りの人の幸福のために祈るべきです。わたしたちは、自分の行うすべての働きと決定について主と相談するべきです(アルマ 37:36-37 参照)。また、わたしたちが持っているすべてのものについて感謝の気持ちで心を満たし、すべてのことの中に神の手があることを告白するべきです(教義と聖約 59:21 参照)。感謝しないことは、大きな罪の一つなのです。

主は現代の啓示の中で、次のように述べておられます。「すべてのことを感謝して受け入れる者は、栄光を与えられるであろう。また、この世のものも百倍、いやそれ以上、加えられるであろう。」(教義と聖約 78:19)

わたしたちは自分に必要なものを願い求めるべきであり、自分にとって害となるものを求めないように注意しなければなりません（ヤコブの手紙4：3参照）。問題を克服できるように強さを求めるべきです（アルマ31：31－33参照）。また、大管長、中央幹部、ステーク会長、ビショップ、定員会会長、ホームティーチャー、家族の一人一人、社会の指導者が靈感を受け、彼らが幸福であるように祈るべきです。この他にも提案できることはありますが、わたしたちは聖霊の助けによって、何を祈ればよいかを知ることができます（ローマ8：26－27参照）。

5. 祈りを通して願い求めた後は、その願いがかなえられるように努力する責任がある。わたしたちは耳を傾けるべきです。恐らくわたしたちがひざまずいている間に、主はわたしたちに助言を与えたいと望んでおられることでしょう。<sup>14</sup>

---

#### 4

---

### 神はわたしたちを心に留めて、わたしたちが神を信頼して 正しいことを行うときに祈りに応えようと準備しておられる

祈りには力があります。すべてのことは祈りを通して可能となります。祈りを通して、この神権時代に天が開かれました。聖なる森で、14歳の少年の祈りが新たな福音の神権時代を開き、御父と御子の示現が開かれ、少年ジョセフの前に栄光を持つ天の御方としておいでになったのです〔ジョセフ・スミス—歴史1：11－17参照〕。<sup>15</sup>

兄弟姉妹並びに友人の皆さん、これがわたしの証です。すなわち、神は祈りを聞き、応えてくださいます。この事実を疑ったことは一度たりともありません。子供のときから、初めて祈ることを学んだのは母の膝の上でのことでした。それ以来10代の若い男性として、異国の地で宣教師として、父親として、教会の指導者として、または政府の閣僚として、わたしが疑いもなく知っていることがあります。それは、人は男女を問わず、手を伸べてへりくだって祈ることにより、その目に見えない力を引き出すことができる、すなわち、祈りが応えられるということです。人は一人ではありません。少なくとも、一人でいる必要はありません。祈りは扉を開きます。祈りは障害を取り除きます。祈りはプレッシャーを和らげ、緊張やストレス、あるいは困難に直面するときに内なる平安と慰めを与えてくれます。祈りがあることを神に感謝してください。<sup>16</sup>

試練や不安のさなかでも、主に近づき、主の影響力と支えを感じることができます。全能者の前に自らへりくだるなら、わたしたちは一人ではないからです。わたしは、その証と確信に感謝しています。<sup>17</sup>

わたしは個人的な経験から、祈りの効果とその力を知っています。……

1946年、わたしはジョージ・アルバート・スミス大管長から戦争で荒廃したヨーロッパへ行く割り当てを受けました。わたしの任務は、ノルウェーから南アフリカに至る各地の伝道部を再開し、福祉物資の配給プログラムを開始することでした。

わたしたちはロンドンに本部を設置し、それからヨーロッパ大陸に駐留している軍隊と予備協定を結びました。わたしが一番先に面会を望んだのは、ヨーロッパ駐屯軍の米軍司令官でした。彼はドイツのフランクフルトに駐在していました。

フランクフルトに到着すると、同僚とわたしは司令官との面会の約束を取ろうとして司令部を訪れました。ところが、受付の士官の返事はこうでした。「司令官にはあと少なくとも3日はお会いになれません。司令官は多忙を極め、スケジュールは面会の約束でいっぱいですから。」

わたしは、「大切な要件でお会いしたいのです。明日はベルリンで約束があるのでそんなに待てません」と話しました。

しかし、「申し訳ありません」という返事でした。

わたしたちは建物を出て外の車に戻りました。そして帽子を脱ぎ、二人で一緒に祈りをささげました。それから再び建物の中に戻って行くと、今度は別の士官が受付の任務に就いていました。そして15分もしないうちにわたしたちは司令官に面会することができました。救援物資は誰が寄贈したものであっても、軍に配給を委ねなければならないことを知っていたので、司令官に会ってその心を動かすことができるように祈ったのです。わたしたちの目的は、自分たちの手で集めた物質を自らの手で自らの民に配給すること、そしてすべての子供たちに食物を提供する計画であることを司令官に説明しました。

福祉プログラムとその運営方法について説明しました。すると司令官はこう言いました。「いいでしょう。どうぞあなたがたの物資を集めてください。救済物資が集まるまでには、方針が変わっているかもしれませんが。」そこでわたしたちは言いました。「司令官、救済物資はすでに集まっています。集荷は常時行われています。ソルトレーク・シティーの大管長会に電報を打てば、24時間以内に物資を積んだ貨車がドイツに向けて出発することでしょう。わたしたちには日用品をいっぱい貯えた倉庫がたくさんあるのです。」

そう話すと、司令官は、「そのようなビジョンを持った人々がいるとは聞いたことがない」と言いました。司令官は、わたしたちの祈りのとおりに心を動かされたのです。わたしたちは、自分たちの手で自分たちの民に配給してもよいという許可証を得て、司令部を後にしました。



エズラ・タフト・ベンソン長老とその同僚たちは、第二次世界大戦後のヨーロッパの救援活動を指揮するに当たり、祈って導きを求めた。

神はわたしたちのことを心にかけておられ、わたしたちが神を信頼して正しいことを行うなら応えてくださるということを知っているのは、何と心が満たされることでしょう。全能の神を信頼し、へりくだって祈ることによって神の導きを求めることをいとわない人には、何の恐れもありません。たとえ迫害が起こり、災難が来ようとも、わたしたちは祈ることによって安心を得ることができます。神が心に平安を与えてくださるからです。その平安、つまりその平静な心は、人生における最高の祝福なのです。

わたしがまだアロン神権者であったころ、祈りに関する次の短い詩を教わりました。それは今でもわたしの心に残っています。

いかなる方法で応えられるのか、わたしは知らない  
ただ、分かること、それは神が祈りに応えたもうこと  
神は約束を賜った  
祈りは必ず聞き届けられると  
遅かれ早かれ応えられると  
だからわたしは祈り、静かに待つ  
祝福が求めるままにもたらされるのか  
わたしには分からない

だが祈りの答えは神にのみ委ねよう  
 神の思いはわたしの思いよりもはるかに優れている  
 神は必ずわたしの求めに応えて  
 はるかに祝福された答えを賜わるだろう

……愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしは神が生きておられることを証します。神は死んではおられません。……祈りを聞いて応えてくださる神が天におられることを証します。わたしはこれが真実であることを知っています。わたしはへりくだってすべての人に、……祈りを通して天の御父と親しく交わるように勧めます。この福音の神権時代ほど祈りが必要な時代はありません。絶えず天の御父に頼り、天の御父との交わりの改善に心から努めることができるように切に願っています。<sup>18</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ベンソン大管長は、個人の祈りをしないで「過ごす日がないようにしてください」と述べています（第1項）。あなたは個人の祈りをするによってどのような祝福を受けてきたでしょうか。
- 第2項で、ベンソン大管長は、一緒に定期的に祈る家族に与えられる幾つかの祝福について述べています。あなたが家族の祈りによってこれらの祝福を受けたのは、いつでしょうか。家族の祈りを優先するために何ができるでしょうか。
- 第3項のベンソン大管長の5つの提案について考えてみてください。「天の御父との交わりを改善する」ために、これらの提案はどのような助けになるでしょうか。この勧告に従うためにあなたは何をすることを考えてください。
- 第4項のベンソン大管長の言葉は、祈りの力に疑問を持つ人にとってどのような助けとなるでしょうか。あなたはベンソン大管長の証にどのよう<sup>あかし</sup>な証の言葉を付け加えることができるでしょうか。

### 関連聖句

ヤコブの手紙 1:5 - 6; エノス 1:1 - 8; 3 ニーフアイ 14:7 - 8; 教義と聖約 10:5; 19:38; 88:63

### 教える際のヒント

原則とは、決断や行動の指針となる真理のことである。「聖句を読むときに『この節では福音のどの原則が教えられているのだろうか、生活にどう応用したらいいのだろうか』と自問する。」（『教師、その大いなる召し』16）

注

1. 「祈り」『聖徒の道』1977年10月号, 460 参照
2. *Cross Fire: The Eight Years with Eisenhower* (1962年), 31
3. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography* (1987年), 268
4. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 268 で引用
5. ゴードン・B・ヒンクレイ, "Farewell to a Prophet," *Ensign*, 1994年7月号, 40
6. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 140 で引用
7. エレイン・S・マッケイ「お父さんのために祈って」『聖徒の道』1988年11月号, 23-24 参照
8. 「常に祈りなさい」『聖徒の道』1990年6月号, 3-4 参照
9. Conference Report, 1966年4月, 131
10. Conference Report, 1947年10月, 24
11. Conference Report, 1950年10月, 147
12. "Family Joys," *New Era*, 1973年1月号, 4
13. Conference Report, 1949年4月, 197-198
14. 「常に祈りなさい」『聖徒の道』1990年6月号, 4 参照
15. Conference Report, 1956年10月, 108
16. Conference Report, 1956年10月, 104
17. Conference Report, 1953年4月, 39
18. 「祈り」462 参照。詩はエライザ・M・ヒコック作「祈り」, *Best Loved Religious Poems*, ジェームズ・ジルクライスト・ローソン編(1933年), 160 から引用



## 選ぶ自由，永遠の原則

「救いにかかわる重要な決断を下すことができるように、わたしたち全員に選択の自由が与えられました。その決断は永遠におけるわたしたちの幸福に影響を及ぼします。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

エズラ・タフト・ベンソンは、農場に住んで働いた経験から、良い決断がもたらす結果について学んだ。彼は過去を振り返ってこう語っている。「わたしは成長する過程で、働く意欲と能力が農業経営を成功させる基本要素であると信じるようになりました。一生懸命に、知恵を使って働くことが鍵です。その鍵を使ってください。そうすれば、成功する機会に恵まれます。」<sup>1</sup> 若いときに、エズラは、菜園の手入れをよくすれば自分と家族が食べるものをもっとたくさん収穫できることを学んだ。また、家族の酪農の仕事が成功するように願うなら、牛の乳搾りをするために毎日早起きする決意をしなければならぬことも学んだ。<sup>2</sup> 彼が一生懸命に働く選択をしたとき、地元の農夫たちから、サトウダイコンを間引く仕事や干し草をトラックに積み込む作業に雇われるという経験をした。<sup>3</sup> 彼は忠実な者にも試練が訪れることを知った。しかし、個人も家族も、幸せになり成功を収められるような方法で試練に対処する決意ができることも、エズラは知ったのである。<sup>4</sup>

エズラ・タフト・ベンソン少年にとって、良い決断がもたらす結果の中には、牛乳を満したバケツの数や、干し草を積んだトラックの数、一日の重労働に対する十分な報酬という形で評価できるものがあった。評価するのがもっと難しい、しかしもっと長期にわたって続くものもあった。例えば、両親を観察したとき、彼は、家族が互いと主に誠実であるという選択をする場合に得られる喜びと平安と強さを目にするのができた。<sup>5</sup> また、「人は自分のまいたものを、刈り取ることになる」という刈り入れの律法は、肉体的な労働だけでなく、霊的な探求にも当てはまるということを、学んだのであった（ガラテヤ 6：7）。

この経験を基にして、エズラ・タフト・ベンソン大管長はしばしば、選択の自由、すなわち「自分が歩む道を選ぶ」自由の大切さを思い起こすように、末日聖徒と他の人々に勧めた。<sup>6</sup> 選択の自由の原則に関する大管長の教えには、「善と悪のどちらかを選ぶ」ことを喚起する以上のことが含まれていた。<sup>7</sup> ベンソン大



前世のイエス・キリストは天の御父の救いの計画に従われた。  
その計画はわたしたちの選択の自由を守るものである。

管長は、選択の自由とは「救いにかかわる、また永遠におけるわたしたちの幸福に影響を及ぼす、重要な決断を下す」能力であると述べている。<sup>8</sup> そして、すべてのことを命じられるまで待つのではなく、選択の自由を使って「自ら行動する」ように末日聖徒と他の人々に促した。<sup>9</sup> 選択の自由の原則は「主の子供たちを祝福するために、金の糸のように主の福音の計画全体に織り込まれています」と、ベンソン大管長は述べている。<sup>10</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

**選択の自由、すなわち選ぶ自由は、神から与えられた永遠の原則である**

わたしは証します。わたしたちは愛に満ちた神、すなわち天の御父の霊の子供です（使徒 17：29；1 ニーファイ 17：36 参照）。御父は偉大な救いの計画を定めておられます。御父の子供たちは、その計画によって御父のように完全になり、御父と同じように満ちみちる喜びを味わえるようになります（1 ニーファイ 10：18；2 ニーファイ 2：25；アルマ 24：14；34：9；3 ニーファイ 12：48；28：10 参照）。

わたしは証します。霊におけるわたしたちの兄、すなわちイエス・キリストは、前世において予任され、御父の救いの計画における救い主となられました（モーサヤ 4：6－7；アルマ 34：9 参照）。イエス・キリストはわたしたちの救いの君であられ、イエス・キリストによってのみ、わたしたちは天の御父のもとに戻って満ちみちる喜びを得ることができるのです（ヘブル 2：10；モーサヤ 3：17；アルマ 38：9 参照）。

わたしは証します。ルシフェルも天上の会議にいました。ルシフェルは人の選択の自由を損なおうとして、謀反を起こしました（モーセ 4：3 参照）。天で戦いがあり、天の衆群の 3 分の 1 が地に投げ落とされ、肉体を受ける特権を失いました（黙示 12：7－9；教義と聖約 29：36－37 参照）。ルシフェルはあらゆる義の敵であって、全人類を惨めな状態にしようとしています（2 ニーファイ 2：18，27；モーサヤ 4：14 参照）。<sup>11</sup>

前世の会議における論点の中心は、「神の子供たちは、善であろうと悪であろうと自分が歩む道を選ぶ、拘束されることのない選択の自由を持つべきか、それとも、従順であるように強制され強要されるべきか」というものでした。キリストとキリストに従うすべての者は、最初の案、すなわち選択の自由を支持しました。サタンは後者、すなわち強制と強要を支持したのです。<sup>12</sup>

聖文は、天で大きな戦い、すなわち自由の原則、選択の権利に関する争いがあったことを明らかにしています（モーセ 4:1-4；教義と聖約 29:36-38；76:25-27；黙示 12:7-9 参照）。<sup>13</sup>

このことに関して天で始まった戦いはまだ終わっていません。その対立は死すべき世の戦場で続いているのです。<sup>14</sup>

選択の自由は神から与えられた永遠の原則です。自由の大いなる計画が福音の計画です。それに関して強制はありません。強要もなく、威嚇もありません。人は福音を受け入れることも拒むことも自由です。福音を受け入れた後でそれに従って生活するのを拒むこともできれば、福音を受け入れてそれに完全に従うこともできます。しかし、神は、福音に従って生活するようわたしたちに強いることは決してされません。神の僕たちを通して説き勧めの方法を用いられます。わたしたちに呼びかけ、わたしたちを導き、励まし、促し、そしてわたしたちが従うときに祝福を与えてくださいます。しかし、わたしたちの思いを強要することは決してされません（*Hymns*, 1985 年, 240 番参照）。<sup>15</sup>

---

## 2

---

現世は試しの時であり、わたしたちは善でも悪でも自由に選ぶことができる

アブラハムは、地上に来る前の天の御父の霊の子供たちを示されました。また、地球の創造も示されました。そして、主は彼にこう言われました。「そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」（アブラハム 3:25）その神聖な言葉の中に、選択の権利も明らかにされています。<sup>16</sup>

現世は試しの期間です。皆さんやわたしが自分の気概を証明する期間、わたしたち一人一人に対する永遠の結果が伴う試しの期間です。そして、すべての世代がそうであるように、今はわたしたちが自分の義務を学び、義務を果たす時なのです。<sup>17</sup>

主が悪事を不快に思われるということは真実です。悪事が行われなことを主が望んでおられることも真実です。悪事に立ち向かう人々を主が助けられるということも真実です。しかし、この死すべき世で主の子供たちの間に悪事があるのを主が許しておられるということは、主が人々に選ぶ自由を与えておられる証拠ですが、主は人の選択に基づいて最後の裁きを行われます。<sup>18</sup>

〔イエス・キリスト〕が取り除くことがおできにならない悪は何一つありません。すべてのことは主の手の中にあります。主はこの地球に対する正当な支配権をお持ちです。しかし、わたしたちが善でも悪でも選べるように、主は悪を許しておられます。<sup>19</sup>

人生は人の永遠の存在の中の試しの時であり、その間に、善か悪を選ぶ権利が与えられます。……その選びは、この世だけでなく、もっと重要なことですが、来るべき世でも大いなる結果をもたらします。サタンには越えることのできない境界線があります。その境界線の内側で、サタンは現在、神の義にかなった原則に代わる不義な選択肢を提示することが許されています。そのため、人々は善か悪を選び、それによって次の世で住む場所を決めることになるのです。<sup>20</sup>

### 3

#### わたしたちは選択の自由を使って、 現在と永遠にわたる幸福をもたらす決断を下すことができる

神は皆さんを愛しておられます。御自分の子供一人一人を皆愛しておられるのです。そして、神の前で永遠の喜びを得るのにふさわしいことを皆さん自身に証明させて、清く、汚れない状態で皆さんを御前に立ち返らせることが、神の望みであり、目的であり、栄光なのです。

天の御父は皆さんを心に留めておられます。皆さんを導き、訓練するために、戒めを与えてられました。また、「何であろうと、……神が命じられるすべてのことを〔皆さんが〕なすかどうかを見るために（アブラハム 3：25）、皆さんに選択の自由、すなわち選ぶ自由を与えられました。この地上における神の王国はとてもよく組織されており、指導者たちは、皆さんを助けるために献身的に務めを果たしています。わたしたちがいつも皆さんを愛し、心にかけて、祈っていることを知っていただきたいと思います。

サタンもまた皆さんを心に留め、懸命に皆さんを滅ぼそうとしています。サタンは、戒めを与えて皆さんを鍛えるようなことはしません。その代わりに、「自分勝手なことをする」自由を与えます。……「今遊んで、後で支払う」というのがサタンの計画です。サタンは、すべての人が自分のように惨めになることを求めています〔2 ニーフай 2：27 参照〕。主の計画は、福音に従って生活することによって、今幸福を得て、永遠の世で喜びを味わうことなのです。<sup>21</sup>

わたしたちには選ぶ自由がありますが、その選びの結果を変える自由はありません。<sup>22</sup>

あらゆる善い行いに対してすぐに十分な報いを、あるいはあらゆる罪に対してすぐに罰を受けるとしたら、信仰の試しがほとんどないことは明らかです。しかし、それぞれに対して最終的な報いがあることは疑いの余地がありません。<sup>23</sup>

人は罪を犯して一時的な快樂を得るかもしれませんが、結局は不幸に終わります。「悪事は決して幸福を生じたことがない」のです（アルマ 41：10）。罪は神との不協和を生み出し、霊を弱めます。したがって、人は神のすべての律

法に従っているかどうか自らをよく吟味しなければなりません。わたしたちが守るあらゆる律法には、それ相応の祝福が伴います。しかし律法を守らなければ、それ相応の挫折を招くことになります。落胆という重荷を背負っている人は、主のもとに来てください。主のくびきは負いやすく、その荷は軽いからです（マタイ 11:28 - 30 参照）。<sup>24</sup>

人生で行う最大の事柄は、決断を下すことです。人に与えられた神の最も大いなる賜物たまものの一つは……選択の権利ですが、神はその選択に対する責任も人に与えられました。……わたしたちが成功するか失敗するかは自分の生き方にかかっています。わたしたちは自分の最終的な目標を選ぶことができるだけでなく、多くの場合、それらの目標に到達する手段も自分で決めることができます。また勤勉さの有無によって目標に到達できる速さをも決めることができます。これには個人の努力とエネルギーが必要であり、反対や衝突に遭わないわけではありません。<sup>25</sup>

人とすべての文明の行く末は、人が……選択の自由を使って、危険に直面したときに自分を制するか、それとも永遠の律法を無視するかにかかっています。どちらにしても結果を刈り取るのです。したがって、こんにち今日の本当の問題は、経済の問題や政治の問題ではありません。霊的な問題です。すなわち、人は神が人類に授けられた律法に従うことを学ばなければならないということなのです。<sup>26</sup>

救いにかかわる重要な決断を下すことができるように、わたしたち全員に選択の自由が与えられました。その決断は永遠におけるわたしたちの幸福に影響を及ぼします。<sup>27</sup>

わたしたちを現在のわたしたちにしたのは、自分の決断です。わたしたちの永遠の行く末は、これから下す決断にかかっています。<sup>28</sup>

---

#### 4

---

### 非常に重要なことを決断するときは、よく祈って努力する必要がある

わたしたちは適切な、キリストのような決断を下さなければならないとすれば、何よりもまず、その目に見えない力に手を伸べて、それをを用いることができるような生活をしなければなりません。その力がなければ、人はだれも最善の決断を下すことができません。

この時代における最も偉大な決断の一つは、少年ジョセフ・スミスがヤコブの手紙に記されている次の訓戒に従おうとしたときの決断です。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるである

う。ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。」(ヤコブの手紙1:5-6)

時満ちる神権時代の何百万もの男女の救いはまさに、その決断にかかっているのです。個人が非常に重要であり、個人が下す決断がほかの人々の人生に大きな影響を及ぼすということを、わたしたちは心に留めておかなければなりません。<sup>29</sup>

主はこう言われました。「たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。」(3 ニーファイ14:7; マタイ7:7) 言い換えれば、わたしたちの側の努力が必要であるということです。<sup>30</sup>

賢明な決断は通常、取り組み、苦闘し、よく祈って努力した後の下せるものです。オリバー・カウドリの不十分な努力に対して主が述べられた言葉に、このことが明らかにされています。「しかし見よ、わたしはあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならない。もしそれが正しいければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」(教義と聖約9:8)

したがって、まず次のことを述べておきましょう。天の御父は祈りにこたえてくださるという信仰をもって御父に熱心に求めることは、物事を開始する際に慰めをもたらす基本です。……主は涸れた井戸から水をくみ上げることはされません。そこで、わたしたちは自分のなすべきことを行わなければならない。時として、正しい決断を下そうとするときに、非常に大きなエネルギーと研究と忍耐が必要です。<sup>31</sup>

非常に重要なことを決断するとき、断食をして祈ることによって霊的な理解を豊かに得ることができます。<sup>32</sup>

## 5

わたしたちは自ら選択し行動する者であり、

主は善いことを自由意志によって行うようわたしたちに期待しておられる

1831年に、主は御自分の教会に対して次のように言われました。

「見よ、わたしがすべてのことを命じるのは適切ではない。すべてのことを強いられて行う者は怠惰であって、賢い僕ではない。したがって、彼は報いを受けない。

まことに、わたしは言う。人は熱心に善いことに携わり、多くのことをその自由意志によって行い、義にかなう多くのことを成し遂げなければならない。

人は自らの内に力があり、それによって自ら選択し行動する者だからである。そして、人は善を行うならば、決してその報いを失うことはない。



主はわたしたちが自分の選択の自由を用いて「熱心に善いことに携わ〔る〕」  
ことを望んでおられる（教義と聖約 58：27）

しかし、命じられるまで何事も行わず、疑いの心をもって戒めを受け入れ、それを不承不承守る者は、罰の定めを受ける。」（教義と聖約 58：26 - 29）

主の目的、すなわちその偉大な目的は変わりません。それは主の子供たちの救いと昇栄です。

通常、主は、達成すべき全般的な目的と従うべき幾つかの指針を示されます。しかし、その詳細と方法のほとんどについては、わたしたちが自分で努力して見いだすように期待しておられます。その方法と手順は、普通、研究と祈りによって、また御霊の促しを受けてそれに従うことができるような生活をするによって、明らかにされます。モーセの時代の人々のように、あまり霊的に成長していない人々は、多くの事柄を命じられなければなりませんでした。しかし今日、霊的に敏感な人々は、目的についてよく考え、主と主の預言者たちから示された指針を検討し、その後、『すべてのこと』を命じられることなく、よく祈って行動します。この態度こそ、人が神のような者となるための備えなのです。……

時として、主は、子供たちが自ら行動を起こすのを期待してお待ちになります。そして、行動を起こさない場合、人は大きな報いを失うことになります。すると主は、すべてのことを取り下げて、人がその結果を受けるに任せられるか、あるいはもっと詳細にそれについて説明されます。通常、わたしが恐れるのは、

主が詳細に説明されればされるほど、わたしたちの受ける報いはその分だけ小さくなるということです。<sup>33</sup>

わたしたちは善いことに「熱心に携わり」、自分が住んでいる世界をもっと良い場所にするようにしなければなりません。<sup>34</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- 「天で始まった戦いはまだ終わっていません」という言葉を、あなたはどのようなことから理解しましたか（第1項参照）。選択の自由の原則を擁護し続けるために、わたしたちは何ができるでしょうか。
- 世の中に悪があることを神がどうして許しておられるのかと、しばしば人は思います。その質問に答えるのに、第2項のベンソン大管長の教えはどのように助けとなるでしょうか。
- 子供と青少年が第3項の真理を理解するように助けるために、わたしたちは何ができるでしょうか。子供と青少年が自分の下す決断の影響を理解するように助けるために、わたしたちは何ができるでしょうか。
- 「適切な、キリストのような決断」を下すことに関するベンソン大管長の勧告について考えてみてください（第4項）。決断を下す際に祈り、熱心に努力することについて、あなたは何を学んできましたか。
- 「熱心に善いことに携わり」とは、あなたにとってどのような意味があるでしょうか。命じられるまで待つのではなく、善いことを「自由意志によって行」うときに、あなたの人生はどのように変わるでしょうか（第5項参照）。

### 関連聖句

申命 11：26 - 28；ヨシュア 24：15；2 ニーファイ 2：14 - 16；アルマ 42：2 - 4；ヒラマン 14：30 - 31；教義と聖約 29：39 - 45；101：78

### 教える際のヒント

小さなグループでの話し合いは「レッスンに参加する機会を多くの人に与える……。通常参加をためらう生徒も、すべてのグループを前にして発表するのと異なり小さなグループでは意見を述べることもあるかもしれない。」（『教師、その大いなる召し』161）

注

1. ジーン・オールレッド・セッションズ, *Latter-day Patriots* (1975年), 77 - 78 で引用
2. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography* (1987年), 18 - 19, 34 参照
3. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 40 - 41 参照
4. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 19 - 20 参照
5. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 17, 22, 25 - 26, 29 - 31, 34 - 37 参照
6. "The Constitution — A Glorious Standard," *Ensign*, 1987年9月号, 6
7. *God, Family, Country: Our Three Great Loyalties* (1975年), 402
8. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 24
9. Conference Report, 1965年4月, 122 参照
10. Conference Report, 1966年10月, 121
11. 「証」『聖徒の道』1989年2月号, 90 参照
12. "The Constitution — A Glorious Standard," 6
13. Conference Report, 1966年10月, 121
14. "The Constitution — A Glorious Standard," 6
15. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 82
16. *So Shall Ye Reap* (1960年), 221
17. Conference Report, 1967年4月, 59
18. *Strength for the Battle: An Address Given by Ezra Taft Benson at the New England Rally for God, Family and Country* (1966年), 14 - 15
19. *Come unto Christ* (1983年), 132
20. *God, Family, Country*, 402
21. 「若者におくる言葉」『聖徒の道』1978年2月号, 44 - 45 参照
22. *Come unto Christ*, 40
23. *God, Family, Country*, 326
24. 「落胆してはならない」『聖徒の道』1987年3月号, 2
25. *God, Family, Country*, 145
26. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 83 - 84
27. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 24
28. *God, Family, Country*, 143
29. *God, Family, Country*, 144
30. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 451
31. *God, Family, Country*, 149
32. *God, Family, Country*, 152
33. Conference Report, 1965年4月, 121 - 122
34. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 676 - 677



## 苦難の時代に喜びをもって生活する

「わたしたちに対する神の御心<sup>みこころ</sup>を率直に、愛をもって、喜んで受け入れることによって、またその御心を、あらゆる方法で、規模の大小に関係なくすべて行うことによって、わたしたちはこの世で、今、幸せになることができます。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

エズラ・タフト・ベンソン大管長が使徒として受けた初期の割り当ての一つは、第二次世界大戦後のヨーロッパで聖徒たちの苦しみを取り除く助けをすることであった。ドイツを旅していたとき、ベンソン長老は、周囲のあらゆる惨状を克服することのできた忠実な人々に会った。彼は日記に次のように記している。

「今日わたしが目にした破壊の状態は、かつて目撃した中で最悪のものだった。……〔ベルリンの〕通りを車で走り、車で通行できない幾つかの路地を歩いたが、……法外な代金を払ってジャガイモの皮を必死に買い求める半飢餓<sup>はんき</sup>状態の女性たちを見た。……年老いた男女が燃料にする廃物を手に入れるために小さな手おのを使って懸命に木の切り株や根を掘り起こし、それを古い乳母車を改造した小さな二輪車や小型のワゴンなど、車輪が付いている物であれば何でもそれに乗せて、重い荷物を引く牛馬のように何マイルも離れた家まで引っ張って行く姿が見られた。

その後、爆撃を受けた通りから外れた場所にある、半壊状態で冷え込んだ公会堂の3階で開かれた大会で、480人の寒さに震える半飢餓状態の忠実な聖徒たちに会った。それは信仰の光を目にする感動的な機会であった。……そこには恨みや怒りはなく、福音を信じる者として優しく交わり、言葉を掛け合う姿があった。」<sup>1</sup>

「わたしたちが会った幾人かの会員は、飢餓の最終状態を向かえていたにもかかわらず、だれ一人として自分の置かれている状況に不平を漏らさなかった。

……聖徒たちは……希望と勇気と信仰に満ちており、どこにいても、明るく将来を見据えて、福音に、また教会の会員であることに非常に深い信仰を表し



エズラ・タフト・ベンソン大管長は喜びに満ちた生活の模範を示した。

ている。これは、まさに男女の生活の中に福音がもたらす真の成果を目にした最も偉大な実例の一つであった。」<sup>2</sup>

ベンソン大管長はまた、身近なところでも希望と楽観主義の模範を<sup>ま</sup>目の当たりにした。農場主仲間の多くが、厳しい苦難に直面したときでさえ明るさを失わなかったのである。彼はこう述べている。

「アイダホ州バンクロフトの近くで、ある会に出席したときのことです。……すばらしい会でした。その会が終わってから、わたしは出席していた立派な農場主たちの何人かとあいさつを交わしました。その中にヨースト兄弟という人がいました。『ヨースト兄弟、農場はいかがですか。』すると、ヨースト兄弟はこう答えました。『はい、上々ですよ、ベンソン兄弟。でも、3日間で2万ドルほどの損害を出しました。』わたしが、『どうしたのですか。また霜が降りたのですか』と聞くと、彼はこう答えました。『ええ、小麦がちょうど生育段階に入ったときに霜にやられたんですよ。どういうことかお分かりでしょう。朝から早速草刈り機の出動です。しかし大丈夫です。まだ倉庫に小麦が少しありますし、1年分とは言えないまでも蓄えがあります。飢えることはありませんよ。ほかの作物もありますから。』彼と別れてから、わたしは妻に言いました。『何とすばらしい精神の持ち主なんだろうね。』

その後〔バンクロフトからおよそ130キロ離れたユタ州の町〕ローガンに車で出かけました。子供たちも一緒でした。店で子供たちのお菓子を買うため、メインストリートに車を止めました。すると、何と、歩道を歩いているヨースト兄弟に出会ったのです。『やあ、またどうしてこちらに?』と聞くと、『ベンソン兄弟、今日は神殿に行く日なんです』という返事でした。わたしは、『そうですか。逆境に遭っても少しも霊性を欠いていないのですね』と言いました。すると、彼は一つの教訓をわたしに与えてくれました。『ベンソン兄弟、不幸に見舞われたときほど神殿が必要なですよ。』<sup>3</sup>

ベンソン大管長がほかの聖徒たちの模範によって強められたように、大管長自身の逆境に対する対応も、彼を知る人々を高めている。十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老は、ベンソン大管長のことを、「出来事を注意深く観察する人」とであると述べている。「わたしたちが注目するに値するある種の楽天的な性質と快活さを常に兼ね備えている方です。そのような楽天的な性質は、周りで起こる出来事を無視することからではなく、これらの出来事に注意を払いながら、さらにその先にある、最終的に王国がどのように勝利を収めるかということに関連した約束に目を向けることから来ているものです。」<sup>4</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

天の御父を信じる信仰があれば、わたしたちは、将来に対する希望と、現在の務めに楽観的に取り組む気持ちと、心の平安を持つことができます。

わたしたちは皆、失望と落胆を経験します。それが人生の一部なのです。しかし、信仰があれば、停滞はつかの間に過ぎず、失敗と思われる事柄から成功が生まれます。わたしたちが天の御父に深い信頼を寄せるなら、御父はわたしたち一人一人を通して奇跡を行うことができになります。<sup>5</sup>

争いと苦しみの中にあるとき、また悲しみや挫折を味わうときに、心の平安があり、確信があり、穏やかな心と内なる静けさがあることは、すばらしい祝福です。神がすべてを治めておられ、神の子供たちを心に留めておられること、そしてわたしたちが十分な確信をもって神に頼ることができることを知っている、心が満たされます。<sup>6</sup>

わたしたちは祈りによって、それも絶えず祈りをささげることによって、神と交わり、大きな慰めと助けを得ることができます。「勝利者となるために……常に祈りなさい。」(教義と聖約 10:5) 少年ジョセフ・スミスは、聖なる森で悪魔から滅ぼされないようにするためにどうしたかについて、次のように述べています。「わたしは……救い出してくださいと、あらん限りの力を尽くして神に呼び求めた。」(ジョセフ・スミス—歴史 1:16)<sup>7</sup>

天の御父を信じる信仰がなければ、わたしたちは成功を取めることができません。わたしたちは信仰により、将来起こる可能性のある事柄を見通す力、将来に対する希望、現在の務めに楽観的に取り組む気持ちが与えられます。信仰があれば、自分の働きが最終的には成功するというのを疑いません。<sup>8</sup>

すべての民の中であって、わたしたち末日聖徒は、最も楽観的であり、決して悲観的にならないようにしなければなりません。なぜなら、わたしたちは「平和が地から取り去られ、悪魔が自分の領域を支配する力を持つ」ということを知っていると同時に、「主も聖徒たちを支配する力を持ち、彼らの中で治め」られると確信しているからです(教義と聖約 1:35 - 36)。

これから先の困難な時代にあっても、教会を導いておられる神のおかげで、教会が完全な形で存続することは確かです。その場合、わたしたち一人一人がいつも教会とその教えに忠実でいるのは、わたしたち個人の責任となります。「確固として打ち負かされない者は救われる。」(ジョセフ・スミス—マタイ 1:11)<sup>9</sup>

## 2

日々幸せを得るようにしなければならないが、それは努力に値することである

実のところ、わたしたちは心配する必要がありません。福音に従って生活し、戒めを守ってください。家庭で朝晩祈りをささげてください。教会の標準を守ってください。努めて心静かに、明るく生活するようにしてください。……日々幸せを得るようにしなければなりません、それは努力に値することです。<sup>10</sup>

ジョージ・A・スミスが重い病気を患っていたとき、いとこの預言者ジョセフ・スミスが見舞いに訪れました。病気で苦しんでいたジョージ・A・スミスは、そのときのことを次のように述べています。「〔預言者〕ジョセフはわたしに、どのような困難に取り囲まれようとも、決して落胆してはいけないと言いました。ノバスコシアの炭鉱の底に沈められ、ロッキー山脈全体が頭上のにしかかかってきたとしても、落胆せずに踏ん張り、信仰を働かせ、勇気を持ち続けるならば、ついには山の頂に出ることができるのです。」……

悪魔の陰うつな霊があなたから離れ去るまで、しっかりと義にかなった生活が続け、悪魔に負けないようにしなければならない時があります。主は預言者ジョセフ・スミスに次のように言われました。「あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。」(教義と聖約 121:7-8)

絶望の雲に取り巻かれているときでさえも、気高い思いで常に努力して前進すれば、わたしたちはついにはその雲を越えて太陽の光の中に引き上げられます。わたしたちの主であるキリスト・イエスでさえも、十字架につけられたときに一時御父から独り取り残されて、最大の試練に直面されました。それでも人の子らのために御自分の業を果たし続け、その後間もなく、栄光を与えられ、満ちみちる喜びを受けられました。皆さんは試練に遭っているとき、過去に得た勝利を思い起こし、祝福を数え上げ、もし忠実であればさらに大きな勝利と祝福を得られるという確かな希望を持つことができます。また皆さんは、やがて神がすべての人の涙をぬぐってくださること、そして「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」ことを確かに知ることができるのです(1コリント2:9)。<sup>11</sup>

行うすべてのことを楽しんでください。喜びをもって生活してください。幸せに生活してください。神は暗闇や悲しみの中には生まれず、光と愛の中に住まれるということを理解して、積極的な思いをもって生活してください。<sup>12</sup>



「幸せに生活するとは、完全を目指して霊的な強さを増すことです。」

### 3

天の御父は、わたしたちが幸せであってほしいと思っておられ、  
わたしたちが御心みこころに従うときに祝福してくださる

「人が存在するのは喜びを得るためである。」(2 ニーファイ 2 : 25) 天の御父は、わたしたちが幸せであってほしいと思い、幸せであることを期待しておられます。しかし、標準を下げる場所に幸せはありません。自分が確信していること、すなわち正しいと知っていることに従って生活しなければ、幸せはありません。ある事柄を行うのに少し手を抜くことを習慣とするのは、とても簡単です。教会内のある事柄に関してあら探しをすることや批判すること、受け入れ難い気持ちを抱くことを習慣とするのは、とても簡単です。少し辛らつになり、その後、そのことをくどくどと語り、悲しくなり、悲しい顔になるのは、とても簡単です。悲しげな顔では、決して戦いに勝つことはできませんし、愛を勝ち得ることもできません。<sup>13</sup>

わたしたちに対する神の御心を率直に、愛をもって、喜んで受け入れることによって、またその御心を、あらゆる方法で、規模の大小に関係なくすべて行うこ

とによって、わたしたちはこの世で、今、幸せになることができます。わたしたちはそのことを理解しているでしょうか。完全な生活を送るとは、幸せに生活することです。幸せに生活するとは、完全を目指して霊的な強さを増すことです。神の御心に添ってなすあらゆる行為は、その成長の一部です。自分の人生を区分化しないようにしましょう。自分の人生を単一化し、神の承認が得られないはかない誉れと栄光を求めないようにしましょう。わたしたちの強さと幸せの真実の源は人間や状況の及ばないところにあるということ覚えておきましょう。<sup>14</sup>

わたしたちが何度も繰り返して学ばなければならないことがあります。それは、主から教えられたとおりに愛の福音を受け入れ、福音に従って生活することによってのみ、また主の御心を行うことによってのみ、わたしたちは自分を縛っている無知と疑いの縄目を断ち切ることができるということです。わたしたちは、御霊みたまのもたらす心地よい喜びを現在、また永遠に味わえるように、この簡潔な、栄えある真理を学ばなければなりません。自分のことを忘れて主の御心を行わなければなりません。生活の中で主を第一にしなければなりません。そうです。主の愛を隣人と分かち合うときに、祝福は何倍にも増えるのです。<sup>15</sup>

使徒パウロは次のように述べています。「兄弟たちよ。……ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、

目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。」(ピリピ 3:13-14)

主に似た者になるという目標を心に満たしてください。そうすれば、主を知り、主の御心を行いたいと心から求めるときに、沈んだ気持ちをぬぐい去ることができます。パウロは、「キリスト・イエスにあったがいでいただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互たがいに生かしなさい」と言っています(ピリピ 2:5)。イエスも、「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい」と述べておられます(教義と聖約 6:36)。わたしたちがこのようにすれば、どうなるでしょうか。「あなたは全き平安をもってこころざしの堅固なものを守られる。」(イザヤ 26:3)<sup>16</sup>

わたしたちは本来なすべき生活をするなら、決して一人ではありません。なぜなら、わたしたちを祝福するために常に御父がとも*に*いてくださるからです。御父は、わたしたちが成功してほしいと*思*っておられます。幸せであってほしいと*思*っておられます。わたしたちが定める良い目標を達成してほしいと*思*っておられます。わたしたちが自分の役割を果たすなら、御父は残りの分を行ってください。<sup>17</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- 神を信じる信仰が人に「将来に対する希望と、現在の務めに楽観的に取り組む気持ち」を与えるのは、なぜだと思いますか。心の平安を得たいと願っている人に、あなたは第1項のどの勧告の言葉を伝えることができるでしょうか。その言葉を選んだのは、なぜですか。
- 第2項を復習するとき、逆境の中で「しっかりと義にかなった生活を続け[る]」必要があったあなたの経験を思い出してください。あなたはその経験から何を学べたでしょうか。わたしたちが信仰をもって試練を堪え忍ぼうとするとき、主はどのような方法で助けてくださるでしょうか。
- 天の御父は、あなたが幸せであり、成功を得てほしいと思っておられます。あなたはどのような経験からそのことを知ることができましたか。「わたしたちに対する神の御心を……受け入れることによって、……わたしたちはこの世で、今、幸せになることができます。」(第3項) それはなぜでしょうか。

### 関連聖句

マタイ 11:28 - 30 ; ヨハネ 14:27 ; 16:33 ; ガラテヤ 5:22 ; モーサヤ 2:41 ; モロナイ 9:25 - 26 ; 教義と聖約 101:11 - 16

### 学ぶ際のヒント

「書、章、数節をざっと読むか、前書きに目を通して概要を把握します。前後関係と背景を理解するようにします。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』23) さらに深く理解できるように、章や節を複数回読むようにしてください。そうするときに、深い洞察を得ることができます。

### 注

1. *A Labor of Love: The 1946 European Mission of Ezra Taft Benson* (1989年), 64, 65
2. *A Labor of Love*, 65
3. 「桃ではなくて人をつくる」『聖徒の道』1978年9月号, 32 参照
4. ニール・A・マックスウェル, *Wherefore, Ye Must Press Forward* (1977年), 69
5. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 68
6. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 68
7. 「落胆してはならない」『聖徒の道』1987年3月号, 2 参照
8. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 67
9. 「落胆してはならない」2 参照
10. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 342
11. 「落胆してはならない」6 参照。『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』235におけるジョセフ・スミスの言葉も参照
12. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 339
13. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 361
14. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 339
15. 「人生は永遠である」『聖徒の道』1992年4月号, 4-5 参照
16. 「落胆してはならない」7 参照
17. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 385



## 真の悔い改めの原則

「真の悔い改めにより必要な代価を払う人々に対して、約束は確実に果たされます。あなたは再び清くなれるのです。絶望を取り去ることができます。赦しゆるに伴う快い平安が、あなたの生活に流れ込んできます。」

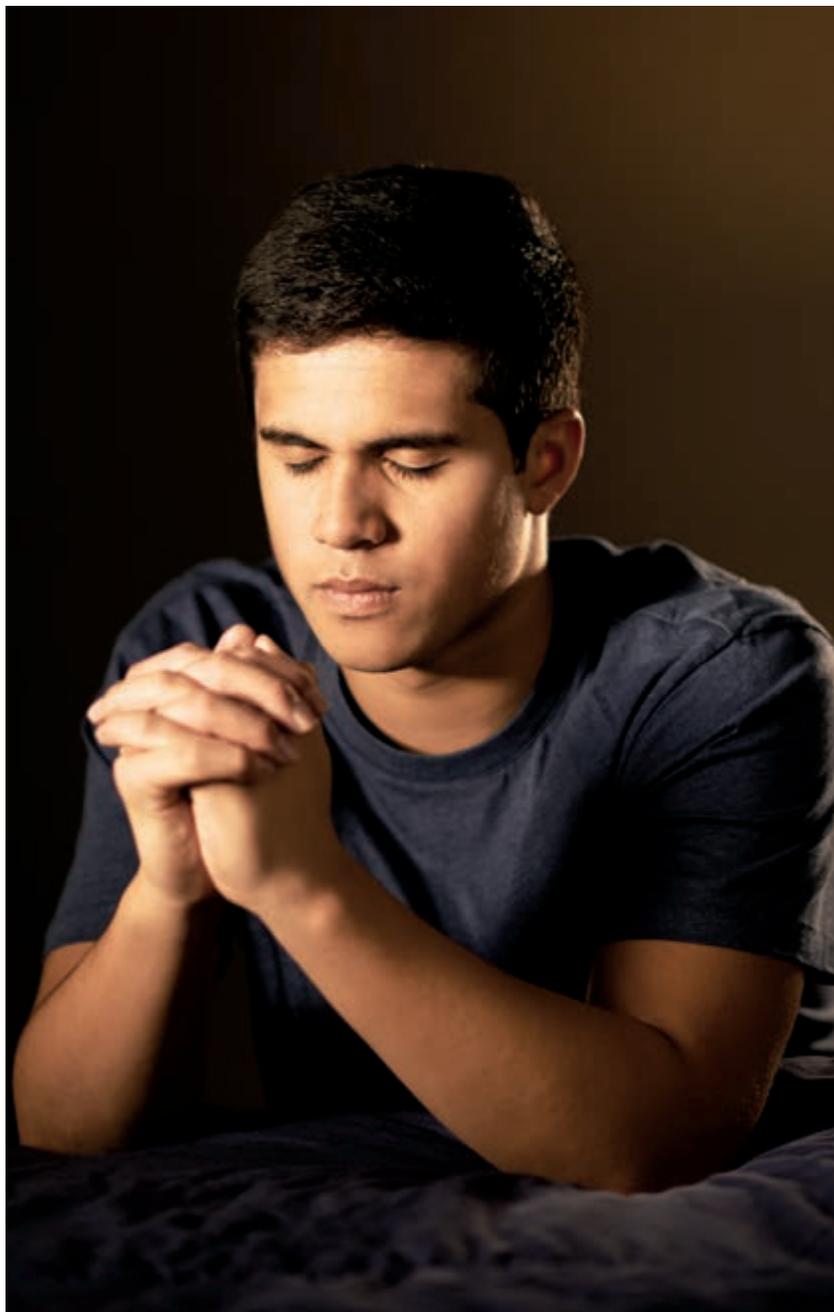
### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、大管長として出席した最初の総大会の話の中で次のように述べた。「わたしが主の導きを求めたとき、『悔い改めのほかに何も語ってはならない』という主の宣言が、わたしの思いと心に再び示されました（教義と聖約 6：9；11：19）。これはすべての末日の預言者が主題としてきた言葉です。」<sup>1</sup>

ベンソン大管長は、大管長としての召しを受ける前から、悔い改めを自分の教導の業の重要な主題としていた。そうするように、当時十二使徒定員会会長であったジョージ・アルバート・スミスから助言されていたのである。ベンソン大管長が使徒職に召されて程なくして受け取った手紙の中で、スミス会長は次のように述べている。「これから先のあなたの使命は、様々な方法と手段を見つけて、真理を広め、またあなたが出会う人々にできるだけ穏やかな方法で、悔い改めがこの世界の様々な病を癒いよす万能薬であるということを知らせることです。」<sup>2</sup>

ベンソン大管長は世界の至る所で福音を教えるとき、この責務を忠実に果たした。そして、次のように教えた。「備えて防ぐ方が、後悔して償うより良い。」<sup>3</sup> また、「わたしたちは皆、悔い改める必要があります」とも述べている。<sup>4</sup> そして、悔い改めに関連のある心の「大きな変化」を強調し（アルマ 5：12－14 参照）、このような変化をもたらす救い主の役割について次のように説明している。

「主は心の内側から外側に向けて働きかけられますが、この世は外側から内側に向けて働きかけます。この世は貧民街から人々を連れ出そうとしますが、キリストは人々から悪や汚れを取り去り、自分自身で貧民街から抜け出られるようにされます。この世は環境を変えることによって人間を形成しようとする



主は言われた。「わたしの前にへりくだるすべての者に対して、  
わたしの恵みは十分である。」(エテル 12 : 27)

が、キリストは人々を変え、それによって彼らが自らの手で環境を変えられるようになさいます。この世は人の行動を変えようとしますが、キリストは人の性質を変えることがおできになるのです。……

そうです、キリストは人を変え、改心した人はこの世を変えることができますのです。」<sup>5</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

真の悔い改めを行うためには、福音の計画は  
幸福の計画そのものであることを最初に理解しなければならない

教会の会員であるということは通常、教会の会員記録に正式に名前が登録されていることを意味します。……

しかし、神の王国の一員であることについて、主はそれとはまったく異なる定義を下しておられます。1828年に、主は預言者ジョセフ・スミスを通してこう言われました。「見よ、これはわたしの教義である。すなわち、だれでも悔い改めてわたしのもとに来る者は、わたしの教会である。」(教義と聖約10:67, 強調付加) この教会の主にとって、教会員であるということは、単に会員記録に名前をとどめるだけのことではありません。

そこで、人々が真の悔い改めを行って主のもとに来る場合に理解し、応用しなければならない重要な概念について、説明したいと思います。

サタンがよく用いる欺きの一つに、神の戒めは自由を制限し、幸福を狭めるという考えがあります。特に若い人々が時折感じるのが、主の標準は人生における大きな楽しみと思える活動から引き離すための囲いや鎖のようなものであるということです。しかし、事実はまったくその反対です。福音の計画は、人々に満ちみちる喜びをもたらす計画そのものなのです。これが、わたしが強調したい第1の概念です。福音の原則は、真の幸福と喜びを見いだすのに助けとなるステップであり、指針なのです。

詩篇作者はこの原則を理解していて、次のように述べています。「いかにわたしはあなたのおきてを愛することでしょう。……あなたの戒めは常にわたしと共にあるので、わたしをわが敵にまさって賢くします。……あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です。……あなたのあかしはとこしえにわがしぎょう嗣業です。まことに、そのあかしはわが心の喜びです。」(詩篇119:97-98, 105, 111)

真の悔い改めを行って主のもとに来て、主の教会の会員と呼ばれることを願う人は、福音の計画は幸福の計画そのものであるという、この永遠の真理をま

ず最初に理解しなければなりません。過去、現在、将来を問わず、悪事は決して幸福を生じません〔アルマ 41:10 参照〕。神の律法を破れば、不幸と束縛と暗闇くらやみを招くだけです。<sup>6</sup>

---

## 2

### イエス・キリストを信じる信仰が真の悔い改めに先立つ

わたしたちが理解すべき重要な第2の概念は、悔い改めと信仰の原則との関係です。悔い改めは福音の第二の基本原則です。第一は主イエス・キリストを信じる信仰を持たなければならないということです。それはなぜでしょうか。主を信じる信仰が真の悔い改めに先立つ必要があるのは、なぜでしょうか。

この質問に答えるためには、主の贖あがないの犠牲について理解しなければならないことがあります。リーハイは、「聖なるメシヤの功德と憐れみあわと恵みによらなければ、だれも神の御前みまえに住める者がいない」と教えています（2ニーファイ 2:8）。どれほど正しく高潔な人であっても、自分の力だけで救いを得ることはできません。なぜなら、使徒パウロが述べているように、「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」いるからです（ローマ 3:23）。

わたしたちのために自ら進んで命を捨てられた救い主の完全な、罪のない命によらなければ、決して罪の赦ゆるしはあり得ません。

ですから、悔い改めは単に行動を変えるという以上のことなのです。世の中には強固な意志と克己心をもって悪習や肉の弱さを克服している男女が大勢います。しかし同時に、彼らは主のことを考えず、時には公然と主を拒みます。このような行動の変化は、たとえ良い方向性を持っているとしても、真の悔い改めにはなりません。

主イエス・キリストを信じる信仰は、心からの有意義な悔い改めを行うための基本なのです。罪を捨てたいと心から望むなら、まず救いの源である御方に頼らなければなりません。<sup>7</sup>

---

## 3

### 悔い改めは心の大きな変化を含む

わたしたちが教会の真の会員となるために理解しておかなければならない第3の重要な原則は、悔い改めをするには単に行いを変えるだけではなく、心も変えなければならないということです。

ベニヤミン王がゼラヘムラの地ですばらしい説教を終えたとき、民は皆、声を合わせて王の言葉を信じると叫びました。贖あがないの約束が真実であることは

確かだと分かったのです。その理由について、彼らは次のように述べています。「全能の主の御霊……は、わたしたちが悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように、わたしたちの中に、すなわちわたしたちの心の中に大きな変化を生じさせてくださいました。」(モーサヤ 5:2)<sup>8</sup>

人の心は変えることができるでしょうか。もちろん、できます。教会の偉大な伝道の業により、それが毎日起きています。それはキリストが行われる現代の奇跡の中で、最も頻繁に起きているものの一つです。もしもあなたにそれが起きていなければ、起こす必要があります。

主はニコデモにこう言われました。「だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。」(ヨハネ 3:3) ……

アルマは次のように述べています。「主はわたしに言われました。『全人類、すなわち男女を問わず、すべての国民、部族、国語の民、民族が再び生まれなければならないことを不思議に思ってはならない。まことに、人は神から生まれ、肉欲にふける墮落した状態から義の状態に変わって、神に贖われ、神の息子や娘にならなければならない。』

このようにして、彼らは新たな者となる。このようにならないかぎり、決して神の王国を受け継ぐことはできない。』(モーサヤ 27:25 - 26) ……

アルマ書第4章には、ニーファイ人の歴史の中で「教会の発展が鈍り始めた」時期のことが述べられています(アルマ4:10)。アルマは政府における大さばきつかさの職を辞してこの難題に立ち向かい、「神の聖なる位の大祭司の職に専念しました(アルマ4:20)。

彼は民に向かって「純粋な証」<sup>あかし</sup>を述べ(アルマ4:19)、アルマ書第5章に記されているように、40を超える非常に大切な質問を投げかけています。教会員に向かって率直に語り、次のように述べました。「さて見よ、教会の同胞よ、わたしはあなたがたに尋ねる。あなたがたは霊的に神から生まれているか。あなたがたの顔に神の面影を受けているか。あなたがたは心の中に、この大きな変化を経験したか。」(アルマ5:14)

さらにこう続けています。「もしあなたがたが心の変化を経験しているのであれば、また、贖いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるのであれば、今でもそのように感じられるか尋ねたい。」(アルマ5:26)

霊的に生まれ変わる人の数が増加すれば、今日、教会は劇的に発展するのではないのでしょうか。そうならば、家庭でどのようなことが起こるか想像できるのでしょうか。モルモン書の使い方を知っている、神から生まれた宣教師の数が増えて、宣教師が手にするモルモン書の数が増えたら、どのようなことが起こるか想像できるのでしょうか。このことが起こるとき、主が約束された、人々の



悔い改めによって、息子アルマは奇跡的な心の変化を経験した。

豊かな刈り入れが行われるでしょう。「神から生まれた」アルマが宣教師としてその言葉を伝えたことで、ほかの多くの人々も神から生まれたのです（アルマ 36：23 - 26 参照）。<sup>9</sup>

イエス・キリストを信じる信仰とわたしたちに与えられる御霊の働きによってのみもたらされる、この大きな変化を経験した人は、まるで新たな人になったかのように。それで、この変化は新たな誕生にたとえられるのです。これまでに皆さんの多くがこの変化を経験してきました。皆さんは罪の生活を捨て去りました。その中には、深刻で忌まわしい罪もあったでしょう。そして、キリストの血を皆さんの生活に取り入れることによって、皆さんは清くなっています。もはや以前の生活に戻る気持ちはなくなり、確かに新たな人となっています。これが心を変えるということなのです。<sup>10</sup>

4

神の御心みこころに添った悲しみが真の悔い改めに至る

第4の概念として強調したいのは、聖文で述べられている、自分の罪に対する「神のみこころに添うた悲しみ」です。自分が悪を行った事柄について自責の念に駆られている人は、男女を問わず世の中に少なくありません。時には、

彼らの行いが彼ら自身や愛する人々に大きな悲しみと苦悩をもたらす原因となっていることから、この気持ちになります。自分が行ったことのために逮捕されたり、処罰されたりすることで、悲しむ人もいます。このようなこの世的な感情は、「神のみこころに添うた悲しみ」とは言えません。

……ニーファイ人国家の最後の時期に、モルモンは自分の民について次のように語りました。「彼らの悲しみは、神の慈しみを思って悔い改めに至るものではなかった。それはむしろ、彼らに罪のあるままで幸福になるのを主がいつでも許そうとなさらないことに対する悲しみであり、罰の定めを受ける者の悲しみと同じであった。

彼らは、打ち砕かれた心と悔いる霊をもってイエスのもとに来ることをせず、神をのろい、死ぬことを願った。」(モルモン2:13-14)

東半球では、使徒パウロが、コリントの人々の間で務めを果たしました。聖徒たちの中に見られる不徳な行いを含む重大な問題について報告を受けた後で(1コリント5:1参照)、パウロは厳しい叱責の手紙を書きました。すると人々はその叱責を真摯な態度で受け止めました。パウロが彼らにあてた第二の手紙から分かるように、それらの問題が正されたことは明らかです。パウロは次のように書いています。「今は喜んでいる。それは、あなたがたが悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めるに至ったからである。あなたがたがそのように悲しんだのは、神のみこころに添うたことであって……

神のみこころに添うた悲しみは、悔いのない救を得させる悔改めに導き、この世の悲しみは死をきたらせる。」(2コリント7:9-10)

これらの聖文の両方から、「神のみこころに添うた悲しみ」とは人を悔い改めに導く悲しみであると定義されます。

「神のみこころに添うた悲しみ」は、御霊の賜物の一つです。それは自分の行いが御父である神に不快感を与えたことを深く認識することです。わたしたちの行いのゆえに、救い主、いかなる罪も犯されなかった御方、すなわちすべての中で最も大いなる御方が苦悶し苦しまれたことを、はっきりと自覚することです。わたしたちの罪のゆえに、主はあらゆる毛穴から血を流されたのです。このまことに現実的な、精神的、また霊的な苦しみは、「打ち砕かれた心と悔いる霊」を持つことと聖文で言われているものです(3ニーファイ9:20;モロナイ6:2;教義と聖約20:37;59:8;詩篇34:18;51:17;イザヤ57:15参照)。このような霊が真の悔い改めに絶対に必要な条件なのです。<sup>11</sup>

天の御父とイエス・キリストは、わたしたちが生活を変えるのを  
ぜひ見たいと思っておられ、わたしたちを助けてくださる

次に採り上げたい原則は、御父と救い主以上に、わたしたちが生活を変えるのをぜひ見たいと思っておられる御方はだれもいないということです。黙示録には救い主の力強い、心からの招きの言葉が記されています。救い主は言うておられます。「わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはい……るであろう。」(黙示3:20) 救い主が「わたしは戸の外に立って、あなたがたたくのを待っている」とは言うておられないことに注意してください。主は呼びかけ、手招きし、わたしたちが心を開いて主を迎え入れることだけを求めておられるのです。

モロナイが信仰について述べた偉大な説教の中で、この原則がさらに明確に説かれています。モロナイは主から次のように言われました。「もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを与える。……わたしの恵みは十分である。」わたしたちの足りない点、弱さ、欠点<sup>たまもの</sup>が何かは問題ではありません。それらのすべてを克服するためには、主の賜物と力があれば十分なのです。

モロナイはさらに主の御言葉<sup>みことば</sup>を次のように書き続けています。「わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」(エテル12:27, 強調付加)

主の約束は何とすばらしいことでしょう。わたしたちの苦難の原因そのものが、変えられ、練られ、強さと力の源に形作られることがあるのです。この約束は表現を変えて、数多くの聖文の中で繰り返されています。例えば、イザヤはこう述べています。「弱った者には力を与え、勢いのない者には強さを増し加えられる。」(イザヤ40:29) パウロは主から次のように告げられました。「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる。」(2コリント12:9) 教義と聖約にはこう記されています。「わたしの力の下でおののく者は強くされ、……賛美と知恵の実を結ぶであろう。」(教義と聖約52:17。1ニーファイ17:3; 2ニーファイ3:13; 教義と聖約1:28; 133:58-59も参照)<sup>12</sup>

サタンが罪に誘い込んできた人々に対する彼の最も効果的な策略は、おまえは祈るに値しない人間だと、耳元でささやきかけることです。サタンは、天の御父はおまえのことをひどく怒っていて、おまえの祈りなど決して聞いてはくれないと語りかけます。これは偽りです。サタンは、わたしたちをだますためにそう言うのです。罪の力は大きなものです。もしわたしたちが罪から、特に重大な

罪から離れたいと願うならば、自分の力よりももっと大きな力を得なければなりません。

天の御父以上に皆さんを罪から解き放したいと強く思っておられる御方はいません。御父のもとに行ってください。あなたの罪を認め、あなたの恥と罪とを告白し、そして御父に助けを求めてください。御父は、あなたが勝利を得られるように助ける力を持っておられます。<sup>13</sup>

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはへりくだり、罪を悲しんで悔い改めて、自分の罪を主のもとに持って行かなければなりません。罪を克服する力を主に請い求めなければなりません。約束は確実に果たされます。主は助けに来てくださいます。そしてわたしたちは、自分の生活を変える力を見いだすでしょう。<sup>14</sup>

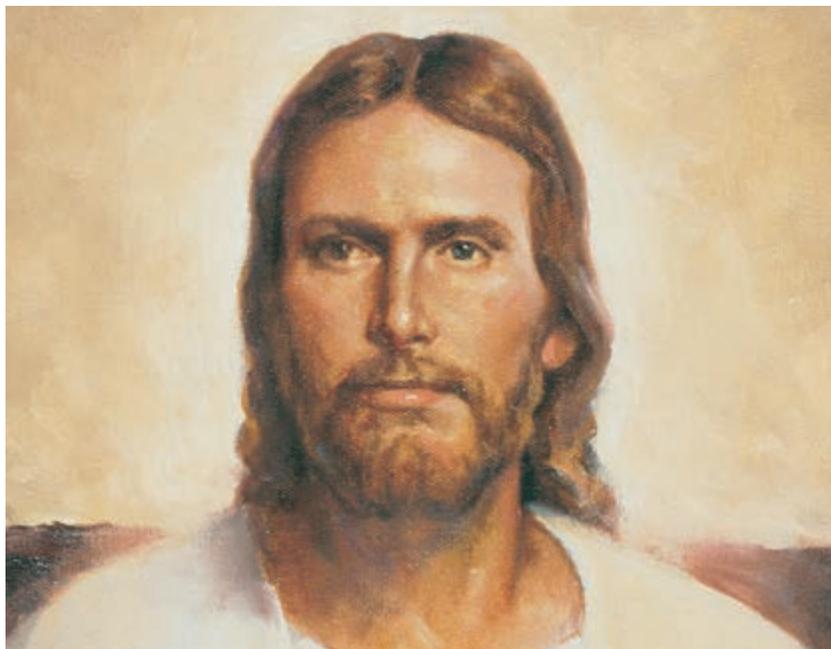
## 6

### キリストのようになるところするとき、希望を失ってはならない

悔い改めの過程についてわたしが最後に強調したい第6の最後の原則は、ますます神のようになるところするとき、落胆して希望を失うことのないように気をつけなければならないということです。キリストのようになることは、生涯にわたって求め続けるべきことであり、ゆっくりとした、ほとんど気づかないほどの成長と変化でそうなることが非常に多いのです。聖文の記録には、きわめて短時間の内に劇的に生き方が変わった人々に関するすばらしい話が幾つかあります。例えば、息子アルマ、ダマスコへ向かう途中のパウロ、夜になっても祈り続けたエノス、ラモーナイ王がそうです。罪の中に浸っていた人々さえも変えたこれらの驚くべき力の事例は、贖罪は失意の底にある人々にさえ及ぶという確信を与えてくれます。

しかし、これらの傑出した例について論じるときには、注意が必要です。これは現実であり、力強いものですが、きわめて例外的であるということです。すべてのパウロ、すべてのエノス、またすべてのラモーナイ王とは対照的に、非常に多くの人々にとって、悔い改めの過程はほんのわずかな変化であり、ほとんど気づかないほどの変化なのです。日々もっと主に近づこうとすると、ほとんど意識しないまま、神のような生活を築いているのです。その人々は善意と奉仕と献身の生活を静かに送っています。「火と聖霊によるバプテスマを受けた」にもかかわらず、彼らはそれを知らなかったと、主から言われたレーマン人に似ています（3 ニーフアイ 9：20、強調付加）。

希望を失ってはなりません。希望はわたしたちのいかり錨です。サタンはわたしたちにこの錨を捨てさせようとしています。この方法で、サタンはわたしたちを落胆させ、屈服させることができます。しかし、希望を失ってはなりません。もっと主のようになるところとする、わたしたちのあらゆる努力、実に小さな日々の



「真の悔い改めは、主イエス・キリストを信じる信仰を基としており、その信仰から生じるものです。それ以外の道はありません。」

努力を、主は喜んでくださるのです。完全の域に達するには程遠いと思えるかもしれませんが、希望を捨ててはなりません。<sup>15</sup>

真の悔い改めにより必要な代価を払う人々に対して、約束は確実に果たされます。あなたは再び清くなれるのです。絶望を取り去ることができます。赦しに伴う快い平安が、あなたの生活に流れ込んできます。

イザヤを通じて言われた主の言葉は確かです。「主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」(イザヤ 1:18)

そして、この神権時代に、主は同じように明確にこう語っておられます。「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」(教義と聖約 58:42)<sup>16</sup>

過去に囚われて生活することのないようにしてください。過去に囚われて生活する人々には、あまり将来がありません。わたしたちは、自分が失ったものについて、また過去を振り返ったときに恐らく自分は間違っ下したのではないかと思う決断について、悔やむ傾向が多くあります。自分が違う決断を下していたらもっと良くなっていたかもしれないと考えて、自分を取り巻く状況につい

で悪く考える傾向が多くあります。わたしたちは過去の経験から学ぶことができます。しかし、過去に下した決断、犯した間違いを気にしながら過ごすことのないようにしましょう。現在と将来に心に向けて生活しましょう。<sup>17</sup>

愛する兄弟姉妹の皆さん、主は悔い改めて主のもとに来る者という意味で教会員という言葉を用いられましたので、キリストの教会の会員としてふさわしくあろうとするとき、次の6つの原則を心に留めるようにしましょう。第1に、福音は主の幸福の計画であり、悔い改めはわたしたちに喜びをもたらすことを目的としています。第2に、真の悔い改めは、主イエス・キリストを信じる信仰を基としており、その信仰から生じるものです。それ以外の道はありません。第3に、真の悔い改めをするには、行いを変えるだけではなく、心も変えなければなりません。第4に、この心の大きな変化の一つは、自分の罪に対して神の御心みこころに添った悲しみを感じることです。それは、「打ち砕かれた心と悔いる霊」を意味します。第5に、主に頼って助けを求めさえすればあらゆる罪と弱さを克服できるように、神の賜物たまものが十分に備えられています。そして最後に、ほとんどの悔い改めは、あっと驚くようなもの、あるいは劇的な変化というものではなく、むしろ神のようになることを目指して、一步一步、着実に、首尾一貫して進めていくものなのです。

これらの原則をわたしたちの生活に取り入れ、日々実行するように努めるならば、そのとき、わたしたちは、イエス・キリスト教会において記録上の会員以上の者であると認められることでしょう。真の会員として、わたしたちは主の次の約束を受ける資格があるのです。「さて見よ、だれでもわたしの教会に属し、教会にあって最後まで堪え忍ぶ者を、わたしはわたしの岩の上に建てよう。そうすれば、地獄の門も彼らに打ち勝つことはない。」(教義と聖約 10:69)

わたしたち全員にこの約束が果たされるよう祈っています。<sup>18</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- 真の悔い改めを行うには、「福音の計画は幸福の計画そのものである」こと、また悪事は「決して幸福を生じません」と、ベンソン大管長は述べています(第1項)。このことを理解しておくことが悔い改めの過程で不可欠であるのは、なぜだと思いますか。
- 悔い改めるように努めるとき、行動を変えるだけでは不十分であるのはなぜでしょうか(第2項参照)。真の悔い改めを行うためにイエス・キリストに頼る必要があるのは、なぜだと思いますか。

- 第3項で述べられているように、あなたはどのようにして「心の大きな変化」を経験したでしょうか。ほかの人々がこの変化を経験できるように助けるために、わたしたちは何ができるでしょうか。
- 「神のみこころに添うた悲しみ」は、ある人々が何か悪いことをしたときに感じる後悔と、どのような点が違っているでしょうか(第4項参照)。悔い改める必要がある人を助けるために、親やビショップは第4項の教えをどのように使えるでしょうか。
- 第5項を復習するとき、あなたにとってどの教えが特に慰めとなりますか。これらの教えがあなたにとって慰めであるのは、なぜでしょうか。
- ベンソン大管長は、救い主の贖罪しよぐいの力について証し、「希望を失ってはなりません」と述べています(第6項)。第6項を復習するとき、あなたに希望と与えるのは、贖罪に関するどの真理でしょうか。

### 関連聖句

ルカ 15 : 11 - 32 ; モーサヤ 4 : 10 - 12 ; 26 : 30 - 31 ; アルマ 34 : 17 - 18 ; 3 ニーファイ 27 : 19 - 20 ; 教義と聖約 18 : 10 - 16 ; 19 : 15 - 19

### 教える際のヒント

「あなたの最大の関心は、感動的なレッスンをすることではなく、生徒が福音を学ぶように助けることに向けられていなければならない。これには生徒が教え合う機会を与えることも含まれる。」(『教師、その大いなる召し』64)

### 注

1. 「器の内側を清める」『聖徒の道』1986年7月号, 4 参照
2. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography* (1987年), 184 で引用
3. 「純潔の律法」『聖徒の道』1988年10月号, 38 参照
4. Conference Report, 1955年4月, 47
5. 「神によって生まれる」『聖徒の道』1989年10月号, 5 参照
6. 「大いなる改心」『聖徒の道』1990年3月号, 2, 4 参照
7. 「大いなる改心」4 参照
8. 「大いなる改心」4 参照
9. 「神によって生まれる」2, 5 参照
10. 「大いなる改心」4 参照
11. 「大いなる改心」4 - 5 参照
12. 「大いなる改心」5, 7 参照
13. 「純潔の律法」39 - 40 参照
14. 「大いなる改心」7 参照
15. 「大いなる改心」7 参照
16. 「純潔の律法」40 参照
17. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 387
18. 「大いなる改心」7 参照



## イエス・キリスト、 わたしたちの救い主、<sup>あがな</sup>贖い主

「わたしたちはイエス・キリストが神の御子であられると宣言します。主イエスがわたしたちの救いの唯一の源であられることを認めます。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

「**イ**エス・キリストへの信仰を失ったような時期は、わたしの記憶を幾らたどってみても見当たりません」と、エズラ・タフト・ベンソン大管長は述べている。「主の生涯と死、そして復活は、現実のものとして常にわたしの心にあったように思います。<sup>あつ</sup>篤い信仰を持つわたしの父と母は、キリストを心から信じ、キリストについて熱心<sup>あかし</sup>に証していました。そのような両親の築く家庭で育ったことを、何よりも感謝しています。」<sup>1</sup>

このイエス・キリストについての証は、ベンソン大管長の人生の基盤であった。この証はベンソン大管長が優先順位を決め、決断の指針とし、試練を乗り越える際の助けとなった。また、この証を通して、現世の目的が理解でき、永遠の命の約束と祝福が成就することを確信できるようになった。

イエス・キリストの特別な証人として使徒の務めを果たしていた期間に、ベンソン大管長は救い主についてよく証を述べた。「時折『モルモンはクリスチャンなのですか』と聞かれることがあ[る]」のを認めたくえで、次のように証している。

「わたしたちはイエス・キリストが神の御子であられると宣言します。主イエスがわたしたちの救いの唯一の源であられることを認めます。わたしたちは主の教えに従った生活をしようと努力し、主が『王の王、主の主』として再びこの地上に来て治め、統治される日を心待ちにしています。わたしたちはモルモン書の預言者の言葉を借りて、……次のようなメッセージを伝えるものです。『全能の主であるキリストの御名<sup>みな</sup>のほか、またその御名を通じてでなければ、どのような名も道も方法も、人の子らに救いをもたらすことはできない。』(モーサヤ 3:17)」<sup>2</sup>



「一人一人の人間や様々な国民にとって主の復活に勝る出来事はありません。」

イエス・キリストの神性について宣言する際、ベンソン大管長はしばしばモルモン書を引き合いに出して語った。<sup>3</sup>「神はモルモン書を通して、わたしたちの時代にイエスがキリストであられることを示す明白な証拠を与えてくださっています」と大管長は述べている。<sup>4</sup>ベンソン大管長は、モルモン書の「おもな目的」は人々にこの真理を確信させることであると教えている。<sup>5</sup>「モルモン書の聖句のうち半分以上は主について述べたものです」と大管長は指摘している。「モルモン書の中で、主は実に100以上の呼び名で記され、それらの呼び名には、イエスの神性を示す特別な意味があります。」<sup>6</sup>

救い主についてのベンソン大管長の証から、大管長が主を個人的に身近に感じていたことが分かる。

「わたしは全身全霊を込めて、イエスを愛しています。

わたしはへりくだって証します。イエスは今でも、パレスチナのほこりだらけの道を歩まれたときと同じように、愛と思いやりに満ちた主です。そして地上の僕たちと親しく交わっておられます。わたしたち一人一人のことを心にかけ、愛しておられます。これは確かなことです。

イエスは主として、救い主として、贖い主として、また神として、<sup>こんにち</sup>今日も生きておられます。

神の祝福があって、わたしたちがイエスを信じ、受け入れ、敬い、完全に信頼し、イエスに従うことができますように。」<sup>7</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

わたしたちに対する限りない愛のゆえに、イエス・キリストは  
わたしたちを肉体の死と霊の死から贖ってくださった

キリスト・イエスの生涯ほど地上に重大な影響を及ぼしてきたものはほかにありません。わたしたちはキリストの教えのない人生など想像できません。主がおられなければ、わたしたちは官能と物質主義が支配する、恐れや暗闇から生じた迷信と崇拜という幻想の中で迷うことでしょう。わたしたちはイエスの示された目標とはほど遠い状態にありますが、決してその目標を見失ってはなりません。また、イエスの教えとその生涯、死、復活なくして、光と完成に向かって進歩するのは不可能であることを忘れてはなりません。<sup>8</sup>

わたしたちのために〔イエス・キリスト〕がしてくださったことを理解し、感謝の念を抱くには、以下の大切な真理を思い起こす必要があります。

イエスは御父の御心<sup>みこころ</sup>を行うためにこの地上に来られました。

御自身が全人類の罪の重荷を負うことをあらかじめ承知のうえで来られました。

御自身が十字架にかけられることを知っておられました。

全人類の救い主、贖い主となるためにお生まれになりました。

イエスは神の御子であり、神の力を持っておられたので、御自分の使命を果たすことがおできになりました。

わたしたちを愛しておられたので、御自分の使命を進んで<sup>まっとう</sup>されました。

死すべき人間の中には、迷い墮落した状態から人類を贖う力を持つ人や、自ら進んで命を捨て、それによってすべての人に復活をもたらすことのできる人はだれもいませんでした。

イエス・キリストだけが、そのような贖いという愛の業を行うことがおできになったのであり、主は進んでその業を全うされたのです。<sup>9</sup>

イエス・キリストは……あらかじめ定められていた時に、高貴な生得権を持つ者としてその神性を失うことなくこの地上に来られました。この世の母から受け継いだ人間の特質と、永遠の御父から受け継いだ神の特質と力を兼ね備えておられたのです。

イエスはその比類ない受け継ぎにより、「肉における神の独り子」という誉れある称号を受けられました。そして神の御子として、後にも先にもだれ一人持ったことのない力と英知を受け継がれました。主は文字どおりインマヌエルであられました。それは「神われらと共にいます」という意味です（イザヤ7:14；マタイ1:23 参照）。

イエスは神の御子として地上に送られましたが、父なる神の計画に従って、この世のあらゆる苦難と艱難<sup>かんなん</sup>をお受けにならなければなりません。こうして主は、「試練……や飢え、渇き、疲労」を経験されることになったのです（モーサヤ3:7）。

御父のすべての子供たちの贖い主としてふさわしい者となるには、神のあらゆる律法に完全に従わなければなりません。イエスは御父の御心に従うことにより、「恵みに恵みを」受けて成長し、ついに御父の力の「完全を受けられ」ました。こうして、「天においても地においても、一切の権威を受けられた」のです（教義と聖約93:13, 17）。<sup>10</sup>

イエス・キリストは神、まさしく神の御子でした。だからこそ、ほかの人々の罪の重荷を背負うことがおできになったのです。イザヤは、救い主が自ら進んでこのような犠牲を払われることを、次のような言葉で預言しました。「まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。……彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼は



「キリスト・イエスの生涯ほど地上に重大な影響を及ぼしてきたものはほかにありません。」

みずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」(イザヤ 53:4-5)

あらゆる人々の罪を自ら進んでその身に負うというこの清く、私心のない行為こそが贖罪しよくざいなのです。一人の御方にどのようにして全人類の罪を負うことができになるのか、死すべき人間には理解できません。ただ、わたしは次のことを知っています。すなわち、イエス・キリストは確かにあらゆる人々の罪をその身に負われたということ、また、そうされたのはわたしたち一人一人に対する限らない愛があったからだということです。主はこう言われました。「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。……その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大なる者であるわたし自身が、苦痛のためにおのき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦きい杯さかずきを飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。」(教義と聖約 19:16, 18)

このような激痛を伴う試練にもかかわらず、イエス・キリストはこの杯を受け、飲み干されました。わたしたちが苦しまなくてもよいように、すべての人の苦痛を代わって受けられたのです。不平を漏らすことも仕返しをすることもなく、迫

害者からの辱めや侮辱を堪え忍ばれました。鞭打ちにも、さらには十字架の刑という残酷極まりない屈辱にも堪えられました。<sup>11</sup>

ゲツセマネとカルバリで、〔イエス〕は無限にして永遠の贖罪を成し遂げられました。それは歴史上最も偉大な愛の行いでした。その後、主はお亡くなりになって、復活されました。

こうしてイエスは、すべての人々を肉体の死から、そして福音の律法と儀式に従う人々を霊の死から贖う、わたしたちの贖い主となられたのです。<sup>12</sup>

わたしたちは、イエスがその業をどのようにして成し遂げられたのか、この世で知ることはできないかもしれません。しかしなぜ成し遂げられたのかについては、必ず理解しておく必要があります。

イエスの行いはすべて、わたしたちに対する無私の、限りない愛に基づくものでした。<sup>13</sup>

---

## 2

---

イエス・キリストは墓から出て、今日、復活した者として生きておられる

歴史上最も大いなる出来事とは、最も多くの人々に、最も長い歳月にわたって影響を及ぼすものを指すのではないのでしょうか。この基準で考えれば、一人一人の人間や様々な国民にとって主の復活に勝る出来事はあり得ません。

この世に生を受け、死んでいったあらゆる人々が文字どおり復活するのは紛れもない事実であって、確かに人はこの出来事に対して心を尽くして備える必要があります。人は皆、栄光ある復活を目指して歩まなければなりません。復活は現実のものだからです。

すべての人に公平に機会が与えられるという点において、復活に勝るものはありません。すべての生ける者は復活します。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされる」のです(1コリント 15:22)。

聖文には、イエスが十字架の刑をお受けになった後、3日目に大きな地震が起こったと記されています。墓の入り口の石が押しつけられていました。最も献身的に主に従っていた者たちのうち、何人かの女性が香料を携えて墓に行ってみると、「主イエスのからだが見当りませんでした。

すると、天使が現れ、簡潔な言葉でこう言いました。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」(ルカ 24:3-6)「〔主〕は、ここにはおられない。よみがえられたのだ」というこの感動的な御告げに匹敵する言葉を、歴史の中に見いだし得るのでしょうか。

主の復活という事実は、数多くの信頼できる証人の証<sup>あかし</sup>に裏付けられています。よみがえられた主は幾人かの女性に御姿<sup>みすがた</sup>を現され、続いてエマオに向かっていた二人の弟子を、そしてペテロを、さらに使徒たちを訪れられました。「そのうち」、パウロが記しているように「五百人以上の兄弟たちに、同時に現れ……、そして最後に、〔パウロ〕にも、〔現れられた〕」のです（1コリント15：6、8）。  
……

主の末日の証人の一人として、わたしも、今日主が生きておられることを証します。主は復活された御方です。わたしたちの主なる救い主であり、まことの神の御子であります。この御方は栄光を身にまとい、復活された主として再臨されることを証します。その日はそう遠くありません。キリストを主なる救い主として受け入れるすべての人にとって、主の文字どおりの復活は、人の命は死をもって終わるものではないことを意味しています。主がこう約束しておられるからです。「わたしが生きるの、あなたがたも生きるからである。」（ヨハネ14：19）<sup>14</sup>

主だけが復活の力を備えておられました。イエス・キリストは埋葬の後3日目に、生きて墓から出て来て、多くの人々にその御姿を現されました。……この現代にあって、〔主の〕特別な証人として召された者の一人として、わたしも皆さんに証します。イエス・キリストは生きておられます。復活体で生きておられるのです。わたしたちの主が文字どおり復活されたという真理ほど、わたしが確信を抱いている真理や事実はほかにありません。<sup>15</sup>

---

### 3

#### わたしたちはイエス・キリストの証<sup>あかし</sup>に雄々しくなければならない

この教会の会員に与えられている最も貴い祝福は、イエス・キリストが神の御子であられ、この教会が神の教会であるという証です。証はわたしたちがこの世を去るときに携えて行くことのできる数少ない財産の一つです。

イエスの証を持つとは、聖霊を通してイエス・キリストの神聖な使命を知ることです。

イエスの証とは、主の降誕が神の力によるものであること、すなわち、主が実際に肉における独り子であられることを知ることです。

イエスの証とは、イエスが約束されたメシヤであり、地上におられた間に数多くの偉大な奇跡を行われたことを知ることです。

イエスの証とは、主が御自分の教義として定められた律法が真実であることを知り、その律法と儀式に従うことです。

イエスの証を持つとは、主がゲツセマネの園で全人類の罪を進んで御自身に受け、そのために体と霊の両方に苦しみを受け、あらゆる毛穴から血を流されたことを知ることです。主がこのすべてを行われたのは、わたしたちが悔い改めるならば苦しみを受けなくてよいようにするためでした（教義と聖約 19：16、18 参照）。

イエスの証を持つとは、主が復活した肉体を持って、勝利を得て墓から出て来られたことを知ることです。そして主が生きておられるので、全人類も生きるのです。

イエスの証を持つとは、主の福音の新しい神権時代を確立し、主が来られる前にすべての国民に救いが宣べ伝えられるようにするために、父なる神とイエス・キリストが預言者ジョセフ・スミスに実際に御姿を現されたことを知ることです。

イエスの証を持つとは、主が時の中間に建てられ、現代に回復された教会が、主が宣言しておられるように「全地の面に〔おける〕唯一まことの生ける教会」であることを知ることです（教義と聖約 1：30）

このような証を持つことは非常に大切です。しかし、さらに大切なのは、自分が持っている証に雄々しくあることです。

イエスの証とは、イエス・キリストの神聖な使命を受け入れ、主の福音を受け入れ、主の業を行うことです。また、ジョセフ・スミスとその後継者たちの預言者としての使命を受け入れ、彼らの勧告に従うことです。イエスはこう言っておられます。「わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」（教義と聖約 1：38）

最終的に日の栄えの王国の祝福を授けられる人々について、主はジョセフ・スミスにこう言われました。

「彼らはイエスの証を受け入れ、その名を信じ、そしてイエスの名によって水の中に沈められ、イエスから与えられた戒めのとおりその埋葬に倣ってバプテスマを受けた者である。」（教義と聖約 76：51）

これらの人々はイエスについての自分の証に雄々しい者であり、主が宣言しておられるように、「信仰によって勝利を得、御父が正しくかつ真実な者すべてに注がれる約束の聖なる御霊により結び固められている者」です（教義と聖約 76：53）。<sup>16</sup>

## 4

イエス・キリストを信じる信仰は、  
主を完全に信頼し、主の教えに従うことから成る

わたしたちの宗教の根本となる原則は、主イエス・キリストを信じる信仰です。なぜただ一人の御方に頼り、希望を持ち信頼する必要があるのでしょうか。この世で平安を得、<sup>きた</sup>来るべき世に希望を持つために、なぜ主を信じる信仰がそれほど必要なのでしょうか。

この質問にどう答えるかによって、勇氣と希望をもって楽観的に将来を見詰めるか、あるいは恐れと不安をもって悲観的に将来を見詰めるかが決まります。

わたしのメッセージと証は<sup>あかし</sup>次のとおりです。イエス・キリストはわたしたちが世に打ち勝ち、人間の弱さを克服するために必要な希望と確信と強さを与えることのおできになる唯一の御方です。世に打ち勝ち、弱さを克服するには、主を信じ、主の律法と教えに従って生活しなければなりません。……

主を信じる信仰とは、イエスが生きておられることを単に認めることではありません。信仰を告白する以上のことです。

イエス・キリストを信じる信仰は、主を完全に信頼することから成っています。主は神として、無限の力と英知と愛を備えておられます。人間の問題で主に解決できないものは一つもありません。イエスはすべてのものの下に身を落とされたので(教義と聖約 122:8 参照)、わたしたちが日常の問題を乗り越えられるよう助ける方法を知っておられるのです。

主を信じる信仰とは、たとえ自分はすべてのことを理解していなくても、主はすべて御存じであると信じることです。ですから、わたしたちは「あらゆる思いの中で」主を仰ぎ見なければなりません。「疑っては〔なりません〕。恐れては〔なりません〕。」(教義と聖約 6:36)

主を信じる信仰とは、主がすべての国と民を治める力を持っておられると信じることです。イエスはあらゆる悪を阻む力を持っておられます。万物は主の御手の中にあります。この地球は主の正当な領地です。それにもかかわらず、そこに悪が入ることを許しておられるのは、わたしたちが善と悪のどちらかを選べるようにするためです。

イエスの福音は、人間のあらゆる問題や社会の病癰を治す<sup>かんべき</sup>完璧な処方せんです。

しかし主の福音は生活に応用して初めて効果を表します。ですから、わたしたちは「キリストの言葉をよく味わう」必要があります。「キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げる」からです(2 ニーファイ 32:3)。



「わたしについてきなさい。」(マルコ1:17)

主の教えを実行しないかぎり、主を信じる信仰を示していることにはなりません。

「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。……自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」(マタイ 22:37, 39) この主の教えにすべての人が従ったなら、世の中はどれほど変わることでしょうか。

では、「今日、個人や地域社会や国が様々な問題に直面し、窮地に陥っていますが、どうしたらよいのですか」という質問に、何と答えればよいでしょうか。イエスは簡単な処方せんを与えておられます。

「神を信じなさい。神がましますことと、神が天と地の万物を創造されたことを信じなさい。神はすべての知恵を備え、また天と地の両方で一切の権威を持っておられることを信じなさい。さらに、人は主が理解される事柄すべては理解しないということ信じなさい。……

あなたがたは、罪を悔い改めてその罪を捨て、神の御前<sup>みまへ</sup>にへりくだらなければならぬことを信じなさい。そして、神があなたがたを救<sup>ゆる</sup>してくださるように真心から求めなさい。これらのことをすべて信じるならば、必ずそれを実行しなさい。」(モーサヤ 4:9 - 10, 強調付加)<sup>17</sup>

## 5

わたしたちはイエス・キリストに似た者となろうと努めるときに  
最高の祝福と喜びを受ける

わたしたちの人生の目的の一つは、「何であろうと、主なる〔わたしたち〕の神が命じられるすべてのことを〔わたしたち〕がなすかどうか」を見るために試しを受けることです（アブラハム 3:25）。つまり、わたしたちは主の御心<sup>みこころ</sup>を学び、それを行わなければならないのです。そして、イエス・キリストの模範に従い、キリストに似た者とならなければなりません。

主よ、わたしに何をお望みでしょうか（使徒 9:6 参照）というパウロの言葉は、人生において欠くことのできない重要な問いかけです。……

わたしたちは、いつも主を覚え、主が与えてくださった戒めを守る、キリストに従う人をさらに多く必要としています。成功の度合いを測るための最も良い尺度は、一瞬一瞬をどれほど忠実に主の歩まれたように歩めるかです。<sup>18</sup>

信仰のためなら死をもいとわないと言いながら、信仰をしっかりと実践して生きようとしない人々がいます。キリストはわたしたちのために生き、死んでくださいました。わたしたちは主の模範に従うなら、贖罪<sup>しよくだい</sup>によって、あらゆる賜物<sup>たまもの</sup>の中で最も大なるものである永遠の命を得ることができます。永遠の命とは偉大な永遠の御方、すなわち天の御父と同じように生きることです。

キリストは「〔わたしたち〕はどのような人物であるべきか」と問いかけた後、わたしたちは主のようであればならないと言われました（3 ニーファイ 27:27）。

キリストの模範に忠実に従って生きる人こそ、最も偉大な人であり、最高の祝福と喜びを受ける人です。それはこの世的な富、権力、名声とは無縁のものです。人の偉大さや、受ける祝福や喜びを決める唯一の真の試験は、どれだけ主なるイエス・キリストに近い生き方ができるかということです。イエス・キリストは正しい道であり、完全な真理であり、豊かな命であられます。

わたしたちが何にも増して絶えず心の中で繰り返すべき問いかけはこれです。「主よ、わたしに何をお望みでしょうか。」（欽定訳使徒 9:6）この問いかけは、わたしたちの生活におけるあらゆる思いと行いに影響を及ぼすものです。この問いかけに対する答えは、キリストの光と聖霊を通してのみもたらされます。この両方に満たされて生活する人は幸せです。……

〔イエス・キリスト〕がわたしたちのためにしてくださったすべてのこと、また現在して下さっているすべてのことを考えると、その返礼としてわたしたちが主にさげることのできるものがあります。

キリストはその大いなる賜物として、わたしたちのために御自分の命をささげ、すべてを犠牲としてくださいました。そうであるとすれば、わたしたちは主へのささやかな贈り物として、今もまた将来も、自分の命をささげ、犠牲を払うべきではないでしょうか。<sup>19</sup>

キリストに率いられる人々は、キリストにすべてをささげます。……彼らの思いは主の御心にのみ込まれ(ヨハネ5:30 参照)、絶えず主に喜ばれる事柄を行います(ヨハネ8:29 参照)。彼らは進んで主のために命をささげようとするだけでなく、さらに重要なこととして、主のために生きることを望みます。

彼らの家に足を踏み入れれば、壁にかけてある絵、棚に置かれた本、流れている音楽、彼らの言葉そして行いから、彼らがクリスチャンであることが分かります。彼らはいつでも、どのようなことについても、どのような所においても、神の証人になります(モーサヤ18:9 参照)。キリストを思い起こし、あらゆる思いの中でキリストを仰ぎ見ます(教義と聖約6:36 参照)。キリストを念頭に置いて、心の愛情をとこしえにキリストに向けます(アルマ37:36 参照)。

彼らはほとんど毎週聖餐<sup>せいさん</sup>を取って、進んで神の御子の御名<sup>みな</sup>を受け、いつも御子を覚え、御子の戒めを守ることを、永遠の御父に新たに証明します(モロナイ4:3 参照)。

モルモン書の言葉を借りれば、彼らは「キリストの言葉をよく味わ[い]」(2ニーファイ32:3)、「キリストのことを話し」(2ニーファイ25:26)、「キリストのことを喜び」(2ニーファイ25:26)、「キリストによって生かされ」(2ニーファイ25:25)、「イエスを誇りとする」(2ニーファイ33:6)のです。換言すれば、彼らは主に自分自身をささげて、永遠の命を見いだすのです(ルカ17:33 参照)。<sup>20</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- わたしたちには救い主がどのようにして贖罪<sup>しよくざい</sup>を成し遂げられたのかを完全に理解することはできないが、なぜ成し遂げられたのかは理解できると、ベンソン大管長は教えています(第1項参照)。主が贖罪を成し遂げられた理由を理解することで、あなたの生活はどのように変わのでしょうか。
- 第2項を研究しながら、救い主の復活の影響について考えてください。主の復活はあなたの生活にどのような影響を及ぼしているのでしょうか。
- イエス・キリストの証<sup>あかし</sup>が「最も貴い祝福」であるのはなぜだと思いますか(第3項参照)。あなたにとって、救い主の証に雄々しくあるとはどういうことでしょうか。

- イエス・キリストを信じる信仰についてのベンソン大管長の言葉について深く考えてください（第4項参照）。キリストを信じる信仰はどのような点で「イエスが生きておられることを単に認めること」以上のものであると述べられているでしょうか。
- ベンソン大管長は、「キリストに率いられる」人々は進んで「主のために命をささげようとするだけでなく、さらに重要なこととして、主のために生きることを望〔む〕」と述べています（第5項）。あなたにとって、救い主のために生きるとはどういうことでしょうか。

### 関連聖句

ヨハネ 10：17 - 18；2 ニーファイ 9：20 - 24；31：20 - 21；モーサヤ 16：6 - 11；3 ニーファイ 27：20 - 22；モロナイ 7：33；教義と聖約 19：1 - 3，16 - 19；76：22 - 24；信仰箇条 1：3

### 学ぶ際のヒント

「福音を理解することによって喜びを感じると、学んだことを応用したいと思うようになります。理解していることと一致した生活をするよう努力してください。そうすることによって、あなたの信仰と知識と証は強められることでしょう。」（『わたしの福音を宣べ伝えなさい』19）

### 注

1. 「復活祭の意義」『聖徒の道』1993年4月号, 3
2. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 10
3. 「キリストのみもとに来て」『聖徒の道』1988年1月号, 90 - 92；「証」『聖徒の道』1989年2月号, 90 - 91 参照
4. 「証」91 参照
5. 「キリストのみもとに来て」90。「神によって生まれる」『聖徒の道』1989年10月号, 2も参照
6. 「キリストのみもとに来て」90
7. 「イエス・キリスト——救い主、贖い主」『聖徒の道』1990年12月号, 8 参照
8. 「人生は永遠である」『聖徒の道』1992年4月号, 4 参照
9. 「イエス・キリスト——救い主、贖い主」5 参照
10. 「イエス・キリスト——救い主、贖い主」4 参照
11. 「イエス・キリスト——私たちの神、救い主」『聖徒の道』1991年12月号, 4 参照
12. “Keeping Christ in Christmas,” *Ensign*, 1993年12月号, 4
13. 「イエス・キリスト——救い主、贖い主」5 参照
14. 「復活祭の意義」3 - 5 参照
15. 「イエス・キリスト——私たちの神、救い主」4 参照
16. 「イエスの証をなすに雄々しくあれ」『聖徒の道』1987年6月号, 2 参照
17. 「イエス・キリスト——救い主、贖い主」3 - 4, 6, 8 参照
18. 「主の歩みにならって」『聖徒の道』1989年1月号, 6, 7 参照
19. 「イエス・キリスト——<sup>たまもの</sup>賜と私たちへの期待」『聖徒の道』1987年12月号, 3, 4 参照
20. 「神によって生まれる」6 参照



最初の示現のメッセージは「地の面に住む御父のすべての  
子供たちに向けたメッセージであり、啓示」であった。



## ジョセフ・スミス、 主の御手みでに使われる者

「末日の預言者ジョセフ・スミスは主の御手に使われる者となって、新しい福音の神権時代、すなわちあらゆる福音の神権時代の中で最も大いなる最後の神権時代を開いたのです。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

1920年の初めにイギリスで専任宣教師として奉仕したとき、エズラ・タフト・ベンソン長老と同僚たちは、ベンソン長老が「教会に対する激しい反対」と呼んだものを経験した。ベンソン大管長は後に次のように述べている。

「新聞や雑誌、さらには反モルモン映画までがイギリスの至る所に広まっていました。」反対があまりに激しかったため、街頭集会の開催やパンフレットの配布など一部の伝道活動が中止された。「それでもわたしたちが働いていたイギリス北部では、サウスシールズ支部にとっても信仰深く、とても献身的で、とても忠実な人々がいました。彼らは聖餐会せいさんで話をしてもらいたいと、同僚とわたしを支部に招待してくれました。『隣人たちの多くは印刷物に書かれているような偽りを信じていません。お二人が来てくれるなら、小さな集会所を人でいっぱいにしましょう。』彼らはそう言いました。

そこでわたしたちは招待に応じ、準備を始め、わたしは背教について研究を始めました。それはわたしの好きな主題であり、彼らにとって必要だと思ったのです。わたしは熱心に研究し、この主題で15分の話ができると思いました。

小さな集会所を訪れると、礼拝堂は人でいっぱいでした。皆、幸せそうでした。開会行事の後、同僚が話し、次にわたしが、かつて一度も経験したことの無いほど思いのままに話しました。席に着いて時計を見ると、25分も話していました。しかも背教には触れることなく、背教について思い浮かべることさえありませんでした。わたしはジョセフ・スミスについて語りました。ジョセフが神の預言者であって、わたしはそれを知っていると証あかししました。キリストについての新しい証としてモルモン書が世に出たことについて話し、証を述べました。自分のしたことが分かったとき、わたしは涙をこらえることができませんでした。

集会が終わると、多くの聖徒たちが前に来て、ジョセフ・スミスについて話したことに対して感謝の意を表してくれました。彼らはこう言いました。『隣人たちの中に、「教会については、ジョセフ・スミス以外はすべて受け入れることができる」と言っている人たちがいるのです。』その後、まさにその隣人たちの何人かがやって来て言いました。『準備ができました。今晚、準備ができたのです。ジョセフ・スミスが神の預言者であるという証を受けました。』<sup>1</sup>

ベンソン大管長はジョセフ・スミスの召しについて証を述べる機会を生涯にわたって見だしていった。例えば、合衆国の農務長官を務めていたとき、あるラジオ局から放送で朗読する好きな聖句を選ぶように頼まれて、『高価な真珠』の「ジョセフ・スミス—歴史」の一部を選んでいる。<sup>2</sup>

何にも増して、ベンソン大管長は自分の同胞である聖徒たちに向かって確固とした力強い証を頻繁に述べた。次のように宣言している。「ジョセフ・スミスは生ける神の預言者でした。これまでに地上に生を受けた最も偉大な預言者の一人です。ジョセフ・スミスは大いなる福音の神権時代、すなわち主の再臨に備える、あらゆる神権時代の中で最も大いなる最後の神権時代の到来に当たって、神の御手に使われる者として働きました。」<sup>3</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

#### ジョセフ・スミスの最初の示現は、イエス・キリストの復活以降、この世における最も大いなる出来事であった

ジョセフ・スミスは年若いころから真理を探究していました。既存の諸教会の間の混乱に直面したジョセフは、どの教会が正しいかを神に尋ねることにしました。その祈りに答えて、まばゆい光の柱が現れたと、ジョセフは言っています。彼の言葉を読んでみましょう。

「その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」(ジョセフ・スミス—歴史 1:17)

ジョセフは2番目の御方、すなわちイエス・キリストに、どのキリスト教派が正しいかを尋ねました。そして、どの教派も間違っているから、そのいずれにも加わってはならないと言われたのです。<sup>4</sup>

御父と御子が地上に来られるとき、それはごく一握りの人々だけに関係する出来事ではありません。1820年に父なる神とその御子イエス・キリストが少

年預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されたときもそうでした。それは地の面に住む御父のすべての子供たちに向けたメッセージであり、啓示なのです。最初の示現は、主の復活以降にこの世で起こった最も大いなる出来事でした。わたしたちはこの示現についてあまりによく知っているために、その意義と重要性和重大さを十分に理解していないのではないかと、わたしは時々思うことがあります。<sup>5</sup>

預言者ジョセフ・スミスの最初の示現は、教会の基盤となる教義です。<sup>6</sup>

1820年に預言者が経験した出来事から明らかになった最もはっきりとした真理は、神の実在と、イエス・キリストが確かに復活されたという事実です。ジョセフは御父と御子にまみえ、御二方は栄光を受けた、はっきりと区別できる別個の御方であって、人が人に語るようにジョセフに語りかけられました。<sup>7</sup>

父なる神とその御子イエス・キリストは栄光を受けた御方として、わたしたちの時代に、すなわちこの神権時代に、この地上を再び訪れられました。そのことを知っていることを、わたしはへりくだって感謝します。御二方は確かに、少年預言者に御姿を現されました。……これは記録に残っている中で最も栄光に満ちた、父なる神とその御子の現れでした。<sup>8</sup>

## 2

### 新約聖書の預言にあるとおりに、 ジョセフ・スミスは新たな啓示と天使の訪れを受けた

一般に、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員の信仰は次の主張に基づいていると理解されています。すなわち、ジョセフ・スミスが神の預言者であること、また、モルモン書が世に出されたのは1823年から1827年にかけて天使の訪れを受けたことによるとジョセフが宣言していることです。

この主張を聞いて、現代の世の中に天使が地上を訪れるなどばかげていると反論する人々もいます。

聖書の中には、神は4千年以上もの間、啓示によって、また必要なときは天使の導きを通して、地上における御自身の教会の業を導かれたという証が載っています。<sup>あかし</sup>

ヨハネはイエス・キリストの再臨に至るまでの終わりの時の状態を述べた新約聖書の言葉の中で、救い主の再臨の前に、神の裁きの時が迫っているという警告が世の人々に与えられると預言しました。その警告は「永遠の福音」を告げ知らせる天使によってもたらされるはずでした。ヨハネの言葉を読んでみましょう。

「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、

大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め。』」（黙示 14：6 - 7）

黙示者ヨハネの証を受け入れる人なら、新たな啓示と天の使いの地上への訪れを待ち望んで当然です。

わたしたちは、この天の使いが 19 世紀の初頭、預言者ジョセフ・スミスに現れたことを厳粛に証します。神から遣わされた天使がわたしたちの時代に一人の預言者に姿を現したというこの宣言は、新約聖書にある預言と完全に符合するものであり、熱心に真理を探し求めているすべての人の心を引きつけることでしょう。<sup>9</sup>

1823 年 9 月 21 日の夜、一人の天使が預言者ジョセフ・スミスに現れました。その天使は名をモロナイといました。何世紀も前に……アメリカ大陸に住んでいた、偉大な文明を持つ二つの民の中に代々存在していた昔の預言者の最後の人物でした。<sup>10</sup>

---

### 3

---

#### モルモン書は、ジョセフ・スミスが預言者の召しを受けていたことを示す最もたぐいまれな証拠である

全能の神の代弁者であるというジョセフ・スミスの主張を裏付ける最もたぐいまれな証拠は、聖文の記録であるモルモン書を世に出したことでした。

モルモン書は古代アメリカ大陸の住民の記録であり、イエス・キリストがエルサレムで天に昇られた後、この大陸の人々を訪れ、教えと導きを施されたことが記されています。この記録が書かれた最も大切な目的は、後の時代の人々に、イエスがキリストであり、神の御子であられることを確信させることです。したがってモルモン書は、イエス・キリストの神性についての聖書と肩を並べるもう一つの証あかしとなっています。

ジョセフ・スミスはこの古代の記録を、ヨハネが預言したとおりに、天の使いから授けられました。ジョセフに現れたこの天使は、古代の記録がどこにあるかを教えました。その記録は金属の板に刻んだものであり、石の箱に入れて土の中に埋めてありました。時が至って、この若い預言者はその板と、それを翻訳するための道具を与えられました。そしてその記録は聖典として世に出されました。



預言の成就として、モロナイがジョセフ・スミスを訪れた。

また、ヨハネの証にもあるように、この書物には「永遠の福音」が載っています。そして今、その福音は宣教師によって世の人々に宣<sup>の</sup>べ伝えられているのです。

モルモン書の起源に関するわたしたちの証が確かなものかどうかを試してみたいと思います。モルモン書を読み、これらのことが真<sup>の</sup>実かどうかを天の御父に尋ねるのです。あなたの思いが真<sup>の</sup>摯なものであるなら、それが真実であるという聖霊による確認を受けることができると約束します。数多くの人々が、それが神からのものであることを知っていると、厳<sup>に</sup>粛に心から証しています。<sup>11</sup>

もしモルモン書が真<sup>の</sup>実の書物であるならば、イエスはキリストであり、ジョセフ・スミスは主の預言者であり、末日聖徒イエス・キリスト教会はまことの教会であって、この教会は今日預言者が啓示を受けて導<sup>に</sup>いていることとなります。<sup>12</sup>

---

## 4

---

神は預言者ジョセフ・スミスによって地上に再び御自分の王国を設立された

全世界のキリスト教徒たちが、神の王国が来るようにと何世紀にもわたって祈り続けてきました〔マタイ6：10 参照〕。そして、今がまさにその時であると、わたしたちは心から公に宣言します。<sup>13</sup>

14歳の少年が聖なる森でささげた祈りによって、新しい福音の神権時代が開かれました。<sup>14</sup>

神はこの地上に再び御自分の王国を設立し、預言を成就されました。……

……ジョセフ・スミスは再びその王国を、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会を設立するために神から召されました。わたしはジョセフがこの業を成し遂げたこと、基礎を据えたこと、そして偉大な末日の業を続けるための鍵と力を教会にゆだねたことを証します。この業はジョセフが全能の神の指示の下に始めたものです。<sup>15</sup>

ジョセフ・スミスはほかにも、バプテスマのヨハネやペテロとヤコブとヨハネなどの訪れを受け、神の御名によって行動する権能を授かりました（ジョセフ・スミス—歴史1：68－72；教義と聖約27：5－13 参照）。この末日に、神の王国である教会、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会が、先の時代の教会にあったあらゆる賜物、権利、力、教義、役員、祝福とともに回復されました（教義と聖約65章；115：3－4 参照）。<sup>16</sup>

預言者ジョセフは、神の御手に使われる者として出て行って教会を組織するように命じられました。また、イエス・キリストの神性についてのもう一つの証として、神聖な記録から取られたモルモン書を世に出すように命じられました。……

この福音の回復、すなわち光と真理を再びもたらす業は、神のすべての子供たちの益となり祝福となるように備えられたものです。ですから、この教会の宣教師たちはへりくだり、感謝の念を胸に世界に出て行って、真理からの背教が起こったことと、神の慈しみによって天が再び開かれ、預言者ジョセフ・スミスを通して福音が人に示されたことを宣言するのです。<sup>17</sup>

---

## 5

---

ジョセフ・スミスは死に至るまでも忠実で誠実であった

教会の初期の発展と同時に、反対と迫害の気運が高まってきました。小さな「からし種」がまかれた場所ではどこでも、その生長を妨げようとする動きが起こりました。<sup>18</sup>

その14歳の少年は、世の反対に遭ってもあくまで忠実でした。神はこの少年を選ばれたとき、御自分の息子のことを御存じでした。この少年が死に至るまでも忠実で誠実であることを御存じだったのです。<sup>19</sup>

ある人々は〔ジョセフ・スミス〕の証<sup>あかし</sup>をひどく侮辱し、偽りの話を作りあげ、ジョセフに対する迫害をあおり立て始めました。若い預言者は昔の使徒パウロと同じように、自分の証を取り消すことなく、次のように言って自分の主張を擁護しました。

「わたしは示現を見た。わたしはそれを知っていた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知っていた。わたしはそれを否定できず、またそうする勇氣もなかった。少なくともわたしは、そのようにすれば自分が神に対して罪を犯し、罪の宣告を受けるということを知っていた。」(ジョセフ・スミス—歴史 1: 25)<sup>20</sup>

預言者ジョセフ・スミスは進んで死に向かって行きました。ジョセフは自らの命をもって、すなわち自らの血をもって自分の証を結び固めたのです。あの運命の日にイリノイ州ノーブーで、ジョセフはカーセージの監獄と自らの殉教へと向かう途中、自分の町と愛する人々の方を振り返って、次のように宣言しました。「ここは天の下で最も美しい場所であり、この地の民は最も善良な人々です。ただ、彼らは自分たちを待ち受けている試練についてほとんど何も知りません。」〔*History of the Church*, 第6巻, 554〕

後に預言者は感情を込めて、しかし穏やかに、そして勇敢に言いました。「わたしはほふり場に引かれて行く小羊のように行く。しかし、わたしは夏の朝のように心穏やかである。わたしの良心は、神に対してもすべての人に対しても、責められることがない。もし彼らがわたしの命を奪うならば、わたしは罪のないまま死ぬのであり、わたしの血は報復を求めて地から叫ぶであろう。そして、『彼は冷酷に殺害された』と言われるだろう。」〔*History of the Church*, 第6巻, 555〕<sup>21</sup>

こうして預言者ジョセフ・スミスは地上の生涯における最後の場面を迎え、神から定められた現世での使命を果たしました。この現世での使命は完全に遂げられるまで終わらないものであったことを、ジョセフは明らかにしたのです。「世の初めからほふられている小羊」であられる救い主の使命のように〔黙示 13: 8 参照〕、ジョセフは確かにその偉大な使命に予任されていました。<sup>22</sup>

6

ジョセフ・スミスは今日、あらゆる福音の神権時代の中で  
最も大いなるこの最後の神権時代の長として立っている

わたしはジョセフ・スミスが、真理のために殉教はしたものの、今もお生きていて、あらゆる福音の神権時代の中で最も大いなるこの神権時代の長として、永遠にわたってその位にあることを知っています。<sup>23</sup>

ジョセフ・スミスのメッセージ、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会のメッセージ、モルモン教のメッセージは、この世で最も重要なメッセージです。そして預言者ジョセフ・スミスは、今日生きていて、この地上における指導に関して引き続き重要な役割を担っています。<sup>24</sup>

預言者の地上での使命の重要性を理解するには、それを永遠の光に照らして見る必要があります。ジョセフは、アブラハムが説明した「高潔で偉大な者たち」の中にいました。

「さて、主はわたしアブラハムに、世界が存在する前に組織された英知たちを見せてくださった。そして、これらすべての中には、高潔で偉大な者たちが多くいた。

神がこれらの者を見られると、彼らは良かった。そこで、神は彼らの中に立って言われた。『わたしはこれらの者を、治める者としよう。』神は霊であったこれらの者の中に立って、見て、彼らを良しとされたからである。また、神はわたしに言われた。『アブラハム、あなたはこれらの者の一人である。あなたは生まれる前に選ばれたのである。』」（アブラハム 3：22 - 23）

ジョセフ・スミスもそうでした。彼もそこにいました。高潔で偉大な者たちとともに会議の席に着いていました。誉れと栄誉において卓越した位置にいたジョセフが、「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」業、すなわち御父のすべての子供たちを救うという主の偉大な業の計画と実施に携わったことは、疑うべくもありません〔モーセ 1：39 参照〕。ジョセフの使命は、過去に地上にやって来たすべての人、当時地上に住んでいたすべての人、後に生まれてくる無数の人々に影響を及ぼすものでした。

預言者ジョセフ・スミスはこの永遠の事実を次のような言葉で明らかにしています。「世に住む人々を教え導く召しを受ける人は皆、世界が存在する前に天上の大会議においてその目的のために聖任を受けました。わたしはその大会議において、まさにこの職に聖任されたと思います。わたしが望んでいるのは、わたしが神の僕しもべであり、またこの民が神の民であるという証あかしをしっかりと持つことです。」〔*History of the Church*, 第 6 巻, 364 参照〕……

この世と来るべき世における最も大いなる働きは、運命を切り開く人であり、神の預言者であるジョセフ・スミスの業と使命に直接関連しています。その業とは、人の救いと永遠の命です。その偉大な目的のために、この地が創造され、神の預言者たちが召され、天の使者たちが遣わされるのであり、神聖で重要な出来事においては、わたしたち全員の御父であられる神さえもが、御自身を低くして地上を訪れ、御自分の愛する御子を紹介されるのです。

預言者ジョセフ・スミスは単に「高潔で偉大な者たちの一人」であっただけでなく、過去においても、そして今日も、天からこの地上の重要な事柄に目を配っています。なぜなら、御父の下でこの世界の神であられる主の目にあっては、すべてが一つの偉大な計画であって、その中で預言者ジョセフは重要な役割を担っているからです。そしてすべてのことが神の永遠の神権と権能によって行われるのです。<sup>25</sup>

わたしは皆さんに証します。ジョセフ・スミスは昔も今も神の預言者であり、あらゆる時代を通じて真に偉大な預言者の一人です。運命を切り開く人、人格者、勇気ある人、深い霊性を備えた人、神のような主の預言者であり、史上まれに見る高潔で偉大な者です。<sup>26</sup>

そうです、末日の預言者ジョセフ・スミスは主の御手みてに使われる者となって、新しい福音の神権時代、すなわちあらゆる福音の神権時代の中で最も大いなる最後の神権時代を開いたのです。<sup>27</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ジョセフ・スミスの最初の示現が「主の復活以降……最も大いなる出来事」なのはなぜだと思いますか（第1項参照）。この出来事はあなたの人生にどのような影響を及ぼしてきたでしょうか。
- モロナイがジョセフ・スミスを訪れることを黙示者ヨハネが預言していたという知識は、あなたにとってどのような助けとなるでしょうか（第2項参照）。
- ベンソン大管長は、モルモン書はジョセフ・スミスが預言者であることを示す「最もたぐいまれな証拠」と断言しています（第3項参照）。モルモン書の研究を通して、ジョセフ・スミスの使命についてのあなたの証あかしはどのようなものになってきたでしょうか。
- 第4項にあるベンソン大管長の証の言葉について深く考えてください。福音が回復されたことによってあなたやあなたの家族が受けてきた祝福には、どのようなものがあるでしょうか。

- 迫害に対処することについて、第5項からどのようなことが学べますか。人々がわたしたちの証に疑問を投げかけてきたときに助けとなることとして、ジョセフ・スミスの模範からどのようなことが学べるでしょうか。
- ジョセフ・スミスが予任されていたことについて、ベンソン大管長は「ジョセフの使命は、過去に地上にやって来たすべての人、当時地上に住んでいたすべての人、後に生まれてくる無数の人々に影響を及ぼすものでした」と述べています(第6項参照)。ジョセフ・スミスの使命はこれまでに地上に生を受けたすべての人にどのような影響を及ぼしてきたでしょうか。あなた自身はどのような影響を受けてきたでしょうか。

### 関連聖句

イザヤ 29:13 - 14; 2 ニーフアイ 3:3 - 15; 3 ニーフアイ 21:9 - 11; 教義と聖約 5:9 - 10; 135 章; ジョセフ・スミス—歴史

### 教える際のヒント

「参加者に、その章について個人学習で学んだことを発表してもらおう。その週に数人の参加者に連絡を取り、学んだことを発表する準備をしておくように依頼するとよいであろう。」(本書 vii ページ)

### 注

1. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988 年), 206, 207
2. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography* (1987 年), 292
3. Conference Report, 1961 年 4 月, 114
4. 「私たちの時代の予言者, ジョセフ・スミス」『聖徒の道』1982 年 4 月号, 99 参照
5. *God, Family, Country: Our Three Great Loyalties* (1974 年), 57
6. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 101
7. *Come unto Christ* (1983 年), 74
8. Conference Report, 1958 年 4 月, 60
9. 「私たちの時代の予言者, ジョセフ・スミス」98 参照
10. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 46
11. 「私たちの時代の予言者, ジョセフ・スミス」98 - 99 参照
12. 「モルモン経は神のみ言葉である」『聖徒の道』1988 年 5 月号, 6 参照
13. 「神の王国を出で行かせたまえ」『聖徒の道』1978 年 10 月号, 49 参照
14. Conference Report, 1956 年 10 月, 108
15. 「世に与えるメッセージ」『聖徒の道』1976 年 2 月号, 61 参照
16. 「証」『聖徒の道』1989 年 2 月号, 91 参照
17. Conference Report, 1949 年 10 月, 27, 28
18. *Come unto Christ*, 81
19. *God, Family, Country*, 38
20. 「私たちの時代の予言者, ジョセフ・スミス」99 参照
21. *God, Family, Country*, 37 - 38
22. *God, Family, Country*, 29
23. 「世に与えるメッセージ」61 参照
24. *God, Family, Country*, 40 - 41
25. *God, Family, Country*, 30 - 31
26. *God, Family, Country*, 37
27. *God, Family, Country*, 39



## 御言葉みことばの力

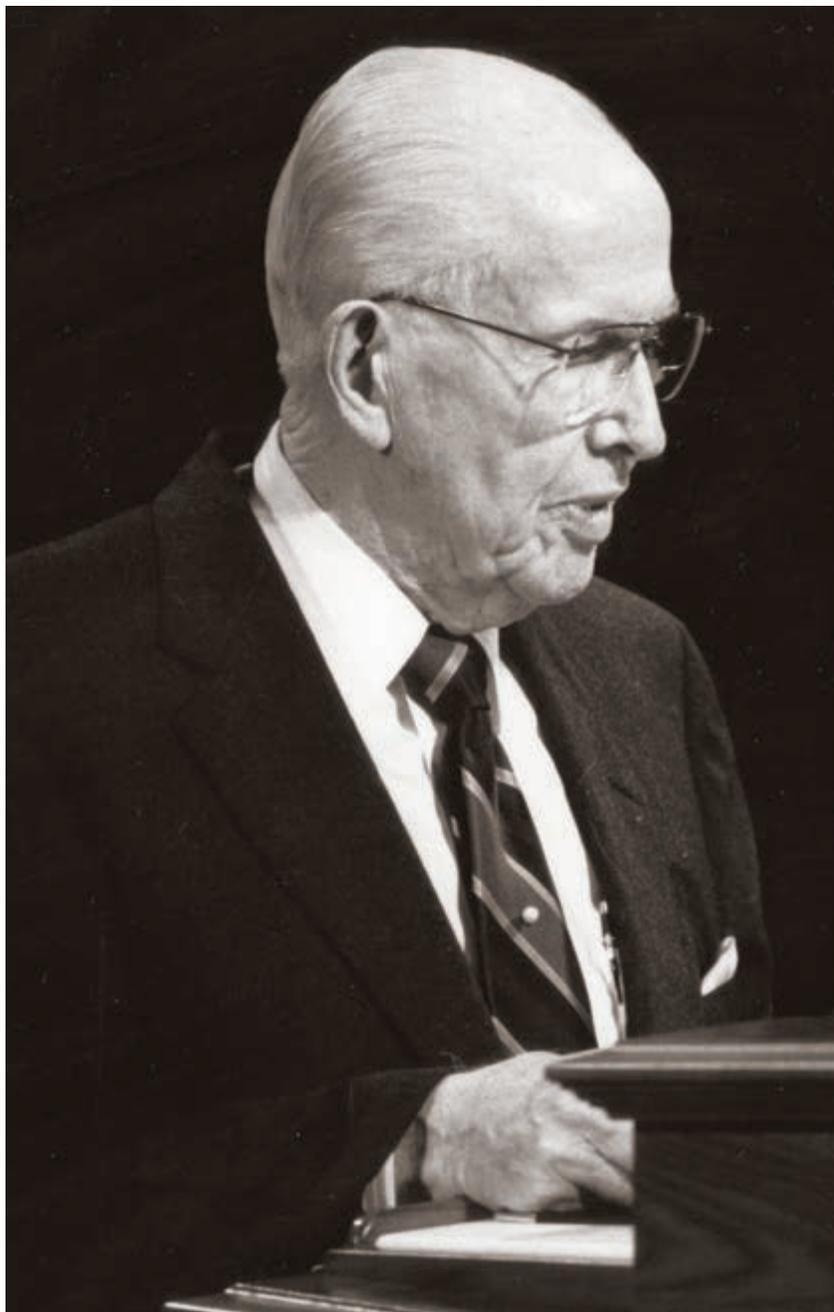
「聖文や生ける預言者の言葉、そして個人の啓示の中に  
見いだされる神の言葉には、聖徒を強め、御霊みたまという武具で  
守る力があります。その結果、聖徒たちは悪をはねのけ、  
善を固く守って、人生に喜びを見いだすことができるのです。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

トーマス・S・モンソン大管長は、大管長会でエズラ・タフト・ベンソン大管長の第二顧問を務めていたときに次のように述べている。「ベンソン大管長は自分の知るところとなった問題の本質をすぐに把握します。長い時間をかけて検討するまでもなく、主の靈感による導きを受けて決定を下します。今日、教会が全世界で発展を続け、たくさんの問題が大管長会に寄せられる状況にあって、個々の事項を簡潔に処理して問題の核心に迫るこの能力は、教会を管理運営するうえできわめて重要です。」<sup>1</sup>

1986年4月4日、ベンソン大管長は大管長として出席する最初の総大会に関連して開かれた、神権指導者のための特別集会を管理した。出席した兄弟たちはベンソン大管長の「個々の事項を簡潔に処理して問題の核心に迫る」能力を目の当たりにした。集まった人たちに向けた話の中で、ベンソン大管長は誘惑や家族を苦しめている問題、戒めを守ることや教会での義務を果たすことの難しさなど、末日聖徒が直面する数々の困難について述べ、これらの困難に対する解決策であると自らが見なしているものを紹介した。

その神権指導者会では説教の概略しか話さなかったため、ベンソン大管長は教会機関誌の大会号に説教の全文を掲載するように要請した。本章にはその全文が収められている。ベンソン大管長は神権指導者に向けて語っているが、教えている原則は教会のすべての会員に当てはまるものである。



エズラ・タフト・ベンソン大管長は神の言葉の力について頻繁に証した。あかし

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

#### 現代の厳しい困難に立ち向かうとき、 わたしたちは神の言葉にしっかりつかまらなければならない

愛する兄弟の皆さん、このように多くの神権指導者を見渡し、皆さんが奉仕している無数の聖徒たちのことを思い、また皆さんが全体としてどれほど多くの献身と忠誠を示しているかを考えると、胸が躍ります。今日、この集まりのように一つの義にかなった目的のために集まる人々はほかに世界中のどこにもなく、今晚この場で皆さんが持っているような力を持つ人々の集まりは、政治的、宗教的、軍事的なものを見せず、ほかにありません。

現代は厳しい困難の時代です。わたしたちは「平和が地から取り去られ、悪魔が自分の領域を支配する力を持つ」と主が言われた時代に生きています（教義と聖約 1:35）。また、黙示者ヨハネが次のように予見した時代に生きています。「龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った。」（黙示 12:17）龍はサタンであり、女はイエス・キリストの教会を表しています。証を持ち、戒めを守ろうとしている教会員に対して、サタンは戦いを挑んでいます。そして多くの教会員は忠実で堅固であり続けていますが、揺らいでいる人々もいて、倒れる人々もいます。サタンとの戦いで聖徒たちの一部が打ち負かされるというヨハネの預言のとおりになってしまっている人々もいます（黙示 13:7 参照）。

預言者リーハイもまたその偉大な命の木の示現の中でわたしたちの時代を見ました。リーハイは多くの人々が悪魔の誘惑の象徴である暗黒の霧の中を盲目の状態でさまよっているのを見ました（1 ニーファイ 12:17 参照）。また、「禁じられた道」に踏み込む人々、汚れた川におぼれる人々、「見知らぬ道」に迷う人々を見ました（1 ニーファイ 8:28, 32）。薬物ののろいが蔓延し、有害なポルノグラフィーをはじめとした不道徳が氾濫していることについて読むとき、これこそリーハイが語った禁じられた道や汚れた川であることを疑う人がいるでしょうか。

リーハイが見たこれらの滅びていった人々は、この世の者たちばかりではありませんでした。ある人々は木のところまでやって来てその実を食べていました。つまり、リーハイが見た姿の見えなくなった人々の中には、今日の教会員の一部も含まれているのです。

使徒パウロもまたわたしたちの時代を見て、その時代には多くの者が神をそしり、不正直で、残酷で、無情で、高慢で、快樂を求めると表現しています（2テ

モテ3:1-7参照)。また次のように警告しています。「悪人と詐欺師とは人を惑わし人に惑わされて、悪から悪へと落ちていく。」(2テモテ3:13)

昔の預言者たちによるこのような恐ろしい預言は、もしこの同じ預言者たちが同時にその解決法を示していなかったならば、ひどい恐怖と失望を招いていたことでしょう。彼らの靈感あふれる勧告の中に、わたしたちは現代の霊的な危機に対する答えを見いだすことができるのです。

リーハイはその夢の中で、暗黒の霧の中で人々を導く鉄の棒を見ました。もしその棒にしっかりつかまるならば、人々は汚れた川を避け、禁じられた道に近づかず、滅びに至る見知らぬ道に迷わないようにすることができるのでした。後にリーハイの息子のニーファイは、鉄の棒の象徴についてはっきりと説明しています。レーマンとレムエルが「鉄の棒は何を意味するのか」と尋ねたとき、ニーファイは次のように答えました。「それは神の言葉であって、[次の約束に注目してください]だれでも神の言葉に聞き従って、それにしっかりつかまる者は、決して滅びることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはない。」(1ニーファイ15:23-24, 強調付加) 神の言葉はほかのどんな実よりも好ましい実へとわたしたちを導いてくれるだけではありません。わたしたちは神の言葉の中に、また御言葉を通して、誘惑に打ち勝つ力、すなわちサタンとその使いの業を阻む力を見いだすことができるのです。

パウロもリーハイと同じことを述べています。将来(パウロにとっては将来ですが、わたしたちにとっては現在です)起こる恐ろしい罪悪について描写した後、テモテに次のように述べています。「しかし、あなたは、自分が学ん[だ]ところに、いつもとどまっていなさい。……

[あなたは]幼い時から、聖書に親しみ、それが……<sup>すくい</sup>救に至る知恵を、あなたに与えうる書物であることを知っている。」(2テモテ3:14-15, 強調付加)

愛する兄弟の皆さん、これは現代の厳しい困難に対する答えです。聖文や生ける預言者の言葉、そして個人の啓示の中に見いだされる神の言葉には、聖徒を強め、御霊<sup>みたま</sup>という武器で守る力があります。その結果、聖徒たちは悪をはねのけ、善を固く守って、人生に喜びを見いだすことができるのです。<sup>2</sup>

---

## 2

---

### 個々の会員や家族が熱心に聖文を読むとき、 教会の活動の他の側面はおのずと成し遂げられる

神権指導者の皆さんに申し上げます。リーハイやパウロやそのほかの預言者たちの勧告に目を向けてください。その勧告の中に、自分の羊の群れを周囲の「強欲なおおかみ」から守ろうとするときに直面する難題への答えを見いだ

すことでしょう(マタイ7:15;使徒20:29参照)。皆さんも自分のワードやステークの会員たちのことをとても心配し、彼らのために多くの時間と労力を費やしていることと思います。指導者として選ばれている皆さんには多くのことが求められています。皆さんの肩にはたくさんの重荷が置かれています。教会のプログラムを運営し、会員たちと面接し、助言し、ステークやワードの財政的な諸事が正しく処理されるように計らい、福祉プロジェクトを管理し、建物を建築し、そのほかにも時間を要する多くの活動に従事するように求められています。

これらの活動はどれもないがしろにしてはならないものですが、皆さんが自分の仕える人たちのために行える最も重要なことではありません。ある活動は他の活動よりも大きな霊的な祝福をもたらすことを、近年、わたしたちは何度も皆さんに助言してきました。1970年、ハロルド・B・リー大管長は地区代表の集まりで次のように述べています。

「会員たちは真理と深遠な教えに満ちた純粋なままの福音を渴望していると、わたしたちは確信しています。……大切なことを忘れてるように思える人々がいます。それは、あらゆる悪に対抗するために主がわたしたちに与えてくださっている最も強力な武器は、主御自身の宣言された言葉であり、聖文の中に見いだされる救いに関する単純明快な教義であるということです。」(地区代表セミナー、1970年10月1日、6)

1976年の大管長会メッセージの中で、[スペンサー・W・キンボール]大管長は次のように述べています。

「わたしは、だれもが人生のいずれかの時点で、聖文の価値を自分で見いださなければならず、それも一度だけでなく、何度も繰り返し見いださなければならないと確信しています。……

主はこれらの聖文を何の意味もなくわたしたちに与えておられるわけではありません。『多く与えられた者からは多く求められ[る]』のです(ルカ12:48)。これらの聖文が与えられているということは、それに対して責任があることを意味します。主が命じておられるように聖文を研究しなければなりません(3ニーファイ23:1-5参照)。そしてわたしたちの生活が、聖文によって治められるようにしなければなりません。』(『聖徒の道』1976年9月号、447参照)

1982年4月、ブルース・R・マッコンキー長老は地区代表たちに、わたしたちの働きにおいて聖文を優先しなければならないと語りました。「わたしたちは様々なプログラムや統計や傾向、建物や土地や富、そして自分たちの優れた働きをはっきり示すような目標を達成することにばかり捕らわれて、『律法の中でもっと重要な[もの]を見のがして』しまっています。……人はどんなに管理運営の手腕があろうとも、どんなに雄弁に考えを述べることができようとも、またこの世の事柄についてどんなに博識であろうとも、もし聖文を研究せず、書か



「個々の会員や家族が……熱心に聖文を読むとき」に大きな祝福がもたらされる。

れていることについてよく考え、祈るという代価を払わなければ、受けられるはずの甘美な御霊のささやきを受けることはできないでしょう。」(地区代表セミナー, 1982年4月2日, 1-2)

その同じ日に、ボイド・K・パッカー長老はステーク会長と地区代表に向かって次のように述べています。「建物や予算、報告書、プログラム、手続きはとても大切です。しかしそうしたものだけでは、必要不可欠な霊的な養いは提供されませんし、主から与えられている務めを達成することはできません。……ほんとうの霊的な養いをもたらす正しい事柄の中心となるものは聖文です。」(ステーク会長および地区代表との集会, 1982年4月2日, 1-2)

これらの靈感を受けた賢明な兄弟たちの話に加え、わたしも皆さんに申し上げます。神権指導者として皆さんにできる最も大切なことの一つは、熱心に聖文を読むことです。一生懸命に調べ、キリストの言葉を味わってください。教義を学び、聖文の中に見いだされる原則を自分のものにしてください。皆さんの召しにこれ以上に大きな利益をもたらすものはほかにありません。皆さんが奉仕するとき、これ以上に豊かに靈感を得る方法はほかにありません。

ただし、大切ではあっても、それだけでは十分ではありません。教会員の間で有意義な聖文研究が行われるように促すための取り組みや活動も行わなければなりません。わたしたちはよくステーキをもっと活発な状態にしようといへんな努力をします。聖餐会せいさんの出席率を上げるために一生懸命働きます。伝道に出る若い男性の割合を高くしようと働きます。神殿で結婚する人を増やそうと努力します。これらの努力は立派なことですし、王国の発展のために大切なことです。けれども、個々の会員や家族が定期的に絶えず熱心に聖文を読むとき、こうしたそのほかの分野の活動はおのずと成し遂げられることでしょう。証あかしが増し、決意が強まることでしょう。家族が強められ、個人の上に啓示が注がれることでしょう。<sup>3</sup>

---

### 3

---

#### 神の言葉を研究するとき、わたしたちは日々の生活における 導きや心の癒しいよ、欺きを避け誘惑に打ち勝つ力を得る

預言者ジョセフ・スミスはこのように語っています。『「モルモン書」はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。』(モルモン書、序文、強調付加) これこそわたしたちがワードやステーキの会員に望んでいることではないでしょうか。会員たちが神に近づくことを、わたしたちは願っているのではないのでしょうか。そうであるなら、キリストについてのこのすばらしい末日の証あかしを熱心に研究するように、可能なかぎりの方法で会員たちに勧めてください。

聖文を研究し調べることは、主から課せられた重荷ではなく、すばらしい祝福であり機会です。そのことを聖徒たちが理解するように助ける必要があります。主の言葉を研究することで受けられる恵みについて、主御自身が言われたことに注目してください。偉大な預言者であり指導者であったヨシュアに、主は次のように言われました。

「この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜もそれを思い、そのうちにしるされていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、あなたの道は栄え、あなたは勝利を得るであろう。」(ヨシュア 1: 8、強調付加)

主がヨシュアに約束されたのは、物質的な富や名声ではなく、義のうちに栄えることでした。そして、人生で最も重要なこと、すなわち真の喜びの探究において勝利を得ることでした(2 ニューファイ 2: 25 参照)。

皆さんのステーキには、罪や悲劇のために挫折し、絶望に陥っている会員がいないでしょうか。そのような人に手を差し伸べ、その傷を癒し、悩める心を

慰める方法を知りたいと切に望んだことはないでしょうか。預言者ヤコブは次のすばらしい約束の中で、まさにその方法を教えています。「あなたがたの妻子は、喜びをもたらす神の御言葉、まことに傷ついた心を癒す御言葉を聞こうとして、ここに来た……。」(モルモン書ヤコブ2:8, 強調付加)

今日の世の中には、最も善良な会員でさえ心を奪われ、過ちを犯し、惑わされかねない魅力的な考え方があふれています。学生たちは時々この世の教えに夢中になって福音の教義に疑問を抱くようになることがあります。皆さんは神権指導者として、人を惑わすそのような教えに対して会員たちが防備を固めるのをどのように助ければよいでしょうか。救い主はオリブ山での偉大な説教の中で、その答えを与えておられます。主は次のように約束されました。「だれでもわたしの言葉を大切に蓄える者は、惑わされることがない。」(ジョセフ・スミス—マタイ1:37, 強調付加)

聖文には御言葉の価値について類似した約束がたくさん記されています。皆さんのところには、人生の指針や導きを求めている会員がいないでしょうか。詩篇には次のように書かれています。「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です。」(詩篇119:105) ニーファイは、キリストの言葉を味わうときに「あなたがたがなすべきことをすべて告げ[られるであろう]」と約束しています(2 ニーファイ32:3)。

皆さんの群れの中には、深く罪に陥っていて、立ち直る必要のある会員がいないでしょうか。ヒラマンはそのような人にこう約束しています。「まことに、望む者はだれでも、神の言葉を手に入れることができるということも、わたしたちに分かるのである。この神の言葉は生きていて力があり、悪魔の悪知恵とわなと策略をことごとく絶つ。」(ヒラマン3:29)

義にかなった成功、欺きを避け誘惑に打ち勝つ力、日々の生活における導き、心の癒し。これらは主がその言葉のもとに来る者に与えておられる約束のほんの一部にすぎません。主が約束を果たされないことがあるのでしょうか。わたしたちが主の言葉に固くつくときにこれらのものが与えられると主が言われるならば、確かにその祝福はわたしたちのものとなるはずです。けれども、もしそのようにしなければ、祝福は失われてしまうかもしれません。どんなに一生懸命にほかのことを行っても、聖文の中にしか見いだせない祝福があります。命の木に向かって暗黒の霧の中を進むに当たって、主の言葉のもとに来て、それにしっかりつかまることによるのみ受けられる祝福があるのです。<sup>4</sup>

## 4

## 主の言葉は価値ある賜物であり、軽々しく扱ってはならない

もしも主が与えてくださっているものをないがしろにするならば、わたしたちはまさに自分たちが求めている力と祝福を失うことになるかもしれません。初期の聖徒たちに向けた厳かな警告の中で、主はモルモン書について次のように述べておられます。「不信仰のために、また自分の受けたものを軽々しく扱ったために、あなたがたの思いは過去に暗くなることがあった。

この虚栄と不信仰は全教会に罪の宣告を招いた。

この罪の宣告はシオンの子ら、まことにすべての者のうえにある。

彼らが悔い改めて、新しい聖約、すなわち『モルモン書』……を思い起こ〔す〕まで、彼らは依然としてこの罪の宣告の下にある。」(教義と聖約 84 : 54 - 57)

兄弟の皆さん、主の御手より受けた大いなるものを軽々しく扱うことのないようにしましょう。主の言葉は主がわたしたちに与えてくださった最も価値ある賜物の一つです。聖文を研究すると改めて決意してください。毎日熱心に聖文を読み、そうすることで御霊の力を受けて召しを果たすようにしてください。家族で聖文を読み、子供たちに聖文を愛し大切にするよう教えてください。その後、教会員が皆さんの模範に従うように、祈りをもって、ほかの人々と話し合いながら、可能なかぎりの方法で励ましてください。そうするならば、皆さんはアルマと同じように、次のことを理解するでしょう。「御言葉〔に〕は民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、まことにそれは、剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼ〔す。〕」(アルマ 31 : 5)

アルマのように、わたしは皆さんに申し上げます。「〔皆さんは〕神の言葉の力を使うのが望ましい〔のです。〕」(アルマ 31 : 5)。<sup>5</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ベンソン大管長が「現代の厳しい困難に対する答え」であると述べているものについて考えてください(第1項)。この答えから、直面する困難に立ち向かう際にどのような助けが得られるでしょうか。
- 「個々の会員や家族が定期的に絶えず熱心に聖文を読むとき」に生じる結果としてベンソン大管長が挙げていることを読んでください(第2項)。聖文研究を通してそのような結果が得られるのはなぜだと思いますか。

- ベンソン大管長は、聖文研究は祝福であって重荷ではないと述べています（第3項参照）。あなたやあなたの家族は聖文研究を通してどのような祝福を受けてきたでしょうか。聖文研究を重荷に感じている人に、あなたならどのような助言をしますか。
- 神の言葉を軽々しく扱うとき、どのような危険にさらされるでしょうか（第4項参照）。神の言葉にもっと注意を向けるために、どのようなことができるでしょうか

### 関連聖句

使徒 17:11; 2テモテ 3:16 - 17; 1ニーファイ 19:23 - 24; アルマ 32:21 - 43; 教義と聖約 18:33 - 36; 21:4 - 6; 68:1 - 4

### 学ぶ際のヒント

「大勢の人々は、……夜の眠りから覚めた後、朝勉強するのがいちばんよいと考えています。また、一日の仕事や心配事が一段落した静かな夜のひとときに勉強……する方がよいという人もいます。大切なのは、いつ勉強するかということよりも、いつも決まった時間を勉強のために確保することでしょう。」（ハワード・W・ハンター「聖典を読む」『聖徒の道』1980年3月号、87 - 88 参照）

### 注

1. トーマス・S・モンソンの言葉、シェリー・L・デュー、*Ezra Taft Benson: A Biography* (1987年)、487 - 488で引用
2. 「み言葉の力」『聖徒の道』1986年7月号、79 - 80 参照
3. 「み言葉の力」80 - 81 参照
4. 「み言葉の力」81 - 82 参照
5. 「み言葉の力」82 参照



## モルモン書 —— わたしたちの宗教のかなめ石

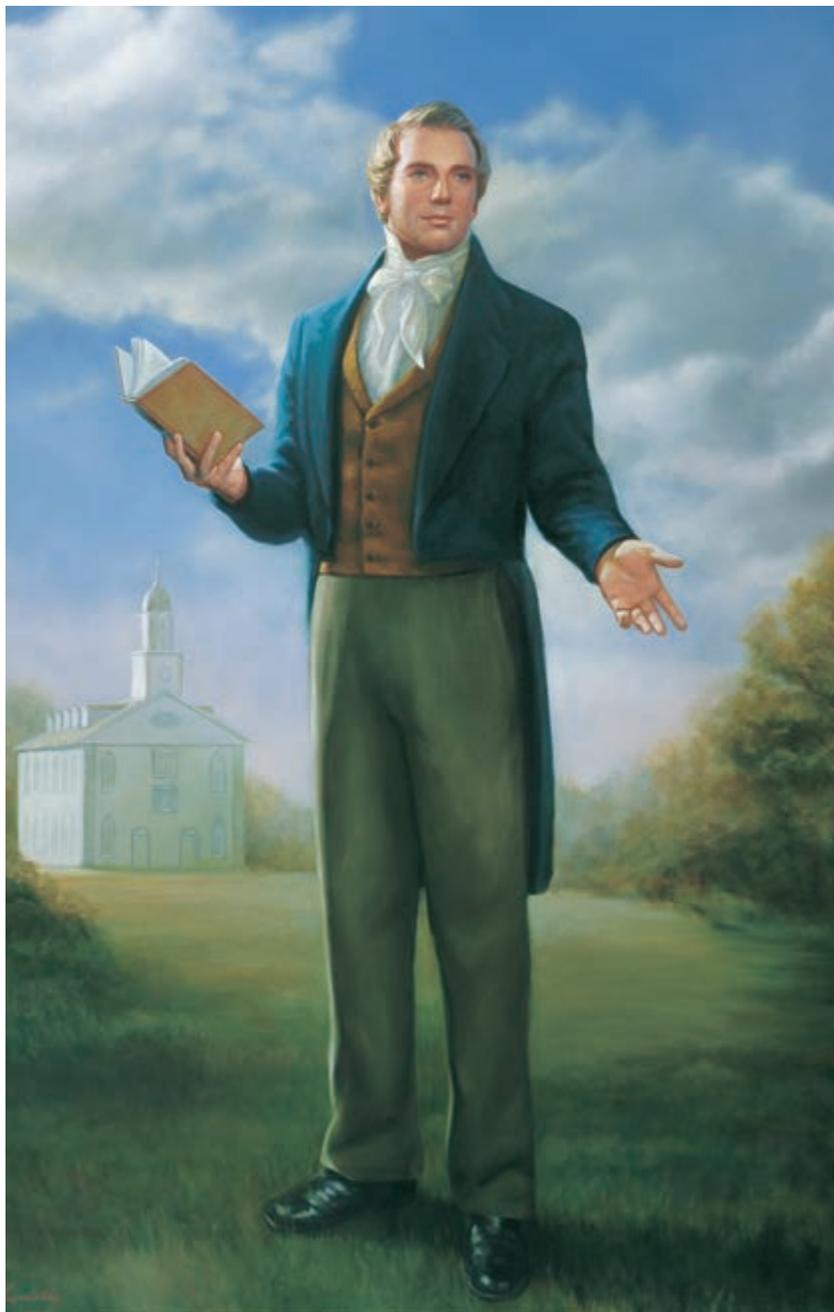
「わたしたちの心の奥底には、神に近づきたいという願望があるのではないのでしょうか。……そうだとしたら、モルモン書を読めば、ほかのどんな本を読むよりも、その願いがかなえられます。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

1986年1月5日、エズラ・タフト・ベンソン大管長は、バージニア州アナンデルで大管長になって初めてのステーキ大会を管理していた。出席していた末日聖徒たちが、大管長の話聞いて「感動していることは、手に取るよう分かりました。」説教の中で、「モルモン書には人の生き方を変え、人々をキリストのもとに導く力があると証したのです。」大管長は、「この聖文の書を研究するようにという励ましのチャレンジ」を与えた。<sup>1</sup>

このメッセージを伝えるのは、ベンソン大管長の奉仕の業の中でこれが初めてではない。十二使徒定員会の会員だったころもモルモン書を研究してその教えに従うよう、よく末日聖徒に勧めていた。<sup>2</sup>しかし、大管長になってからは靈感を受けてこの点をさらに強調するようになったのである。こう言っている。「主は教会を財政的な束縛から解放放つために、御自身の僕ロレンズ・スノーに靈感を与え、<sup>じゅうぶん</sup> 十分の一の原則を再度強調されました。……そして主は今、モルモン書について改めて強調する必要があると啓示しておられます。」<sup>3</sup>ベンソン大管長は、どこに行ってもモルモン書について証した。宣教師の集会でも、ステーキ大会や地区大会でも、総大会でも、中央幹部との集会でも同じであった。<sup>4</sup>

大管長になって初めて開かれた総大会でベンソン大管長は、このメッセージをすぐにでも伝えなければならないとして、その理由の一つを次のように述べている。「わたしたちがモルモン書を読んでその教えに注意を払わなければ、主が教義と聖約第84章で宣言しておられるように、全教会は罪の宣告を受けるでしょう」と警告した。「『この罪の宣告はシオンの子ら、まことにすべての者のうえにある。』〔教義と聖約84:56〕主はさらにこう続けています。『彼らが悔い改めて、新しい聖約、すなわち『モルモン書』と、わたしが彼らに与えた



預言者ジョセフ・スミスは、モルモン書は「わたしたちの宗教のかなめ石である」と言った。

以前の戒めを思い起こし、そしてただ口にするだけでなく、わたしが記してきたものに従って行動するまで、彼らは依然としてこの罪の宣告の下にある。』〔教義と聖約 84 : 57〕<sup>5</sup>

以下に挙げる言葉はすべて、ベンソン大管長が教会の大管長になってから話した説教からの引用である。これを読むと、モルモン書に関するベンソン大管長の警告と約束がどのようなものかが分かる。

「今わたしたちに必要なのは、モルモン書について口にするだけでなく、その教えにさらによく従うことです。なぜでしょうか。主は答えておられます。『これによって、彼らが父の王国にふさわしい実を結べるようにするためである。そうでなければ、シオンの子らのうえに注がれる懲らしめと裁きが残る。』〔教義と聖約 84 : 58〕わたしたちはこの『懲らしめと裁き』とを感じています。

……わたしたちは今でもそうですが、これまで聖典の学習の中心にモルモン書を置いてきませんでした。家族に教える場合でも、人々に福音を教えたり、伝道活動を行ったりする場合もそうでした。この点について悔い改めが必要です。』<sup>6</sup>

「わたしたちは、十分にモルモン書を活用していないのです。もしもわたしたちがモルモン書を用いて子供たちをキリストのもとへ導かなければ、家庭は堅固なものとならないでしょう。また、この書物を使って偽りを明らかにし、それに対抗するすべを学ばなければ、わたしたちの家族は世の流行や教えに打ち負かされてしまうかもしれません。宣教師はモルモン書を携えて福音を宣べ伝えなければ、良い成果を上げることはできません。親しい交わり、倫理的な面、文化的な面、教育的な面に引かれて教会に改宗した人も、モルモン書に記されている完全な福音にまでその根を下ろさなければ、現代の誘惑に耐えることはできないでしょう。またモルモン書を旗として掲げなければ、福音を教えるクラスは霊的に満たされることがないでしょう。』<sup>7</sup>

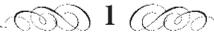
「モルモン書がさらによく理解できるように祝福します。これからモルモン書を毎日ひもとき、そこに書かれている教えに従って生きるなら、神がシオンの子らと教会のうえに、かつてない祝福を注いでくださることを約束いたします。そうすれば、罪の宣告、すなわち神の怒りと裁きを取り除いてくださるようにと、主に願うことができるようになります。確かにこれが真実であることを証します。』<sup>8</sup>

「神がなぜわたしをこの年まで生き長らえさせてこられたのか、完全には分かりません。しかし、主が今わたしに、驚くべき方法で必ずやモルモン書を世に広めなければならないという啓示を下しておられることは確かな事実です。この責任を遂行するために皆さんの力が必要とされています。教会全体すなわち

シオンのすべての子が、彼らのために備えられた主の祝福にあずかれるようにするために、力を出すよう求められているのです。

モーセ自身は約束の地に足を踏み入れることはありませんでした。ジョセフ・スミスもシオンの贖い<sup>あがな</sup>を目にすることなく世を去りました。わたしたちの中にも、モルモン書が洪水のごとく地を満たし、主がその罪の宣告を取り去られる有り様を目にすることなく世を去る人がいるでしょう（教義と聖約 84：54－58 参照）。しかし、神がお許しになるなら、わたしはこの栄えある御業<sup>はみわざ</sup>に余生のすべてをささげるつもりです。」<sup>9</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え



### モルモン書はわたしたちの宗教のかなめ石である

モルモン書はどれほど大切なものなのでしょうか。ジョセフ・スミスはそれを、「わたしたちの宗教のかなめ石」と呼んでいます（*History of the Church*, 第4巻, 461）。「モルモン書と啓示が取り去られたならば、わたしたちの宗教はどうなるだろうか。何も残らない」と彼は言っています（*History of the Church*, 第2巻, 52）。<sup>10</sup>

かなめ石とはアーチの中央に置かれる石のことです。ほかの石を支える働きをしているので、取るとアーチは崩れ落ちます。

……かなめ石が取り除かれたらアーチが崩れ落ちるように、この教会のすべての教えはモルモン書の真実性に依存しているのです。教会の敵はそれをよく知っています。彼らがあらゆる手を尽くしてモルモン書の誤りを立証しようとするのはそのためです。もしモルモン書が信ぴょう性に欠けることが立証できれば、預言者ジョセフ・スミスの信ぴょう性にも疑問が生じるからです。神権の鍵<sup>かぎ</sup>や啓示、また回復された教会についても同様です。しかし逆に、もしこのモルモン書が真実のものであるならば（事実、何百万という人が、これが真のものであるという御霊<sup>みたま</sup>の示しを受けたことを証しています）回復やそれに伴うすべてのことを受け入れなければならなくなるはずはです。<sup>11</sup>

恐らく、主御自身の言葉以上にこの聖典の重要性についてはっきりと証しているものはほかにないでしょう。

主は御自身の言葉をもって次のことを証しておられます。（1）それが真実であること（教義と聖約 17：6）、（2）真理と神御自身の言葉が載っていること（教義と聖約 19：26）、（3）高い所からの力により翻訳されたこと（教義と聖約 20：8）、（4）イエス・キリストの完全な福音が載っていること（教義と聖約 20：9；42：12）、（5）靈感によって与えられ、天使たちの働きによって確認

されたこと（教義と聖約 20：10）、（6）聖文が真実であることを証していること（教義と聖約 20：11）、（7）信仰をもってこれを受け入れる人は永遠の命を受けること（教義と聖約 20：14）。<sup>12</sup>

## 2

### モルモン書はイエス・キリストについて証し、わたしたちを神に近づける

モルモン書のおもな目的は、そのタイトルページに書かれているように、「ユダヤ人と異邦人に、イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させる」ことです。

誠心誠意で真理を求める人は、靈感あふれるモルモン書の言葉について祈りの気持ちをもって深く考えるなら、イエスはキリストであるとの証を得ることができます。<sup>13</sup>

モルモン書は新たな聖約です。聖書には旧約聖書と新約聖書があります。この「約」に当たる英語の *testament* という言葉はギリシャ語に由来するもので、ギリシャ語のその言葉は「聖約」とも訳されます。主はモルモン書を「新しい聖約」と呼ばれましたが、実際そのようなお気持ちがあって言われたのではないのでしょうか。モルモン書は、イエスについてのもう一つの聖約、すなわち証となるものなのです。最近、モルモン書の標題に「イエス・キリストについてのもう一つの証」という言葉を付け加えたのはそのためです。……

モルモン書はイエス・キリストに対するわたしたちの証のかなめ石であり、キリスト御自身はわたしたちが行うすべてのことの隅石となる御方です。モルモン書は力強く、しかも明快にイエスが実在の御方であることを証しています。多くの写本家や翻訳家、内容に手を加えたよこしまな宗教家たちの手を通してきた聖書と異なり、モルモン書（英文）は記録者から読者に渡るまでの間に、靈感を受けた翻訳を一度通ったにすぎません。したがって、そこにある主の証は明快かつ純粹で、力があります。そればかりではありません。今日キリスト教界の多くは救い主の神性を否定しています。主の奇跡的な生誕や、完璧な生涯、栄光ある復活の真実性に疑いを抱いているのです。モルモン書はそれらがすべて真実であることを分かりやすく、誤解の余地のない言葉で教えています。また、贖いの教義をこれほど完全に説明している書物はほかにありません。確かに、神から与えられたこの靈感あふれる書物は、イエスが救い主であられるという、世の人々への証のかなめ石となるものなのです。<sup>14</sup>

預言者ジョセフ・スミスは……次のように言っています。「わたしは兄弟たちに言った。『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」（*History of the Church*, 第4巻,



モルモン書にあるイエス・キリストの証は、<sup>あかし</sup>「明快かつ純粹で、力があります。」

461) ……わたしたちの心の奥底には、神に近づきたいという願望があるのではないのでしょうか。日々神のような生き方をし、常に神を身近に感じていたいという気持ちがあるのではないのでしょうか。そうだとしたら、モルモン書を読めば、ほかのどんな本を読むよりも、その願いがかなえられます。……

この書物の持つ力についてよく知っている、愛する兄弟マリオン・G・ロムニー管長は、モルモン書を読んで研究する人々の生活にどのような祝福がもたらされるかについて次のように証しています。

「家庭にあって両親が、夫婦として、また子供を交えて家族として、ともに祈りをもって定期的にモルモン書を読むようにするならば、家庭の中はこの偉大な書物からわき出る特別な力で包まれ、家族一人一人がその力強い影響を受けることでしょう。家庭の中はこれまで以上に<sup>けいけん</sup>敬虔な雰囲気<sup>けいけん</sup>に包まれ、一人一人が互いに尊敬し合い、関心を持つようになると思います。そして、いがみ合うようなことがまったくなくなります。また両親は愛と知恵の中で子供たちを諭すようになり、子供たちは以前にも増して両親の勧めに快く従うようになります。義は増し加えられ、信仰と希望、キリストの純粹な愛が家庭や日常生活に満ちて、平和と喜びと幸福がもたらされることでしょう。」(『聖徒の道』1980年9月号、102参照)

これらの約束—家庭に愛と一致が増し、親と子はいっそう尊重し合い、霊性と義の面で高められること—はむなしい約束ではありません。モルモン書は人を神に近づけると語った預言者ジョセフ・スミスがまさに言わんとしていたことです。<sup>15</sup>

### 3

#### モルモン書は真の教義を教え、偽りの教義を打ち破り、 キリストの敵を明らかにする

モルモン書に「イエス・キリストの完全な福音」(教義と聖約 20:9) が載っているとされたのは主御自身でした。それはすべての教え、これまでに啓示されたすべての教義が載っているということではありません。むしろ、モルモン書には救いに必要な教義が完全な形で収められているということなのです。そして、それは分かりやすく簡単に教えられており、子供でさえも救いと昇栄の道について学ぶことができるようになっています。モルモン書には救いの教義が広範囲に理解できるようになる内容がたくさん含まれていますから、これがなかったならば、ほかの聖典で教えられている多くのことも、これほど「分かりやすくて貴い」こととはならなかったことでしょう。<sup>16</sup>

福音を<sup>の</sup>宣べ伝えることについて言えば、モルモン書には、最も分かりやすく、最も正確で、完全な説明が載っています。これに匹敵する記録はありません。墮落の内容について、肉体の死と霊の死の意味について、<sup>しよくざい</sup>贖罪の教義について、正義と<sup>あわ</sup>憐れみの教義について、また、福音の原則と儀式について、これほどよく理解できるように書かれている記録がほかにあるでしょうか。モルモン書には、これらの基本的な教義が最も分かりやすく説明されているのです。<sup>17</sup>

モルモン書は聖書がまことであることを立証し、その意味を明確にします。それはつまずきの石を取り除き、分かりやすくて貴い部分の多くを回復しています。聖書とモルモン書を合わせて使用したならば、<sup>あかし</sup>偽りの教えを打ち破り、争いを鎮め、平和を確立することができることを証します(2 ニーフай 3:12 参照)。<sup>18</sup>

わたしたちは、……ほかのどのような書物を差し置いても、モルモン書から学ぶ必要があります。……歴史や信仰を奮い立たせる物語を学ぶだけでなく、その教えを理解する必要があります。モルモン書を教義面からよく研究して注意深く学ぶ人は、様々な誤りを明らかにし、世にはびこる多くの偽りの理論や人の教えを打ち破る真理を見いだすことができます。

教会内で、モルモン書を知っていて、モルモン書を愛している人とそうでない人の間には識別力、見識、確信、霊において違いがあります。この書物は偉大なふるいなのです。<sup>19</sup>

モルモン書は、キリストの敵を明らかにします。偽りの教義を打ち破り、争いを鎮めるのです(2ニーファイ3:12参照)。またモルモン書は謙遜にキリストに従う者たちに、今日の悪魔の企てや戦略、教義に対抗できる力を与えます。モルモン書に登場する背教者は、今日の背教者によく似ています。わたしたちが誤りを見抜き、今日の誤った教育や政治、宗教、哲学の概念とどう戦ったらよいかを知ることができるように、神は実に無限の先見の明をもってモルモン書を備えられたのです。<sup>20</sup>

## 4

### 教義と聖約は、モルモン書と今なお続く回復の業とを結びつける輪である

わたしは特に、モルモン書と教義と聖約について話したいと思います。この二つの偉大な末日の聖典は、神の民を集め、主の再臨に備えさせるためにイスラエルの神から与えられた啓示として、一つにまとめられています。……

主は預言者ジョセフ・スミスに対して、「この時代の人々は、あなたを通してわたしの言葉を受ける」(教義と聖約5:10)と言われました。モルモン書と教義と聖約はこの約束が一部成就したことを示しています。この二つの偉大な聖典が一体となって、この世代に大いなる祝福をもたらしているのです。……

この末日の聖典はいずれも、主イエス・キリストについて力強くまた雄弁に証しています。教義と聖約およびモルモン書のほとんどのページでは救い主について、すなわち御自身の子供たちに対する偉大な愛について、また贖いの犠牲について教えられており、また、イエスと天の御父のみもとに戻るための方法が教えられています。

この二つの偉大な末日の聖典には、悪に満ちあふれたこの時代によりよく生きるための助けとなる知識と力が収められています。この二つの書物を慎重にまた祈りの心で読む人は、慰めや勧告、導き、そして人生をより良いものとするための静かな力を見いだすことができるのです。<sup>21</sup>

教義と聖約は、預言者ジョセフ・スミスとその後継者を通してモルモン書と今なお続く回復の業とを結びつける輪なのです。

わたしたちは教義と聖約から、神殿事業、永遠の家族、栄光の階級、教会の組織、また、回復に関する数多くの偉大な真理を学ぶことができます。……

モルモン書はわたしたちの宗教の「かなめ石」であり、教義と聖約は、末日の啓示がなお続いていることから、「かさ石」と言うことができます。主はこのかなめ石とかさ石の二つに承認の印を押しておられます。<sup>22</sup>

教義と聖約は、わたしたちの世代に直接与えられた、栄えある聖典なのです。その中には、キリストの再臨に先立つ末日に生きるわたしたちへの、主の御心

が記されています。また、ほかの聖典には示されていない真理や教義が載せられています。教義と聖約はモルモン書と同じように、入念に、また祈りの心をもって読む人に力を与えるのです。

わたしたちは、いと高き神の聖徒として、偉大な犠牲を払ってわたしたちのために取っておかれた御言葉を大切にしているでしょうか。これらの末日の啓示の書を、生活に祝福をもたらす、悪の力に対抗するものとして使っているでしょうか。これらの書物が与えられたのはそのためなのです。これらの聖典を軽々しく扱い、また棚の上でほこりをかぶるだけにさせておいたならば、必ずやとがめを受けることでしょう。

愛する兄弟姉妹の皆さん、この二つの書物には、試練と苦難に満ちた今の世にあるわたしたちへの主の御旨と御心が載せられていることを証いたします。それらは聖書とともに、主と主の御業について証をするものです。これらの書物には、この末日におけるわたしたちのための主の御言葉が収められています。わたしたちがこの書物に心を向け、主が望んでおられる方法で利用することができますように。<sup>23</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- モルモン書はわたしたちの宗教のかなめ石であるというベンソン大管長の教えを読み（第1項参照）、モルモン書が自分の生活の中でどのような位置を占めているか、よく考えてください。モルモン書をもっと生活の中心に持ってきて福音に従えるようにするために、わたしたちにはどんなことができるでしょうか。
- ベンソン大管長は、モルモン書はイエス・キリストについて証し、人を神に近づけると言っています（第2項参照）。あなたは、モルモン書を研究して、救い主についてどんなことを学んだでしょうか。あなたやあなたの家族は、モルモン書を読むことによってどのように神に近づきましたか。
- なぜわたしたちは、「ほかのどのような書物を差し置いても、モルモン書から学ぶ必要があ[る]」のでしょうか。モルモン書に書かれている教義は、「今日の悪魔の……教義」（第3項参照）に対抗するためのどんな力をあなたに与えてくれましたか。
- どのような点で、モルモン書と教義と聖約は一体となって、わたしたちに力を与えてくれているのでしょうか（第4項参照）。

関連聖句

イザヤ 29：9 - 18；1 ニーフアイ 13：35 - 41；2 ニーフアイ 25：23, 26；  
29：6 - 9；教義と聖約 1：17 - 29

教える際のヒント

「ほとんどの教師用手引きには話し合いのきっかけを作り、継続するための質問が記されている。あなたはそれらの質問を利用するほかに、独自の質問を準備してもよい。よく考えて答えさせるような質問を投げかけ、また一人一人が福音について真剣に考えるよう助ける。」(『教師、その大いなる召し』 63)

注

1. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography* (1987年), 489
2. 例えば, 「モルモン経は神のみ言葉」『聖徒の道』1975年8月号, 366 - 368；「キリストに対する新しい証人」『聖徒の道』1985年1月号, 6 - 8を参照。 *Ezra Taft Benson: A Biography*, 491 - 493も参照
3. 「神聖な務め」『聖徒の道』1986年7月号, 77。『歴代大管長の教え——ロレンゾ・スノー』157 - 160も参照
4. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 495 参照
5. 「器の内側を清める」『聖徒の道』1986年7月号, 5 参照
6. 「器の内側を清める」5
7. 「モルモン経は神のみ書業である」『聖徒の道』1988年5月号, 6 参照
8. 「神聖な務め」『聖徒の道』1986年7月号, 78
9. 「モルモン経で洪水のごとく地を満たす」『聖徒の道』1989年2月号, 6 参照
10. 「キリストに対する新しい証人」6
11. 「モルモン経——私たちの宗教のかなめ石」『聖徒の道』1987年1月号, 5, 6 参照
12. 「モルモン経——私たちの宗教のかなめ石」4 参照
13. 「キリストのみもとに来て」『聖徒の道』1988年1月号, 90
14. 「モルモン経——私たちの宗教のかなめ石」4 - 5 参照
15. 「モルモン経——私たちの宗教のかなめ石」7 参照。マリオン・G・ロムニー管長は、1972年7月から1985年11月まで、大管長会の顧問として奉仕した。
16. 「モルモン経——私たちの宗教のかなめ石」6 参照
17. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 56
18. 「キリストに対する新しい証人」8 参照
19. 「イエス・キリスト——<sup>たまもの</sup>賜とわたしたちへの期待」『聖徒の道』1987年12月号, 3 - 4 参照
20. 「モルモン経は神のみ書業である」3 参照
21. 「現在の啓示の賜」『聖徒の道』1987年1月号, 85 - 86 参照
22. 「モルモン経と教義と聖約」『聖徒の道』1987年7月号, 94, 95 参照
23. 「現在の啓示の賜」87 参照



# モルモン書で地と自分自身の生活を 洪水のごとく満たす

「モルモン書には力があって、真剣に読み始めるやいなや  
その力は読む者の人生に流れ込み……ます。」

## エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

1989年4月の総大会で、トーマス・S・モンソン管長は教会の子供たちに向けたエズラ・タフト・ベンソン大管長のメッセージを読み上げた。この中でベンソン大管長は次のように言っている。

「わたしは皆さんがモルモン書を読んでいることをよく知っています。神様から与えられたこの本を読んでいるという子供たちの手紙が、たくさんわたしの所へ送られて来ているからです。そのことを知り、わたしはうれしくて涙が出ます。……

わたしは皆さんがモルモン書を愛していることを聞いて本当にうれしく思っています。わたしもモルモン書が大好きです。天のお父様は皆さんに、これからも続けて毎日モルモン書を勉強するように望んでおられます。モルモン書は天のお父様から皆さんに与えられた特別な贈り物です。モルモン書の教えに従う人は、天のお父様の御心みこころが行えるようになります。」<sup>1</sup>

教会の末日聖徒は皆、この預言者の勧告に心を留めた。以下に挙げるのは、「モルモン書で地と自分自身の生活を洪水のごとく満たしなさい」というベンソン大管長の呼びかけに従って祝福を得た例である。<sup>2</sup>

「親は子供と一緒にモルモン書を読むようにとエズラ・タフト・ベンソン大管長が言うのを聞いて、マーゴ・メリルは最初、『冗談じゃないわ』と思いました。『うちの子供たちはまだ6歳と5歳、2歳なのよ。時間の無駄だし、付き合っていられないわ。』

しかし、メリル兄弟とメリル姉妹は、ともかく子供たちと一緒にモルモン書を読んでみることにしました。そして、ニーファイの弓が折れた話の所まで来たとき、6歳のメリッサが肺炎にかかってしまったのです。



モロナイがジョセフ・スミスに手渡した書物に書かれている真理のおかげで、  
無数の人々がキリストのもとに来た。

マーゴはこう言っています。『病気でもいいから学校に行かせて、とメリッサはせがみました。学校に行かないと、ニーファイがどうなったか、友達のパメラに教えてあげられなくなると言うのです。そして、ベソをかいてわたしの腕の中に倒れ込みました。パメラは他の教会の信者です。わたしは涙を拭いてやり、パメラには電話でニーファイの話をしてあげたらどうかと言いました。

ニーファイの弓が折れてしまった話をメリッサが詳しく話しているのを聞いて、幼い子供たちにモルモン書を読んでやるなんて時間の無駄だし付き合っていられないと以前に思ったことを思い出しました。子供がモルモン書から教訓を学び取る力を、わたしは何と見くびっていたことでしょうか。』<sup>3</sup>

ハワード・J・マッコンバー2世は、モルモン書で地を洪水のごとく満たすようにというベンソン大管長の勧告について深く考えました。「モルモン書で洪水のごとく地を満たすために、わたしは一個人としてどんなことができるだろうか。」

マッコンバー兄弟はこう言っています。「するとある晩、この件について深く考えているときに町内の人全員にモルモン書を受け取ってもらう機会を設ければよいことに気づきました。

でも、一つ問題がありました。彼らがわたしのことを知っているということです。彼らはうちの犬がよくほえることを知っていました。しかも、非常に朝早くからほえるのです。また、うちの庭が、近所の人々の注目を引くような、花の咲き誇る庭ではないことも知っていました。彼らは隣人としてのわたしの欠点をよく知っていましたから、モルモン書など受け取ってくれないでしょう。

しかし、ともかく信仰をもってやってみることにしました。捨てられようが、棚の上で何年もほこりをかぶることになろうが、町内の人にモルモン書を配ったのです。でも、わたしは自分でも何も期待していませんでした。こんな努力をしたところで、何の成果もないだろうとほぼ確信していたのです。

そんなときに、町内の人がわたしを知っていると言えるのなら、自分だって同じ程度に町内の人のことを知っていることに気づきました。この間の町内会の会合では何人かが品のない冗談を言っていましたし、つい最近開かれた町内のバーベキューパーティーではアルコールを飲み過ぎている人もいました。人生にほとんど目的のないような人たちもいたのです。教会員でなかったら、あるいは、もしもモルモン書について聞いたことがなかったなら、自分はもうどうなっていたらどうかと考えました。この書物が、試しに読んでみようとする人にとって益になることは明らかでした。

そこでわたしは、町内の人全員に声をかけてモルモン書をプレゼントしました。彼らは皆感謝してくれました。大変うまくいったので、隣の町内にも行って自分で決めた区域に配り終え、次の区域にも配りました。全部配り終えたときには、わたしは104世帯を訪れ、40冊のモルモン書を置いて来ていました。

知人にモルモン書をプレゼントすることが、以前より気楽にできるようになってきました。

次に、職場の75人の従業員全員にモルモン書を渡しました。そのうち23人が宣教師のレッスンを受け、後に7人がバプテスマを受けました。そして、同僚の子供たち4人も教会に入ったのです。また、レッスンを2回受けたところで教会に興味をなくした人がいました。でもこの人は7か月後、他の会社に移った後にわたしに電話をかけてきたのです。モルモン書をずっと読んできたのだが、わたしが言ったように落ち着いた平安な気持ちを御霊が与えてくれていることに気づいたと言いました。この人も、すぐに宣教師の残りのレッスンを全部受けてバプテスマを受けました。

わたしはモルモン書が大好きです。モルモン書は主の名刺だとわたしは思うのです。そして、モルモン書が個人の生活に実に簡単に霊的な洪水を起こすことに驚いてきました。主の業を行うときには、主の助けがあるのです。』<sup>4</sup>

別の会員は、モルモン書を読みなさいというベンソン大管長の勧めに従ったところ、自分の証<sup>あかし</sup>に変化が生じたと言っています。「ベンソン大管長がモルモン書を読むようチャレンジしたのは、わたしが15歳のときでした。わたしはすでにまじめに聖文を読んでいましたが、新約聖書が中心でした。しかし、ベンソン大管長の勧めに従って、モルモン書を毎日研究するようになったのです。それは、わたしにとって大きな転機になりました。新約聖書からはイエス・キリストの地上での教導の業について学びました。わたしはそれにずっと感謝することでしょう。でもわたしには、モルモン書の研究から得られる深みが必要でした。聖書は、イエスが聖地で人々のために何をなされたかを知るのに役立ちましたが、モルモン書を読んだところ、イエスがわたしのために何をしてくださったかが深く理解できるようになったのです。モルモン書の研究を通してわたしは、わたしの救い主が果たされた無限<sup>しよくざい</sup>の贖罪に対する証を得ました。さらに、その後信仰が試される危機に直面したときには、モルモン書を開き、慰めと力を得てきました。今では、1日も欠かすことなくモルモン書を読んでいます。』<sup>5</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

#### モルモン書はわたしたちのために書かれたものである

モルモン書はわたしたちのために書かれたもの……です。ニーファイ人たちにも、古代のレーマン人たちにもモルモン書はありませんでした。まさにわたしたちのためのものなのです。モルモンはニーファイ人の文明の末期にこれを書き記しました。全てを初めから見ておられる神の靈感の下に、モルモンはわた

したちのためになる物語、話、出来事に関する記録を選んで短くまとめたのでした。

モルモン書のおもな執筆者たちは口をそろえて、それが後世の人々のためであることを証<sup>あかし</sup>しています。……彼らがわたしたちの時代を見、わたしたちのためになることを選んでくれたのなら、なおさらモルモン書を研究する必要があるのではないのでしょうか。「これを記録するように主がモルモン（モロナイあるいはアルマ）に靈感をお与えになったのはなぜだろうか、現代の生活への教訓として何が学べるのだろうか」と絶えず自問する必要があります。

そして、その問いに対する答えの例は数限りなくあります。例えばモルモン書を読めば、主の再臨に備える方法が分かります。この書物はキリストがアメリカ大陸に来られる前の数十年間の記述に多くの部分を割いています。その時代のことを注意深く研究すると、主の降臨に先立つ恐ろしい裁きの場で、ある人々は滅ぼされ、別の人々はバウンティフルの地の神殿で主の手足の傷に触れることができたのはなぜかが分かります。

モルモン書を読めば、キリストの弟子たちが戦争の時代をどのように生きたかが分かります。背筋が寒くなるような生々しい描写を通して、秘密結社の悪事についても知ることができます。迫害や背教に対処するための教訓を見いだすことができますし、伝道方法についても多くのことが学べます。そしてモルモン書は、物質主義やこの世のものに心を奪われることの危険性を他の何よりもよく教えてくれています。この書物がわたしたちに向けて書かれたものであり、そしてこの中に偉大な力と慰めと守りがあることを、だれが疑うことができるでしょうか。<sup>6</sup>

---

## 2

---

### モルモン書を毎日研究すると、その書物の力が人生に流れ込む

モルモン書は確かに真理を教えています、それだけではありません。モルモン書は確かにキリストについて証<sup>あかし</sup>していますが、それだけでもありません。それ以上のものがあるのです。モルモン書には力があって、真剣に読み始めるやいなやその力は読む者の人生に流れ込み、誘惑に打ち勝つ力となります。またそれは欺きを避ける力となり、細くて狭い道と命にとどまる力となります。聖文は「命の言葉」と呼ばれていますが（教義と聖約 84 : 85）、モルモン書ほどその言葉にふさわしいものはありません。神の言葉に飢え渇く者はモルモン書を通して豊かに得られるようになるのです。<sup>7</sup>

人は互いに欺き合うことはあっても、神は人を欺くことはありません。ですから、モルモン書にはそれが真実か否かを見極めるための最良の方法が説明さ

れています。すなわち、まずモルモン書を読み、次にそれが真実か否か神に尋ねるのです〔モロナイ 10：4 参照〕。

ですから、心の正直な人々にとって、神からの個人的な啓示によりモルモン書が真実であることを知ることができるという約束ほど、確かな約束は他にありません。何百万という人がそれを試して、モルモン書が真実であることを確認してきました。そしてこれからも何百万人という人が知るようになることでしょう。

肉体と同じように、霊も絶えず養う必要があります。昨日食べた物で今日の必要を満たすことはできません。それと同じように、ジョセフ・スミスが「この地上において最も正確な書物」と呼んだモルモン書も (*History of the Church*, 第4巻, 461), たまに読むだけでは不十分です。

真理が全て同等の価値を持つとはかぎりませんが、それは聖文についても言えます。預言者ジョセフはこの書物は「人がその教えに従って最も神に近づくことのできる書物である」と言いましたが (*History of the Church*, 第4巻, 461), 霊を養うのに、この書物から絶えず栄養を取ること以上に良い方法が他にあるでしょうか。<sup>8</sup>

この書物に対するわたしたちの態度に永遠の結果がかかっていると言えないでしょうか。そうです。祝福も呪いもそれにかかっています。

末日聖徒は全て、生涯この書物を学び続けるべきです。さもなければ、自分自身を危険にさらし、人生に信仰と知識の一致をもたらすものをなおざりにしていることになるのです。確かに、モルモン書を読んでキリストの岩を基にして立ち、鉄の棒にしっかりとつかまっている改宗者と、そうでない改宗者との間には大きな隔たりがあります。<sup>9</sup>

モルモン書を通して、イエスがキリストであるとの確信を得た人の数は増えてきました。今必要なのは、モルモン書を用いてキリストに固くつく人の数を増やすことです。確信を持ち、キリストに固くつく人が求められているのです。

……兄弟姉妹、モルモン書を読んで、イエスがキリストであるという確信を得るようにしましょう。またモルモン書を何度も繰り返し読むことにより、キリストのもとにさらに近づき、キリストを基とし、キリストに全ての思いを向けるようにしましょう。

わたしたちは毎日、邪悪な敵と戦っていますが、現代人が直面している困難な問題と、過去の時代の人々が遭遇した問題には相通するものがあります。これらの困難な問題は、霊的な面においても物質的な面においても、ますます増えていくことでしょう。ですからわたしたちはキリストに近づき、日々主の御名を受け、主をいつも忘れず、その戒めを守らなければなりません。<sup>10</sup>

## 3

モルモン書で地と自分自身の生活を洪水のごとく満たさなければならない

わたしたちは皆、聖霊を通してモルモン書に対する証<sup>あかし</sup>を得なければなりません。そしてモルモン書に添えてわたしたちの証を人々に分かち与える必要があります。それによって、彼らもまた聖霊を通してモルモン書が真実なものであることを知ることができるようになります。<sup>11</sup>

モルモン書をどのように使うべきか心得ており、新しく生まれ変わった宣教師の数が増えたらどんなことが起こるか、想像できるでしょうか。それが実現したときには、主が約束された豊かな収穫が得られるのです。<sup>12</sup>

わたしには、確信があります。わたしたちがもっとモルモン書を使って教え、モルモン書を使って説教するならば、主はさらにお喜びになり、わたしたちの語る言葉にはさらに力が加わることでしょう。そうすることによって、教会の中でも、わたしたちから宣<sup>の</sup>べ伝えられる者の中でも、改心する者の数が大幅に増えます。……そうすると、わたしたちの責務は聖書とモルモン書に書かれている福音の原則を教えることになります。「御<sup>み</sup>霊に導かれるままに、これらを彼らの教えとしなければならない」からです（教義と聖約 42：13）。<sup>13</sup>

モルモン書は、「洪水のごとくに地を満た〔し〕、……〔主の〕選民を集め」るために神によって備えられた道具です（モーセ 7：62）。わたしたちは人々に神の教えを説き、教え、伝道するための中核として、この神聖な書物をもっと活用しなければなりません。

……電子機器が発達し、印刷物が氾濫しているこの時代に、何か画期的な方法でモルモン書を広めないとしたら、わたしたちは神にその責任を問われるでしょう。

教会にはモルモン書が与えられ、教会員や宣教師もいます。様々な力や手段も授けられています。そして世の人々は神の教えを必要としているのです。今こそ、モルモン書で地を満たすべき時です。

兄弟姉妹、わたしたちはモルモン書が持つ力、またモルモン書が今後果たすべき神聖な役割、モルモン書をどこまで広めなければならないかということをはほとんど理解していません。

わたしたちは、イエス・キリストについてのもう一つの証、すなわちモルモン書の教えを自分自身の生活に取り入れるにはどうしたらよいかを考えなければなりません。また、モルモン書の教えは世の人々にとってぜひとも必要なものですが、彼らにモルモン書を伝えるにはどうしたらよいかについても考えなければなりません。これらの事柄について祈りの気持ちをもって真剣に考えるよう、全ての人にチャレンジします。



「わたしは地がモルモン書で満たされる有り様〔を〕心に思い描いています。」

わたしはモルモン書の教えがもたらす霊的な力によって、家庭が霊的に目覚め、クラスが生き生きとした場となり、説教壇からすばらしい話が語られる有り様を心に思い描いています。

また、ホームティーチャーや訪問教師、ワード、支部の役員、ステーク、伝道部の指導者が、地上で最も正確な書物であるモルモン書を用いて、人々に勧告や助言を与える姿を心に描いています。

また、芸術家たちが、モルモン書の偉大な教えや登場人物を題材にした映画、演劇、文学、音楽、絵画などの作品を作る姿を思い描いています。

わたしは、無数の宣教師が、世の人々の霊的な飢えや必要を満たすために、モルモン書の何百もの聖句を暗記して伝道地へ赴任していく姿を思い描いています。

わたしは、モルモン書の教えに従うことによって教会全体がさらに神に近く有り様を心に思い描いています。

そして、わたしは地がモルモン書で満たされる有り様も心に思い描いています。<sup>14</sup>

モルモン書で地と自分自身の生活を洪水のごとく満たすために努力している、忠実な聖徒の皆さんを褒めたたえたいと思います。わたしたちは画期的な方法を講じて、より多くのモルモン書を世に広めなければなりません。しかし、

求められているのは、それだけではありません。わたしたちは意を決して、この大いなるメッセージを自分自身の生活に、ひいては地の隅々に浸透させなければなりません。<sup>15</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- モルモン書の研究方法に関するベンソン大管長の勧告を、第1項で復習しましょう。この勧告は、試練に立ち向かうためにどう役立てることができるでしょうか。わたしたちが直面する試練に関連したモルモン書の聖句には、どのようなものがあるでしょうか。
- 第2項に書かれている約束が成就する様子を、あなたはどんな形で見えましたか。このような約束が果たされることを望んでいる人にモルモン書を手渡すために、どんなことができるでしょうか。
- 「モルモン書で地と〔自分自身の〕生活を洪水のごとく満たす」とは、どういう意味だと思えますか。（幾つかの例については、第3項を参照）

### 関連聖句

2 ニーファイ 27 : 22 ; モルモン 8 : 26 - 41 ; モロナイ 1 : 4 ; 10 : 3 - 5 ; モルモン書の序文も参照

### 学ぶ際のヒント

読む際に、「一つの節の中にある複数の概念を区別できるように、語句に傍線や印を付けておきます。……学んでいる部分の余白に、その意味を説明している参照聖句の箇所を書いておきます。」（『わたしの福音を宣べ伝えなさい』22 - 23 参照）

### 注

1. 「教会の子どもたちへ」『聖徒の道』1989年7月号, 86 参照
2. 「高ぶりを心せよ」『聖徒の道』1989年7月号, 4
3. ラレーン・ガーント, “Does the Book of Mormon Count?” *Ensign*, 1991年6月号, 20
4. ハワード・J・マッコンバー2世, “Finding Truth in the Book of Mormon,” *Ensign*, 1996年1月号, 10 - 11
5. 匿名. 非公開文書
6. 「モルモン経 —— 私たちの宗教のかなめ石」『聖徒の道』1987年1月号, 6 参照
7. 「モルモン経 —— 私たちの宗教のかなめ石」6 - 7 参照
8. 「キリストに対する新しい証人」『聖徒の道』1985年1月号, 6 - 7 参照
9. 「モルモン経は神のみ言葉である」『聖徒の道』1988年5月号, 7 参照
10. 「キリストのみもとに来て」『聖徒の道』1988年1月号, 91, 92 参照
11. 「モルモン経と教義と聖約」『聖徒の道』1987年7月号, 95
12. 「神によって生まれる」『聖徒の道』1989年10月号, 5 参照
13. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 58
14. 「モルモン経で洪水のごとく地を満たす」『聖徒の道』1989年2月号, 4 - 6
15. 「高ぶりを心せよ」4



こんにち  
今日、末日聖徒は、カンファレンスセンターで、また全世界で、  
生ける預言者の言葉に耳を傾けている。



## 生ける預言者に従う

「わたしたちにとって最も大切な預言者は、  
今の時代に生きている預言者です。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

エズラ・タフト・ベンソンが15歳のときのことである。ある晩夕食の食卓を囲んで家族で座り、父親が読む、ジョセフ・F・スミス大管長と大管長会顧問たちからの手紙の言葉に耳を傾けた。手紙にはこんな言葉があった。「わたしたちは教会全体で『家庭の夕べ』を始めるように勧告し、また強く求めます。父親と母親はこのひととき、家庭にあってその傍らに子供たちを集め、主の言葉を教えます。……聖徒たちがこの勧めに従うなら、豊かに祝福されることをわたしたちは約束します。家庭の愛が深まり、子供たちは親の言うことをもっと素直に聞くようになります。イスラエルの若者たちは、心の中に信仰を育み、自分たちを取り巻く邪悪な影響力や誘惑と戦う力を得ることでしょう。」<sup>1</sup>

ベンソン大管長は、そのときのことを後に次のように語っている。「手紙を読み終わると、父はこう言いました。『大管長会が言ったのだから、これは主がわたしたちにおっしゃった言葉なのだ。』そのとき以来、わたしが少年時代を過ごした家庭では、熱心に家庭の夕べを開きました。」<sup>2</sup>

ベンソン大管長は自分で家庭を持つようになると、両親から学んだ伝統を妻と一緒に引き継いだ。こう言っている。「[両親の家庭で]家庭の夕べに参加した経験と自分の家庭で家庭の夕べを開いた経験から証しますが、非常に大きな霊的な祝福がもたらされます。」<sup>3</sup>

1947年に大管長会は、家庭の夕べを開く努力をするようにと改めて教員に指示した。当時十二使徒定員会の会員であったベンソン大管長は、総大会の説教でこのテーマを採り上げて強調した。家族が「神聖な制度」<sup>4</sup>であることを証し、預言者の勧告に従って家族を強め、家庭の夕べを開くならば祝福が注がれると聖徒たちに再度言ったのである。こう証している。「この世と来るべき世で幸せになれるかどうかは、この偉大な責任をきちんと果たすかどうかにかかっています。兄弟姉妹の皆さん、これは祈りをもって計画し、関心を寄せる価値のある事柄です。偉大な祝福が注がれることをわたしは心に確信し

ています。大管長会から与えられるその他すべての勧告と同様、この勧告に注意を払うならば、わたしたちには大きな喜びと幸福がもたらされるのです。」<sup>5</sup>

エズラ・タフト・ベンソン大管長は主が選ばれた僕たちの勧告に従うことで祝福を得ていたため、生ける預言者の言葉から目を離さないよう、度々末日聖徒に呼びかけた。自分が仕えた教会の大管長が皆、神聖な召しを受けていたことを雄々しく証したのである。<sup>6</sup> ベンソン大管長と同じ日に使徒に聖任されたスペンサー・W・キンボール大管長が、大管長になって初めて教会の指導者たちに説教をしたとき、ベンソン大管長は「立ち上がり、感動のあまりに声を詰まらせながら、出席者全員の気持ちを代弁して次のようなことを言った。『キンボール大管長、わたしたちは、いまだかつてこの集会で、あなたが今述べたような話を一度も聞いたことはありません。まさしく、あなたは、イスラエルの預言者です。』」<sup>7</sup>そして、キンボール大管長の逝去に伴ってその神聖な召しがベンソン大管長に来ると、それを謙遜に、しかも決然と受けて、こう言ったのである。「妻のフローラとわたしは、キンボール大管長がこの世で1日も長く生き長らえるよう、大管長のうえにもう一度奇跡が起こるようずっと祈ってきました。今や主が語られたのですから、主の導きの下でわたしたちは最善を尽くし、この地上で御業を進めなければなりません。」<sup>8</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

#### 教会の大管長は地上における主の代弁者である

預言者から目を離さないようにしてください。預言者は主の代弁者であり、今日主こんにちに代わって語ることでできる唯一の人物です。預言者の靈感あふれる勧告を何よりも大切にしましょう。預言者が靈感を受けて語る言葉を基にして、その他の指導者の勧告を聞きましょう。そして御霊みたまに近い生活をして、全てのことの真理を知ってください。<sup>9</sup>

今日この地の面で主の代弁者であり預言者である者は、ジョセフ・スミスにさかのほ遡る預言者の系譜に従って、その権能を受けています。ジョセフ・スミスはペテロ、ヤコブ、ヨハネから聖任されましたし、この3人は、過去も現在も教会の頭かしらであり、この地球の創造主であり、あらゆる人がその前に立って報告しなければならない神であられるキリストから聖任されています。<sup>10</sup>

この教会は、人の知恵によって導かれているではありません。わたしはそのことを知っています。全能の神の力と影響力によって、神の教会は導かれているのです。<sup>11</sup>

## 2

## わたしたちにとって最も大切な預言者は、生ける預言者である

神は全てを御存じです。初めから終わりまで知っておられます。ですから、イエス・キリストの教会の大管長に偶然になる人はいませんし、その地位に偶然とどまる人もいません。また、偶然に神のみもとに召される人もいないのです。

わたしたちにとって最も大切な預言者は、今の時代に生きている預言者です。その預言者こそ、わたしたちに神の今日の教えを与えてくれる預言者なのです。ノアは、神がアダムに与えられた啓示から、箱舟の造り方を学んだのではありません。どの時代の人々にも、古代の聖文だけでなく、生ける預言者が語る現代の聖文が必要です。ですから、皆さんが必ず読み、思い巡らす必要があるのは、主の代弁者を通して与えられる、最新の靈感された御言葉なのです。生ける預言者の言葉を手元に置いてよく読むことが極めて大切なのはそのためです。……

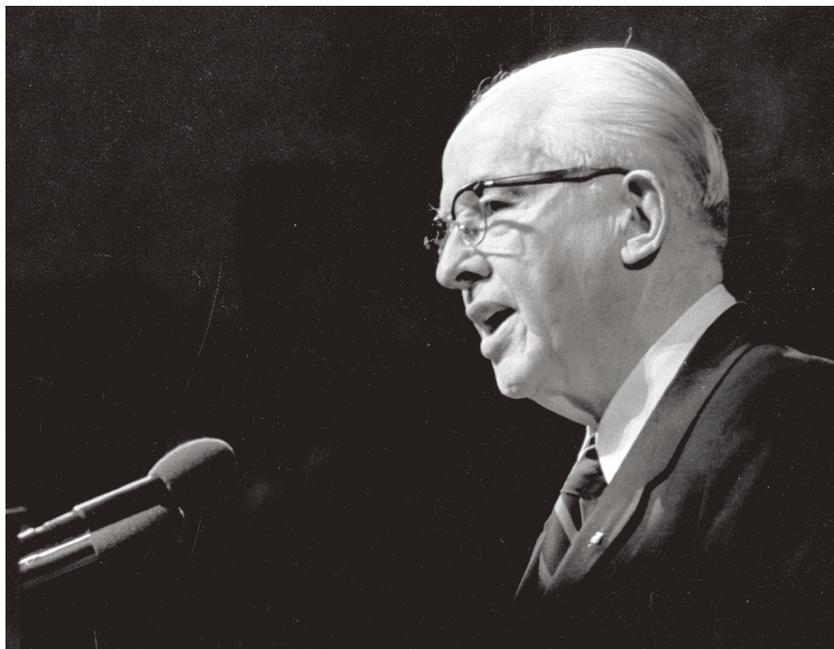
そうです。感謝を神にささげましょう。この末日に預言者の導きがあるのです。〔『賛美歌』11番参照〕<sup>12</sup>

生ける預言者に対抗して亡くなった預言者の肩を持つとうとする人には注意してください。常に生ける預言者が優先します。<sup>13</sup>

歴代の大管長は、世界と教会が必要とする時と状況に合わせて特別に選ばれていました。スペンサー・W・キンボール大管長の働きの中にわたしたちが見てきたように、どの大管長も「時の人」なのです。予任と備えの奇跡について考えてみてください。召され、鍵を与えられたのは預言者の外套が掛けられるずっと前のことではありますが、大管長には昔から、その時と場所にふさわしい人が召されてきました。この奇跡一つを取っても、この教会が神の教会であることの証拠と言えるのです。<sup>14</sup>

こう問うてみましょう。今日この地上に主のまことの預言者は必要でしょうか。ノアの時代の民には、霊的にも物質的にも警告を与えてくれる預言者が必要でしたか。ノアに従うことを拒否した人は、洪水から救われましたか。聖書には、わたしたちが現在生きている末の日に、人々の悪は、神が洪水で地を清められたときのノアの時代の民の悪に匹敵するほどになるだろうと書かれています〔マタイ 24:37-39 参照〕。今日のわたしたちには、神が約束された火による清めに対して警告し、備えるよう呼びかけてくれる預言者が必要だと考えていますか。<sup>15</sup>

自分が主をどれくらい支持しているか知りたければ、次のように自問してみましょう。この世における主の指揮者を、どれくらい支持しているだろうか。主



大管長として、エズラ・タフト・ベンソンは深い愛を込めて話し、人に行動を促した。

が油注がれた生ける預言者、教会の大管長の言葉や、大管長会の言葉とどの程度調和した生活をしているだろうか。<sup>16</sup>

### 3

生ける預言者は必ずしもわたしたちが聞きたいことを告げるのではなく、  
知る必要のあることを告げる

真の預言者は、神から託されたメッセージを宣言するという、誰の目から見ても明らかな特徴を持っています。真の預言者は、神から託されたメッセージに対して言い訳をしたり、あざけりや迫害につながる社会的な反動を恐れたりはしません。<sup>17</sup>

ある事柄について神から預言者に与えられた天の知識よりも、この世の知識の方が優れていると感じる人が時々います。そのような人は、預言者がこの世の学問と矛盾する話をする時、心の中で、預言者が自分たちのようにこの世的な訓練や教育を受けたうえで語るのであれば、その話を受け入れようと考えます。ジョセフ・スミスには、どれほどの学問があったのでしょうか。にもかかわらず、彼は森羅万象にわたる啓示を伝えたのです。……わたしたちは多くの分野でこの世の知識を修めるように勧めていますが、これだけは忘れないでください。もしこの世の知識と預言者の言葉が対立するようなことがあったら、預言

者に従うことです。そうすれば祝福を受け、皆さんが正しいことは、時が証明してくれるでしょう。

……預言者はわたしたちに聖文を与えるときに、「主がこのように言われる」と宣言する必要はありません。

このことについて論争する人を時々見かけます。彼らの話によれば、預言者は勧告を与えるが、それが戒めであると宣言されないかぎり、守る義務はないというのです。しかし、主は預言者ジョセフ・スミスについて次のように述べておられます。「彼があなたがたに与えるそれら〔わたしの言葉と戒め〕のすべてを心に留めなければならない。」(教義と聖約 21:4 参照)

……預言者は必ずしもわたしたちが知りたいことを告げるのではなく、知る必要のあることを告げます。

「おまえは我々が聞くに堪えないほど厳しいことを言った」と兄たちは不平を言いましたが、ニーファイはこう答えました。「罪のある者は真理が胸の底まで刺し貫くので、真理を厳しいものと思うのである。」(1 ニーファイ 16:1-2)

ハロルド・B・リー大管長は次のように言っています。

「教会幹部からのメッセージを快く思えないこともあるかもしれません。あなたの政治上の見解や社会観と相いれないものもあるでしょう。また、あなたの社会生活を多少なりとも犠牲にしなければならないようなメッセージかもしれません。……あなたたちの安全とわたしたちの安全は、……わたしたちが従うかどうかにかかっています。……わたしたちは教会の大管長に目を向け……ようではありませんか。」(Conference Report, 1970年10月号、152-153)

しかし、実際に世の人々を動揺させるのは、生ける預言者です。キンボール大管長は次のように述べています。「この教会においてさえ、過去の預言者の碑を飾り、心の中で生ける預言者に石を投げつけている者が多くいます。」(*Instructor*, 95:257)

なぜでしょうか。それは生ける預言者が、わたしたちが今知る必要のあることを単刀直入に言うからです。そして、世の人々は過去の預言者や、自分たちの関心事に心を寄せてくれる預言者を好むからです。……

現代の預言者の言葉が、わたしたちにとって知る必要はあるが進んで聞きたいとは思えない場合、その言葉に対してどのように反応するかによって、わたしたちの忠実さが試されます。……

教養を誇る人は、預言者が自分と同じ意見を述べたときにだけ靈感を受けていると見なし、それ以外のときは人間として個人的な見解を述べているにすぎないと考えてでしょう。また富を誇る人は、身分の低い預言者の勧告など受け入れる必要はないと感じるかもしれません。……

……預言者は俗世間の人々から必ずしも好評を博するというわけではありません。

預言者が真理を明らかにすると、人々は二つに分かれます。心の正直な人はその言葉に耳を傾け、邪悪な人は預言者を無視するか、預言者に戦いを挑んできます。預言者が世の中の罪悪を指摘すると、世の人々は自分の罪を悔い改めるよりも、預言者の口を塞ぐか、あるいは預言者など存在しないかのように振る舞おうとします。人気は決して真理の目安にはならないのです。多くの預言者が殺され、追放されてきました。主の再臨が近づくにつれて世の人々はますます邪悪になり、預言者は彼らから受け入れられなくなるでしょう。」<sup>18</sup>

---

## 4

---

### 生ける預言者に従うと祝福を受ける

皆さんの前途には厳しい試練が横たわっています。わたしは一つの大切な鍵<sup>かぎ</sup>を……紹介したいと思います。もし皆さんがこの鍵を大切に扱うならば、神の栄光を授かり、サタン<sup>サタン</sup>の猛威にも屈せずに勝利を得ることでしょう。

……教会の賛美歌には、「感謝を神にささげん、預言者の導き」と歌われています。大切な鍵は、預言者に従うということです（『賛美歌』11番）。……

……預言者は全ての事柄について主に代わって語る唯一の人です。

教義と聖約の第132章7節の中で、主は預言者、すなわち大管長について次のように述べておられます。

「この力とこの神権の鍵を授けられる者は、地上において同時期にただ一人しかいない。」

さらに第21章4-6節で次のように宣言しておられます。

「それゆえ、彼がわたしの前を完全に<sup>きよ</sup>聖く歩み、わたしの言葉と戒めを受けるとき、あなたがた教会員は、彼があなたがたに与えるそれらのすべてを心に留めなければならない。

あなたがたは忍耐と信仰を尽くして、あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない。

これらのことを行えば、地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはないからである。」<sup>19</sup>

預言者は教会を間違った方向に導くことはありません。

ウィルフォード・ウッドラフ大管長は次のように述べています。「イスラエルの民に申し上げます。主はわたしであろうと、ほかの誰であろうと、この教会の大管長として立つ者が皆さんを誤った道へ導くのをお許しになることは決してあり

ません。そうすることは、計画の中にはありません。それは神の御心<sup>みこころ</sup>の中にあ  
りません。』[『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』199 参照]

マリオン・G・ロムニー管長は、自分自身の経験を次のように語っています。

「わたしが何年も昔にビショップを務めていたときの経験を紹介しましょう。  
わたしはヒーバー・J・グラント大管長をワードに招いて話をしてもらいました。  
……グラント大管長はわたしのそばに立ち、わたしの肩に腕を回してこう言っ  
たのです。『マリオン、教会の大管長にいつも目を向けていなさい。そして大  
管長が何かするように言ったら、それが間違いであっても、実行しなさい。そう  
すれば、主から祝福を受けるでしょう。』グラント大管長は瞳をきらりと光らせ  
て、言葉を続けました。『でも、心配する必要はありません。主の代弁者が主  
の民を間違った方向に導くようなことを、主は決してお許しにならないのですか  
ら。』」(Conference Report, 1960 年 10 月, 78)<sup>20</sup>

ブリガム・ヤングが地域を見回っていたときに、一人の男が家を建てているの  
を見て、壁の厚さを2倍にしなさいとだけ言ったという話があります。その男は  
ヤング大管長を預言者と信じ、自分の計画を変更して壁を2倍にしました。そ  
のすぐ後で街を洪水が襲い大きな被害をもたらしましたが、その男の家の壁は  
崩れませんでした。屋根をふきながら、『感謝を神にささげん、預言者の導き』  
と歌う彼の声が響いていたといえます。<sup>21</sup>

教会員であるわたしたちは、天の御父のみもとに無事帰るためには難しい状  
況を何度も切り抜けなければなりません。預言者の勧告と相いれない勧告を  
受けて判断を迫られる場面に直面するのです。預言者、つまり大管長から目を  
離さないようにしなければならぬのはこのためです。それは、早ければ早い  
ほどよいのです。<sup>22</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ベンソン大管長は「預言者から目を離さないようにしてください」と言ってい  
ますが(第1項)、この言葉はあなたにとってどのような意味があるでしょ  
うか。
- どうして、わたしたちにとって最も大切な預言者は現在の管長なのでしょ  
うか(第2項参照)。わたしたちは最近、生ける預言者からどのような勧告  
を受けたでしょうか。
- 第3項を読んで、完全には理解できていなくとも預言者の勧告に従ったとい  
う経験があれば、そのときのことについて考えてください。その経験から、  
どのようなことが学べるでしょうか。

- ベンソン大管長が第4項で述べている「大切な鍵<sup>かぎ</sup>」について考えてください。この大切な鍵を敬ったおかげで祝福を受けたことがありますか。それはどんな祝福でしたか。

関連聖句

歴代下 20 : 20 ; アモス 3 : 7 ; エペソ 2 : 19 - 20 ; 4 : 11 - 15 ; 教義と聖約 1 : 14 - 16, 37 - 38 ; 107 : 91 - 92 ; 信仰箇条 1 : 6

教える際のヒント

「沈黙を恐れてはならない。質問に答えたり、自分の気持ちを表現したりするのに考える時間を必要とすることがある。質問を投げかけた後、霊的な経験を分かち合った後、あるいは生徒が自分の考えをよく表現できないときに、間を置くことが必要である。話している人が自分の考えを最後まで述べてから、対応する。もちろん、過度に長く待つべきではない。特に、話すことに戸惑いやプレッシャーを感じている人に対しては長い間を置かないように注意する。」(『教師、その大いなる召し』67)

注

1. ジョセフ・F・スミス, アンソン・H・ランド, チャールズ・W・ベンローズ, "Home Evening," *Improvement Era*, 1915年6月号, 733 - 734
2. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 528
3. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 528
4. Conference Report, 1947年10月, 23
5. Conference Report, 1947年10月, 27
6. 例えば, Conference Report, 1968年10月, 17; Conference Report, 1970年4月, 127; *Ensign*, 1973年1月, 57; 『聖徒の道』1981年4月号, 63; 『聖徒の道』1984年7月号, 14を参照
7. W・グラント・バンガーター「教会史上に残る特別な日」『聖徒の道』1978年2月号, 39参照
8. ドン・L・サール, "President Ezra Taft Benson Ordained Thirteenth President of the Church," *Ensign*, 1985年12月号, 5にて引用
9. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 134
10. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 132
11. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 132
12. "Jesus Christ Gifts and Expectations," *New Era*, 1975年5月号, 16 - 17
13. 「予言者に従う14の原則」『聖徒の道』1981年6月号, 3参照
14. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 142
15. "Listen to a Prophet's Voice," *Ensign*, 1973年1月号, 59
16. 「予言者に従う14の原則」8参照
17. 「私たちの時代の予言者, ジョセフ・スミス」『聖徒の道』1982年4月号, 99参照
18. 「予言者に従う14の原則」3 - 4, 6, 7参照。斜体は原文から取り除いた。
19. 「予言者に従う14の原則」1 - 2。斜体は原文から取り除いた。
20. 「予言者に従う14の原則」3参照。斜体は原文から取り除いた。
21. "Civic Standards for the Faithful Saints," *Ensign*, 1972年7月号, 61; シドニー・アルバリス・ハンクスとエフライム・K・ハンクス, *Scouting for the Mormons on the Great Frontier* [1948年], 78 - 80も参照
22. Conference Report, 1966年10月, 122



# 全てのことにおいて御<sup>み</sup>霊<sup>たま</sup>を 求めてください

「わたしたちは生活のあらゆる面で、常に聖霊の導きに対して心を開き、感性を研ぎ澄ましていなければなりません。」

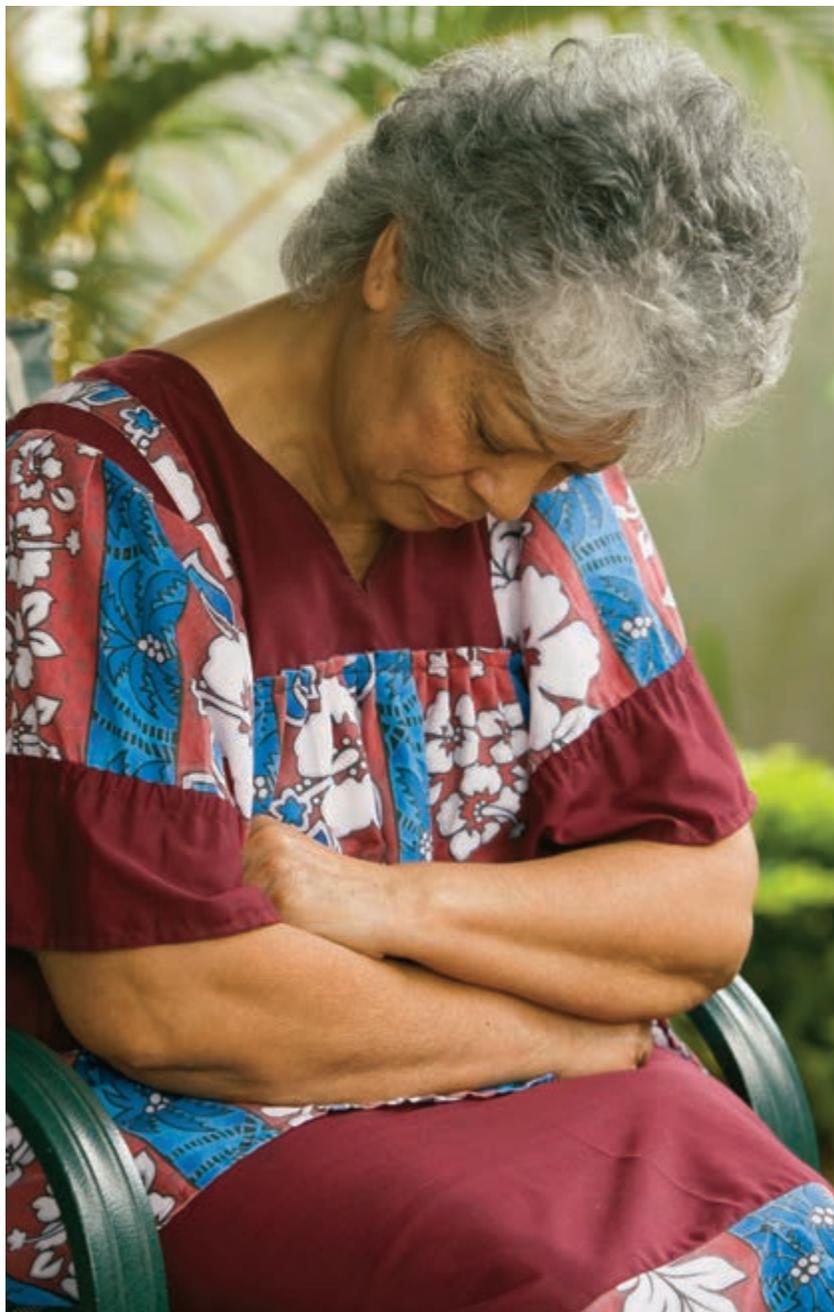
## エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、教会における奉仕について他の中央幹部に勧告を与えるとき、よくこう言っていた。「中央幹部の皆さん、忘れないでください。主の業で大切なのは御霊なのです。」<sup>1</sup> また中央幹部とともに仕え、教え、導くとき、この原則を模範によって教え、主が「僕たちの近くに、しかも、ささやきかけるほど近い所におられる」ということを示した。<sup>2</sup> 十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は、ベンソン大管長に同行し、新しいステーク会長が召されるステーク大会に出席したときのことについてこう語っている。

「祈り、面接し、検討し、もう一度祈った後で、新しいステーク会長には誰がいか分かりましたか、とベンソン長老に尋ねられました。まだその啓示を受けていません、とわたしは言いました。ベンソン長老はしばらくわたしの方を見た後、自分もまだ受けていない、と話してくれました。しかし、わたしたちは御霊に動かされて、ステーク大会の土曜の夜の集会で話す割り当てを、3人の立派な神権者に与えました。そして3人目の話者が話し始めたとき、『この人こそ新しいステーク会長である』と御霊がわたしにささやきました。ベンソン会長の方を見ると、涙が頬を伝っています。わたしたち双方に啓示が与えられたわけです。信仰をもって前進し、天の御父の御心を求め続けたからこそ、啓示を受けることができたのです。」<sup>3</sup>

新任伝道部会長のための大会の最初に、ベンソン大管長は次の勧告を与えた。

「わたしはともに働く兄弟たちに、この御業<sup>みわざ</sup>にあつて実に最も大切な要素は御霊であると、これまで幾度となく言ってきました。御霊がともにあり、召しを尊んで大いなるものとするならば、伝道地で奇跡を起こすことができます。御霊がなければ、才能や能力があつたとしても、決して成功することはできません。



「<sup>みたま</sup>御霊を得るにはどうすればよいでしょうか。  
主は『信仰の祈りによ〔る〕』と述べておられます。」

これから3日間、皆さんはすばらしい指導を受けます。数々の手引きを渡され、責任や手順について話し合い、方針を検討します。これらは全て非常に皆さんの役に立ちます。しかし、伝道部会長として受ける最大の助けは、手引きやマニュアルからは得られないのです。皆さんにとって最大の助けは、皆さんが謙遜な祈りの中で、主に心から嘆願するときに、主御自身から与えられます。何度もひざまずき祈り、伝道部を管理するために主の助けを願い求めるとき、御霊を感じ、天からの答えを受け、伝道部が霊的に成長します。主を信頼したからです。」<sup>4</sup>

ベンソン大管長は、小さな子供たちを含む全ての教会員にこの勧告を与えた。<sup>5</sup>彼はこう語っている。「どこで仕えようと、この御業の中で大切なのは御霊です。わたしも自分が御霊に頼らなければならないということを承知しています。皆それぞれこの御霊を得、また忠実な教会員、献身的な子供や両親、優れたホームティーチャー、人を啓発する教師、ワードやステークの霊感あふれる指導者となろうではありませんか。」<sup>6</sup>

ベンソン大管長は、世界中で公にまた臆することなくこの真理を教えたが、彼自身はおもに個人的に、また人目につくことなく、この真理に従おうと努めた。その努力は家庭の中で、妻フローラとの協力の下に始まった。ベンソン家を訪問したことがあるフローラの異母姉妹ジュリア・ダリーは、後にフローラ宛ての手紙の中でベンソン家のことについてこう書いている。「これほど理想的な家庭は、どこを探しても他にないでしょう。あなたたちの質素な暮らしぶりには感心します。でも、何よりも深い感銘を受けたのは、あなたの家庭に主の御霊が宿っていたことです。」<sup>7</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

生涯を通して、常に聖霊の導きを受けるよう懸命に努力してください

自分がまっすぐな狭い道を歩んでいるかどうかを判断する一つの確かな方法は、生活の中で主の御霊を受けようとしているかどうかということです。

聖霊を受ける人は、それにふさわしい実を結びます。

使徒パウロはこう言っています。「御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、〔そして〕自制であ〔る〕。』（ガラテヤ5：22 - 23）

わたしたちの生活の中で最も大切なものは、御霊です。わたしはいつもそう感じています。わたしたちは生活のあらゆる面で、常に聖霊の導きに対して心を開き、感性を研ぎ澄ましていなければなりません。……約束事に追われてい

たり、日々の生活の心配事に心を奪われたりしているときには、ほとんど御霊の導きを受けることはできません。<sup>8</sup>

誰もが最も必要としているものは、霊性、すなわち主の御霊との調和です。生涯を通して、常に聖霊の導きを受けるよう懸命に努力してください。御霊を授けられた人は、奉仕を愛し、主を愛するようになります。そして、ともに奉仕に励む人、奉仕する相手の人を愛するようになるのです。

ジョセフ・スミスは殉教してから数年後、ブリガム・ヤング大管長に現れ、次のように言いました。

「この民に伝えてください。謙遜<sup>けんそん</sup>で忠実であるように、常に主の御霊<sup>はんりょ</sup>を伴侶とするように、そうすれば御霊は正しい道へと導いてくれます。注意深くあって、細い静かな声を退けないように、そうすれば細い静かな声は何をなすべきか、またどこに行くべきかを教え、王国の実をもたらししてくれます。兄弟たちに告げてください。確信を与えるものに対して常に心を開いているように、そうすることによって聖霊の導きを受けたときにはいつでも受け入れることができるようになります。」……

この末日の業は霊的なものです。それを理解し、愛し、識別するには霊性が必要です。ですから、全てのことに於いて御霊を求め、常にその導きを得られるようにしてください。わたしたちはそうするように求められているからです。<sup>9</sup>

わたしたちはきわめて邪悪な世界に住んでいます。悪を善、善を悪と説く宣伝に取り巻かれています。悪い影響を及ぼす偽りの教えであふれています。健全で、義にかない、清く、心を高め、励ましてくれるものはほとんど全て、いまだかつてないほど価値を疑われているのです。

わたしたちがこの地上に存在する一つの目的は、真理と誤りを識別できるようになることです。この識別力は、知性の働きだけではなく、聖霊によって与えられます。

わたしたちが熱心かつ正直に真理を求めるなら、次のようなすばらしい約束が成就されます。「神はその聖なる御霊によって、すなわち聖霊の言い尽くせない賜物<sup>たまもの</sup>によって、……知識を、あなたがたに与えてくださるであろう。」(教義と聖約 121:26)<sup>10</sup>

## 2

もしわたしたちが謙遜<sup>けんそん</sup>になり、御霊<sup>みたま</sup>を感じるなら、  
主はわたしたちの感情に働きかけてくださる

いつも主の御霊が与えられるように天の御父に祈ってください。御霊は聖霊と呼ばれることがよくあります。……聖霊は、正しい道を選べるように助けてく

ださいます。また悪の力から守ってくれます。聖霊は小さく静かな声で、正しいことをするようにささやきかけます。皆さんが良いことを行い、良い気持ちを感じるのは、聖霊が語りかけるからです。聖霊はすばらしい伴侶はんりょうです。聖霊は常に皆さんのそばにいて、助けを与えてくれるのです。<sup>11</sup>

自分が理解していない事柄について深く考えてください。主はオリバー・カウドリに次のように命じられました。「あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならない。もしそれが正しいければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」(教義と聖約 9：8；強調付加)

「あなたはそれが正しいと感じる」という最後の言葉に気づいたでしょうか。

多くの場合、わたしたちは感情を通して主の御言葉みことばを聞きます。もしわたしたちが謙遜になり、御霊を感じるなら、主はわたしたちの感情に働きかけてくださいます。御霊の促しを受けると、ときには心に大きな喜びを感じたり、涙を流したりすることがあるのはこのためです。わたし自身も御霊に感動して、優しい気持ちになったり、心が感じやすくなったりしたことが何度もあります。

聖霊はわたしたちの感情を和らげてくれます。お互いの愛と思いやりを深め、穏やかな気持ちで人に接することができるようになります。互いに愛し合う力が増します。御霊の影響力は顔の表情の輝きとなって表れ、人々を引き付けます。また、信心深い人格を高めることができます。その結果、聖霊の導きに対する感性が一層研ぎ澄まされ、霊的な事柄をさらに明確に理解できるようになるのです。<sup>12</sup>

### 3

#### 心からの祈りと断食を通して御霊みたまの導きを受ける

御霊を得るにはどうすればよいでしょうか。主は「信仰の祈りによ〔る〕」と述べておられます〔教義と聖約 42：14〕。したがって、誠心誠意で祈り、信仰が増すように、また御霊の導きあかしを受けて教えられるように祈らなければなりません。そして罪が赦されるように祈り求めます。

モルモン書に出てくるエノスが祈ったのと同じ精神と熱意をもって祈らなければならないのです。この靈感あふれる物語については、ほとんどの人がよく知っているのですが、その背景については繰り返しますが、次の言葉に注意してほしいと思います。エノスはこう証しています。「わたしは、罪の赦しあかしを受けるに先立って神の前で味わった苦闘について、あなたがたに述べよう。」エノスはこの苦闘について具体的に説明しています。エノスがどれほど熱意をもって懇願したかに注目してください。

「わたしの霊は飢えを感じた。」

「わたしは造り主の前にひざまず〔いた〕。」

「自分自身のために熱烈な祈りと懇願をもって造り主に叫び求めた。」

「わたしは一日中造り主に叫び求めた。」

そしてエノスはこう証しています。「わたしに声が聞こえた。『エノスよ、あなたの罪は赦された。あなたは祝福を受けるであろう。』」どうしてそうなるのかと尋ねたエノスに、主はこう答えておられます。「あなたが……キリストを信じているからである。……あなたの信仰があなたを罪のない者としたのである。」(エノス1:2, 4-8; 強調付加)

エノスは霊的に癒いやされました。神への熱烈な懇願によりエノスが経験したことは、あらゆる神権時代の忠実な人々が、神を見て御霊に満たされようとするなら経験できること、文字どおり経験すること、また経験しなければならないことでした。<sup>13</sup>

あなたが……自分の職と召しに対する心構えを知りたいと思うならば、一定の期間断食してみてください。1食を抜いて、次の食事で2倍の食物を取る断食ではありません。わたしが言うのは、断食の間祈りをささげる、ほんとうの断食です。これによって、職と召しに対する正しい姿勢を知り、御霊があなたを通して働きかけることができるでしょう。これ以上の方法をわたしは知りません。<sup>14</sup>

## 4

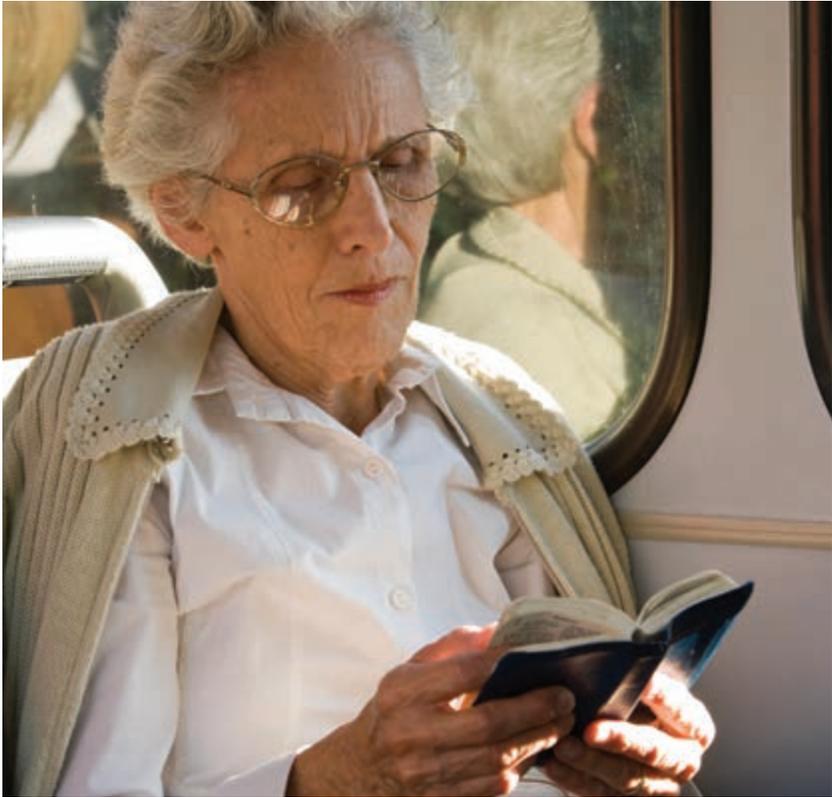
### 聖句についての瞑想めいそうを含む日々の聖文学習が御霊みたまを招く

毎日の個人学習で聖文を熱心に研究してください。日々の聖文学習が御霊を招きます。<sup>15</sup>

瞑想する時間を取ってください。一人の少年が森に導かれ、天の御父と心を通わせることができたのは、瞑想をしたからです。ヤコブ書第1章5節の聖句について瞑想したことにより、天が開かれ、この神権時代が始まったのです。

3つの栄光の階級に関するすばらしい啓示を受けたのも、新約聖書のヨハネによる福音書の聖句について瞑想した結果です(ヨハネ5:29; 教義と聖約76章参照)。

ジョセフ・F・スミス大管長の前に天が開かれ、霊界の様子が示されたのも、ペテロの手紙の聖句について瞑想した結果です。死者の贖あがないに関する示現として知られるその啓示は、今は教義と聖約の一部となっています〔1ペテロ3:18-20; 4:6; 教義と聖約138章参照〕。



日々の聖文学習は御霊<sup>みたま</sup>を招きます。

主から託された責任の意義についてよく考えてください。主は次のように勧告しておられます。「永遠の厳粛さを心にとどめなさい。」(教義と聖約 43:34) これは、世の煩いごとに心を奪われていてはできないことです。

聖文を読み、研究してください。率先して模範を示す両親とともに、家庭で聖文を学んでください。また聖文を理解するには聖霊の力が欠かせません。主は忠実に従う人々に、こう約束しておられます。「あなたは……数々の奥義と平和をもたらす事柄……を知ることができるようになるであろう。」(教義と聖約 42:61)

スペンサー・W・キンボール大管長の次の話には、日々の生活の中で霊性を伸ばすにはどうしたらよいかが述べられています。

「わたしは自分が神と密接な関係でなくなったと感じるとき、また神が耳を傾けず、声を発しておられないように感じるとき、神から遠く離れていることが分かります。そのようなとき、もし熱心に聖文を読むならば、その距離は縮まり、

霊性が戻ってきます。心と思いと力を尽くして愛さなければならない人をさらに強く愛するようになります。そして聖文を愛すれば愛するほど、聖文の勧告に従うのが容易になります。」……

これはすばらしい勧告です。わたしは自分の経験からこれが真実であることを知っています。

聖典に親しめば親しむほど、主の思いと御心みこころに一層近づき、夫婦、親子のきずなが深まります。そして、聖典を読むことによって、永遠の真理が自分の心に刻まれるようになるのが分かります。<sup>16</sup>

悪魔は、わたしたちが家庭で聖文を学ぶことを望んでいません。ですから、機会があるごとにいろいろな問題を起こそうとしましょう。しかし、ひるむようなことがあってはなりません。<sup>17</sup>

神とイエスについて知るには、御二方について学び、その御心を行わなければなりません。そうするならば、啓示を通して知識を増し加えられ、忠実に従う人はなお一層の真理へと導かれていきます。この道を踏み行う人は、さらに大きな光と喜びを与えられ、ついには神のみもとへ導かれ、神とともに完全な喜びにあずかるようになります。<sup>18</sup>

## 5

### 聖霊は、神の律法を貴び敬い、それに従う人のもとにとどまる

御霊みたまは清くない宮には住まれないと教えられています〔ヒラマン4：24 参照〕。したがって、わたしたちが最優先すべきことの一つは、自分自身の生活をきちんと整えることです。<sup>19</sup>

従順についてお話ししたいと思います。皆さんは今、主の戒めを全て守ることを学んでいます。それを行っていくなら、主の御霊を受け、自分自身に対して良い思いを抱くことができるでしょう。間違ったことを行っているながら、正しいという気持ちを感じることはできません。それは不可能なことなのです。<sup>20</sup>

〔知恵の言葉〕を守る人は、物質的な約束を受けます。すなわち、「そのへそに健康を受け、その骨に髓を受けるであろう。……〔彼らは〕走っても疲れることがなく、歩いても弱ることはない」のです（教義と聖約 89：18、20）。

しかしわたしが常々感じてきたことは、知恵の言葉を初め他のあらゆる戒めに従って得られる祝福は、霊的な面の方が大きいということです。

霊的な約束についてはこう書かれています。「これらの言葉を守って行うことを覚え、数々の戒めに従順に歩むすべての聖徒たちは、……知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであろう。」（教義と聖約 89：18、19；強調付加）

この約束が知恵の言葉の中の条件を守るだけで得られると考える人がいます。しかし皆さんは、全ての戒めに従順に従わなければならないことに気づくでしょう。全ての戒めを守ってこそ、特定の靈的な約束を受けられるのです。つまり、<sup>じゅうぶん</sup> 什分の一の律法を守り、安息日を<sup>きよ</sup> 聖くし、道徳的な清さと貞潔を保ち、その他のあらゆる戒めに従って生活しなければならないのです。

これら全てを行うときに、次のように約束されています。「知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであらう。」(教義と聖約 89 : 19)

子供を育てるうえで主からの靈感を望まない親がいるのでしょうか。この祝福は皆さんのものになり得ると<sup>あかし</sup> 証します。自らの不従順によって、子供を主の祝福から遠ざけたいと思う親はいないと思います。イスラエルの全ての父母は、この約束を受けるにふさわしくなるように努めてください。

神の戒めに従って生活することは、主の宮に入るためのふさわしさを定める条件となります。主の宮で、現世における幸福と永遠にわたる喜びに結びつく知恵と「知識の大いなる宝」が与えられるのです。……

戒めを守らずに、福音に対して活発で力強い証を持つことはできないと思います。なぜなら、証は一度だけ受けるものではなく、この業が真実であることを絶えず靈感を通して知ることだからです。聖霊は、神の律法を貴び敬い、それに従う人の元にとどまります。人に靈感を与えるのはこの御霊なのです。わたしはへりくだり、この約束が真実であることを証します。<sup>21</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ベンソン大管長は、聖霊の導きは「約束事に追われていたり、日々の生活の心配事に心を奪われたりしているときには、ほとんど……受けること〔が〕でき〔ない〕」と述べています(第1項)。そのように忙しいときでも、常に<sup>みたま</sup> 御霊を感じられるようにするにはどうしたらよいでしょうか。
- ベンソン大管長は次のように教えています。「もしわたしたちが<sup>けんそん</sup> 謙遜になり、御霊を感じるなら、主はわたしたちの感情に働きかけてくださ〔います。〕」(第2項) そのような導きに気づくことについて、あなたは何を学びましたか。
- 第2項で、ベンソン大管長はモルモン書に記されているエノスの模範に従うように勧めています。御霊を求めることについて、エノスからどのような教訓を学ぶことができるでしょうか。

- あなたにとって、聖文を読むことと「聖文について<sup>めいそう</sup>瞑想する〔こと〕」は、どのように違うでしょうか（第4項参照）。熱心な日々の聖文学習が、御霊の導きに心を開くうえで助けとなるのはなぜでしょうか。
- ベンソン大管長は次のように述べています。「聖霊は、神の律法を貴び敬い、それに従う人のもとにとどま〔ります。〕」（第5項）靈感を受ける能力が戒めを守ろうとする努力に影響されるのはなぜだと思いますか。

### 関連聖句

1 ニーフアイ 10：17 - 19；2 ニーフアイ 4：15 - 16；モーサヤ 2：36 - 37；教義と聖約 8：2 - 3；45：56 - 57；76：5 - 10；121：45 - 46

### 学ぶ際のヒント

「学んでいるときに、特にあなたが教える人々について心に浮かんでくる考えと湧き上がる感情に十分な注意を払ってください。」（『わたしの福音を宣べ伝えなさい』18）読んでいる言葉と無関係に思えたとしても、受けた印象を記録するとよいでしょう。そのような印象こそ、主があなたに明らかにしたいと思っておられることかもしれないからです。

### 注

1. トーマス・S・モンソン大管長による引用。「将来に備える計画—貫い約束」『聖徒の道』1986年7月号, 63 参照
2. 「主のみたまを求めなさい」『聖徒の道』1988年9月号, 6 参照
3. ロバート・D・ヘイルズ「個人の啓示——預言者たちの教えと模範」『リアホナ』2007年11月号, 87
4. “My Challenges to Mission Presidents.” 新任伝道部会長のためのセミナー, 1986年6月25日
5. 「教会の子供たちへ」『聖徒の道』1989年7月号, 86 参照
6. 「神聖な務め」『聖徒の道』1986年7月号, 77 参照
7. ジュリア・ダリーの言葉, シェリル・L・デュー著, *Ezra Taft Benson: A Biography* (1988年), 128 で引用
8. 「主のみたまを求めなさい」2-3 参照
9. 「主のみたまを求めなさい」6 参照；ブリガム・ヤングが語った言葉は, *Manuscript History of Brigham Young*, 1947年2月23日, 全2巻, エルデン・ジェイ・ワトソン (1968年, 1971年), 第2巻, 529 に記されている
10. *Come unto Christ*, (1983年), 22
11. 「教会の子供たちへ」86 参照
12. 「主のみたまを求めなさい」5 参照
13. *Come unto Christ*, 92-93
14. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 331-332
15. “My Challenges to Mission Presidents.” 新任伝道部会長のためのセミナー, 1986年6月25日；原文にあった斜体は正体にした
16. 「主のみたまを求めなさい」3 参照；5：スเปนサー・W・キンボールの話は, 『歴代大管長の教え——スเปนサー・W・キンボール』66-67 に収録されている
17. 「神聖な務め」78 参照
18. 「主の歩みにならって」『聖徒の道』1989年1月号, 4-5 参照
19. *Come unto Christ*, 92
20. 「伝道に備える」『聖徒の道』1985年7月号, 39-40 参照
21. 「約束を有てる原理」『聖徒の道』1983年7月号, 94-95 参照



## 主の宮からもたらされる貴重な祝福

「神殿の中でこそ、永遠の命に関わる神の最高の祝福を受けることができます。神殿はまさしく天への入り口なのです。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

「神カミ殿については子供の頃から様々な思い出があることを、わたしは主に感謝しています。」エズラ・タフト・ベンソン大管長はそう語っている。「よく覚えているのは、まだ小さかった頃、アイダホ州ホイトニーの農場の古びた家に外から帰ると、母が賛美歌の「今日われ善きことせしか」を歌う声が聞こえてきたことです。（『賛美歌』137番）

今でもわたしの目に浮かぶのは、床に新聞を広げ、アイロン台に向かって腰をかがめ、額に玉のような汗を浮かべて、細長い白い布にアイロンを掛けている母の姿です。何をしているのかとわたしが尋ねると『これはね、神殿で着るものだよ。お父さんと二人で神殿に行くのよ』と教えてくれました。……

そして、電気を使わなかった昔の古いアイロンを大きなストーブの上に置き、わたしのそばに椅子を引き寄せて神殿の業について話してくれました。神殿に参入し、そこで行われる神聖な儀式を受けられることがどんなに大切かを教えてくれたのです。母はまた、いつの日か自分の子供たち、孫たち、ひ孫たちがその貴重な祝福を得られるようになることをどんなに望んでいるか、聞かせてくれました。

神殿の業の本当の意味について教えてくれるこれらの懐かしい思い出は、わたしの家……で与えられた祝福なのです。わたしが自分の子供たち、孫たち——つまり母の孫たち、ひ孫たちの神殿結婚の儀式を、主の宮で御霊みたまの力を受けて行ったとき、その思い出がよみがえってきました。

これらはわたしにとってかけがえのない思い出です。」<sup>1</sup>



カリフォルニア州ロサンゼルス神殿

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

神殿は、わたしたちが大切に思う全てのものの象徴である

神殿は、この死すべき現世にあって天国に最も近い所です。<sup>2</sup>

神殿は、地域に住む全ての人々を照らす光、すなわちわたしたちが大切に思う全てのものの象徴です。<sup>3</sup>

神殿は、家族を永遠のものにしたいという主の御心<sup>みこころ</sup>をいつも思い起こさせてくれます。<sup>4</sup>

〔神殿〕は、神が人<sup>くらやみ</sup>を暗闇の中で手探りの状態に放置されたことはないということを示す、変わる事のない、目に見える象徴です。神殿は啓示を受ける場所です。わたしたちは墮落した世界、邪悪な世界に住んでいますが、ふさわしければ天の秩序を学び、神に従うことができるよう、神聖な場所がこの世から聖別され、奉獻されているのです。<sup>5</sup>

神の力はこの世にはびこる悪の力を打ち負かすことができます。〔神殿は〕そのことを証<sup>あかし</sup>する変わる事のない証人です。教会の内外を問わず、多くの両親が、なだれのように押し寄せ、キリスト教の原則を根底から揺るがしかねない悪から、子供を守るにはどうしたらよいか心配しています。わたしはハロルド・B・リー大管長が第二次世界大戦中に語った次の言葉に全面的に賛成します。彼はこう語っています。「わたしたちは今日<sup>こんにち</sup>における安全について語りながらも、よく理解していないことがあります。……それはわたしたちのために建てられた聖なる神殿の中に、この民を破壊から救う力を生み出すような象徴を見いだせるということです。」<sup>6</sup>

〔カリフォルニア州〕ロサンゼルスにあるビバリーヒルズ・ヒルトンホテルで開かれたパーティーで、わたしは〔農務長官として〕合衆国大統領から、まだ比較的新しい国、8,800万の人々が1,600キロに及ぶおよそ3,000の島々に散らばって住み、建国後わずか数年しかたたない国の大統領に歓迎の挨拶を述べるよう頼まれたことがあります。その晩餐会<sup>ばんさん</sup>は主立った映画会社が主催するもので、多くの映画俳優が同席していました。わたしは美しい出窓の外に目をやりました。通りの先の小高い所に、壮麗なロサンゼルス神殿の周囲を照らす柔らかな照明が見えました。わたしは思わずうれしくなって、自分のテーブルだけでなく他のテーブルに座っているゲストや友人の皆さんに、神殿を指さしました。そこに座りながら、わたしは「今晚、ここで起こっていることの多くは、泡のようにほかないものだ」と思いました。いつまでも変わることなく、実在し、大切なもの、それは神の神殿の中で得られるものなのです。<sup>7</sup>

人生は永遠であり、わたしたちが現世で交わす聖約には永遠に続く力がある  
 ということ〔神殿が〕絶えず思い出させてくれますように。<sup>8</sup>

---

 2
 

---

わたしたちは完全な神権を受け、神の御前に帰る備えをするために、  
 神殿の儀式と聖約を必要としている

天の御父がアダムとエバをこの地上に置かれたのは、御前に帰る方法を教える  
 ためでした。御父は彼らを墮落した状態から贖うために救い主を送ると約  
 束されました。そして彼らに救いの計画を与え、イエス・キリストを信じる信仰  
 と悔い改めを子供たちに教えるよう命じられました。さらに神はアダムとその  
 子孫に、バプテスマを受け、聖霊を受けて、神の御子の位に入るよう命じられま  
 した。

神の御子の位に入るとは、<sup>こんにち</sup>今日では完全なメルキゼデク神権を受けるとい  
 うことです。これは主の宮の中でしか受けられません。

アダムとエバはその条件を満たしていたので、神からこう告げられました。  
 「あなたは、永遠から永遠にわたって、日の初めもなく年の終わりもない者の位  
 に従う者である。」(モーセ 6：67)

アダムが死ぬ 3 年前に大切な出来事がありました。アダムは息子のセツ、孫  
 のエノス、そのほか自分の直系子孫である大祭司たちや義にかなった生活をし  
 ていた子孫らを、アダム・オンダイ・アーマンと呼ばれる谷に連れて行きました。  
 そこでこれらの義にかなった子孫たちに最後の祝福を授けたのです。

このときに、主が御姿を現されました〔教義と聖約 107：53 - 56 参照〕。  
 ……

アダムは自分の子孫をどのようにして主のみもとへ導いたのでしょうか。

答えはこうです。アダムとその子孫たちは神の神権の位に入ったのです。今  
 日のわたしたちの言い方をすれば、主の宮に行って、祝福を受けたということ  
 です。

聖文の中で述べられている神権の位は時に、家長の位と言われています。  
 父親から息子へと受け継がれたからです。しかし、この神権の位は、近代の啓  
 示の中では、家族を統治するための一つの形態として言い表されています。こ  
 の統治形態を通して、男女はちょうどアダムとエバのように、永遠の結び固めを  
 受け、子孫を得、この世において神の御心と御業を行うために、神との聖約に  
 入るのです。

自ら交わした聖約に忠実な夫婦は、日の栄えの王国の最高の階級の祝福を得る権利を授かることができます。この聖約は、今日、主の宮に参入しなければ交わすことができません。

アダムはこの位に従い、自分の子孫たちを神のみもとに導きました。……

……この神権の位に入るには、神のすべての戒めに従い、アブラハムのように、御父の宮に行くことによって先祖の祝福を求めなければなりません〔アブラハム 1:1-3 参照〕。神殿以外にこれらの祝福を得られる場所はありません。

……御父の宮である神殿に行き、先祖たちが受けていたのと同じ祝福を受けてください。そうすれば神権の最高の祝福にあずかる権利が授けられることでしょう。「これがなくては、だれも神、すなわち父の御顔を見て、なお生きていることはできないからである。」(教義と聖約 84:22)

御父の家は秩序の家です。わたしたちが御父の宮へ行くのは、神権の位に入るためです。わたしたちはそれによって、従順を条件として、御父が持っておられる全てを受ける権利を授けられます。<sup>9</sup>

### 3

#### 神殿の儀式と聖約を通して、わたしたちは守りと 永遠の命に関わる最高の祝福を受けることができる

主の宮で受ける祝福は永遠のものです。それはわたしたちにとって最も重要な祝福です。神殿の中でこそ、永遠の命に関わる神の最高の祝福を受けることができるからです。神殿はまさしく天への入り口なのです。<sup>10</sup>

主は教会の成人男女が皆、神殿の儀式を受けるようにと望んでおられます。これは各人がエンダウメントを受け、すべての夫婦が永遠に結び固められなければならないということです。このような儀式を受けることによって、守りが与えられ、結婚が祝福されます。また彼らの子供たちは、聖約の中であって生まれるという祝福を受けます。聖約の中であって生まれることで、子供たちは生得の特権を授かります。いつも祝福を受けるにふさわしくある限り、両親に何が起ころうとも、永遠の親子関係が保証されるという特権が得られるのです。<sup>11</sup>

今日、<sup>こんにち</sup>聖徒は全世界に散っていますが、そのような状態で神殿が与えられていることは、皆さんにとって大きな意味があるのではないのでしょうか。聖なる場所で受ける諸々の儀式によって、聖徒は義の武具を身に着け、大いなる神の力を授けられるのです。<sup>12</sup>

天の儀式には力が伴います。神性の力さえ伴います。わたしたちが神聖な祝福を受けるにふさわしくあるならば、この力により悪の力を阻止することができます。わたしたちが福音に従った生活を送り、神殿に参入し、主に近く生活す

るならば、〔わたしたちの〕社会、家族、そして子供は守られます。……神はわたしたちが聖徒として、聖なる場所で交わされる聖約、そこで行われる儀式にふさわしく生きることができるよう祝福して下さいます。<sup>13</sup>

神殿の儀式は、わたしたちがもっとキリストのようになれるよう助けるために、知恵深い天の御父から与えられました。<sup>14</sup>

わたしたちは、清く神聖でなければ、日の栄えの方々と一緒に住むことができません。この世に染まらずに聖められるよう助けてくれる律法と儀式は、これらの神聖な場所でしか執行されません。また啓示を通して与えられ、啓示を通して理解されるものです。中央幹部の一人が神殿を「主の大学」と呼んでいるのは、そういうわけなのです。<sup>15</sup>

神殿の儀式なくして完全になれる教会員は一人もいません。わたしたちにはこれらの儀式を受ける祝福にあずかっていない人々を助ける務めがあります。<sup>16</sup>

## 4

### わたしたちは自分たちの先祖に救いの扉を開ける特権がある

神殿が建設され、奉献されるのは、神権を通して、両親が子供に、子供が両親に結び固められるためです。こうした結び固めの儀式は、生者にも死者にも適用されます。自分たちの先祖や子孫に結び固められなければ、わたしたちに関する限り、この地球の目的、人の昇栄はことごとく荒廃することでしょう。<sup>17</sup>

夫婦にとって神殿で結び固められるだけでは、昇栄が保証されるとは限りません。忠実であるならば、先祖とも永遠につながれ、先祖のための儀式が確実に行われるようにしなければなりません。使徒パウロはこう言いました。「わたしたちなしには彼らが完全な者とされることはない……ように、わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはないのです。」(教義と聖約 128 : 15)。そのようなわけで、会員たちは父祖、すなわち聖文が指摘しているように、わたしたちの「先祖」に確実につながれるようにする責任をそれぞれ負っていることを理解しなければなりません。これこそ教義と聖約の第2章2節にある、エリヤは「先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう」とモロナイが述べたという聖文の意味なのです。<sup>18</sup>

わたしの愛する先祖は、わたしたちの家族、すなわち彼らの子孫の助けにより日の栄えの王国で昇栄を得るのを待っています。わたしは系図について考えると、そのような人々の姿を思い浮かべます。<sup>19</sup>

わたしたちには、死者のために救いの扉を開く特権があります。霊界で闇の中に閉じ込められているかもしれない死者は、福音の光を受けてわたしたちと同じように裁きを受けられるようになるのです。そうです。救いをもたらす福

音の儀式にあずかる機会を人々に与えるという、「わたしたちのしているわざをする」〔ヨハネ 14:12 参照〕のです。どれほど多くのわたしたちの親族が、この結び固めの儀式を今も待ち続けていることでしょうか。

次のように自問してみてください。「自分は幕のこちら側にいる者としてできることを、すべて果たしているだろうか。自分自身の先祖の救い主となっているだろうか。」

わたしたちは、先祖なしには完全になれません。昇栄は先祖とのきずなを基とした祝福なのです。<sup>20</sup>

ベールはとても薄いのです。わたしたちは永遠の世界に住んでいます。神にあってはすべてが一日のようです。主にとって、ベールはないと思います。すべてが一つの偉大なプログラムなのです。わたしたちが〔神殿に〕集うとき、天では喜びがあると確信しています。わたしたちの先祖は喜んでいて、わたしたちが、今、自分に与えられている機会を活用し、定期的に神殿に参入するよう、わたしは望み、祈ります。<sup>21</sup>

系図に取り組んできた人々、この業の大切さに気づいている人々、また先祖と子孫を結びつけ、自らの尊い受け継ぎについて知ることで大きな喜びを感じてきた人々は、その喜びを周囲の人々に伝える必要があります。自分がこの業に見いだした喜びと達成感を見いだすことができるよう助けてください。わたしたちはもっと多くの会員をこの業に改宗させる必要があります。皆さんが御存じのとおり、なすべきことはたくさんあります。また、わたしたちのうちの何人かが、いや皆さん全員が、皆さんの熱意と模範、そして献身により、周囲の人々を燃え立たせることさえすれば、この業を行うことができ、この業を喜んで行う人たちが実に大勢います。<sup>22</sup>

---

## 5

---

### 子供と青少年は、神殿に待ち受けている祝福について知る必要がある

神殿は神聖な場所です。そして神殿の儀式も神聖なものです。その神聖さゆえに、時としてわたしたちは子や孫に神殿について話すのをはばかることがあります。

その結果、心から神殿に行きたいという望みを育てていかない人が多く、また、たとえ行くにしても、そこで交わす聖約や果たすべき義務について備えるための予備知識をあまり持たないままに参入してしまう人が多くいます。

わたしは、適切な予備知識や理解は、若い人々を神殿参入に備えさせるうえで測り知れない助けになると信じています。その知識は、アブラハムが求めた



「神殿に参入する者には偉大な祝福が用意されていることを、  
子や孫に教えることができるよう神が祝福してくださいますように。」

ように、神権の祝福を得たいという望みを彼らの内に育てていく、とわたしは信じています〔アブラハム1:1-4 参照〕。<sup>23</sup>

どうして神殿で結婚するのかと子供に尋ねられたら、神殿は特定の儀式が行われるこの地上で唯一の場所だということを教えてください。また、あなたが聖壇の前にひざまずき、子供たちを永遠にあなたと結び固める力のある聖約を身に引き受けたときに感じた個人的な気持ちを子供に伝えてください。<sup>24</sup>

父親や母親が神殿を指さして、子供たちに「お父さんとお母さんはあそこで永遠の結婚をしたんだよ」と話して聞かせるのは、とても素晴らしいことです。それによって、幼いうちから子供の心の中に、神殿結婚を最高の目標にしたいという気持ちを植え付けることができます。<sup>25</sup>

わたしの両親がしてくれたように、わたしたちも先祖に対する愛や、先祖が救いの儀式を受けるための助け手になれることに対する感謝の思いを子供に伝えるとよいでしょう。そうするとき、感謝や愛情にあふれる一層強いきずながわたしたちの家族の中に育まれることでしょう。<sup>26</sup>

青少年は系図探求を行う意欲や能力があるだけでなく、プログラム全体に活気を与える良い助け手であると、わたしは信じています。<sup>27</sup>

神殿に参入する者には偉大な祝福が用意されていることを、子や孫に教えることができるよう神が祝福して下さいますように。<sup>28</sup>

---

## 6

---

### 神殿参入の回数を増やすと、さらに多く個人的な啓示を授けられる

わたしは、結婚式を執り行うときにはいつも、若いカップルに、できるだけ早く神殿に再び参入し、夫婦として、神殿の儀式を受けるよう提案することにしてあります。神殿の儀式を1回受けただけでは、神聖なエンダウメントや結び固めの意味を十分に理解することはできませんが、神殿参入を繰り返すうちに、そのすべての美しさ、意義、そして重要性がはっきりと見えてくるものです。こうした若い夫婦から、そのような特別な提案をされたことに対して、後で感謝の手紙をもらったこともあります。神殿参入を繰り返すことで、夫婦の互いに対する愛は深まり、結婚のきずなは強まる傾向があります。<sup>29</sup>

神殿参入を通じて、人の永遠の旅路にはどのような意味があるのかを理解する力が与えられます。過去、現在、未来にわたって、神との関係で人の使命を象徴する最も重要な出来事に関し、美しく印象深い象徴を目にします。従順、奉獻、犠牲、天の御父への献身的な奉仕に関する厳粛な聖約を交わすときに、わたしたちの義務を思い起こします。<sup>30</sup>

皆さんにお約束します。神の神殿への参入回数を増やしていくなら、死者に祝福をもたらすだけでなく、さらに多く個人的な啓示を授けられ、自分自身も祝福にあずかることができます。<sup>31</sup>

わたしたちは美しい神殿の安らかな雰囲気の中で、人生の重要な問題に対する答えを得ることがあります。御霊みたまの力を通して純粋な知識を受けることもあります。神殿は個人的な啓示を受ける場所です。問題や困難が重くのしかかってきたとき、わたしは心の中で答えを祈り求めながら、主の宮へ行きました。そして、非常にはっきりとした形で答えを受けてきました。<sup>32</sup>

わたしたちは定期的な神殿参入から得られる個人的な祝福を受けるために、しばしば神殿に参入しているでしょうか。主の聖なる宮は、祈りに対する答え、啓示、御霊による指示が与えられる所です。<sup>33</sup>

神殿を、永遠の家から離れた所にある神聖な家としようではありませんか。<sup>34</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ベンソン大管長は、神殿は「わたしたちが大切に思うすべてのものの象徴」であると述べ、神殿が象徴している幾つかの真理を明らかにしています（第1項参照）。神殿はあなたにとって何を象徴しているでしょうか。
- 第2項で、神権の祝福に関するベンソン大管長の教えは、家族の一人一人にどのように当てはまるでしょうか。この項を復習するとき、家族が神のみもとへ戻れるよう備えるのを助ける特権と責任について深く考えてください。
- 第3項を読み、神殿の儀式を通して授かる祝福に関するベンソン大管長の教えについて深く考えてください。あなたは神殿の儀式を通して、どのような祝福を受けてきたでしょうか。まだ神殿の儀式を受けていないとしたら、それらの儀式を受けるよう備えるにはどうしたらよいか深く考えてください。
- ベンソン大管長はこう述べています。「わたしは系図について考えると、わたしの愛する人々の姿を思い浮かべます。」（第4項）この見方は家族歴史への取り組みにどのような影響を与えるでしょうか。もっとたくさんの先祖が福音の祝福にあずかるよう助けるためにはどうしたらよいでしょうか。
- 子供や青少年が神殿の儀式や聖約に備えるのを助けるために、わたしたちはどのようなことをしたらよいでしょうか。どうすれば青少年は家族歴史の「プログラム全体に活気」を与えることができるでしょうか（第5項参照）。
- ベンソン大管長はわたしたちに「神殿を、永遠の家から離れた所にある神聖な家と[する]」（第6項）よう勧めています。この言葉はあなたにとってどのような意味があるでしょうか。神殿に参入することでこれまでに受けてきた祝福についてよく考えてください。

### 関連聖句

イザヤ 2 : 1 - 3 ; 教義と聖約 97 : 15 - 16 ; 109 : 8 - 23 ; 124 : 39 - 41 ; 138 : 32 - 34

### 教える際のヒント

「決められた時間内に教えられる以上の内容が一つの課に盛り込まれている場合がしばしばある。そのような場合、生徒にとって最も役立つ資料を選択してください。」（『教師、その大いなる召し』〔1999年〕、98 - 99 参照）

### 注

1. 「神でん——神せいな所」『聖徒の道』1992年6月号、「せいとのみち」2参照

2. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 260

3. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 256

4. 「神殿について子供たちに教える」『聖徒の道』1986年4月号, 2
5. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 252
6. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 256。ハロルド・B・リーの言葉は, Conference Report, 1942年4月, 87に記されている
7. *God, Family, Country: Our Three Great Loyalties* (1974年), 85
8. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 256
9. 「神殿について子供たちに教える」4-6 参照
10. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 255
11. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 259
12. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 255 - 256
13. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 256
14. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 250
15. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 252: Conference Report, 1968年4月, 134におけるエルレイ・L・クリスチャンセンの言葉も参照
16. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 252
17. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 248
18. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 248 - 249
19. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 164
20. *Come unto Christ* (1983年), 126.
21. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 253
22. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 162
23. 「神殿について子供たちに教える」4 参照
24. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 258
25. 「神殿について子供たちに教える」2 参照
26. *Come unto Christ through Temple Ordinances and Covenants* (パンフレット, 1987年), 2
27. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 163
28. 「神殿について子供たちに教える」6 参照
29. *God, Family, Country*, 183
30. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 251
31. 「モルモン経と教義と聖約」『聖徒の道』1987年7月号, 97 参照
32. 「神殿について子供たちに教える」4 参照
33. 「キリストの御許みもとに来てキリストによって全くなれ」『聖徒の道』1988年6月号, 90 参照
34. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 256



ベンソン大管長とベンソン姉妹は、いつも互いに対して忠実かつ誠実であった。



## 神により定められた結婚と家族

「家族は現代の悪に立ち向かうために、神から与えられた最強のとりでの一つです。皆さんの家族を強め、固いきずなで結び、御父からの祝福を受けるにふさわしくなるように助けてください。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

エズラ・ベンソンとフローラ・ベンソンは結婚当初から、家庭と家族を最優先した。子供たちが幼かった頃から強調したことは、永遠の世界で家族が食卓につくとき、「空の椅子」が一つもないようにという願いだった。<sup>1</sup> ベンソン大管長は教会の指導者として奉仕した間、この同じメッセージを強調し続け、こう語った。

「神は家族が永遠に存続することを意図しておられました。わたしは全身全霊をもって、これが真実であることを証します。天の御父がわたしたちの家庭と家族一人一人を祝福してくださり、いつの日かわたしたちは天の御父の日の栄えの家において、家族が全員そろっていることを報告できるように願っています。そこでは互いを大切に支え合ってきた父と母そして兄弟と姉妹が席を共にしています。一人も欠けることなく、皆一緒に天の家に帰るのです。」<sup>2</sup>

ベンソン大管長とベンソン姉妹の家族を強める取り組みは、結婚生活を育むことから始まった。二人は愛にあふれ献身的で、忠実かつ誠実だった。口論をするようなことはなかったものの、率直に話し合うことはよくあった。<sup>3</sup> 互いに心から信頼し合っていた。それが自分たち夫婦の大きな強みの一つだと感じていた。「フローラの誠実さを疑ったことは、ただの一度もありません。」ベンソン大管長はそう語っている。<sup>4</sup>

ベンソン大管長とベンソン姉妹は互いに支え合い、強め合った。「フローラは、わたしの生涯で誰よりも、わたしとわたしの可能性についてよく理解していました。その信仰と支えは大きな祝福でした」とベンソン大管長は語った。<sup>5</sup> ベンソン大管長が重責を果たすことに自分はふさわしくないと感じるたびに、ベンソン姉妹は夫の涙を拭い、慰めることがよくあった。<sup>6</sup> 彼女は夫を支えることができるよう主の助けを願い求めた。また、子供たちを呼び集め、自分と同じこ

とを行わせた。「お父さんのために、何度も祈ったり、断食をしたりしました。」娘のバーバラはそう語る。<sup>7</sup>

結婚の堅固な土台の上に立ち、ベンソン大管長とベンソン姉妹は、子供たちに永遠の家族関係の大切さを教えた。「両親は、わたしたち子供の心に愛と誠実の深い感情を植え付けました。」息子のマークはそう語る。「そのような家庭の雰囲気は自然に生まれたものではなく、愛と思いやりにあふれる父と母の励ましと助けによって醸成されたものだと思います。」<sup>8</sup>

家族を第一とする家風に加え、ベンソン家で期待される行動規範の中心は福音だった。一家は愛のあふれる家庭、子供が学び成長し、楽しい時間を過ごせる家庭を作ろうと努力した。ベンソン家は家庭がこの世からの避け所となるよう望んだ。「だからといって、苦勞がなかったわけではありません。」息子のリードはそう語る。「いつも仲良くできたわけではありません。いつも家の手伝いをしたわけではありません。母の忍耐を限界まで試したこともあります。しかし、その全てをしっかりと支えていたのは、一つにまとまろうと努力する家族の連帯感でした。」<sup>9</sup> ベンソン姉妹は認めている。「完全な人はいません。わが家で目指しているのは、互いの欠点に注目することではなく、互いに励まし合い、改善していくことです。」<sup>10</sup>

ベンソン家の子供がまだ幼かった頃、父親は十二使徒定員会で奉仕するよう召された。彼は自分の旅程が子供たちと過ごす時間にどのような影響を及ぼすのか心配した。日記にこう書いている。「教会の仕事で家を空ける時間が大幅に増え、家族から離れていることがかなり多くなるだろう。……家族に忠実であり、家族を教会から離れないようにし、なおかつ中央幹部の一人として自らの義務を果たすことができると心から信じているが、それが決して容易ではないということを知っている。」<sup>11</sup>

それが容易ではないという事実に駆り立てられて、ベンソン大管長は家族とのつながりを弱めないように努力した。「わたしの生涯で最もすばらしく、最も心満たされる経験の幾つかは、家庭や家族の結びつきに関連した経験です。」<sup>12</sup>

1957年、ベンソン大管長は合衆国農務長官として、貿易の機会を開拓するために世界各地を回る4週間の旅に出かけた。ベンソン姉妹、娘のビバリーとボニーが同行した。一行は12か国を歴訪し、各地で政府の指導者と会い、史跡や難民施設、農業施設を訪問した。この旅は、貿易の機会を増すだけでなく教会との友好関係を築くうえで成功だったとベンソン大管長は感じた。彼らが帰国し、飛行機が空港に着陸したときに、娘のバスが待っていた。バスは両親の姿が目に入ると、彼らの方に向かって走り出した。その目には涙が浮かんでいた。父親は、娘に手を差し伸べ、愛を込めて抱き締めた。ベンソン大管長

はこう振り返っている。「[わたしたちは]世界各地ですばらしい経験をたくさんしましたが、その瞬間の出来事は旅行の全行程で最高の経験でした。」<sup>13</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

家族はこの世においても永遠にわたっても最も大切な組織である

末日聖徒イエス・キリスト教会は、家族をこの世においても永遠においても、最も大切な組織と考えています。教会は、すべての中心は家族であると教えています。家庭生活の維持が、この世においても永遠においても、他のあらゆる関心事に優先することを強調しています。<sup>14</sup>

わたしたちの心を満たすものとして、家族に取って代わるものはありません。家族の起源はこの世界と同じくらい古く、その使命は神が定められたものです。<sup>15</sup>

いかなる国家も家庭をしのぐことはありません。この教会も、家庭をしのぐことは決してありません。わたしたちは一つの民として、一家団らん<sup>はなだん</sup>に象徴される家庭以上に良くなることはないのです。……。良い家庭は堅固な土台であり、文明のかなめ石です。家庭は守られなければなりません。強められなければならないのです。<sup>16</sup>

わたしは、教会の指導者として次のような質問をされることがよくあります。わたしたちの周囲にはもっと大きな問題があるのに、なぜそれほどまでに家庭や家族を強調するのかと。もちろん、わたしはこう答えます。もっと大きな問題というのは、個人と家族の問題の反映に過ぎないからです。<sup>17</sup>

結婚、そして家庭生活は、神が定められたものです。永遠の見地に立って見れば、救いは家族で行う業です。神は親に家族を養育する責任をお与えになりました。これは最も神聖な責任です。<sup>18</sup>

### 2

幸福な結婚において、夫と妻は神と伴侶を愛し、神と伴侶はんりよに仕える

結婚、家庭、そして家族は、単なる社会的な組織以上のものです。これらは神から授かったものであり、人が作ったものではありません。神は創世の初めから、結婚を定められました。創世記に記されている最初の結婚に関する記録で、主は4つの重要な事柄を発表されました。第1に、人が一人であることは良くないということ、第2に、女性は男性の助け手として創造されたこと、第3に、二人は一体となるべきであること、そして人はその父と母を離れて、妻と結び合うべきであることです(創世2:18, 24 参照)。

先に語ったことについて念を押すかのように、後に主はこう言われました。「だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない。」(マタイ 19:6) また、こうも言われました。「あなたは心を尽くして妻を愛し、妻と結び合わなければならぬ。その他のものと結び合ってはならぬ。」(D&C 42:22)<sup>19</sup>

聖文にはこう書かれています。「……アダムは、主なるわたしが命じたように、地を耕し……始めた。彼の妻エバも彼とともに働いた。……彼らは増えて、地を満たし始めた。……アダムとその妻エバは主の名を呼び、……アダムとエバは神の名をたたえ、息子、娘たちにすべてのことを知らせた。……アダムとその妻エバは、神に呼び求めることをやめなかった。」(モーセ 5:1-2, 4, 12, 16)

この靈感あふれる記録から、アダムとエバは聖約に基づく結婚関係の理想的な模範を示してくれたのだということが分かります。二人はともに働き、ともに子供を産み育て、ともに祈り、子供に福音を、ともに教えました。これは神がすべての義にかんがった男女に倣<sup>なら</sup>ってほしいと願っておられる規範です。<sup>20</sup>

結婚は神の前に取り交わされる神聖な聖約であるとみなされなくてはなりません。夫婦は互いに対してだけでなく、神に対しても義務を負っているのです。神は、その誓約を重んじる夫婦に祝福を約束されました。

愛と信頼、平安のためには、結婚の聖約を堅く守ることがぜひとも必要です。神は姦通<sup>かんつう</sup>をはっきりと禁じておられます。……

夫婦の関係を維持するには、ぜひとも節度と自制が必要です。夫婦は、言葉と感情を抑えることを学ばなければなりません。

家庭での祈り、また夫婦が二人でする祈りは、[夫婦の]きずなを強くすることでしょう。そしてお互いの考えや目標、意見がだんだんと一つになっていき、やがては同じ目的、同じ目標を目指すようになることでしょう。

導きと助けを受けられるよう、主、預言者の教え、そして聖典に信頼を寄せてください。特に意見の相違や問題に遭遇したときには、そうすることが大切です。

問題から逃避するのではなく、一緒に問題を解決するときこそ、霊的な成長が得られます。今日の社会では、個人主義<sup>こんにち</sup>がむやみに強調され、利己主義や分裂を助長しています。二人が「一体となる」ようにという主の教えは、今日もなお生きています(創世 2:24 参照)。

幸福な結婚<sup>ひけつ</sup>の秘訣は、神に仕え、夫婦が互いに仕え合うことです。結婚の目標は、個人の成長だけでなく、一致、すなわち夫婦が一つになることです。一見矛盾しているように思えますが、実は、相手に仕えれば仕えるほど、自分自身の霊性が高まり、情緒的にも成長することができるのです。<sup>21</sup>



「幸福な結婚の秘訣は、神に仕え、夫婦が互いに仕え合うことです。」

ここで使徒パウロの要領を得たすばらしい勧告を読んでみたいと思います。簡潔な言葉です。「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。」(エペソ5:25)

主は末日の啓示で、夫の義務について、再び次のように言っておられます。「あなたは心を尽くして妻を愛し、妻と結び合わなければならない。その他のものと結び合ってはならない。」(教義と聖約42:22) わたしを知る限りでは、心を尽くして愛するようにと聖典の中で命じられているものは、他にただ一つしかありません。それは神御自身です。このことについてよく考えていただきたいと思います。

自分の妻に対してこのような愛を示す方法はたくさんあります。何よりもまず、神御自身の他には、仕事、レクリエーション、趣味などいかなるものをも、自分の妻より優先させてはなりません。皆さんの妻は、かけがえのない、永遠の助け手であり、永遠の伴侶なのです。

心を尽くして愛するとはどういう意味でしょうか。それは心の底からすべてをささげて愛することです。心を尽くして妻を愛するなら、決して妻の品位を傷つけたり、非難やあら探しをしたり、また言葉、不機嫌な態度や行動によって傷つけたりしてはいけません。

「妻と結び合〔う〕」とはどういう意味でしょうか。それは伴侶とのきずなを保ち、忠実であり、心を通わせ合い、愛情を伝えることです。<sup>22</sup>

互いに愛し合っている夫婦であれば、愛と誠実さとは互いに与え合うものだという事に気づくはずです。この愛が、子供の情緒を育てていくのです。家庭生活を幸福と喜びに満ちたもの、つまり子供が振り返るとき、楽しい思い出や人との交わりが浮かんでくるようなものにしてください。<sup>23</sup>

### 3

#### 堅固な家庭は、家族の一人一人を愛し、尊敬し、支える気持ちを育む

家族を強めましょう。朝夕に行う家族と個人の祈りは、家庭に主の祝福を招く力があります。食事の時間は、その日の活動を振り返り、家族が交代で聖文、特に、モルモン書を読むことで、肉体的な養いだけでなく、霊的に養いを与えるすばらしい時間になります。夜は、忙しい父親が子供たち一人一人のベッド脇に行き、話したり、質問に答えたり、どれほど愛しているか伝えたりする、すばらしい時間になります。<sup>24</sup>

家族は現代の悪に立ち向かうために、神から与えられた最強のとりでの一つです。皆さんの家族を強め、固いきずなで結び、御父からの祝福を受けるにふさわしくなるように助けてください。そうするならば、信仰と強さが与えられ、皆さんの生活は絶えず祝福されることでしょう。<sup>25</sup>

主がわたしたち一人一人に求めておられる大切なことが一つあります。それは、善へ向かわせるような良い影響力のある家庭を与えることです。将来重要になるのは、家具の値打ちとか、浴室の数ではありません。子供たちが家庭で愛され、受け入れられたと感じたかどうかということです。重要になるのは、幸せで笑い声の絶えない家庭であったか、それとも口論や論争の絶えない家庭であったかということです。<sup>26</sup>

幸せな家族は互いに愛と尊敬の気持ちを抱いています。そして家族の誰もが、愛され認められていることを知っています。子供は親に愛されていることを知っています。だから、安心感と自信を持っているのです。

堅固な家庭では効果的なコミュニケーションという特質が養われます。自分の問題について話し合い、みんなで計画を立て、共通の目標達成に向けて協力し合います。家庭の夕べや家族会議を開き、家族の目標を達成するための有効な手段として活用します。

堅固な家庭の父親と母親は、子供たちと強いきずなを保っています。家庭では話し合いが行われます。父親の中には、一人一人の子供と定期的に面接する

人もあれば、形式にこだわらずに話し合ったり、子供と一対一で過ごす特別な時間を定期的に設けたりする人もいます。

どの家庭にも問題やチャレンジは必ずあります。しかし、幸せな家庭は、批判や口論を避け、問題解決に向けてともに努力しようとします。互いのために祈り、話し合い、励まし合います。時には、家族の一人を助けるために一緒に断食をします。

堅固な家庭では、家族が互いに支え合います。<sup>27</sup>

---

#### 4

---

### 家庭は子供たちが福音の原則と実践を学ぶのに最適な場所である

家庭は、永続する価値を持つ事柄を教えるのに最大の効果を上げる場所です。家族が堅固で、イエス・キリストの福音の原則と実践に基づいて生活していれば、……問題は、そう簡単に起こることはありません。<sup>28</sup>

親の務めをよく果たす人は、悪に染まった環境で子供たちを育てることが容易ではないことを知っています。それだけに、最も健全な影響を与える手段を入念に講じています。道徳的な原則を教え、良い書物をそろえて読ませています。テレビ番組を選択し、人を高める良い音楽を取り入れています。しかし何よりも大切なことは、霊性を育む方法として聖典を読み、聖典について話し合っているということです。

幸せな末日聖徒の家庭では、神に対する信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物<sup>たまもの</sup>についてよく理解できるように、親が子供を教えています（教義と聖約 68：25 参照）。

このような家庭では、家族の祈りが習慣となっています。祈りは、祝福に対する感謝の気持ちを表す手段であり、へりくだって全能の神に依存していることを認め、強さと支えと助けを求めめるための手段なのです。

「ともにひざまずく家族は、主の前にまっすぐに立つ」という知恵と真実にあふれた金言があります。<sup>29</sup>

子供は、永遠という視点から見て、自分が何者であるかを知る必要があります。そして、自分は永遠の父なる神の子供であり、その御方に頼り、祈り、導きを受けることができると知る必要があります。また、自分がどこからやって来たのかを知る必要があります。それが分かると、人生の意味と目的を見いだせるからです。

祈ること、主を信頼して導きを求めること、受けた祝福に感謝することを、親は子供に教えなければなりません。子供たちがまだ小さかった頃、ベッドの傍らにひざまずいて、どう祈ったらよいか教えたときのことが思い出されます。

子供は、善悪を見極めることを教わらなくてはなりません。子供は神の戒めを学ぶことができます。また、学ばなければなりません。盗み、うそをつき、人をだまし、むやみに人の物を欲しがるのは悪いことだと教わる必要があります。

さらに、労働についても家庭で学ぶ必要があります。正直に働くならば高潔さと自尊心が身につくこと、また、労働と良い働きに伴う喜びについても学ぶとよいでしょう。

また、余暇を健全で良い活動に用いるよう、親は子供を前向きな態度で導かなければなりません。<sup>30</sup>

家族を強め、守ることを目的とする教会の家庭の夕べのプログラムでは、父親と母親が週1回の夜に時間を取って家庭で息子や娘たちと一緒に過ごします。<sup>31</sup>

効果的な家庭の夕べを通して、福音の原則が徐々に心に染み渡ることでしょう。その教えを学んだ若人は強められ、将来に対して不安を抱く必要がなくなります。このような教育は、信仰と証あかしと楽観的な見方を持って行わなければなりません。<sup>32</sup>

自分の家を整えるというのは、神の戒めを守ることです。そのようにするなら……愛と一致を育むことができます。また毎日家族の祈りをするのです。家族がイエス・キリストの福音を理解できるように教えることです。家族一人一人が神の戒めに従うことです。また……神殿の推薦状を受けられるようにふさわしく生活し、家族が皆昇栄の儀式を受けて、永遠に結び固められることです。さらに多額の借金を避け、家族が什分じゅうぶんの一とささげ物を正直に納めることです。<sup>33</sup>

---

## 5

---

### 家族は墓を超えて続くことを神は明らかにされた

現世で経験する愛は、つかの間のはかない影のようなものではありません。まさしくこの世においても永遠においても、家族を一緒につなぎとめるものです。<sup>34</sup>

天の神は、まさしくジョセフ・スミスを通して、家族は墓を超えて続くという真理、すなわちわたしたちが互いに抱く思いやり、愛情、愛は永遠に続くという真理を明らかにされました。<sup>35</sup>

永遠の結婚によってもたらされる祝福を得るためには、どのような犠牲を払っても払い過ぎるということは決してありません。多くの人にとって神殿へ行くのは容易です。おそらく、あまりにも容易に行けるので、神殿参入の祝福に

ついてそれほど深く考えていません。福音に忠実に従って生活するという点では、他の事柄と同様ですが、主の方法に従って結婚するためには、神の御心みごころに背くことやこの世的な思いを自ら進んで捨て去り、天の御父の御心を行おうと決意することが必要です。このような信仰に基づく行いを通して、わたしたちは神への愛と、まだ生を受けていない子孫に対する思いやりを示すのです。家族は、現世において喜びの最大の源となっていますが、永遠の世においてもそのようになるでしょう。<sup>36</sup>

家庭と家族。この大切な二つの言葉を聞くだけで、何と懐かしい思い出が胸の奥から湧き上がってくることでしょう。皆さんが、立派な親になることから得られる、言葉では言い表せないほどの喜びと満足感を味わえるように、祈りの気持ちで心の底から願います。親となり家庭を築く責任を意図的に避けるとしたら、現世と来世にわたって味わえる最も深い喜びの一つを体験し損なうことになります。預言者ジョセフ・スミスを通して明らかにされたように、家庭と堅固な家族関係という輝かしい概念は、現世と来世にわたる幸福のまさに根幹を成すものなのです。<sup>37</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ベンソン大管長は「永遠の見地に立って見れば、救いは家族で行う業です」（第1項）と教えました。この言葉はあなたにとってどのような意味を持つのでしょうか。家族は互いの救いのためにどのようなことをしたらよいのでしょうか。
- 第2項で、ベンソン大管長が与えている勧告を研究しながら、その勧告がすべてベンソン大管長の言う「幸福な結婚の秘訣ひけつ」とどのように関連しているか深く考えてください。その「秘訣」がなぜ幸福をもたらすと思いますか。
- 第3項で、幸せな家族が行っている習慣についてベンソン大管長がどのようなことを語ったか考えてください。こうした習慣はどのように家族を強めるのでしょうか。この勧告に従うにはどうしたらよいか深く考えてください。
- 家庭は、どうして「永続する価値を持つ事柄を教えるのに最大の効果を上げる場所」であると思いますか（家族で教えることについてベンソン大管長が与えた具体的な勧告に注目する。第4項参照）。家族が福音の原則を学べるように互いに助け合うのを見たことがあるでしょう。それはどのようなときでしたか。
- ベンソン大管長は「家族は墓を超えて続くあかし」と証しました（第5章）。この真理について考えるとき、どのような思いや気持ちが湧いてくるのでしょうか。

家庭や家族という言葉聞いて、どのような「懐かしい思い出」が心に浮かんでくるでしょうか。

### 関連聖句

詩編 127:3 - 5; 1 コリント 11:11; 3 ニーファイ 18:21; 教義と聖約 49:15; 132:18 - 19; 「家族 —— 世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129 も参照

### 学ぶ際のヒント

「福音の学習が最大の効果を上げるのは、聖霊によって教えを受けるときです。学ぶことができるように必ず聖霊の助けを祈り求めてから福音の勉強を始めます。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』 18)

### 注

1. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography* (1987年), 363
2. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 493
3. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 126 参照
4. ダーリン・ヘッド・ロドリゲス「フローラ・アムッセン・ベンソン——預言者の妻、主のはしため」『聖徒の道』1987年6月号, 19 で引用, 強調付加
5. “Flora Amussen Benson: Handmaiden of the Lord, Helpmeet of a Prophet, Mother in Zion,” 14
6. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 179 参照
7. バーバラ・ベンソン・ワーカー, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 179
8. マーク・アムッセン・ベンソン, “Flora Amussen Benson: Handmaiden of the Lord, Helpmeet of a Prophet, Mother in Zion,” 20
9. リード・アムッセン・ベンソン, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 140
10. フローラ・アムッセン・ベンソン, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 133
11. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 178.
12. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 126.
13. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 327
14. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 489
15. Conference Report, 1949年4月, 198
16. Conference Report, 1953年10月, 122
17. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 521
18. 「家族を永遠のものとするために」『聖徒の道』1983年1月号, 104 参照
19. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 534
20. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 534
21. 「家族を永遠のものとするために」105 - 106 参照
22. 「イスラエルの父親たちへ」『聖徒の道』1988年1月号, 54 参照
23. 「家族を永遠のものとするために」105 参照
24. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 491
25. 「高貴な生得権を持つ若人へ」『聖徒の道』1986年7月号, 45 参照
26. 「父たる者に大いなる事求めらるる」『聖徒の道』1981年9月号, 56 - 57 参照
27. 「聖徒たちに与える勸告」『聖徒の道』1984年7月号, 11 参照
28. 「家族を永遠のものとするために」, 105 参照
29. 「聖徒たちに与える勸告」, 11 参照
30. 「家族を永遠のものとするために」, 106 参照
31. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 528
32. 「神の王国を出て行かせたまえ」『聖徒の道』1978年10月号, 48 参照
33. 「父たる者に大いなる事求めらるる」, 60 参照
34. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 492
35. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 490
36. 「今日は犠牲の日」『聖徒の道』1979年10月号, 49 参照
37. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 491 - 492



## 父親・母親という神聖な召し

「わたしたちが親というこの偉大で神聖な義務に  
忠実でありますように。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

自宅にあっても世界の国々においても、教会にあっても政府においても、エズラ・タフト・ベンソン大管長は、その言葉と模範を通して良い親であることの大切さを教えた。大管長はこう言っている。「主の愛と教えによって子供たちを養い育てることでです。」「神は親に子供を養育するという監督と報告の義務をお与えになりました。この責任は最も神聖なものです。」「<sup>2</sup>

ベンソン大管長と妻のフローラは、親としての責任を果たすために密接に協力し合った。二人は「家族を養い育てるという任務に精力的かつ情熱を持って取り組んだ。」「<sup>3</sup>子供たちについて、またその他の事柄について頻繁に話し合った。「わたしは霊的な感受性の強い女性を伴侶として知っていることを知りました」とベンソン大管長は語っている。」「<sup>4</sup>

二人は力を合わせて子供たちが成長し学ぶことができ、子供たちにとって居心地の良い家庭を築いた。「どこよりも、家が一番でした」と息子のマークは語っている。「嵐からの避け所でした。母には護る力があり、父には強さがありました。」「<sup>5</sup>

ベンソン大管長夫妻は、祈りを通して親としての責任に取り組んだ。マークはこう言っている。「母にはわたしの知っているどんな女性よりも強い信仰がありました。……これまでの生涯で、あれほど祈る人を見たことはありません。すぐにひざまずいて子供たちのために祈ってくれました。テストであれ、校庭でのけんかであれ、関係ありませんでした。父も母も、そんな素朴な信仰の持ち主でした。」「<sup>6</sup>

ベンソン大管長は仕事や教会の任務で頻繁に家を留守にした。そのため、フローラがおもに6人の子供たちを養育し教える役割を担っていた。彼女は母親の役割に喜んで取り組んだ。「この世にいるわたしたちの愛情の中心は家庭です」と彼女は語っている。」「<sup>7</sup>マークはこう回想する。「母は心から家庭を愛していました。わたしたちのことも愛してくれました。義務感からではなく、それが母の人生そのものだったからです。」「<sup>8</sup>母であることの大切さについて、



エズラ・タフト・ベンソンと息子のリードとマーク

フローラはこう書いている。「偉大さを探すなら、王座にはではなく、揺り籠に行くことです。母親には大いなる力があります。母親こそ、心と人生と人格を形成する人なのです。」<sup>9</sup>

家を留守にすると、ベンソン大管長は家族を見守り強める方法を常に探し求めた。電話や手紙を通して家族と定期的に連絡を取り合った。家にいるときは、できるだけ家族と過ごす時間を取った。大管長はよく、「ある父親がどうして息子と長時間ボール遊びをするのか、その理由を説明した」言葉を引用した。「後で心痛を抱えるようになるより、今背中を痛むを我慢する方がよいからです。」<sup>10</sup>

大管長はまた、子供たち一人一人と長時間一緒に過ごすようにしていた。マークは父親に連れられてユタ州ソルトレーク・シティの医療スペシャリストのもとを訪れたときのことを覚えている。「父親と二人きりで過ごすのはほんとうに楽しかったです。二人で、わたしが話したいことについて何でも語り合いました。まだ小さかったわたしにも、父がわたしを愛していることが分かりました。それは父と一緒にいて、わたしが健康になれるよう助けてくれたからです。」<sup>11</sup>

大管長は、旅行するときにはできるだけ子供を連れて行くようにしていた。1948年3月、大管長は当時7歳の娘ボニーを連れてネブラスカ州の農業集会へ出かけた。「報道陣は、小さな女の子の落ち着いた振る舞いと、そのような重要な行事に出席するための長旅に、年端も行かない子供を同行させた愛情深い父親に深く感銘を受け、ボニーの写真が翌朝の〔新聞の〕一面を飾ったほどでした。しかし、ベンソン長老にとってそれは特別なことではありませんでした。長老は他の出張にも頻繁に子供を連れて行きました。それは、親子関係を強めるためだけでなく、子供の教育のためでもありました。」<sup>12</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

#### 父親の召しは永遠である

父親の責任は、永遠に続く召しであり、決して解任されることはありません。教会の中で受ける召しは確かに大切なものですが、それはあくまでも一時的なものであり、時が来ればやがて解任されます。しかし、父親としての召しは永遠であり、その重要性は時間を超越したものです。それはこの世と来世の両方にわたる召しなのです。<sup>13</sup>

父親の務めについての一つのひな型、あるいは模範は、天の御父です。御父はどのようにその子供たちと関わっておられるのでしょうか。それを知るにはもちろん、〔父親たちは〕主の偉大なご計画である福音について何かしら知る必要があります。<sup>14</sup>

男性にとって、主の宮で結婚し、御父の子供たちを管理する義になつた族长となることほど気高い召しはありません。それは、まさにエロヒムが御自身を「天におられるわたしたちの父よ」と呼ばせておられることから分かります（マタイ 6：9；3 ニーファイ 13：9）。<sup>15</sup>

## 2

### 父親は家族に靈的な指導を与える

父親というものは、家族に祝福を与えたいと熱望し、主の前にへりくだり、神の言葉に思いをはせ、御霊みたまに従って生活しなければなりません。そうすることにより、主の御旨みむねと御心みこころを知り、家族を導くために何をすべきかが分かるでしょう。<sup>16</sup>

〔父親の皆さん、〕皆さんは、家庭において靈的な指導を与えるという神聖な責任を受けています。

何年前かに十二使徒評議会が発行したパンフレットに次のように書かれています。「父親は指導者です。それも最も大切な指導者です。それは過去においてもそうでしたし、将来も変わらないでしょう。父親であるあなたは、永遠の伴侶はんりよから援助と助言と励ましを受けて家庭を管理します。」（*Father, Consider Your Ways* [パンフレット, 1973年], 4-5）……

ここでわたしは心からの愛を込めて、イスラエルの父親の皆さんに、子供に靈的な指導をするうえで役に立つ 10 の具体的な方法を提案したいと思います。

1. 子供たちに父親の祝福を与えてください。また、バプテスマと確認の儀式を施してください。息子たちには神権への聖任も自ら行うようにしてください。そうすれば、これらの事柄は、子供たちの人生において靈的に非常に大切な意味を持つ出来事になります。

2. 家族の祈り、日々の聖文学習、週に1度の家庭の夕べを、父親として自ら指導してください。皆さんが積極的に進めることにより、これらの大切さを子供たちに理解させることができます。

3. できる限り、家族一緒に教会の集会に集うようにしてください。父親の指導の下に家族として礼拝をささげるとは、子供たちの靈的な成長に非常に大切な意味を持っています。

4. 父親と娘のデートや、父親と息子たちで出かけるなどの機会を作ってください。……

5. 家族一緒に休暇を過ごしたり、旅行に出かけたりする楽しい伝統を作ってください。このような楽しい思い出は、いつまでも子供たちの心の中に残ることでしょう。

6. 定期的に子供たちと一対一で話し合うようにしてください。子供たちが話したいと思っていることを話せるようにしてください。そして、福音の原則と正しい価値観を教え、彼らを愛していることを伝えてください。このようにして個人的に話し合う時間を取るにより、あなたが何を大切に思っているかを、子供たちに伝えることができます。

7. 子供に働くことを教え、価値ある目標に向けて働くことの大切さを身をもって示してください。……

8. 家庭の中で良い音楽や芸術、文学に親しむように励ましてください。教養や美を大切に作る家庭は、子供たちの生活にいつまでも祝福をもたらします。

9. 参入可能な距離に神殿があるならば、定期的に夫婦で神殿に参入するようにしてください。そうすれば子供たちも、神殿結婚、神殿の聖約、そして家族の永遠のきずなの大切さをもっとよく理解するようになるでしょう。

10. あなたが教会の責任を果たすことに楽しみと喜びを感じていることを、子供たちに理解させてください。親のそのような気持ちは子供にも伝わり、彼らも教会の中で責任を果たしたいと望み、神の王国を愛するようになるでしょう。

イスラエルの夫、そして父親である皆さんに申し上げます。皆さんが家族の昇栄と救いのためにできることは、数多くあります。皆さんの責任は非常に大切なものです。<sup>17</sup>

教会の中にも、家長であることを何か偉い立場であるかのように勘違いし、家族に対してあれこれ命令できる権利があると考える人がいると耳にします。

使徒パウロは次のように指摘しています。「キリストが教会のかしらで……あられるように夫は妻のかしらである。」(エペソ5:23, 強調付加) このような人こそ、わたしたちが家庭を管理する場合に模範とすべき父親です。救い主は教会を指導する際に、過酷で無慈悲な方法を取られたことは一度もありませんでした。教会に対して無礼であったり、怠慢であったりされたこともありません。また、その御心を果たすために威圧的な方法を取られたこともありません。救い主はいつも、啓発し、高め、慰めを与えるという方法を取ってこられました。兄弟たち、心の底から申し上げたいと思います。救い主は、わたしたちが家族を霊的な面において指導する際に模範とすべき御方です。<sup>18</sup>

皆さんは子供を導き育てることに関して、族长としての重大な責任を負っています。皆さんは家庭を主の御霊の宿るところとしなければなりません。……

家庭は家族にとって平和と喜びに満ちた安らぎの場でなければなりません。子供が父親、特に神権を持つ父親を恐れるようなことがあってはなりません。父親の責任は、家庭を幸福と喜びの場とすることです。……正しい模範を示し、しつけや訓練を行い、養い育て、愛を与えるという面において、義になっ



「定期的に子供たちと一対一で話し合うようにしてください。」

た父親が及ぼす大きな影響力は、子供の霊的な福利にとって非常に大切なものです。<sup>19</sup>

### 3

#### 母親の役割は神によって定められた

〔母親〕は、家族の心のよりどころであり、またそうでなければなりません。この世の書物や聖典の中で、「母親」ほど神聖な言葉はありません。善良で、神を畏れる母親の務め以上に気高い務めはありません。

神は永遠の家族において、父親が家庭を管理するよう定められました。父親には、養い、愛し、教え、導く責任があります。しかし、母親の役割もまた、神によって定められたものです。母親には、子をもうけ、産み、育て、愛し、訓練する責任があります。啓示によってそう宣言されているのです。<sup>20</sup>

わたしたちが十分に理解しているように、女性の中には自分に何の落ち度もないのに、子供をもうけることのできない人がいます。そのようなすばらしい姉妹たちは、神のすべての預言者が約束してきたように、永遠の世において子供に恵まれます。子孫を持つことを否定されることはありません。

純粋な信仰、心からの祈り、断食、そして特別な神権の祝福を通して、これらのすばらしい姉妹の多くが、傍らにいる高潔な伴侶はんりよとともに、自分たちの生活の中に奇跡を起こし、子供に恵まれています。中には祈りによって養子をもろう

道を選んだ夫婦もいます。このようなすばらしい夫婦が自分の家庭に迎えた子供たちのために注いできた愛と犠牲に、心から賛辞を送りたいと思います。<sup>21</sup>

すばらしい母親の皆さんが神によって祝福されますように。わたしたちは皆さんのために祈っています。皆さんを支持しています。子供をもうけ、育て、訓練し、教え、永遠にわたって愛する皆さんに敬意を表します。皆さんがシオンの母親という最も高貴な召しを尊んで大いなるものとするなら、わたしは天の祝福と「父が持っておられるすべて」を皆さんに約束します（教義と聖約 84：38 参照）。<sup>22</sup>

## 4

### 母親は愛し、教え、子供たちと効果的な時間を過ごすべきである

シオンの母親の皆さん、神が与えてくださった皆さんの役割は、皆さん自身の昇栄と、家族の救いと昇栄に欠くことのできないものです。子供はお金で買えるあらゆるもの以上に母親を必要としています。子供と時間を過ごすことはあらゆる<sup>たまもの</sup>賜物の中で最高のものです。<sup>23</sup>

わたしはシオンの母親の皆さんへの愛を込めて、子供と効果的に時間を過ごすための 10 の具体的な方法を提案したいと思います。

〔最初に、〕子供が出かけるとき、また帰宅するとき、それが学校でも、デートでも、また友達を連れて来るときでも、できるだけ家にいるようにしてください。子供が 6 歳であろうと 16 歳であろうと、家にいてください。……

2 番目に、母親の皆さん、時間を取って子供の真の友人になってください。子供の話をよく聞きましょう。しっかり耳を傾けるのです。子供とよく話をし、笑い、冗談を言い、歌を歌い、遊び、泣き、子供を抱きしめ、心から褒めてください。そうです。定期的に子供一人一人と一対一の時間を取ってください。子供たちと真の友人になるのです。

3 番目に、時間を取って子供に本を読んであげてください。赤ちゃんの頃から、子供たちに本を読んであげましょう。……定期的に本を読んであげるようにすれば、良い書物、そして聖文への真の愛情を育てることになります。

4 番目に、時間を取って子供とともに祈ってください。家族の祈りは、父親の指示の下に朝夕行います。子供たちのために天からの祝福を呼び求めることによって、子供たちに皆さんの信仰を感じさせてください。……子供たちが個人でも家族でも祈るように導いてください。そして、天の御父とのすばらしい語らいのときに喜びを見いだせるようにしましょう。

5 番目に、毎週時間を取って有意義な家庭の夕べを行ってください。子供たちを積極的に参加させてください。正しい原則を教えましょう。家庭の夕べを家族の伝統にしてください。……

6 番目に、時間を取って、できるだけ一緒に食事をするようにしてください。これは子供たちが成長して忙しくなるにつれ難しくなります。しかし、両親も子供も努力して一緒に食事をするとき、和やかな会話や一日の計画や活動の調整、それに特別な教える機会が訪れるのです。

7 番目は、毎日時間を取って家族で一緒に聖文を読むことです。……モルモン書を家族で読めば、家庭の霊性が高まり、両親も子供たちも誘惑に対抗する力を強め、聖霊を常に伴侶はんりよとすることができるようになります。約束します。モルモン書は皆さんの家族の生活を変えます。

8 番目に、時間を取って家族一緒に活動を行ってください。家族の外出やピクニック、誕生会、旅行などを、思い出に残る特別な行事にしましょう。また、いつでも可能なときには、家族の一員が参加する行事、例えば学校の劇、スポーツ、話、リサイタルなどには家族みんなで参加します。教会の集会にも家族で参加し、できるだけ一緒に座るようにしましょう。家族が一緒に祈ったり、遊んだりするのを助ける母親は、将来にわたって家族の一致を〔助け〕、彼らの人生に永遠の祝福をもたらすのです。

9 番目に、母親の皆さん、時間を取って子供たちを教えてください。教える時を捉えてください。それは、一日のどの時間でもやって来ます。食事のとき、くつろいでいるとき、特別に時間を取って話し合うとき、一日の終わりにベッドのそばにひざまずいているとき、あるいは早朝と一緒に散歩しているときにやって来るかもしれません。……

子供への愛と祈りを込めた母親の思いやりの心は、子供たちを教えるうえで最も重要な要素です。子供たちに福音の原則を教えてください。良いことをすれば報いがあることを教えましょう。罪には安らぎがないことを教えてください。子供たちがイエス・キリストの福音を愛し、その神聖さを証あかしできるような教えてください。

息子・娘につつましくあるように教えてください。男性であることや女性であることに敬意を払うことを教えましょう。また、道徳的に清くあること、デートの標準を守ること、神殿結婚、宣教師としての奉仕、そして教会の召しを受け入れ、それを尊んで大いなるものとするの大切さを教えてください。

彼らに働く喜びと優れた教育の価値を教えましょう。

適切な映画やビデオ、音楽、書物、雑誌を含め、正しい娯楽の大切さを教えてください。ポルノグラフィや麻薬がいかに邪悪なものであるかを説明し、清い生活をするの大切さを教えてください。

そうです。母親の皆さん。福音は皆さんの家庭で、一家団らの場で教えるのが一番です。これこそ、子供たちが受けることのできる最も効果的な教育なのです。……



「時間を取って子供に本を読んであげてください。」

最後の10番目は、母親の皆さん、時間を取って子供たちを心から愛することです。母親の無条件の愛はキリストの愛に通じます。

皆さんの10代の子供たちも同じ愛と思いやりを必要としています。多くの母親と父親にとって、小さな子供に愛と思いやりを示すのは簡単でも、子供が大きくなると難しくなるようです。祈りをもって取り組んでください。世代間の相違は克服できます。鍵となるのは愛です。若人に必要なのは愛と思いやりであって、甘やかすことではありません。共感と理解を求めているのであって、両親からの無関心を求めているわけではありません。両親が時間を割いてくれることを求めています。10代の息子、娘に対する母親の思いやりある教えと愛と信頼が、彼らを文字通り世の悪から救うことになるのです。<sup>24</sup>

義にかなった母親がどうして子供たちをそれほど愛せるのか、その理由を知っていますか。その理由の一つは、子供たちのために多大な犠牲を払っているからです。わたしたちは犠牲を払う対象を愛し、愛するもののために犠牲を払うのです。<sup>25</sup>

## 5

両親は一致と愛をもって、ともに子供の養育に当たらなければならない

〔子供をもうけるうえで〕協力者である夫と妻は、熱意と祈りをもって子供たちを家庭に迎え入れるべきです。……子供のいる家族を持つ夫婦は祝福されています。人生における最大の喜びと祝福は、家族を持ち、親となり、犠牲を払

うことに関連しています。これらのいとしい霊たちを家庭に迎えることは、実際にいかなる犠牲をも払う価値があるということです。<sup>26</sup>

両親がともに寄り添って愛を抱き、一致しながら天から与えられた責任を遂行し、子供たちがこれに愛と従順さをもって応えるときに、大いなる喜びがもたらされます。<sup>27</sup>

神よ、どうぞわたしたちが支え合うことができますようにお助けください。それが、家族を支えることによって家庭から始まりますように。家庭に忠誠心、一致、愛があり、夫婦が互いに尊重し合うことができますように。夫が妻に忠実であり、誠を尽くして、妻を愛し、その重荷を軽くするよう努力して、子供の世話と訓練と養育について責任を分かち合うことができますように。母親であり妻である姉妹が夫に対して心を配り、彼がその神権の務めを果たし、神の神権に伴う召しに忠実で、それを誠心誠意果たすことができるように、夫を支え助けることができますように。<sup>28</sup>

わたしたちが親というこの偉大で神聖な義務に忠実でありますように。永遠の原則の上に揺るぎない家庭を築き、悔いることがありませんように。わたしたちに与えられている大いなる信頼を決して裏切ることがありませんように。わたしたちの家庭にやって来た子供たちは、大切な霊であることを常に念頭に置くことができますように。<sup>29</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ベンソン大管長は「父親の務めについての一つのひな型、あるいは模範は、天の御父です」と言いました（第1項）。地上の父親たちは、どのようにして天の御父の模範に従うことができるでしょうか。
- ベンソン大管長の「子供に霊的な指導をするうえで役に立つ10の具体的な方法」のリストについて考えてください（第2項）。勧められている方法はそれぞれ、子供にどのような影響を与えますか。
- ベンソン大管長は「善良で、神を畏れる母親の務め以上に気高い務めはありません」と言明しました（第3項）。これまで目にした気高い母親の模範にはどのようなものがありますか。母親に関する世の中の姿勢が移り変わる中で、母親の気高く神聖な責任を守るためにわたしたちはどのようなことができるでしょうか。
- 親子と一緒に時間を過ごすことにどのような利点があるでしょうか（例については第4項を参照）

- 父母が一致してその責任を果たす家庭にはどのように祝福があるでしょうか（第5項参照）。さらに一致するために、父親と母親はどのようなことができるでしょうか。独り親の家庭で子育てをする人は、このような責任を果たすうえで必要な力をどのように受けることができるでしょうか。

### 関連聖句

箴言 22:6; エペソ 6:4; モーサヤ 4:14-15; アルマ 56:45-48; 3  
ニーファイ 22:13; 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号、  
129も参照

### 教える際のヒント

「霊的に自分を備え、主の力によって教えることを認める人は、主の手の器となることができる。聖霊はあなたの言葉に力を与えてくださるであろう。」（『教師、その大いなる召し』41）

### 注

1. 「家族を永遠のものとするために」『聖徒の道』1983年1月号、106参照；原文にあった斜体は正体にした。
2. 「家族を永遠のものとするために」、104参照
3. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography* (1987年), 127
4. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 141
5. マーク・アムセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 133
6. マーク・アムセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 139
7. フローラ・アムセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 134
8. マーク・アムセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 133
9. フローラ・アムセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 130
10. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 134で引用
11. マーク・アムセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 138
12. フランシス・M・ギボンズ, *Ezra Taft Benson: Statesman, Patriot, Prophet of God* (1996年), 165
13. エズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉, *Sermons and Writings of President Ezra Taft Benson* (2003年), 205
14. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 503
15. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 496
16. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 511
17. エズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉, *Sermons and Writings of President Ezra Taft Benson*, 208, 212-213
18. エズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉, *Sermons and Writings of President Ezra Taft Benson*, 209
19. エズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉, *Sermons and Writings of President Ezra Taft Benson*, 211
20. エズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉, *Sermons and Writings of President Ezra Taft Benson*, 215
21. エズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉, *Sermons and Writings of President Ezra Taft Benson*, 216
22. エズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉, *Sermons and Writings of President Ezra Taft Benson*, 222
23. エズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉, *Sermons and Writings of President Ezra Taft Benson*, 217
24. エズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉, *Sermons and Writings of President Ezra Taft Benson*, 218-221
25. “Jesus Christ — Gifts and Expectations” *Ensign*, 1988年12月号, 6
26. エズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉, *Sermons and Writings of President Ezra Taft Benson*, 216
27. 「聖徒たちに与える勸告」『聖徒の道』1984年7月号, 9
28. Conference Report, 1951年10月, 155
29. Conference Report, 1953年10月, 123



「わたしは高齢の皆さんに特別な気持ちを抱いています。……わたし自身も  
高齢者の仲間ですので、皆さんについて多少は理解しているつもりです。」



## 教会の高齢者

「この老年期が皆さんにとって最も充実した愛と奉仕の時に  
なりますように。また、家族や友人、教会員や指導者など、  
皆さんの世話をする人たちに主の祝福がありますように。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

エズラ・タフト・ベンソンが大管長に就任したのは86歳のときであった。ベンソン大管長は人生の晩年に訪れる喜びと課題を理解していた。大管長にとって喜びの一つは、妻フローラと変わることなく親しい関係を保てたことだった。大管長になった最初の年に、二人は60回目の結婚記念日を祝っている。二人の時間を和気あいあいと楽しみ、金曜日の朝はほとんど毎週、一緒に神殿に参入するのが常だった。87歳の誕生日パーティーで、誰かが大管長に長寿と幸せな人生の秘訣を尋ねた。「大管長が答える前に、ベンソン姉妹が、からかうように、深い意味のある言葉を言いました。『いい奥さんを持つことです。』」<sup>1</sup>

老年期になると、大管長とベンソン姉妹は子供や孫と過ごす時間を楽しみ、家族は二人の模範から学び続けた。「孫娘の一人は、ベンソン大管長の就任後の1年半のほとんどを、二人と同居していました。また、夫妻の要請でしばしば旅行にも同伴し、二人の身の回りの世話をしました。彼女はくつろぐ祖父母の様子を間近で目にする機会がありました。アイスクリーム店でデートを楽しむ二人、手をつないでソファに座り、思い出話をしたり、歌ったり、笑い合ったりする二人、そして訪れるホームティーチャーや他の人々と温かく交流する二人を目にしたのです。」<sup>2</sup>

孫たちは、賢明で愛に満ちた祖父母の影響を受けられることがどれほど祝福であるか気づいていた。夫と二人で難しい決断を迫られていたある孫娘は、助言をしてくれたベンソン大管長にこのような感謝の手紙を書き送っている。「どう思うかと尋ねたわたしたちに、おじいさんはこう言ってくれました。『祈りなさい。あなたたちが正しい決断をすると信じているよ。』わたしたちを信頼してくれるおじいさんのおかげで、わたしたちはもっと自信を持つことができました。」<sup>3</sup>

90歳の誕生日を迎えてすぐの総大会のために、ベンソン大管長は教会の高齢者とその家族、そして彼らの必要を満たすために仕える人々に向けた説教を準備した。冒頭で、大管長はそのテーマと自分との関連について次のように語っている。「わたしは高齢の皆さんに特別な気持ちを抱いています。皆、素晴らしい方々です。わたし自身も高齢者の仲間ですので、皆さんについて多少は理解しているつもりです。」<sup>4</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

主は高齢者を御存じて愛しておられると同時に、  
主の最も大いなる責任の多くを彼らに託しておられる

主は、主の民の中にいる高齢者一人一人を御存じて、愛しておられます。それは昔から変わりません。そして、主の最も大いなる責任の多くを高齢者に託しておられます。様々な神権時代において、主は高齢の預言者を通して民を導いてこられました。年齢から来る知恵と経験、主の福音への長年の忠誠からもたらされる靈感あふれる指導を、主は必要としてこられたのです。

主は高齢のサラを祝福し、アブラハムに子を授けられました。また、ベニヤミン王の最も偉大な説教は、死期の迫った晩年に語られたものであったかもしれません。ベニヤミン王は確かに主の手に使われる者となって、民を導き、民の中に平安を確立することができました。

ほかにも、時代を問わず大勢の男女が、高齢にもかかわらず、主と主の子供たちに仕えるために出て行き、偉大な業を成し遂げてきました。

わたしたちの神権時代には、主に召された預言者のうちの多くは、70代か80代、あるいはもっと高齢で召しを受けています。確かに主は、長年の経験を通して多くのものをささげてきた主の子供たちをよく御存じてあり、愛しておられるのです。

わたしたちは高齢の教会員の皆さんを愛しています。皆さんは教会においてだけでなく、一般社会においても、総人口に占める割合が最も急速に高くなっている世代の人々です。

わたしたちは、皆さんの老後がすばらしく、報いの多いものであるように願っています。皆さんが人生を全うした喜びと楽しい思い出を胸に満たすとともに、キリストの贖罪を通してさらに大きな望みを抱くように祈っています。また、戒めを守って主の模範に従う努力を続け、そのようにする人々に主が約束された平安を感じられるように願っています。日々なすべき務めに恵まれ、皆さんほどには幸福でない人々に奉仕をする機会が豊かになるように願っています。ま

た、亀の甲より年の功と言います。豊かな知恵と経験は、人々に手を差し伸べることによってさらに深まり、増し加えられることでしょう。<sup>5</sup>

---

## 2

---

### わたしたちは老年期を有意義にすることができる

老年期を有意義にすることができる8つの分野を紹介したいと思います。

1. 神殿で働き、神殿に度々参入する。高齢の皆さんは、先祖に祝福をもたらすために力を注ぐだけでなく、可能な限り、子供や孫が皆神殿で昇栄の儀式にあずかれるように助けてください。家族一人一人に働きかけ、まだ準備をしようとしないう人と話し、彼らのために祈ってください。

また、距離的に可能で健康状態が許すならば、できるだけ頻繁に神殿に参入し、神殿における奉仕の召しを受け入れるよう、すべての人に勧めたいと思います。神殿活動は高齢者の助けに依存しています。神殿の数が増えていますから、もっとたくさんの教会員に、このすばらしい奉仕の業に備えてもらわなければなりません。ベンソン姉妹とわたしは、ほとんど毎週一緒に神殿に参入できることを感謝しています。それによって、わたしたちの人生は大いに祝福されてきました。

2. 情報を集め、家族の歴史を作成する。わたしたちは皆さんに、たゆまず情報を収集し、個人と家族の歴史を作成するようお願いいたします。多くの場合、過去のことを知っているのは皆さんだけです。愛する人々の思い出やいろいろな日付や出来事などです。皆さん自身が家族の歴史そのものである場合もあります。伝統の継承について考えるとき、皆さんが自分で情報を集め、自分の歴史記録を作成する以上に良い方法はありません。

3. 伝道活動に参加する。教会はもっと大勢のシニア宣教師の働きを必要としています。わたしたちは何百組もの年配の夫婦に呼びかけたいと思います。健康や金銭面で可能なら、どうぞ身の回りを整え、伝道に出てください。伝道地ではシニア宣教師がほんとうに必要とされています。皆さんには若い宣教師にはできない働きができます。

わたしの二人の妹は夫を亡くしましたが、同僚としてイングランドで伝道することができました。召されたとき、二人はそれぞれ68歳と73歳で、ともにすばらしい経験をしました。

祖父母が伝道に出る家族は、何とすばらしい模範を目にし、祝福を受けることでしょうか。夫婦のシニア宣教師は、ほとんどが伝道を通して強められ、健康になって帰って来ます。その神聖な奉仕の業を通して、多くの夫婦が聖められ、イエス・キリストの完全な福音の知識を人々にもたらす喜びを味わうのです。……

4. 指導力を発揮して家族のきずなを強める。わたしたちは高齢の皆さんに、都合のよいときに、親族を集めるよう勧めます。そして、親族のきずなを強めてください。自ら中心となって皆を集めましょう。親族の親睦会を開いて、皆が親交を深め、家族の伝統を学べるようにしてください。一番楽しかったわたしの思い出の幾つかは、自分の家族の親睦会や集まりのときのものです。家族を永遠に一つにするようなすばらしい伝統を築いてください。そうすることによって、わたしたちはこの地上の家庭の中に小さな天国を作ることができます。結局、永遠とは義にかなった家庭生活の延長なのです。

5. 教会の召しを受け入れて果たす。わたしたちは、高齢の教会員の皆さんが教会での召しをできる限り受け入れ、立派に果たしていると確信しています。70代や80代でビショップや支部会長として奉仕している人を個人的に知っていますが、そのような人たちに感謝しています。人生の道を歩み続けてきた皆さんの勧告と影響力がどれほど必要とされていることか！ わたしたちは皆さんの成功談を聞く必要があります。皆さんが心痛や苦しみ、失意からどのように立ち直ったのか、また、そうした経験を通していかに強められたのか、聞きたいのです。

また皆さんには、教会のほとんどの組織で奉仕する機会があります。自由になる時間があり、福音の堅固な土台に立つ皆さんは、大いなる働きができます。皆さんは教会における忠実な奉仕に関して、多くの面で模範となっています。わたしたちは、皆さんのこれまでのすべての働きに感謝するとともに、主に強められてさらに多くの働きができるように祈っています。

6. 将来の財政計画を立てる。退職とそれに続く生活を迎えるに当たり、わたしたちはすべての年配の教会員に、退職後の生活を質素なものとして計画するように勧めます。不必要な負債は避けましょう。また債務の連帯保証人になることは、たとえ家族でもやめましょう。老後の蓄えを失ってしまう場合もあるからです。

年を経るに従ってさらに注意すべきことは、「一獲千金」を狙う話に<sup>ほんろう</sup>翻弄されたり、家屋を抵当に入れたり、不確かな投機的事業に投資したりしないことです。金銭面での1度か2度の判断の誤りで、生涯設計を無駄にしてしまわないように十分注意してください。早くから財政計画を立て、それに従ってください。

7. キリストが行われたような奉仕をする。キリストが行われたような奉仕は、人を高めます。ですからわたしたちは、それが可能なすべての年配の教会員に対して、奉仕の業にいそむように求めるのです。これは聖めの一過程です。主は、奉仕の業に自分の命を失う人は自らを見いだすと約束されました。預言



「この老年期が皆さんにとって最も充実した愛と奉仕の時にになりますように。」

者ジョセフ・スミスは、主の目的を果たすには「生涯をなげうって尽く〔す〕」べきだと教えています（教義と聖約 123：13）。

奉仕の業を行う人には、平安と喜びと祝福がもたらされます。もちろん、わたしたちはキリストが行われたような奉仕をあらゆる人に勧めますが、特に高齢者の生活に、それは心地よい効果を表します。

8. 身体を健康に保ち、はつらつと生きる。わたしたちは、大勢の高齢者が健康を保つために努力していることをとても喜んでいきます。……

高齢でもかくしゃくとして活動的な人を見るのは、ほんとうにうれしいものです。よく動けば頭も体もよく働きます。<sup>6</sup>

---

### 3

#### 人に奉仕することで、愛する人を亡くした心の傷や 独りであることへの恐れが癒される

伴侶<sup>はんりよ</sup>を亡くした人たちにも、わたしたちの愛を伝えたいと思います。ときどき皆さんの中には、自分もう必要ないのだという無力感や孤独な気持ちに陥っている人々がいます。こうした感情は高じると手に負えなくなります。しかし多くの場合、そうならず済ませることができます。今述べた8つの提案のほか、ほかの人に役立つ活動の例があります。

ひとり暮らしの人の中には、孫が結婚するたびに、また家族に赤ちゃんが生まれるたびに、手作りのキルトを作って忙しくしている人もいます。また、できるときには誕生日カードを書いたり、孫の学校の活動やスポーツの試合に出かけたりする人たちもいます。孫の写真をアルバムにして、誕生日のプレゼントにする人もいます。……

かなりの数の未亡人が、病院でのボランティアなど、様々な社会奉仕に従事しています。このようにして多くの人が、人を助ける充実した生活を送っているのです。

体力的に問題のない人が孤独感や無力感を克服する重要な方法は、自分を忘れ、ほんとうに助けを必要としている人に手を差し伸べることです。わたしたちは約束します。こうした奉仕の業を行う人は、愛する人を亡くした心の傷や独りであることへの恐れからある程度癒されます。自分の境遇に満足する方法は、人の境遇を改善する手助けをすることです。<sup>7</sup>



#### 病気や体の痛みを経験するときも、わたしたちは 気構えや精神を強く保つことができる

病気や体の痛み、思わぬ人生の試練に苦しんでいる皆さんには、特にわたしたちの愛と関心を伝えます。皆さんのために、わたしたちは心から祈っています。父リーハイは、兄であるレーマンやレムエルに苦しめられた息子ヤコブに対して、次のように祝福しています。「あなたは神の偉大さを知っている。神はあなたの苦難を聖別して、あなたの益としてくださる。」(2 ニーフアイ 2 : 2) 皆さんにも神は同じようにしてください。

皆さんがこれからも努力を続け、気構えや精神を強く保つよう祈っています。それが必ずしも簡単でないことは分かっています。今皆さんにできない作業を代わりにしてくれる人たちが、愛と優しさと思いやりの精神でそれらを行ってくれるよう祈っています。

心にいつも楽観的な考えと善意を抱き、もし害をもたらす破滅的な考えが生じたら、すぐに消し去ってください。わたしたちは皆さんが毎日、必要であれば毎時間、祈りをささげていると確信しています。モルモン書が教えているように、「神が授けてくださる多くの<sup>あわ</sup>隣れみと祝福を日々感謝しながら生活するように」してください(アルマ 34 : 38)。

皆さんは、モルモン書を毎日読むことによって霊を高め、救い主に近づき、さらにはその偉大な真理を人々に紹介する福音の学徒となるでしょう。<sup>8</sup>

## 5

### 高齢の父母や祖父母に対して、家族がしかるべき愛と いたわりと関心を示すことが重要である

では少しの間、高齢者のいる家族に向けて話しましょう。詩篇の聖句を引用します。「わたしが年老いた時、わたしを見離さないでください。わたしが力衰えた時、わたしを見捨てないでください。」(詩篇 71:9)

わたしたちは家族の皆さんに、高齢の父母や祖父母に対してしかるべき愛といたわりと関心を示すように勧めます。聖文には、自分の家族を顧みない人は「不信者以上にわるい」という戒めの言葉があります(1テモテ 5:8)。わたしは自分の愛する家族に感謝しています。また家族が長い間、わたしたち夫婦に示してくれた愛と心遣いに心から感謝しています。

忘れないでください。両親や祖父母の世話は、皆さんの務めです。全力を尽くして世話をする必要があります。世話をしてくれる家族のいない高齢者については、神権指導者と扶助協会が、肉親に対すると同じ愛をもって、必要を満たせるように努力しなければなりません。次に、高齢者を家族に持つ人たちへの提案です。

主が石板に十戒を刻まれて以来、シナイから出た主の言葉は何世紀にもわたって「あなたの父と母を敬え」とこだましてきました(出エジプト 20:12)。

両親を敬うとは、心から尊敬することです。愛と感謝を示し、その幸福を気遣うことです。礼儀と思いやりをもって接しましょう。また、親の意見を理解するように努めましょう。親の義にかなった望みに従うことは、確かに、尊敬の一つの表れです。

それに加えて、わたしたちがこの世に生を受けられたのは親のおかげなので、彼らは尊敬に値します。それ以上に、親はほとんどいつも、わたしたちのために計り知れない犠牲を払ってくれました。わたしたちが子供のときは養い育てて、生活に必要なものを与え、病気のときは介抱し、悩み多い成長期には慰めてくれました。また多くの場合、わたしたちに教育の機会を与え、自らも教えてくれました。わたしたちは多くを親の模範から学んだのです。親に常に感謝し、その感謝を示そうではありませんか。

また、親を赦すことも学びましょう。彼らはわたしたちを育てるに当たって間違いを犯したかもしれませんが、精いっぱい努力を傾けてきたのです。わたしたちも自分が犯した過ちを子供から赦してほしいと願うのですから、親も赦さなければなりません。

たとえ親が高齢になっても、できる限り自由に選択し、自立して生活できるようにしてあげてください。高齢の親が自分で決定を下せるうちは、その機会を



「祖父母の孫への影響力には、計り知れないものがあります。」

奪わないでください。中にはかなり高齢になっても、自分で生活ができ、そうすることを望む親もいます。できるのなら、そうさせてあげてください。

独立して生活するのが多少困難になったら、家族や教会、あるいは自治体の援助が必要になるかもしれません。そして、補助的な助けがあっても、いよいよ自分で生活できなくなった場合は、可能であれば息子や娘の家で面倒を見てはどうでしょうか。この場合にも、教会や自治体の援助が必要かもしれません。

介護する人の役目はとても大切です。介護者に対する支えや援助が大いに求められます。普通は介護の役割を担うのは高齢の伴侶はんりよであったり、ほかに自分の子供の面倒も見なければならぬ中年の娘であったりするからです。<sup>9</sup>

---

## 6

幸い祖父母などの高齢者と親密な関係にある人は、  
豊かな交流を楽しむことができる

また可能であれば、高齢者を家族の活動に加えてください。元気なかわいい孫に囲まれた優しい祖父や祖母の姿は何と喜ばしい光景でしょうか。子供たちはおじいちゃん、おばあちゃんと一緒にいるのが大好きです。祖父母に家に来てもらって一緒に夕食を食べたり、家庭の夕べをしたり、お祝いをしたりする

ことが大好きです。そのような機会を通して、子供たちに、祖父母に対してどのように愛と尊敬と関心を示すかを教えることができます。

祖父母の孫への影響力には、計り知れないものがあります。祖父母はおおむね時間にゆとりがあり、両親ほど忙しくはありませんから、本を読んであげたり、お話をしてあげたり、福音の原則をどう応用するか教えてあげたりすることができます。こうして子供たちは、人生からは実りだけでなく、安全と平安と力も得られるのだという人生観を身につけることでしょう。手紙、[録音や録画をしたもの]、写真を送るのもよいでしょう。距離的に離れていてあまり頻繁に会えない場合は特にそうです。幸い祖父母など高齢者と親密な関係にある人は、豊かな交流を楽しむことができます。卒業式や結婚式、神殿訪問、……そのほかの家族の特別な行事に共に参加するとよいでしょう。

わたしたちは子供や孫が成長していろいろなことを達成する姿を見守ることができます。達成の喜びを子供や孫とともに味わうのです。子供が成功を収めると、わたしたちも幸福になります。3ヨハネ1:4にはこうあります。「わたしの子供たちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない。」<sup>10</sup>

---

## 7

---

**教会の指導者は、会員たちが高齢者の必要を満たすことができるように、よく祈って御霊の助けを求めるべきである**

高齢者を見守る神権指導者の皆さん、彼らの霊的、肉体的、情緒的、経済的な必要を見極め、満たそうとするとき、天の御父の御霊の導きによく耳を傾けてください。この大きな責任を果たすうえで、皆さんの顧問、メルキゼデク神権定員会指導者、扶助協会指導者、ホームティーチャー、訪問教師を、皆さんが活用してくれると確信しています。このような務めは、喜んで速やかに果たす必要があるからです。

神権指導者と補助組織の指導者は、高齢者にも引き続いて責任を与え、長年の間に培われた知恵と判断力を役立てられる場を提供してください。可能なところでは、全員が訪問教師やホームティーチャーになればと思います。たとえ寝たきりや外に出られない人でも、電話や手紙による連絡などの特別な割り当てを受けることによって、人々を見守る責任を果たすことができます。

神権指導者は、伝道の備えをしている年配の個人や夫婦をいろいろな面で助けることができます。また、神殿の人名抄出プログラム〔現在の家族歴史索引作成プログラム〕や福祉のプログラムは、こうした分野で奉仕する機会のある高齢者によって大いに支えられています。

高齢の個人や夫婦には、よく気のつく、面倒見のよい人をホームティーチャーや訪問教師に割り当ててください。緊急のときや、何か必要が生じたときにすぐに連絡できる人がいるということは、大きな慰めであり、心の平安の源でもあります。また、そのような必要を見極め、それを満たすときには、彼らの気持ちをよく考え、細部まで心を配って、誠実に行わなければなりません。

慈善奉仕の割り当てには、ぜひ自立している高齢者を加えてください。ステークやワードの社交活動にも彼らを加え、特に伴侶はんりよのいない人や、介護の必要な伴侶と暮らしている人のことを考慮してください。彼らは忘れられていることがあまりにも多すぎます。特に伴侶の死に際しては、温かい心遣いを示してください。誰もが気落ちするときだからです。

特別な必要を持った人を抱え、常時身体的および情緒的な介護を提供している家族の人たちにとって、そうした責任から一時的に解放されることはきわめて必要なことであり、感謝をもって受け入れられます。その家族が家族としての機能を果たすには、長期にわたる病気や末期疾患に冒された人を介護する重責から定期的に解放してあげることが大切です。重病や深刻な問題という重圧を抱えた人は誰でも、愛ある助けと休息を必要としているのです。

高齢者にとって心配の一つは、交通手段です。日曜日の集会への出席や家族への訪問、買い物、通院などの際に、車などを手配して、彼らを助けることができます。

もう一度申しますが、高齢者の世話については、よく祈って靈感と導きを求めてください。高齢者はそれぞれ個性があり、必要としていることも様々だからです。<sup>11</sup>

## 8

### 老年期を人生最高の時期にすることができる

神が高齢者の皆さんを祝福されますように。わたしは皆さんを心から愛しています。わたしも皆さんの仲間です。

皆さんには生きる理由がたくさんあります。この老年期が皆さんにとって最も充実した愛と奉仕の時になりますように。また、家族や友人、教会員や指導者など、皆さんの世話をする人たちに主の祝福がありますように。

わたしは生きる喜びについて皆さんに証あかしします。完全に福音に沿って生き、精錬する者の火きよを通して聖められることは喜びであると証します。使徒パウロはいみじくもこう語っています。「神は、神を愛する者たち……と共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。」(ローマ 8:28)

皆さんのうえに祝福がありますように。救い主は生きておられます。この教会は主の教会です。この業は真実です。主なる救い主はこう言われました。「わたしに頼り、最後まで堪え忍びなさい。そうすれば、あなたがたは生きるであろう。最後まで堪え忍ぶ者に、わたしは永遠の命を与えるからである。」(3 ニーフアイ 15:9)<sup>12</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- あなたは自分より年上の人「知恵と経験」からどのような恩恵を受けたことがありますか(第1項参照)。
- 第2項で、ベンソン大管長は高齢者が「老年期を有意義に過ごす」ために8つの提案をしています。それぞれの提案について考えてください。年齢に関係なく、これらの提案はあなたの生活を豊かにするうえでどのように役立つでしょうか。
- 奉仕が「孤独感や無力感を克服する重要な方法」なのはなぜだと思いますか。そのような実例を目にしたことがありますか。それはどのような場合だったでしょうか。
- 病気や痛みで苦しんでいる人たちに向けたベンソン大管長の勧告について深く考えてください(第4項参照)。「気構えや精神を強く保つ」うえで、この勧告はどのように役立つでしょうか。
- 第5項にあるベンソン大管長の教えについて考えてください。子供や孫は、どのようにして高齢の父母や祖父母に敬意を示すことができるでしょうか。
- 若い人々と高齢者が和気あいあいと楽しんでいるのを目にしたことがありますか。それはどんなときでしたか(第6項参照)。家族や教会でそのような関係を養うためにどのようなことができるでしょうか。
- 教会指導者とワードや支部の会員は、高齢者の必要を満たすためにどのようなことができるでしょうか(第7項の例を参照)。
- 「完全に福音に沿って生きる喜び」を経験するとは、どういう意味でしょうか(第8項参照)。あなたがこれまで目にした中で、最後まで忠実に堪え忍んだ人の例を挙げてください。

### 関連聖句

箴言 20:29; イザヤ 46:3-4; ルカ 2:36-38; エペソ 6:1-3; テトス 2:1-5; ヤコブの手紙 1:27; 教義と聖約 121:7-8

### 学ぶ際のヒント

「学んだ事柄を実行することによって、理解がさらに深まり、永続するものとなります(ヨハネ7:17 参照)。」(『わたしの福音を宣<sup>の</sup>べ伝えなさい』19) 家庭や職場や教会の責任において、福音の教えをどのように応用するべきか自問してください。

### 注

1. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography* (1987年), 204
2. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 204
3. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 204
4. Conference Report, 1989年10月, 3。『聖徒の道』1990年1月号, 4も参照
5. Conference Report, 1989年10月, 3。『聖徒の道』1990年1月号, 4-5も参照
6. Conference Report, 1989年10月, 3-5。『聖徒の道』1990年1月号, 4-5も参照
7. Conference Report, 1989年10月, 5。『聖徒の道』1990年1月号, 5-6も参照
8. Conference Report, 1989年10月, 5-6。『聖徒の道』1990年1月号, 6も参照
9. Conference Report, 1989年10月, 6-7。『聖徒の道』1990年1月号, 6も参照
10. Conference Report, 1989年10月, 7。『聖徒の道』1990年1月号, 6-7も参照
11. Conference Report, 1989年10月, 7-8。『聖徒の道』1990年1月号, 7も参照
12. Conference Report, 1989年10月, 8。『聖徒の道』1990年1月号, 7も参照



## 純潔の律法を守る

「男女双方に対する天の道德規範は、結婚前の  
完全な純潔と結婚後の完全な貞節です。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

**宗**教と政治の指導者として国内外を訪れたエズラ・タフト・ベンソン大管長は、世界の至る所で道德が確実に衰退していることを痛感した。特に純潔の律法に関してそれを感じた。ベンソン大管長はこの衰退に強く反対する立場を取り、次のように教えた。「純潔の律法は、永遠に変わることのない大切な原則です。」<sup>1</sup> また、次のように述べている。「世の人々が何を行おうと、あるいは何と言おうと、神の教会と王国において、純潔は決して時代遅れになることはありません。」<sup>2</sup> ベンソン大管長はさらに次のように教えている。「わたしたちは道德観念のない、不道德な世の中にいなければなりません、世のものとなつてはなりません。自分の良心に子守歌を歌って聞かせなくても、夜には安らかに眠れるようであればなりません。」<sup>3</sup>

世の不道德の影響を受けることなく清さを保つことの大切さについて実例を挙げて説明するために、ベンソン大管長は次の話をした。

「わたしは一人の若い女性の話の思い出します。彼女は、両親の賢明な助言に逆らって、デートの相手と一緒に、いかがわしい評判が立っている場所に行こうとしていました。そして、こう尋ねました。『何が行われているのかを見るためだけにそこへ行くのに、どんな害があるというの?』両親は彼女の言葉に負けたようでした。そのためにすてきな白いドレスを着るようにと勧めました。相手の若い男性が来る前に、父親はこう言いました。『出かける前に、薫製室に行ってベーコンを取って来てくれないかな?』

女の子はこの頼みにびっくりして言いました。『この一番いいドレスで? あのひどい臭いが付いてしまうわ。』すると母親はこう言いました。『そうね、薫製室に入れば、部屋の臭いが必ず付くわね。あなたは、入るときに美しく清いのに、出るときにその美しさと清さが少しでも失われるような場所には行かない判断ができる、賢い子だと思わ。』その賢明な助言によって、この若い女性は、世の中の悪い影響に染まらずに清さを保つという正しい決断を下したのです。」<sup>4</sup>



純潔の律法への従順は、「きわめて大きな喜びと幸せ」をもたらす。

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

#### 神は御自分の子供たちのために純潔の標準を定められた

この神権時代に、主は、シナイで与えた戒めを繰り返し、次のように言っておられます。「姦淫かんいんをしてはならない。……これに類することをしてはならない。」(教義と聖約 59:6, 強調付加) 時の初めから、主は、性的な清さについて明確で誤解の余地がない標準を定めてこられました。それは過去のいつの時代にも存在し、現在にも、また将来のどの時代にも存在するものです。その標準とは純潔の律法です。老若男女、貧富に関わりなく、すべての人に等しく与えられているものです。<sup>5</sup>

教会には道徳に関する二重規範はありません。男女双方に対する天の道徳規範は、結婚前の完全な純潔と結婚後の完全な貞節です。<sup>6</sup>

モルモン書の中で預言者ヤコブは、主は御自分の子供たちの貞節を喜ばれると述べています(ヤコブ 2:28 参照)。兄弟姉妹の皆さん、このことに気づいていましたか。主はわたしたちが貞節であるとき、ただ単によしとされるだけでなく、貞節を大いに喜ばれるのです。モルモンは息子モロナイに同じことを教え、純潔と徳が「あらゆるものに勝って最も大切で貴い」と記しています(モロナイ 9:9)。<sup>7</sup>

一緒にいたいという男女の自然の欲求は神から出ています。しかし、このような交わりには神の律法による制限が設けられています。結婚生活のために適切に定められている事柄は、結婚のきずなの中で用いられる場合、それは正しく、神の前に喜ばしいことであり、増えて地を満たすようにという戒めを果たすものです。しかし、その同じことを結婚のきずなの外で行う場合、それは呪いを招きます。<sup>8</sup>

貞潔を守って清い状態で結婚の聖壇に向かってください。麗しい親しい交わりは結婚生活の一部であり、結婚の聖約外でこれを行ってはならないと、天の神は定められました。夫婦になるまでその交わりを取っておいてください。わたしは世の人々が何を言っているかに関心がありません。このことは神の王国の標準なのです。<sup>9</sup>

### 2

#### この時代にはびこっている罪として性的不道徳がある

この時代にはびこっている罪として性的不道徳があります。預言者ジョセフは、このことでイスラエルの長老たちは他のいかなる人々よりも、多くの誘惑、多くの攻撃、多くの苦難に遭うと言っています。<sup>10</sup>

性的不道徳は、世の人々だけでなく、<sup>こんにち</sup>今日の教会をも襲っている毒蛇です。それを認めない人は、危険なほどにぬるま湯につかっているか、あるいは、頭を砂の中に突っ込んでいるかなのです。罪悪の区分の中で、不義な性的関係より重大なものは、殺人と聖霊を否定する罪しかありません。未婚の人が性の交わりを持つことを私通と呼び、既婚者が性の交わりを持つことはもっと重い罪で姦淫と呼びます。国の法律は神が考えておられるほど不品行を重大なものと考えておらず、神が行われるほど厳しく罰することはないということを、わたしは知っています。しかし、それでもそれが忌まわしいものであることに変わりはありません。神の目から見て、男性と女性の道徳の標準はただ一つです。神の目から見て、純潔は決して時代遅れになることはないのです。……

今日、性的乱交以上に教会の人々から主の御霊<sup>みたま</sup>を失わせる罪はありません。それは人々をつまずかせ、その成長を妨げ、霊的な力を弱め、他の罪を犯しやすくさせます。<sup>11</sup>

結婚前に……肉体的な交わりを持つことは非常に危険です。その不法な交わりが及ぼす有害な影響は、結婚生活に及び、失望と心痛をもたらし、家庭組織を弱めます。<sup>12</sup>

道徳的清さは永遠の原則です。神の御霊は「清くない幕屋にとどまることはできません」〔ヒラマン4：24 参照〕。清さは命を与え、汚れは命を失わせます。神の聖なる律法を破ると必ず罰を受けます。道徳的に墮落したことで、偉大な国々が滅びました。なぜなら、不道徳の罪のためにその国々の民は傷つき、損なわれ、その時代の問題に対処することができなかつたからです。<sup>13</sup>

不品行はあらゆる悪の中で最も忌まわしいものです。その一方、道徳的な清さは、立派な家庭を築くための最も偉大な防壁の一つです。幸せな実りの多い家庭を不道徳の上に築くことはできません。<sup>14</sup>

不道徳に対して設けられている制限はただ単に宗教上の規則にすぎず、現実に神は存在しないのでその規則は無意味だと主張して、自分の不道徳を正当化しようとする人々があります。これは人の肉欲、欲望、情欲を正当化しようとする、真理に添わない合理化にすぎないことが分かるでしょう。神の律法を取り消すことはできません。神を信じているかどうかにかかわらず、この律法はすべての人に適用されます。人がどれだけ合理化しようと無視しようと、すべての人がこの律法に伴う罰を受けるのです。

不道徳は……必ず、それに付随する自責の念をもたらします。複数の人と不純な関係にふける人は、必ずそれが招く不幸な結果を被ります。悪いことを行いながら、正しいと感じることはできません。それはあり得ないことです。神の律法を破る人は常に、心痛、悲しみ、自責の念、自尊心の欠如という罰を受けます。そして、自らを神の御霊の影響から遠ざけるのです。<sup>15</sup>

## 3

## 道徳的に清くあるために、誘惑に耐える備えをする必要がある

ほとんどの人は、人の基本的な欲求を満たそうとする間違っただ行動を取って性的な罪に陥ります。わたしたちは皆、愛され、価値を認めてもらいたいという欲求を持っています。また、生活の中で喜びと幸福を得ようとします。このことを知っているサタンはしばしば、人の基本的欲求に付け込んで、人々を不道徳に誘い込みます。そして、快樂と幸福、満足感を与えると約束するのです。

しかし、もちろん、これはまやかしです。箴言<sup>しんげん</sup>にはこう書かれています。「女と姦淫<sup>かんいん</sup>を行う者は思慮がない。これを行う者はおのれを滅ぼ[す。]」(箴言6:32) レーマン人サムエルも同じことを教え、次のように言っています。「罪悪を行いながら幸福を求めてきた。それは……義の本質に反することである。」(ヒラマン13:38) アルマはもっと簡潔にこう言っています。「悪事は決して幸福を生じたことがない。」(アルマ41:10)<sup>16</sup>

次のような古いことわざがあります。「備えて防ぐ方が、後悔して償うより良い。」このことは、何とよく純潔の律法に当てはまることでしょう。道徳的な清さを保つ最善の方法は、誘惑に耐えるように備えて、罪に陥らないようにすることです。<sup>17</sup>

## 清い思い

自分の思いをコントロールしてください。一瞬のうちに不道徳に足を踏み入れる人はいません。不道徳の最初の種は必ず思いの中にまかれるのです。淫らな、あるいは不道徳な事柄を考え続けることをそのままにしていれば、不道徳への道に最初の一步を踏み出したことになります。わたしは特に、ポルノグラフィーの悪について警告します。わたしたちは何度となく、深い罪に陥った人々から、背罪への道の第一歩はポルノグラフィーを見たことから始まったという言葉をお聞きします。主は、情欲を抱いて女を見る者、言い換えれば、思いをコントロールしない者は、心の内ですでに姦淫をしていると教えておられます(マタイ5:28; 教義と聖約63:16 参照)。<sup>18</sup>

清い思いについて考える人は、汚れた行為をしません。あなたは自分の行いについて神の前に責任があるだけでなく、自分の思いをコントロールすることについても責任があります。あなたの思いと行いが教会のスクリーンに映し出されたとしても、恥じて顔を赤くすることのないような生活をしてください。思いをまいて行いを刈り取り、行いをまいて習慣を刈り取り、習慣をまいて人格を刈り取り、人格をまいて永遠の行く末を刈り取るという昔の格言は、今もお真実です。人となりはその心に思うそのままであるからです(箴言23:7 参照)。<sup>19</sup>

「自分の罪を捨て、これからはもう自分の目の欲を追うことなく」という、過ちを犯した息子コリアントンに宛てた預言者アルマの言葉をよく考えてください(アルマ 39: 9)。

「目の欲」の対象として、わたしたちの時代に何があるでしょうか。

挑発的で淫らな映画、テレビ番組、ビデオ映像があります。

卑わいでわいせつな雑誌や本があります。

わたしたちは……皆さんに、このような下品なもので心を汚さないように勧告します。この不潔な思いを抱くと、決して前と同じ状態ではられません。<sup>20</sup>

清くあってください。徳高い思いを持ち、徳高い行動をしてください。良い書物を読んでください。皆さんの思いを決してポルノグラフィーに従わせないでください。……主はこう言っておられます。「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。そうするとき、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るであろう。聖霊は常にあなたの伴侶と……なるであろう。」(教義と聖約 121: 45 - 46)<sup>21</sup>

#### 強さを祈り求める

誘惑に耐える力を得られるように常に祈ってください。誘惑はわたしたち全員に訪れます。様々な形を取り、様々な口実で現れます。しかし主は、それに耐える鍵をわたしたちに与えてくださいました。主は預言者ジョセフ・スミスに次のように言っておられます。「勝利者となるために、まことに、サタンに打ち勝つために、またサタンの業を支えるサタンの手下どもの手から逃れるために、常に祈りなさい。」(教義と聖約 10: 5) 誘惑に、特に純潔の律法に関わる誘惑に打ち勝つために絶えざる力を求めて主に願うことを、日々の祈りの一部としなければなりません。<sup>22</sup>

あなたの前に置かれる誘惑で、あなたが避けられないものはありません。足を踏み外しやすい場所に立ち入らないようにしてください。御霊の促しに耳を傾けてください。自分が行っている事柄について主の祝福を祈り求めることができないと思いながら物事を行っているとしたら、良くないことを行っているということです。<sup>23</sup>

#### 不適切な状況を避ける

結婚している男性や女性が異性とふざけ合ったり、からかい合ったりすることが時折あります。いわゆる害のない出会いを計画したり、過度に長い時間一緒に過ごしたりすることがあります。いずれの場合も、人々は、自然な友情の表現であると合理化します。しかし、異性をからかったり、一緒に少しだけ楽しんだりすることに害はないと思われるかもしれませんが、このような行為は、もっと深刻な関係に至り、そしてついには不義に陥りやすいのです。



「独身者は、デートをするとき、よく気をつけて有意義で建設的な活動を計画してください。」

次のように自分自身に問いかけてみるとよいでしょう。「伴侶は、わたしがしていることを知ったら喜ぶだろうか」と。<sup>24</sup>

既婚者はできるだけ伴侶以外の異性と二人だけになることを避けてください。不道徳による悲劇の多くは、男性と女性が二人だけで職場に、教会に、あるいは車の中にいるところから始まります。最初はそのつもりではなかったかもしれませんが。あるいは罪のことなど考えなかったかもしれません。しかし、そのような状況が、誘惑の肥沃な温床となるのです。一つのことが次のことへの引き金となり、結果的に速やかに悲劇を招くことになりかねません。一番簡単なことは、大きな誘惑を受けることのないように、初めからそのような状況を避けることです。<sup>25</sup>

#### 慎み深さ

慎ましくあってください。服装や言葉遣い、振る舞いに慎み深さのあることは、洗練されていることの本当のしるしであり、徳高い末日聖徒の……特質です。低俗なもの、下品なもの、挑発的なものを避けてください。<sup>26</sup>

#### 健全で、建設的な活動

善で悪を克服してください。あなたは体に良い運動と健全な活動によって多くの邪悪な性向を克服することができます。心身の働きを鈍らせるアルコールとタバコの影響を断っている健全な人は、悪魔を打ち負かす、より良い状態にあります。<sup>27</sup>

独身者は、デートをするとき、よく気をつけて有意義で建設的な活動を計画してください。そうすれば、何もすることがなくて肉体で愛情を示し合う、ということがなくなります。……これが、ふさわしくない事柄が入り込む余地のないように、有意義な活動で生活を満たす原則です。<sup>28</sup>

あなたの生活を肯定的な力の源で満たしてください。ただ単に悪に抵抗しようとするだけでは、あるいは自分の生活から罪を捨てようとするだけでは不十分です。生活を義で満たさなければなりません。霊的な力をもたらす活動に従事しなければなりません。

わたしが言っているのは、聖文研究に没頭する活動などのことです。毎日聖文を読んで研究するとき、わたしたちの生活の内に流れ込んでくる力があります。この力は、他のどんな方法によっても見いだすことのできないものです。毎日の祈りは、もう一つの大きな力の源です。具体的な力や特別な祝福を求めるための断食は、わたしたちの通常的能力以上にわたしたちを強めます。クリスマスチャンとしての奉仕、教会への出席、王国における奉仕、これらはすべて、わたしたちの強さと力の蓄えを増すものです。

わたしたちは、単に自分の生活から否定的な影響を取り去るだけではなく、それ以上のことをしなければなりません。それらの影響を義にかなった活動で置き換えなければなりません。それらの活動は、わたしたちを力と、本来あるべき生活をしようとする決意で満たすものです。<sup>29</sup>

#### 4

### 性的な罪に関わっている人々は、適切な悔い改めによって もう一度清くなることできる

備えをして避けるようにという勧告が遅すぎたという人がいるかもしれません。すでに重大な罪に深く関わっているかもしれません。もしそうであれば、生活を立て直し、罪を悔い改める以外の選択肢はありません。わたしはあなたに、道徳的に清い状態に立ち返るために行える5つの重要な事柄を提案したいと思います。あなたに罪を犯させている、あるいは罪を犯させる可能性のある、いかなる状況からも直ちに身を引いてください。打ち勝つ力を得られるように主に願ってください。背罪を解決して主と再び十分な交流を図れるように、神権指導者に助けを求めてください。神聖な泉から飲み、あなたの生活を肯定的な力の源で満たしてください。適切な悔い改めによってもう一度清くなれるということを覚えておいてください。

真の悔い改めにより必要な代価を払う人々に対して、約束は確実に果たされます。あなたは再び清くなれるのです。絶望を取り去ることができます。赦しゆるに伴う快い平安が、あなたの生活に流れ込んできます。この神権時代に、主は



エズラ・タフト・ベンソン大管長は純潔の律法について  
子供に教えるよう両親に勧告を与えた。

明確にこう語っておられます。「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」(教義と聖約 58 : 42)<sup>30</sup>

## 5

**親は純潔の律法を守って生活するように子供に教えなければならない**

親は、身体的にも道徳的にも守られるように、子供に、幼いうちから純潔に関して具体的な指示を与えておかなければなりません。<sup>31</sup>

両親が互いに愛し、尊敬し合うならば、また二人の神聖な夫婦のきずなの中に完全な支えと完全な貞節があれば、これらの要素は将来の家庭に引き継がれることでしょう。それとは逆に、家庭にいさかい、口論、不和があり、家庭を離れたときに他の人と危険な戯れの行為に走るならば、将来の家庭はそれによって弱くなるでしょう。……

……わたしたちは、義を尊ぶことにより、また個人の清さと完全な貞節と誠実な家族の献身から生み出される平安と一致と無私の心を家庭にもたらすことにより、家庭を堅固なとりでとしなければなりません。両親は結婚を神聖な制度として受け入れ、親としての責任を尊ばなければなりません。子供を結婚に備えて訓戒と模範によって啓発し、忌まわしい病気を防ぐように不品行から守

り、クリスチャンとしてのその他の基本的な徳を実践できるようにしなければなりません。<sup>32</sup>

## 6

### 神はわたしたちに喜びをもたらすために純潔の律法を与えられた

天の御父は、わたしたちが幸福であること以外は何も望んではおられません。わたしたちに喜びをもたらす事柄についてのみ、わたしたちに告げられます。そして、わたしたちがその喜びを見いだす助けとして神から与えられている最も確実な原則の一つが、純潔の律法です。わたしは、皆さんがこの律法を守ることで得られる喜ばしい結果と、それを破るときに被る悲惨な結果について真剣に考えるよう心から祈っています。<sup>33</sup>

個人の純潔、清い思いと習慣、誠実さを含め、徳高くなければならぬ理由は、わたしたちが神の業を行うために御霊と神の力を得て生活する必要があるからです。その力と影響力がなければ、他の組織の人々よりも良い人にはなれません。その徳は、輝きを放ち、より善い生活をするよう他の人々に影響を及ぼし、そしてこの徳を目にする教会員でない人々はこの教会について尋ねるようになるでしょう。<sup>34</sup>

神の聖なる律法に誠実であってください。律法を破れば必ず罰を受けるということを覚えておいてください。幸せであり、順調にこの世で人と交際し、求婚し、家庭を築きたいと思うならば、天の永遠の律法に従って生活してください。それ以外に道はありません。<sup>35</sup>

不道徳の中に永続する幸福はありません。純潔の律法を犯すことで喜びは得られません。まさにその反対です。一時の快樂はあるかもしれませんが。しばらくは、何事もばら色に見えるかもしれませんが。しかし、そのつながりはずぐに崩れ去り、罪の意識と羞恥心が生じます。自分の犯した罪が暴かれるのではないかと、恐れるようになります。人の目を盗み、隠れるようになり、うそをつき、欺くようになります。愛が失われ始めます。苦々しさ、ねたみ、怒り、それに憎しみさえも頭をもたげてきます。これらすべてが、罪と背罪の当然の結果なのです。

他方、純潔の律法に従い、道徳的な清さを保つとき、愛と平安は深まり、伴侶に対する信頼と尊敬は増し、互いに対する誠意が深まり、その結果、きわめて大きな喜びと幸せを味わうようになります。<sup>36</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ベンソン大管長は、性的な清さについての主の標準は「明確で誤解の余地がない」と言っています（第1項）。この標準は世の考えとどのように違っているでしょうか。
- 純潔の律法を破ると、その結果はどうなるでしょうか（例として、第2項を参照）。
- 性的な誘惑から自分と家族を守るために、具体的にどのようなことを行えるでしょうか（例として、第3項を参照）。
- 「重大な罪に」関わっている人へのベンソン大管長の勧告を復習してください（第4項）。悔い改める人は「主と再び十分な交流を図れるように」となるという主の約束を考えると、あなたは何を思い、どう感じるでしょうか。
- 親が「子供に、幼いうちから純潔に関して具体的な指示を与えて」おくことが大切なのは、なぜでしょうか。両親が互いに誠実であることは、結婚と純潔の律法についての子供の気持ちにどのような影響を及ぼすでしょうか（第5項参照）。
- 純潔の律法を守ることでもたらされる「喜ばしい結果」として、どのようなことがあるでしょうか（例として、第6項を参照）。

### 関連聖句

創世 39:7 - 21; 1 コリント 6:18 - 20; ガラテヤ 5:16; アルマ 38:12; 39:3 - 5; 3 ニューファイ 12:27 - 30; 教義と聖約 42:22 - 25

### 教える際のヒント

「学び、参加する準備をしてクラスに来よう生徒に奨励する。生徒が福音を学ぶための準備をしてクラスに出席すると、それが学習に適した雰囲気作りにも貢献するものである。」（『教師、その大いなる召し』80）

### 注

1. 「純潔の律法」『聖徒の道』1988年10月号, 36
2. 「若者における言葉」『聖徒の道』1978年2月号, 46 参照
3. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, (1988年), 285
4. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 282 - 283
5. 「純潔の律法」36 参照
6. 「若者における言葉」45 参照
7. 「純潔の律法」36 参照
8. Conference Report, 1964年10月, 59
9. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 281
10. 「器の内側を清める」『聖徒の道』1986年7月号, 4 - 5 参照。ジョセフ・スミスの言葉。プリガム・ヤング, "Instructions to Missionaries," *Deseret News*, 1860年7月号, 113 で引用
11. Conference Report, 1964年10月, 59
12. "Your Charge: To Increase in Wisdom and Favor with God and Man," *New Era*, 1979年9月号, 43

13. Conference Report, 1959年10月, 113
14. Conference Report, 1949年4月, 196
15. *This Nation Shall Endure* (1977年), 97
16. 「純潔の律法」37 参照
17. 「純潔の律法」38 参照
18. 「純潔の律法」38 参照
19. Conference Report, 1964年10月, 60
20. 「高貴な生得権を持つ若人へ」『聖徒の道』1986年7月号, 47 参照。「教会の若い女性の皆さんに」『聖徒の道』1987年1月号, 91も参照
21. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 285
22. 「純潔の律法」38 - 39 参照
23. Conference Report, 1964年10月, 60
24. 「純潔の律法」39 参照
25. 「純潔の律法」39 参照
26. 「教会の若い女性の皆さんに」『聖徒の道』1987年1月号, 91 参照
27. Conference Report, 1964年10月, 60
28. 「純潔の律法」39 参照
29. 「純潔の律法」40 参照
30. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 284
31. Conference Report, 1964年10月, 59
32. Conference Report, 1949年4月, 197, 198
33. 「純潔の律法」40 参照
34. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 278
35. “Your Charge: To Increase in Wisdom and Favor with God and Man.” 43
36. 「純潔の律法」37 参照



## 高慢に気をつけなさい

「高慢はあらゆる人に共通の罪であり、甚だしい悪です。  
……高慢の治療薬は謙遜けんそんです。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

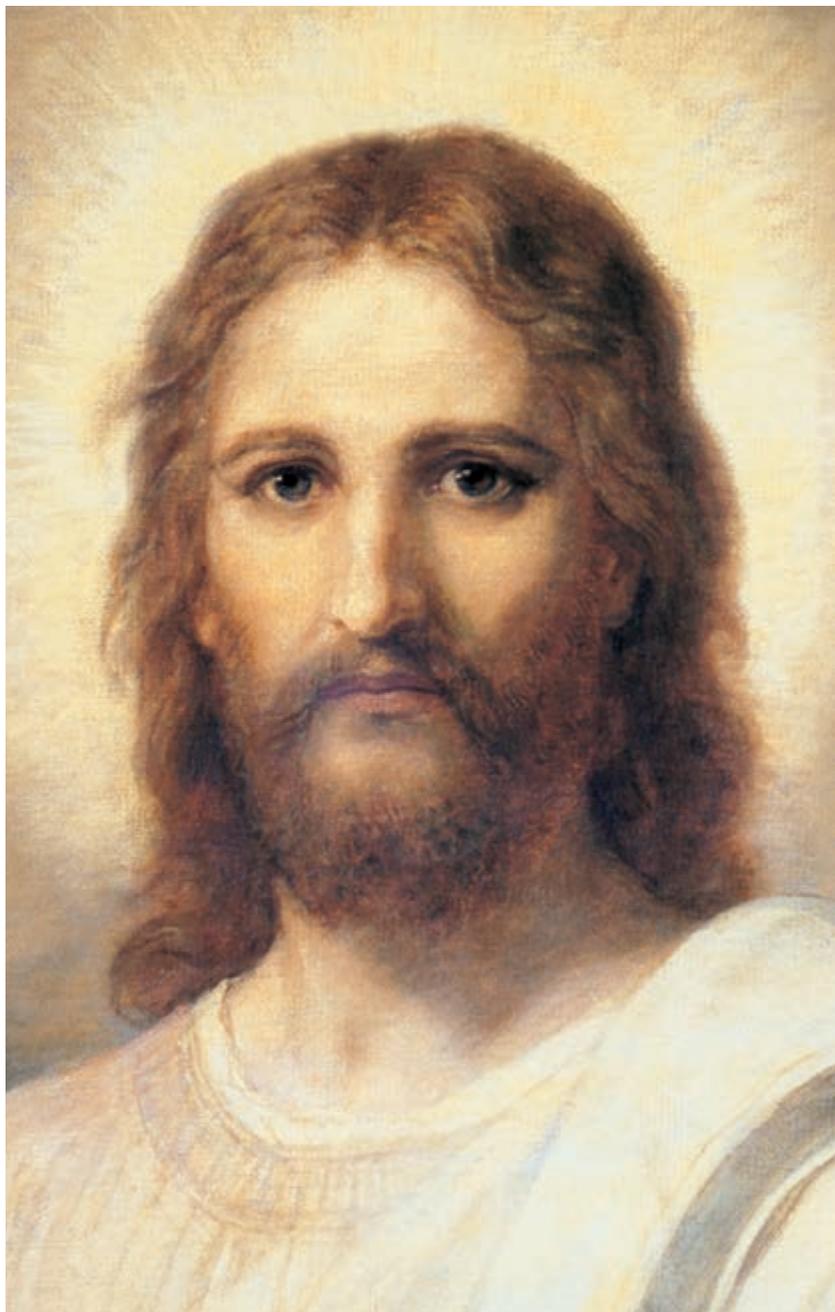
**教** 会大管長として臨んだ最初の総大会で、エズラ・タフト・ベンソン大管長は高慢と謙遜の違いについて教えました。

「高慢な人は神を仰ぎ見ることはなく、何が正しいか顧みることもしません。自分の横にいる人たちを見て、互いにだれが正しいか言い合っているのです。  
……

高慢な人の特徴は、『わたしはこの人生で何をしたいのだろうか』と考え、『主はわたしにこの生涯において何をするように望んでおられるのだろうか』とは考えないことです。これは、神の思いとは反する身勝手な考えです。神よりも人を恐れているのです。

謙遜な人は神の御心みこころにこたえようとします。神の裁きを恐れ、周りの人々が必要としている事柄に心を配ります。高慢な人の望みが世の称賛を得ることであるのに対し、謙遜な人は神の称賛に喜びを得ます。』<sup>1</sup>

こうした教えは、十二使徒定員会でベンソン大管長と奉仕をしたことのある人たちがよく知っているものでした。彼らは定員会の会長であった大管長が、ただひたすら神の御心を学び、従うことを思い、自分の個人的な考えには頓着しないことを知っていました。後に自らも十二使徒定員会会長として奉仕することになったボイド・K・パッカー会長は、定員会の集会における話し合いでのベンソン大管長のやり方についてこう話しています。「個人的な感情を気にすることなく、ベンソン大管長に異議を唱えることができました。彼の考えに気を取られることなく思う存分話し合いました。」<sup>2</sup> ベンソン大管長の指導の下で2年間十二使徒定員会で奉仕したラッセル・M・ネルソン長老もこう言います。「ベンソン大管長が判断の基準としたのはただ一つ、王国のためには何が最善かということでした。それが自分の意見とは異なっていたとしてもです。その基準に従うことで、自分の考えとは異なる方法で物事が進められることがあ



「柔和で心のへりくだった者」である救い主は (マタイ 11:29),  
謙遜けんそんな者としてすばらしい模範を示された。

でも、それはそれで良い、というのが大管長の考えでした。彼はただ、王国のために最善のことを望んでいました。」<sup>3</sup>

同様に政府指導者としても、ベンソン大管長は神の王国にとって最善を成すことに専念しました。合衆国農務長官を務めていたときには、多くの厳しい批判とともに絶大な「世の称賛」<sup>4</sup>を浴びました。しかし彼はそのどちらにも影響を受けることはなく、むしろ、「あなたが主と良い関係にあるかぎり、あなたについて世間が何を言っても気にしてはだめよ」<sup>5</sup>という、妻フローラから度々受けた助言に従いました。彼は静かな「神の称賛」<sup>6</sup>を喜びとし、常に神の御心にこたえようとしていました。

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

#### 主は高慢に気をつけるよう警告された

教義と聖約には、モルモン書が「ある墮落した民の記録」であると記されています（教義と聖約 20：9）。彼らはなぜ墮落したのでしょうか。これはモルモン書の重要なメッセージの一つです。モルモンはモルモン書の終わりの方の章にその答えを記しています。「見よ、この国民、すなわちニーファイ人の民は、悔い改めなければ高慢のために滅びてしまう。」（モロナイ 8：27）主はさらに、わたしたちがモルモン書の墮落した民から伝えられたこの重要なメッセージを見落とさないように、教義と聖約の中で次のように警告されました。「あなたがたは昔のニーファイ人のようにならないよう、高慢に気をつけなさい。」（教義と聖約 38：39）

わたしは今からモルモン書のこのメッセージ、すなわち高慢の罪とは何かについて明らかにしたいと思います。皆さんの信仰と祈りによる助けを心からお願いします。このメッセージがこしばらくの間、わたしの心に重くのしかかっています。このメッセージを今伝えることを、主は望んでおられます。わたしはそう確信しています。

前世の会議において、あの「暁の子」ルシフェルが投げ落とされたのは、その高慢さのゆえでした（2 ニーファイ 24：12 - 15。教義と聖約 76：25 - 27；モーセ 4：3 も参照）。神がこの世の終わりに火で地を清められるとき、誇り高ぶる者はわらのように焼かれますが、柔和な人は地を受け継ぎます（3 ニーファイ 12：5；25：1；教義と聖約 29：9；ジョセフ・スミス—歴史 1：37；マラキ 4：1 参照）。

教義と聖約の中で3度、主は「高慢に気をつけなさい」という表現を使っておられます。その中には、教会の第二の長老であるオリバー・カウドリと預言

者の妻であるエマ・スミスに対する警告もあります(教義と聖約 23:1。25:14; 38; 39も参照)。<sup>7</sup>

---

## 2

### 高慢の中心にあるのは神と同胞に対する敵意です

高慢は、ひどく誤った解釈をされている罪であり、多くの人が無意識のうち  
にこの罪を犯しています(モーサヤ 3:11; 3 ニーファイ 6:18 参照)。聖文に  
は、義にかなった高慢というようなことを教えている箇所は一つ也没有  
。高慢は常に罪と見なされています。ですから、世の中でこの言葉がどのよう  
に使われているかは問題ではありません。わたしたちが理解しなければならない  
のは、神がこの言葉をどのように使っておられるかです。そうすれば聖文の言  
葉を理解して、その恩恵にあずかることができます(2 ニーファイ 4:15; モー  
サヤ 1:3-7; アルマ 5:61 参照)。

ほとんどの人は、高慢を「自己中心」「うぬぼれ」「自慢」「尊大」「傲慢<sup>ごうまん</sup>」のこ  
とだと思えます。確かにこれらはそれぞれ高慢の罪の要素ではありますが、核  
となるものが抜けています。

高慢の中心を成すのは「敵意」、すなわち神と同胞に対する敵意です。敵意  
は「憎悪、敵対心、反抗」などを意味します。サタンは、この力によってわた  
したちを支配しようとします。

高慢の本質の基本は競争心です。自分の思いを神の御心<sup>みこころ</sup>と競わせるのです。  
高慢な心で神に向かうとき、そこには「御心よりも自分の思い」という気持ち  
があります。パウロはそのような人についてこう言いました。「自分のことを求め  
るだけで、キリスト・イエスのことは求めていない。」(ピリピ 2:21)

神の御心に対して競争心を持つと、欲望や欲求、激情を制御することができ  
なくなります(アルマ 38:12; 3 ニーファイ 12:30 参照)。

高慢な人は、自分の生活を律する神の権能を認めることができません(ヒラ  
マン 12:6 参照)。自分なりに真理を解釈して、神の偉大な真理に挑むので  
す。また、自分の能力をもって神の神権の力に対抗したり、自分の功績を挙げ  
て偉大な神の業に敵対したりします。

神への敵意は、反抗、かたくなな心、強情さとなって現れることもあれば、罪  
を悔い改めない、ほこり高ぶる、すぐに怒る、しるしを求めるといった形で現  
れる場合もあり、実に様々です。高慢な人は、神に対して自分の考えに同意するよ  
う求めます。神の御心に合わせて自分の考えを変えるなど念頭にありません。

どこにでも見受けられるこの高慢という罪には、もう一つ重大な要素があり  
ます。それは同胞に対する敵意です。わたしたちは、人よりも上に立ち、ほか

の人をおとしめようとする誘惑に毎日直面しています（ヒラマン 6：17；教義と聖約 58：41 参照）。

高慢な人は、自分の知性、意見、仕事、財産、才能など、この世的な尺度をもって張り合い、すべての人を敵に回します。C・S・ルイスはこう書いています。「高慢な者は何かを所有しただけでは喜ばない。人より多く持って初めて喜ぶのである。……人を高慢にするのは比較である。すなわち、自分は他よりも優れているという優越感である。競争心という要素が無くなれば、高慢もその姿を消すのである。」（*Mere Christianity* ニューヨーク、マクミラン社〔1952年〕、pp.109 - 110）

ルシフェルは前世の会議で、イエス・キリストが擁護する御父の計画と競い、自分の提案を主張しました（モーセ 4：1 - 3 参照）。彼の願いは、すべての人に勝る誉れを得ることでした（2 ニーフアイ 24：13 参照）。要するに、ルシフェルは高慢にも神をその位から退けることを望んだのです（教義と聖約 29：36；76：28 参照）。

聖文には、この高慢の罪が個々の人間、あるいは民、町、国家に悲惨な結果を及ぼした実例が数多く記録されています。確かに「高ぶりは亡びに……さきだつ」のです（箴言 16：18）。ニーフアイ人の国やソドムの町を滅ぼしたのもこの高慢の罪でした（モロナイ 8：27；エゼキエル 16：49 - 50 参照）。<sup>8</sup>

### 3

#### 高慢な人は、神の裁きよりも人の裁きを恐れる

キリストを十字架につけたのも、この高慢でした。パリサイ人は、御自身を神の子と主張するイエスの言葉に激怒しました。彼らにとってイエスのその言葉は、自分たちの地位を危うくする大きな脅威でした。それで彼らはイエスの殺害を謀ったのです（ヨハネ 11：53 参照）。

サウルがダビデの敵になったのも高慢のゆえでした。イスラエルの女たちが次のように歌うのを聞いて嫉妬したのです。「サウルは千を撃ち殺し、ダビデは万を撃ち殺した。」（サムエル上 18：6 - 8）

高慢な人は、神の裁きよりも人の裁きを恐れます（教義と聖約 3：6 - 7；30：1 - 2；60：2 参照）。彼らには「神にどう思われるか」よりも、「人にどう思われるか」が重要なのです。

ノア王は預言者アビナダイを放免しようとしたのですが、邪悪な祭司たちに高慢な心をかき立てられて、アビナダイを火刑場に送りました（モーサヤ 17：11 - 12 参照）。ヘロデもバプテスマのヨハネの首を切るように妻から求められて心



ノア王の高慢さはアビナダイを死に追いやり、自らの死をも招くこととなった。

が痛んだものの、結局は「列座の人たちの手前」よく見られたいという高慢な思いから、ヨハネを殺してしまいました（マタイ 14：9。マルコ 6：26 も参照）。

人から賛同を得ようと競うことは、人の裁きを恐れていることの現れです。高慢な人は「神のほまれよりも、人のほまれを好」みます（ヨハネ 12：42 - 43）。罪があるかないか、それはわたしたちがどのような動機で行動しているかで明らかになります。イエスは、「わたしは、いつも神のみどころにかなうことをしている」と言われました（ヨハネ 8：29）。わたしたちは、自分だけを高めて人に勝りたいという動機ではなく、神の御心みこころにかなうことをしたいという動機で行動すべきではないでしょうか。

高慢な人の中には、自分の収入が生活の必要を満たしているかどうかよりも、ほかの人より多いかどうかということに気をとられている人がいます。そのような人にとっての報酬は、人より上に立つことです。これが高慢の持つ競争心です。

高慢な思いにとらわれると、世の中における自身の主体性をなくし自由を手放し、その結果人の裁きに束縛されます。世の声は御霊みたまのささやきよりも大きいものです。そして、人の理論は神の啓示を押しつけ、高慢な人は鉄の棒から手を放してしまいます（1 ニューファイ 8：19 - 28；11：25；15：23 - 24 参照）。<sup>9</sup>

## 4

## 高慢な思いは多くの形で現れる

他人が犯す高慢の罪はすぐ目につきますが、自分自身にその罪があると認めることはめったにありません。高慢の罪とは、金持ちや学者のように社会のトップにある人がほかの人を見下すことだと多くの人は考えます（2ニコファイ9:42参照）。しかし、それ以上にわたしたちの間に広がっている慢性的な病があります。それは、下から上を見上げる高慢です。これは、あら探し、うわさ話、中傷、不平、収入以上の生活をする、そねみ、うらやみ、また、人を高める感謝の念や称賛の言葉の欠如、人の過ちを赦さない、嫉妬など様々な形で現れます。

不従順も本質的には、高慢な思いから発生する権力争いであり、相手は自分の上に立つ権力者です。親や神権指導者、教師、そして最終的には神がその相手です。高慢な人は、自分の上にだれかがいるという事実到我慢ならないのです。それによって自分の立場が低くされると考えるのです。

利己心は高慢がさらに一般的な形をとって現れたものです。「自分にどんな影響があるのか」がとにかく大切なのです。うぬぼれ、自己憐憫、この世的な願望の実現、自己満足、身勝手などがあります。

高慢の行き着く結果として、利益と世の誉れと権力を求めて作られた秘密結社を挙げることができます（ヒラマン7:5；エテル8:9, 16, 22 - 23；モーセ5:31参照）。この高慢の罪の実である秘密結社は、ヤレド人とニコファイ人の文明を崩壊させました。そしてほかにも多くの国の墮落の原因となり、それは今後も続いていくことでしょう（エテル8:18 - 25参照）。

高慢はまた、争いという形でも現れます。論争、けんか、不義な支配、世代の断絶、離婚、伴侶への虐待、暴動、騒乱、これらはすべて高慢の範ちゅうに入ります。

家庭内の争いは主の御霊を遠ざけます。また、家族の多くを遠ざける結果にもなります。争いは憎しみのこもった言葉から、世界規模の紛争にまで及びます。聖文には「高ぶりはただ争いを生じる」とあります（箴言13:10。箴言28:25も参照）。

聖文には、高慢な人は容易に気分を害し、恨みを抱くと書かれています（1ニコファイ16:1 - 3参照）。そして、相手に責任を負わせたまま赦しを与えず、自分の気持ちが傷ついたのは当然であると主張するのです。

高慢な人は勧告や矯正を容易に受け入れません（箴言15:10；アモス5:10参照）。彼らは自分の弱点や失敗を正当化し、合理化するため自己弁護に走ります（マタイ3:9；ヨハネ6:30 - 59参照）。

高慢な人は、自分に価値があるかどうかの判断を世の声に頼ります。彼らの自尊心は、この世が判断する成功の度合いで決まるのです。また、業績や才能、美しさ、知性などにおいて、自分より劣る人が多いほど、その分自分の価値が高いと感じます。高慢は醜いものです。高慢な人は言います。「あなたの成功はわたしの失敗。」

もし神を愛し、御心<sup>みこころ</sup>を行い、人の裁きより神の裁きを恐れるなら、わたしたちは自尊心を持つことができますようになります。<sup>10</sup>

---

## 5

---

### 高慢は人の成長を制限し、止める

高慢という言葉の持つ真の意味は破滅をもたらす罪です。人の成長を制限したり、止めたりします（アルマ12：10－11参照）。高慢な人は、なかなか教えを聞こうとしません（1ニーファイ15：3，7－11参照）。心を入れ換えて真理を受け入れようとしません。なぜなら、そうすることは自分が間違っていたという意味になるからです。

高慢はあらゆる人間関係に悪影響を及ぼします。神とその僕<sup>しもべ</sup>、夫と妻、親と子、雇用者と従業員、教師と生徒、そしてすべての人間関係にその影響は及びます。わたしたちが神や兄弟姉妹に対してどのような態度を執るかは、高慢の度合いによって決まります。キリストは御自分のおられるところに人を引き上げたいと願っておられます。わたしたちも人に対して同じ意を持っていてでしょうか。

高慢は、自分が神の子供であり、すべての人と兄弟姉妹であるという意識を消していきます。また、「富と学問の機会の多少に応じて階級に区別」してわたしたちを分け、隔てます（3ニーファイ6：12）。高慢な人に一致は不可能です。しかしわたしたちは一つにならないかぎり、主のものではないのです（モーサヤ18：21；教義と聖約38：27；105：2－4；モーセ7：18参照）。

高慢によって過去にわたしたちが失ったもの、また、現在わたしたち自身や家族、教会が何を失おうとしているのか考えてください。

また悔い改めがもたらすものを考えてください。罪を告白して捨て去ることを高慢な思いがじゃましなければ、悔い改めによって生活が変わり、結婚生活が保たれ、家庭は強くなります（教義と聖約58：43参照）。

心を傷つけられて教会に来ていない多くの人々について考えてみてください。彼らは高慢な思いのために、人の過ちを赦<sup>ゆる</sup>すことができません。つまり、主のテーブルで十分に食事をする事ができないのです。



謙遜けんそんさは結婚生活と家族に一致と力をもたらす。

伝道に出られるはずの大勢の若い男性や夫婦について考えてください。彼らは高慢であるために、自分の思いを神に従わせることができません（アルマ 10：6；ヒラマン 3：34 - 35 参照）。

高慢な思いで様々なことを追い求める時間より、この神聖な奉仕のために使う時間の方が大切になれば、神殿活動がどれほど進むか考えてください。<sup>11</sup>

## 6

### 謙遜けんそんこそが高慢の治療薬

高慢は様々なときに様々な強さで、すべての人に影響を与えます。さて、これで皆さんは、リーハイが夢で見た人々の高慢を表す建物がなぜ大きくて広々としていたのか、またなぜ大勢の人々がそこへ入って行ったのか理解できます（1 ニーファイ 8：26, 33；11：35 - 36 参照）。

高慢はあらゆる人に共通の罪であり、甚だしい悪です。そうです、間違いなく高慢はあらゆる人が犯す罪であり、甚だしい悪なのです。

高慢の治療薬は謙遜です。柔和と従順です（アルマ 7：23 参照）。打ち砕かれた心と悔いる霊です（3 ニーファイ 9：20；12：19；教義と聖約 20：37；

59：8；詩篇 34：18；イザヤ 57：15；66：2 参照)。ルドヤード・キプリングは次のように巧みに表現しています。

騒ぎと喧騒は静まり  
 軍の長も王も逝きぬ  
 なおとどまるは汝がいにしへの犠牲  
 へりくだる心と悔いる精神  
 万軍の主なる神よ、なおわれらとともにあれ  
 われら汝を忘るることなからんために……

神は謙遜な民を求めておられます。わたしたちは自ら選択して謙遜になることも、やむを得ずへりくだることもできます。アルマは言いました。「やむを得ずへりくだるのではなく、自らへりくだる人々は幸いである。」(アルマ 32：16)

自らへりくだることを選びましょう。

わたしたちは謙遜になることを選択できます。そのためには兄弟姉妹に対する恨みを克服し、彼らを自分自身と同じように尊び、自分と同じまでに、あるいは自分自身よりも高めなければなりません(教義と聖約 38：24；81：5；84：106 参照)。

勧告と懲らしめを受け入れる人は、謙遜になる道を選択できます(モルモン書ヤコブ 4：10；ヒラマン 15：3；教義と聖約 63：55；101：4－5；108：1；124：61，84；136：31；箴言 9：8 参照)。

自分を傷つけた人を赦すことにより、謙遜になることを選択できます(3 ニーフアイ 13：11，14；教義と聖約 64：10 参照)。

無私<sup>の</sup>の奉仕を行うことによって、謙遜になることを選択できます(モーサヤ 2：16－17 参照)。

伝道に出て、人を謙虚にする神の言葉を宣べ伝えることによって、謙遜になることを選択できます(アルマ 4：19；31：5；48：20 参照)。

もっと頻繁に神殿に参入することにより、謙遜になることを選択できます。

罪を告白して捨て、神によって生まれることで、謙遜になることを選択できます(教義と聖約 58：43；モーサヤ 27：25－26；アルマ 5：7－14，49 参照)。

神を愛し、自分の思いを神の御心に服従させ、神を第一にした生活を築き上げることによって、謙遜になることを選択できます(3 ニーフアイ 11：11；13：33；モロナイ 10：32 参照)。

謙遜になることを選びましょう。わたしたちにはそれができます。できるとわたしは知っています。

愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはシオンを贖<sup>あがな</sup>うために備えなければなりません。預言者ジョセフ・スミス時代にシオンの建設を妨げた基本的な罪は高慢でした。ニーファイ人の中で行われていた奉獻制度を終わらせたのも、同じ高慢の罪でした（4 ニーファイ 1:24 - 25 参照）。

高慢はシオンの大きなつまずきの石です。もう一度言います。高慢は間違いなくシオンの大きなつまずきの石です。

わたしたちは高慢な心を克服して器の内側を清めなければなりません（アルマ 6:2 - 4; マタイ 23:25 - 26 参照）。

「聖なる御<sup>み</sup>霊<sup>たま</sup>の勧めに従い」、「生まれながらの」高慢な人を捨て、「主なるキリストの贖<sup>しよくざい</sup>罪により……聖徒となり」、「子供のように従順で、柔和で、謙遜」になるのです（モーサヤ 3:19。アルマ 13:28 も参照）。

わたしたちがそうすることができ、さらに、神によって定められた行く末に達することができますよう、心から切にお祈りします。<sup>12</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ベンソン大管長は、高慢がニーファイの民の滅亡を招いたと指摘しています（第 1 項参照）。高慢にそれほどの破壊的な力があるのはなぜだと思いますか。
- 人はどのように「自分の思いを神の御<sup>み</sup>心と競<sup>み</sup>わせる」のでしょうか（第 2 項参照）。わたしたちが神の御心に従うとき、どのような祝福がもたらされるでしょうか。
- 時々わたしたちは「神にどう思われるか」ではなく、「人にどう思われるか」と考えます。それはなぜでしょうか（第 3 項参照）。神を喜ばせることがわたしたちのいちばんの望みであるとき、わたしたちの生活はどのように変わらでしょうか。
- 第 4 項で、高慢はどのような形で現れると書かれていますか。毎日の生活で、このような形で高慢が現れないようにするためにはどうすればよいでしょうか。
- ベンソン大管長は、神や人々との関係で「高慢はあらゆる人間関係に悪影響を及ぼす」と言っています（第 5 項）。それが真理であるのはなぜでしょうか。わたしたちが謙遜<sup>けんそん</sup>であれば、人間関係はどのように改善するのでしょうか。

- 第6項でベンソン大管長は、謙遜になることを選択できる方法を挙げています。やむを得ず謙遜になるのではなく、自ら選んで謙遜になる方がよいのはなぜだと思いますか。

### 関連聖句

マタイ 23:12; ルカ 18:9-14; ヤコブの手紙 4:6; アルマ 5:27-28;  
教義と聖約 112:10; 121:34-40

### 学ぶ際のヒント

預言者の言葉を自分に当てはめるために、預言者の言葉がどのように自分と関連があるか考えましょう（『教師、その大なる召し』170参照）。日々の生活で不安や疑問に思っていること、また、困難なことについて、これらの教えがどのように助けになるだろうかと、問うてみるとよいでしょう。

### 注

1. 「器の内側を清める」『聖徒の道』1986年7月号, 6参照
2. ボイド・K・バッカーの言葉, シェリ・L・デュー著 *Ezra Taft Benson: A Biography* (1987年), 429-430
3. ラッセル・M・ネルソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 430
4. 「器の内側を清める」6
5. フローラ・アムッセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 293
6. 「器の内側を清める」6
7. 「高ぶりを心せよ」『聖徒の道』1989年7月号, 4参照
8. 「高ぶりを心せよ」4-5参照
9. 「高ぶりを心せよ」5-6参照
10. 「高ぶりを心せよ」6参照
11. 「高ぶりを心せよ」6-7参照
12. 「高ぶりを心せよ」7; ルドヤード・キプリング “God of Our Fathers, Known of Old” *Hymns*, 80番



## 指導力

「皆さんが将来、教会や自分の国、自分の家庭で指導力を発揮しようとするなら、信仰に固く立ち、悪を前にしても動揺してはなりません。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

エズラ・タフト・ベンソンが指導者となることを学び始めたのは彼が青少年の時でした。間もなく13歳になろうとしていたとき父親が伝道に召され、エズラは最年長の子供として、父親の不在中、家族が営んでいた農場で多くの指導的責任を担うことになったのです。数年後にはイギリス伝道部の専任宣教師として召されたとき、支部会長、さらに、ニューカッスルカンファレンス（今の地方部に近いもの）の会長としても奉仕しました。また後年、ステーキ会長会でも3度奉仕しています。一度は顧問として、また、短期間会長として、そしてさらにもう一度、それよりも長く会長を務めました。仕事においても、農産業界で多くの指導的地位で働きました。農業分野における指導者となり専門家となった彼は、ドワイト・D・アイゼンハワー大統領から合衆国の農業における最高地位で奉仕する要請を受け、合衆国農務長官として8年間、アイゼンハワー大統領とともに働きました。

ベンソン大管長は教会の大管長となる前の12年間、十二使徒定員会会長として奉仕しました。その間、定員会会員からは指導者として絶大な尊敬を集めました。ブルース・R・マッコンキー長老は「教会でベンソン大管長ほどの管理運営能力を持った人を見たことがない、とよく家族に話していました。」<sup>1</sup>

十二使徒の指導に当たって、ベンソン会長は定員会の会員たちに、会長とは異なる意見であっても、率直に自分の考えを述べるよう促しました。ラッセル・M・ネルソン長老が新しく定員会の会員になったころ、はっきり意見を言うべきではないかもしれないと思っていました。「しかし、[ベンソン会長]はそうさせてくれませんでした。実際、わたしが何かについて黙っていても、彼はそれを聞きだしてしまうのです」とネルソン長老は語っています。<sup>2</sup>

ベンソン大管長が全員から意見を求めても、話し合いが迷走することはありませんでした。ハワード・W・ハンター大管長はこう言っています。彼は「ど



エズラ・タフト・ベンソン大管長と大管長会顧問——  
ゴードン・B・ヒンクレー管長(左)とトーマス・S・モンソン管長(右)

うしたら幹部の兄弟たちが自由闊達<sup>かっかつ</sup>に意見を出し合える集会にできるのか分かっていました。また、方向を示して管理し、全員が心を一つにして全会一致で物事を決定できるよう導く手腕がありました。」<sup>3</sup> ベンソン大管長は「十分話し合いができたと感じたとき、その独特の言い方で、『干し草はもう十分集まったようですから、一つにまとめて結論を出しましょう』と言うのが常でした。」<sup>4</sup>

ベンソン大管長は自分の指導下にある人たちに心を配り、模範によって教えました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように語っています。「彼ほど同僚を思いやり、彼らの幸福を案じている人を知りません。彼は、自分がやりたくないことを人にするよう頼むことはなく、むしろ、人が後に従うことができるよう、自ら奉仕の模範を示しました。」<sup>5</sup> ベンソン大管長はまた、仕事の委任を効果的に行い、それによって人々を教え、育てました。

ベンソン大管長が教会大管長として支持された総大会でゴードン・B・ヒンクレー管長は、主が教会を導く者としてベンソン大管長を選び、準備してられたという確信を述べました。

「わたしは主が約43年前エズラ・タフト・ベンソンを十二使徒の一人としてお選びになったことを証<sup>あかし</sup>いたします。主は長い年月をかけて、彼を試して鍛え、教育し備えられました。」

「わたしは彼をよく知り、また補佐する者として証します。彼は信仰深く、実証されたすばらしい指導力を備え、主とその業、そして世界中の神の息子、娘を愛する人であり、十分に立証された能力の持ち主です。」<sup>6</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

#### 効果的な指導者は信仰をもって固く立ち、良い模範を示す

キリストが持つておられる指導力は、模範者として切磋琢磨することにより育まれました。主は声を上げはっきりと、「わたしに従ってきなさい」と呼びかけられました。……主は愛によって、義の原則に対する人々の忠誠心と献身を〔得ることがおできになり〕ました。人を鼓舞する大きな要因が愛なのです。わたしたち一人一人に内在し発露を強く求める、神に似た特質を、輝かしい現実のものにできることを主はわたしたちに気づかせてくださいました。これからも主の模範は人類最大の希望と力であり続けます。<sup>7</sup>

皆さんが将来、教会や自分の国、自分の家庭で指導力を発揮しようとするなら、信仰に固く立ち、悪を前にしても動揺してはなりません。パウロは次のように言っています。「悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武器で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配

と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。」  
(エペソ 6：11 - 12)<sup>8</sup>

教会の若人には批判をもっと控えて、もっと多くの手本を示す必要があります。皆さんがその手本です。若人はその手本から、従い、忠実に実行すべき人生の規範を受けるのです。彼らは皆さんからの靈感が必要であり、それは皆さんが福音の教えに完全に従った生活をするときにもたらされます。<sup>9</sup>

---

## 2 人は効果的な指導力に応える

けんそん  
謙遜

過去も将来も常に、優れた指導者の特徴の一つは謙遜な心です。<sup>10</sup>

### 霊的な強さ

霊的な強さは思考を積極的にし、建設的な理想をもたらし、有益な習慣と積極的な態度を身に付けさせ、前向きに努力することを促します。知恵を増し、肉体的精神的な安定を図り、人からの熱心な支持と反応をもたらすのは、こうした特質です。<sup>11</sup>

健全な人だけが、互いに励まし合い、高め合ってさらによい奉仕をし、優れた成果を上げ、力をつけることができる能力を備えています。<sup>12</sup>

正しく導くには靈感が不可欠です。……教えるにせよ（教義と聖約 50：13 - 14）、王国の業の管理運営に当たるにせよ（教義と聖約 46：2）、わたしたちには靈感の霊がなくてはなりません。<sup>13</sup>

御霊<sup>みたま</sup>の代用としての役割を十分に果たせるものなどありません。<sup>14</sup>

### 知識

真の指導者は常に十分な情報を得ようと努力します。都合に合わせて行動するのではなく、原則に基づいた行動を取ります。神の知恵に関する啓示された原則に照らし合わせながら、人類のあらゆる経験から学ぼうとします。<sup>15</sup>

指導者にとって正しい原則を理解する最善の方法の一つは、聖文と適切な手引きから完全な知識と理解を得ることです。どのような状況もそのほとんどは過去に、恐らくは幾度も、起こったことであり、その問題の対応方針と対処方法はすでに定められています。ですから、何か疑問が生じたときはいつでも、現在明文化されている指示と教会の方針を参照し、それらに精通することが賢明です。<sup>16</sup>

教会の教義を的確にほかの人に提示することができるように、指導者は教会の教義を研究するよう助言を受けています。使徒パウロの言葉を借りるなら、わたしたちは皆さんに「恥じるところのない錬達した働き人にな〔る〕」ことを期待しています(2テモテ2:15)。<sup>17</sup>

### 忠誠心

良い指導者は忠誠心を期待し、同時に自らも忠誠です。自分が仕事を与えた人を支援します。忠誠心は、義務が要求する以上の事柄にも及びます。ともに奉仕する人が高い評価を受けるときも忠誠であり、仲間の成功を誇りとし、だれかの決定を退けるときは、最初にその人と必ず話し合います。人前で同僚に恥をかかせることはしません。人に対して率直で隠し立てをしません。<sup>18</sup>

### 一致

「日の栄えの王国の律法によって求められている和合一致」というものがあり、「日の栄えの王国の律法の諸原則によらなければ、シオンを築き上げることはでき〔ません〕。」(教義と聖約105:4-5)原則と属性で求められているものの中に、思いと心の一致があります。現代の教会に「わたしはあなたがたに言う。一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない」と救い主は命じられました(教義と聖約38:27;ヨハネ17:20-23)。主の王国の中で主から管理の召しを与えられた人たち以上に、一つとなることを絶対的な必要条件として求められている人たちはいません。<sup>19</sup>

### 愛し、信頼していることを表す

人を愛する気持ちは効果的な指導になくてはならないものです。皆さんは自分が指導している人たちを愛していますか。人の価値が神の目に大いなるものであることを完全に理解していますか(教義と聖約18:10参照)。青少年を信頼していますか。彼らの徳をたたえ、彼らの達成したことを称賛していますか。それとも、間違いを犯す彼らに対して批判的な態度を執っていますか。<sup>20</sup>

よくあることですが、批判されることよりつらいのは、与えられた仕事に対して指導者から何も言葉をかけてもらえないことです。心のこもった具体的なちょっとした意見や感想は、仕事をしていく中で大きな励みとなります。<sup>21</sup>

十分承知していることですが、……指導者が会員と個人的に交わるために使う時間は、会議や管理業務に使う時間以上の効果をもたらします。個人的な交わりは、教会に来ていない会員の改心の鍵<sup>かぎ</sup>を握るものです。<sup>22</sup>

教会では特にそうなのですが、頼むことは命令するより良い結果と、また、良い感情をもたらします。理由を伝えることを忘れないでください。進捗<sup>しんぱ</sup>状況を



「人を愛する気持ちは効果的な指導になくってはならないものです。」

確認してください。指示どおり行っている人には感謝の気持ちを伝えてください。信頼していると正直に伝えることができるときは、そう言ってあげてください。何かうまくいかないことがあったときは、自分の間違いがどこにあったか過去にさかのぼって調べ、恐れずに自分の過ちを認めます。彼らがボランティアで自発的に働いてくれている人であることを忘れないでください。それに彼らは主と主の業を愛している人たちです。彼らを愛してください。感謝してください。仲間を叱責する誘惑に駆られても、してはいけません。その代わり、相手を励ますという、わたしからのチャレンジを実行してみてください。世界にいる御父の子供たちは本質的に優秀なのです。天の御父は彼らを愛しておられます。わたしたちも彼らを愛さなければなりません。<sup>23</sup>

たとえ自分にとって良いことであっても、人は強制されることを好みません。しかし、効果的な指導者の言うことには応えます。<sup>24</sup>

### 3

#### 良い指導者は賢明に委任する

##### 委任に関する救い主の模範

世界の土台は委任された権能を使って据えられました。イエスは、御自分の使命は委任された権能によって果たしている、と幾度も人々に話されました。主の教会の回復も、委任された権能で始まりを迎えました。

会堂でユダヤ人に話をしていたイエスは、御自分が御父から委任を受けていると語られました。「わたしが天から下ってきたのは、自分のこのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。」(ヨハネ 6:38)<sup>25</sup>

イエスは、正しく委任されて良い働きを成した最高の模範をわたしたちに示してくださいました。……主の委任を受けた多くの宣教師が、財布も袋も持たずに旅をしました。男性たちは、非常な苦難に遭いながら主の命令を果たそうとしました。その中には、主に仕えようとして悲惨な死を遂げた人たちもいました。それでも、主の委任を受けた弟子たちは主の命令を果たすため、獅子のように大胆に世に出て行きました。彼らは、自分が果たそうとは夢にも思わなかった事柄を成し遂げたのです。主のように、男性、女性に意欲を持たせることのできた指導者はいませんでした。<sup>26</sup>

イエス・キリストの教会は、権能を通して委任した人々を参加させて、指導者を育てます。地上におられた間〔キリスト〕は、教会を導く助けとして十二使徒を召されました。また、七十人も召されました。主は人々に委任されたのです。主の教会に傍観者は一人もなく、すべての人が王国の建設に携わるよう求められました。そして彼らは王国を建て、同時に彼ら自身を育てたのです。

イエスは人を高めようとされました。……

イエスがなさろうとしたのは、すべての人を王にすることでした。つまり、永遠の指導者を育てようとなさったのです。あの忘れ難い夜の最後の晩餐の後、主は11人に言われました。……「よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。」(ヨハネ 14:12) イエスが望まれたのは、委任によって人を押さえつけることではなく、高めることでした。そして今日、教会ではどこでも、男性も女性も委任された務めを通して成長しています。<sup>27</sup>

#### わたしたちの組織における委任

効果的な管理は権能の委任を意味します。仕事の委任は、皆さんと皆さんの組織を助けます。効果的な管理とは、他の人を通して自らを成長させる能力です。<sup>28</sup>

効果的に教えたり説教したりするときと同じように、賢く委任するためには祈りによる準備が必要です。主は次のように明確に言われました。「御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊を受けなければ、あなたがたは教えてはならない。」(教義と聖約 42:14) そこでわたしたちは、御霊なしに委任してはならない、と付け加えたいと思います。<sup>29</sup>



この世における務めの間、イエス・キリストは十二使徒に権能を委任された。

今日の教会の賢い役員は、自分以上の適任者はいないという印象を与えず、仕事を自分一人でしょうとはしません。そしてその人が委任するとき、委任された人に対して十分な支援を与えることを約束します。<sup>30</sup>

責任を与える指導者は、だれにどの責任を割り当てたかを忘れません。指導者は関心を持って見守りますが、監視はしません。賛辞に値することがあれば、具体的に称賛します。必要なときに励まし、助けます。仕事がかどっておらず、変更の必要を感じる時は、勇気をもって毅然と、しかし、優しく行動します。責任の期間が完了したときには、仕事を評価し、感謝の気持ちを伝えます。<sup>31</sup>

賢明な指導者は、良い考えは何でも自分で考え出せるとは考えません。自分の指導下にある人たちに提案を出すよう励まし、彼らが意思決定に重要な役割を果たしていると感じられるようにします。また、彼らが、ただ指導者の決めたとおりに動いているのではなく、自ら立てた方針を実行していると感じられるようにします。<sup>32</sup>

## 4

教会指導者は神の御手みてに使われる者であり、人を導き、  
成長させるために御霊みたまを求めるべきである

今日の教会では通常、指導者は自らが心から期待することを得ます。ですから指導者は期待を高く持つ必要があるのです。主への奉仕を行うときは通常の責任を履行するとき以上の大きな力が出ることを、仕事を割り当てた人たちにしっかり伝えてください。〔わたしたち〕が〔自分の〕最善を尽くすなら、主の業に失敗はあり得ません。わたしたちはただ御手に使われる者なのです。これは主の業であり、主の教会であり、主の福音の計画なのです。そして、わたしたちが指導しているのは神の子供たちです。わたしたちが自らの役割を果たすなら、主はわたしたちが失敗するのをお許しになりません。必要なときには、わたしたちを実際の才能と能力以上の者にしてくださいませ。わたしはそう確信しています。<sup>33</sup>

教会が……ビジネス業界ではないことを覚えておかなければなりません。教会の成功は人の救いの観点から計られ、損益で計られることはありません。もちろん、わたしたちは効率的、生産的でなければなりません。同時に永遠の目的から目を離してはなりません。神聖な神権の職務にこの世のやり方や言葉遣いを持ち込むことに用心してください。合理的な問題解決方法はたとえ有効であっても、それだけでは王国の業には十分ではありません。神の業は信仰と祈り、そして御霊によって実行されなければなりません。「もしもそれが何かほかの方法によらずれば、それは神から出てはいない」のです（教義と聖約 50 : 18）。<sup>34</sup>

教会の全目的とは、考え方、属性、理想において神のようになる男性と女性を育てることです。<sup>35</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ベンソン大管長は、指導者は義にかなった模範を示さなければならないと教えました（第1項参照）。模範に強力な影響力があるのはなぜでしょうか。義にかなった指導者の模範はあなたにどのような影響を与えましたか。
- 良い指導者に関して、第2項で説明されている特質を研究してください。人々が「〔そのような〕指導方法に因應する」のはなぜだと思いますか。それらの特質を養うために何ができるか考えてください。
- 教会の指導者は救い主の委任者としての模範に従うべきであると、ベンソン大管長は教えました（第3項参照）。委任は神の王国を建設するうえでどの

ように役立ちますか。あなたにとって、委任された責任はどのように役立ちましたか。

- 「これが主の業である」こと、また「わたしたちが指導しているのは神の子供たちで〔ある〕」ことを念頭に置くことで、わたしたちの教会に対する奉仕はどのように変わのでしょうか（第4項参照）。主の御手に使われる者として人々を助けたときに、どのような経験をしましたか。

### 関連聖句

出エジプト 18：13 - 26；マタイ 5：13 - 16；ルカ 22：31 - 32；アルマ 17：1 - 11；教義と聖約 38：23 - 27

### 教える際のヒント

「人は自分の貢献が認められるとうれしいものである。個人の意見に対しては特別な努力を払って認めるようにし、可能であれば、その意見に基づいて話し合いをする。」（『教師、その大いなる召し』 35）

### 注

1. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography* (1987年), 429で引用
2. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 430で引用
3. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 430で引用
4. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 429で引用
5. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 474 - 475で引用
6. ゴードン・B・ヒンクレー「幸福への招き」『聖徒の道』1986年7月号, 49参照
7. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 345
8. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 372
9. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 375 - 376
10. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 371
11. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 371
12. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 455
13. *God, Family, Country: Our Three Great Loyalties* (1974年), 126
14. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 375
15. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 377
16. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 375
17. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 375
18. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 371
19. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 372
20. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 370
21. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 371
22. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 147
23. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 376 - 377
24. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 345
25. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 378
26. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 378
27. *God, Family, Country*, 135 - 136
28. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 379
29. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 379 - 380
30. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 379
31. *God, Family, Country*, 140
32. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 371
33. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 372
34. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 372 - 373
35. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 373



## 「わたしの羊を養いなさい」

「わたしたち全員がまことの羊飼いとなることを学ばなければなりません。良い羊飼いであられる主がわたしたち全員に対して抱いてくださっているのと同じ愛を、ほかの人々に示さなければなりません。一人一人が主にとって貴い存在です。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、ステーキ会長会で顧問を務めていたときの経験について次のように語っている。

「何年も前、アイダホ州ボイシでのことです。ステーキ会長会集会で、わたしたちはステーキ内で最も弱く小さな長老定員会のために会長を選ぼうとしていました。書記がその定員会に属するすべての長老のリストを持ってきてくれたのですが、その中にわたしが以前から知っているある男性の名前がありました。その男性は堅固な末日聖徒の家庭の出身でしたが、教会ではあまり目立った働きはしていませんでした。

ビショップが集会所の修繕をしようと呼びかければ、彼はたいてい応じ、定員会の兄弟たちがソフトボールをしたいときには、時々彼らと外でソフトボールをしている姿が見られました。指導力もありました。社会奉仕団体の会長をしていて、立派に務めを果たしていたのです。

わたしはステーキ会長に言いました。『この人に会いに行つて、教会の標準と一致した生活を送り、定員会の指導者となるように勧める権限をわたしに与えていただけませんか。少し冒険であることは分かっていますが、彼にはその能力があります。』

ステーキ会長は言いました。『そうしてください。主があなたを祝福されますように。』

……わたしはこの男性の家に行きました。ドアが開き、そこにステーキ会長会の一員が立っているのを見たときの彼の表情を決して忘れることはないでしょう。彼はためらいがちにわたしを招き入れてくれました。奥さんが夕食の支度をしていて、キッチンからコーヒーの香りが漂ってきました。奥さんも同席するように呼んでもらい、皆が席に着くと、わたしは自分が来た理由を告げまし



「今こそ救い主が語られた良い羊飼についての教えを……実践する時です。」

た。『今日返事してほしいと言うつもりはありません』と、わたしは彼に言いました。『ただ、このことについて考え、祈り、これがあなたの家族にとってどのような意味を持つことになるかという観点から考えると約束してほしいのです。来週また来ます。もし引き受けないことに決めたとしても、わたしたちのあなたへの愛は変わりません。』わたしはそう付け加えました。

次の日曜日、彼がドアを開けてくれた瞬間に、変化が起こったことが分かりました。彼はわたしを歓迎し、すぐに招き入れると、同席するよう奥さんに声をかけました。彼はこう言いました。『ベンソン兄弟、わたしたちは言われたとおりに行いました。このことについて考え、祈り、召しを受けることにしました。もし指導者の兄弟たちがわたしのことをそれほど信頼してくれているのであれば、わたしは喜んで教会の標準と一致した生活を送ります。ずっと前にそうすべきだったのです。』

また次のように言いました。『先週あなたがいらっしやってからコーヒーはまったく飲んでいません。これからも飲みません。』

彼が長老定員会会長に任命されると、定員会の出席者が増え始めました。そして増え続けました。彼は出かけて行って、教会に来ていない長老たちの肩を抱き、彼らを連れ戻したのです。数か月後、わたしはそのステーキから転出しました。

それから何年もたったある日、ソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアで、ある人がわたしのところにやって来て、握手を求めて言いました。『ベンソン兄弟、わたしのことは覚えていらっしやらないでしょう。』

『覚えていますよ』とわたしは言いました。『ただ、名前が思い出せません。』

彼は言いました。『7年前にボイシで、なすべき務めを怠っていた長老の家を訪問したのを覚えていますか。』言うまでもなく、すべてがよみがえってきました。彼は続けました。『ベンソン兄弟、あの日曜日の午後にわたしの家を訪れてくださったことは、生涯をかけても感謝しきれません。わたしは今、ビショップをしています。以前、自分は幸福だと思っていましたが、ほんとうの幸福がどのようなものか分かっていませんでした。』<sup>1</sup>

このような経験を幾つも重ねて霊を鼓舞されてきたベンソン大管長は、「教会と福音の影響から離れて」生活している教会員に手を差し伸べるよう、忠実な末日聖徒たちを励ました。<sup>2</sup> 1984年4月の総大会で、ベンソン大管長は次のように述べている。「多くの兄弟姉妹が活発になったことをうれしく思います。神権指導者や補助組織の指導者の皆さんは、ぜひこの偉大な働きを続けていただきたいと思います。」<sup>3</sup> その同じ週に、ベンソン大管長は集まった神権指導者に向かって、まだ長老に聖任されていない教会の兄弟たちをフェローシップすることの必要性について次のように語っている。

「わたしは家長であるそれらの人々に深い同情の念を覚えます。……それらの人々を教会に呼び戻して、彼らが自分の家族を主の宮に連れて行き、この世と来るべき世において人に知られている最も豊かな祝福にあずかれるようになるまで彼らを導くこと、これこそ今日の教会における最大の課題であるとわたしは確信しています。

兄弟の皆さん、わたしたちは皆さんがこの活発化の取り組みを単なる一時的なプログラム以上のものとして受け止めるように願い、祈っています。教会歴史のこの時期について記録が書かれるとき、迷い出て道を見失った多くの人々が神の教会によって救い出された時期であったと記されるように願っています。」<sup>4</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

主に従う者として、わたしたちに課せられた使命の一つは  
教会から離れている兄弟姉妹に手を差し伸べることである

主の教会の目的は、神のすべての息子と娘が永遠の命という究極の祝福に向かって進んで行くのを助けることです。……

聖徒を完全な者にするというわたしたちの使命、特に、教会に活発に集わなくなっている人々の活発化という課題について話したいと思います。わたしたちの兄弟姉妹であるこれらの会員たちは、現在、教会と福音の影響から離れて生活しています。

このあまり活発でない会員たちの中には、恐らく関心を持つことも気にすることもなく教会を休んでいる人々が大勢います。また、わたしたちが行方（ゆくえ）を知らないうちに一時的に失われた状態にある人々も含まれています。その一部は新しい改宗者であって、養い育てる配慮と教えを受けなかったと思われる人々です。そのような配慮と教えを受けていたなら、彼らは「聖徒たちと同じ国籍の者」となっていたでしょう（エペソ 2:19 参照）。彼らの多くはシングルアダルトです。

すべてのそうした人々に対して、わたしたちは教会員また主に従う者として、新たな思いで愛の手を伸べ、戻って来るように心を込めて招かなければなりません。「戻って来てください。戻って来て主が備えられた食卓に着き、聖徒の交わりという甘く、心を満たしてくれる木の実を再び味わってください。」(Ensign, 1986年3月号, 88)

わたしたちが目の前にしている課題は困難を伴うものです。……これらの兄弟姉妹に手を差し伸べようとするのであれば、深い信仰を働かせ、熱意を込めて献身しなければなりません。それでも行わなければなりません。主はわたしたちにこのことを期待しておられます。そしてわたしたちは行うのです。<sup>5</sup>

## 2

群れから迷い出た人々を養おうとするとき、わたしたちは救い主が  
語られた良い羊飼いについての教えを実践しなければならない

今こそ救い主が語られた良い羊飼いについての教えを、失われた羊や迷い出た子羊を連れ戻すというわたしたちの目の前の課題において実践する時です。

「あなたがたはどう思うか。ある人に百匹の羊があり、その中の一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、その迷い出ている羊を捜しに出かけないであろうか。

もしそれを見つけたなら、よく聞きなさい、迷わないでいる九十九匹のためよりも、むしろその一匹のために喜ぶであろう。」(マタイ 18:12 - 13)

イエスの時代、パレスチナの羊飼いは自分の羊の一匹一匹を知っていました。羊は羊飼いの声を知っていて、羊飼いを信頼していました。見知らぬ者について行くことはありませんでした。そして呼ばれると羊飼いのもとに寄って来るのです(ヨハネ 10:1 - 5, 14 参照)。

夜になると、羊飼いは羊を囲いへと導きます。囲いには高い壁が巡らされていて、野生動物やどろぼうが乗り越えないように、壁の上にはばらが置かれていました。それでも時々、飢えに駆られた野生動物が壁を飛び越えて羊たちの中に入り込み、羊をおびえさせ、危機に追い込むことがありました。

そのようなときに、自分の羊に愛情を注ぐまことの羊飼いと、賃金のためだけに義務感で働いている雇い人の違いが明らかになります。まことの羊飼いは羊のために喜んで自分の命を捨てます。群れの中に入って行き、羊のために戦うのです。一方、雇い人は羊よりも自分の身の安全を優先し、たいいてい危険から逃げてしまうのでした。

イエスは当時の日常を題材としたこのたとえを用いて、御自分が良い羊飼いであり、まことの羊飼いであることを宣言されました。兄弟姉妹に対する愛のゆえに、主は彼らのために喜んで御自分の命を捨てるつもりでおられました(ヨハネ 10:11 - 18 参照)。

そして最終的に、良い羊飼いは羊のためにその命を捨てられました。皆さんやわたしのために、すなわち、わたしたち全員のために捨てられたのです。

良い羊飼いという象徴的表現は、<sup>こんにち</sup>今日の教会においても同様に重要な意味を持っています。羊は注意深く見守る羊飼いによって導かれる必要があります。あまりに多くの羊がさまよっています。一時的な楽しみに誘われて迷い出た羊がいます。完全に道を見失ってしまった羊もいます。



ワードや支部の中で友情をはぐくむとき、わたしたちは互いが  
良い羊飼いの群れにとどまるのを助け合う。

昔もそうであったように、一部の羊は背き、「羊飼いから逃げ……る野生の羊の群れのように」であることを、わたしたちは理解しています（モーサヤ 8：21）。しかし、わたしたちの問題のほとんどは、愛と思いやりをもって導く羊飼いの務めが十分に果たされていないことが原因です。ですから、もっと多くの羊飼いを育てなければなりません。

羊飼いが世話をするならば、福音を受け入れて新しく生まれたばかりの新会員たちは思いやりに満ちた友人たちとの交わりによって養いを受けるに違いないのです。福音の知識を増し加え、新しい標準に添った生活を始めるとき、彼らには養いが必要なのです。そのような配慮がなされるとき、彼らが昔の習慣に戻ることはないように助けることができるでしょう。

羊飼いが愛のこもった世話をするならば、教会の若い人々、若い子羊たちは、道をそれることが少なくなるでしょう。もし道をそれたとしても、羊飼いの杖の曲がった柄が、すなわち愛にあふれた腕と思いやりのある心が、彼らを連れ戻してくれるでしょう。

羊飼いが世話をするならば、現在群れを離れている多くの人々をまだ連れ戻すことができます。教会員ではない人と結婚し、この世の生活様式になじんでいる多くの人々が、群れに戻るようという招きに応じるかもしれないのです。<sup>6</sup>

## 3

群れから離れた末日聖徒は、愛にあふれたまことの羊飼いが示す、  
偽りのない心からの関心を必要としている

羊が食べ物求めて群れを離れ、どこかに行ってしまうというこの古くからある問題に、新しい解決策はありません。イエスがペテロに与え、3度繰り返すことによって強調された責任こそが、実証済みの解決法なのです。「わたしの小羊を養いなさい。わたしの羊を飼いなさい。わたしの羊を養いなさい。」(ヨハネ 21:15 - 17 参照)

モルモン書の榮えある勸告にあるように、バプテスマを受けてキリストの教会に入った人々は絶えず「覚えられ、神の善い言葉で養われ」なければなりません(モロナイ 6:4)。

ですからその答えは、祈りをもって群れを世話し、養うことにあるのです。言い換えれば、個人的に見守り、心を配ることです。雇い人が示すようなうわべだけの関心ではなく、愛にあふれたまことの羊飼いによる、偽りのない心からの関心がなければなりません。

まことの羊飼いの概念について話すとき、主がこの責任を神権者に与えておられることは承知しています。しかし、姉妹たちもまた、互いやほかの人々に対して慈愛と愛にあふれた奉仕を行うことによって「羊の世話をする」召しを受けています。ですから、わたしたち全員がまことの羊飼いとなることを学ばなければなりません。良い羊飼いであられる主がわたしたち全員に対して抱いてくださっているのと同じ愛を、ほかの人々に示さなければなりません。一人一人が主にとって貴い存在です。主はすべての会員、神のすべての息子と娘を招いておられるのです。

「見よ、主はすべての人を招き、<sup>あわ</sup>憐れみの<sup>みうて</sup>御腕を伸べて、『悔い改めよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れよう』と言われる。……

『わたしのもとに来なさい。あなたがたは命の木の実を食べるであろう。……

まことに、わたしのもとに来て、義の業を行いなさい。』(アルマ 5:33 - 35)

主に招かれない人はだれ一人いません。主の福音にあずかるようにという主の恵み深い招きを受け入れる人は皆、歓迎されます。何か気に取られている羊もいれば、無関心な羊や、ほかのことで頭がいっぱいの羊もいます。それらの羊を見つけ、彼らが愛を受けて教会に戻って来るようにしなければなりません。すべての神権組織と補助組織の手段を用いてこの取り組みを支援しなければなりません。

どこにおいても、ステークやワード、定員会、補助組織の指導者と忠実な会員が、活発に集っていない人々を教会に連れ戻すために自分の意志と信仰を働かせる必要があります。そのときに初めて、この課題を達成することができるのです。

この価値ある目標を達成しようと熱心に努力する際に、効果的な神権ホームティーチングと効果的な扶助協会家庭訪問に改めて重点を置くようにお勧めします。ホームティーチングと家庭訪問は靈感に基づいたプログラムです。教会に活発に来ていない人も来ていない人も、会員の一人一人に毎月手を差し伸べるように計画されています。ホームティーチングと家庭訪問にさらに重点を置くようにしてください。<sup>7</sup>

## 4

### 兄弟姉妹を引き続き教え導くとき、わたしたちは彼らが福音の すべての祝福と儀式を受けるのを助けることができる

今日わたしたちがささげる祈りは、主から離れてさまよっていたゾーラム人を改心させようとしたアルマがささげた祈りと同じように熱烈で、相手を思うものでなければなりません。

「おお、主よ、どうかわたしたちがこの民をキリストにあって再びあなたのみもとに連れ戻すのに、成功を取められるようにしてください。

まことに、おお、主よ、彼らは貴い人々であり、その多くはわたしたちの同胞です。ですから、おお、主よ、わたしたちが同胞であるこれらの人々を再びあなたのみもとに連れ戻すことができるように、わたしたちに力と知恵をお与えください。」(アルマ 31:34 - 35。強調付加) ……

人々が教会に活発になるように助けるための原則は変わりません。それは次のとおりです。

1. 行方の分からない会員や教会に来ていない会員を見だし、連絡を取らなければなりません。
2. 愛に満ちた関心を示さなければなりません。わたしたちの愛を感じてもらう必要があります。
3. 福音を教えなければなりません。教師を通して聖霊の力を感じてもらう必要があります。
4. わたしたちの仲間に迎え入れなければなりません。
5. 意義深い教会の責任がなければなりません。

モルモン書の言葉を借りれば、わたしたちは「引き続き教え導く」べきです（3 ニーフアイ 18：32）。

わたしたちが特に心を砕いているのは、新しい改宗者が教会員の輪に完全に溶け込むようになることです。両手を広げて彼らを歓迎しなければなりません。

活発に集っていない人々が教会に戻るように助ける業の一つになって取り組みましょう。そうするとき、わたしたちは全員がより一致して、教会の使命を成し遂げられるようになります。すなわち、福音をそのすべての祝福と儀式とともに、すべての教会員の生活により豊かにもたらすことになるでしょう。教会は「あらゆる部分〔すなわち、すべての会員〕を必要としていて」（教義と聖約 84：110）、すべての会員は福音と教会とそのすべての儀式を必要としています。

この大いなる愛の働きとともに携わるときに、わたしたち全員が主の祝福を求めて、主によって強められ、必要な力と影響力を授けられますように。<sup>8</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- 「教会と福音の影響から離れて生活してい〔る〕」家族や友人について考えるとき、どのように感じますか。彼らに手を差し伸べるためにどのようなことができるでしょうか（第1項参照）。
- 雇い人と羊飼いの違いに関するベンソン大管長の教えについて深く考えてください（第2項参照）。より良い羊飼いになるためにどのようなことができるでしょうか。
- 人々には「愛にあふれたまことの羊飼いが示す、偽りのない心からの関心」が必要であることを、ベンソン大管長はわたしたちに思い起こさせています（第3項参照）。どうすればほかの人々に対して心からの関心を持つことができるでしょうか。この質問について思い巡らすとき、ホームティーチャーや訪問教師としての自分の奉仕について考えてください。
- 「引き続き教え導く」とはどのような意味だと思いますか（3 ニーフアイ 18：32）。教会に戻って来る必要のある人々に奉仕する際に助けとなる原則としてベンソン大管長が紹介している、5つの原則について考えてください（第4項参照）。これらの原則は、だれかが福音の祝福を受けられるようにするうえでそれぞれどのように役立つでしょうか。

### 関連聖句

マタイ 9:10 - 12; ルカ 15 章; 22:32; 1 ペテロ 5:2 - 4; モロナイ 6:4;  
教義と聖約 18:10 - 16; 84:106

### 学ぶ際のヒント

「読むことと、研究することと、深く考えることは同じではありません。読めば何かに気づき、研究すれば聖文中のパターンと関連性を見いだすでしょう。しかし、深く考えるときに、御<sup>みたま</sup>霊の啓示を招くのです。わたしの場合深く考えるとは、聖文を入念に読み、研究した後に考え、祈ることを意味しています。」(ヘンリー・B・アイリング「御霊とともに奉仕する」『リアホナ』2010年11月号, 60)

### 注

1. "Feed My Sheep," *Ensign*, 1987年9月号, 4 - 5
2. "Feed My Sheep," 3
3. 「聖徒たちに与える勧告」『聖徒の道』1984年7月号, 14
4. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 234
5. "Feed My Sheep," 3
6. "Feed My Sheep," 3 - 4
7. "Feed My Sheep," 4
8. "Feed My Sheep," 4, 5



## 物質的および靈的な福祉の原則

「全人類の経済的、社会的、靈的な福利に関係するすべてのことが、現在も今後も常に末日聖徒イエス・キリスト教会の関心事なのです。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

1936年、大恐慌がもたらした経済問題に世界中の人々が苦しんでいたとき、大管長会は新しい福祉プログラムを導入した。教会保全計画と呼ばれたこのプログラムが設けられた目的は、助けの必要な人々に施しをすることではなく、「人々の自助努力を助ける」ことであった。<sup>1</sup> 大管長会と他の教会指導者たちはこのプログラムを設けると同時に、勤勉と自立と奉仕という基本原則を教えた。什分の一と断食献金じゅうぶんを納め、食糧の生産と貯蔵を行い、不必要な負債を避け、将来の必要に備えて貯蓄するよう教会員に勧めた。

当時、エズラ・タフト・ベンソン大管長はアイダホ州ボイシでステーキ会長会の顧問を務めていた。また、アイダホ州のために、経済専門家、マーケティングスペシャリスト、農業経営スペシャリストとして働いていた。ステーキ会長から割り当てを受けて出席した集会で、ベンソン会長は教会保全計画が発表されるのを聞くことになる。後に次のように回想している。「その日聞いたすべてのことに心から賛同しました。ボイシステーキに戻ると、わたしは発表されたこのプログラムが経済的にも社会的にも靈的にも理にかなったものであることを兄弟たちに伝えました。そして理にかなっているだけでなく必要とされているものとして、教会員たちは心から応じるに違いないと述べました。」<sup>2</sup>

ベンソン会長がそのプログラムをステーキに導入して2か月後には、「非常に多くの福祉プロジェクトが進行していた。あるワードでは数エーカー〔訳注：1エーカーは約4,050平方メートル〕の菜園に作物を植え、別のワードでは15エーカーの土地にテンサイの種をまき、別のワードの扶助協会は食物を缶詰めにし、キルトや衣服を作っていた。小さな缶詰工場を建てた〔ワード〕さえあった。」<sup>3</sup>

10年後、ベンソン大管長は福祉プログラムが広い範囲にわたって影響を及ぼす様子を目にした。十二使徒定員会の会員として、ベンソン長老は第二次世



1946年、スイスのジュネーブで救援物資を確認する  
エズラ・タフト・ベンソン長老(右)とスイス伝道部会長代理のマックス・ジマー会長

界大戦直後のヨーロッパにおいて教会を管理する割り当てを受けた。戦争で荒廃したこれらの国々で、ベンソン長老は人々が再び自給自足できるよう助けるために物資を提供する教会の取り組みの指揮を執った。教会による救援物資の第一便がドイツのベルリンに到着したときの経験を、ベンソン大管長は次のように述べている。

「わたしは伝道部会長代理であったリチャード・ラングラック会長とともに、今にも壊れてしまいそうな古い倉庫へ出かけました。そこには、武装した見張りによって守られて、貴重な福祉援助物資が保管されていました。倉庫の奥の方に、天井まで達するほどに箱が積み上げられていました。

『あれはすべて、食糧ですか。』リチャードは言いました。『どの箱にも食糧が詰まっているとおっしゃるのですか。』

『そうですよ、兄弟』と、わたしは答えました。『食糧と衣類と寝具です。医薬品も少しあると思います。』

リチャードとわたしは箱の一つ下ろし、開けてみました。中にはごくありふれた食べ物が詰まっていました。乾燥豆です。ところがこの善良な兄弟はそれを見ると、両手で豆をすくい上げ、感謝のあまり子供のように泣き崩れました。

わたしたちは別の箱を開けました。ひき割り小麦がびっしりと入っていました。何も加えられていなければ取り除かれてもいない、主が造られたままの、主が意図されたとおりの状態の小麦でした。リチャードはその一つまみを口に当てました。そして少しの間を置いて、涙で潤んだ目でわたしを見ました。わたしも目に涙していました。それから彼はゆっくりと頭を横に振りながら言いました。『ベンソン兄弟、一度も会ったことのない方々がこれほどのことをしてくださるなんて、とても考えられません。』

これが主の制度です。兄弟愛と自発的な犠牲による寄付、人々の自立を促す援助。そのような援助がなされるときに、人々の尊厳と自尊心が保たれるのです。』<sup>4</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

主は御自分の民を物質的にも霊的にも祝福することを  
切に望んでおられ、喜んで祝福してください

兄弟姉妹の皆さん、わたしは主が物質的な事柄について語る中で次のように言われたことを理解しています。

「……わたしにとってはすべてが霊にかかわるものであり、わたしはいまだかつて、現世の律法をあなたがたに与えたことがない。……」〔教義と聖約 29：34〕

目的は言うまでもなく霊にかかわるものです。しかし、わたしたちは物質的な世である現世で暮らしています。……

……人は肉体と霊という二つの部分から成る存在です。この民に対する初期の啓示の中で、主は様々な機会に物質的な事柄に関する指示や戒めを与えておられます。主は聖徒たちや教会の指導者たちに、土地やその他の不動産の購入、神殿の建設、さらには印刷機の設置や店の開業、「疲れた旅人」のための宿泊所の建設についてさえも指示を与えられました〔教義と聖約 124：22 – 23 参照〕。知恵の言葉として知られる偉大な啓示の中で、主は人間のために良いものと良くないものを示されただけでなく、家畜を飼育するための計画の概要を示されました〔教義と聖約 89 章参照〕。その計画は、百年以上の歳月を通じて、人間の科学的調査によってその適切さが徐々に立証されてきました。人の福利に影響することは何であろうと、これまで常に教会の関心事となってきましたし、今後もそうであり続けることでしょう。教会員はいつでも物質的なことについて勧告を受けてきたのです。……

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちの考えをはっきりさせておくことが大切です。次のことを絶えず心に留めておきましょう。すなわち、物質的なものはすべて目的のための手段に過ぎず、その目的とは霊にかかわるものです。とはいえ、主は御自分の民を物質的な面で祝福することを切に望んでおられ、喜んで祝福してください。主は多くの啓示の中でそう述べておられます。わたしたちは自分たちの農作物のために、家畜のために、家族と家のために祈り、物質的な事柄に対して主の祝福を祈り求めなければならないと、主は繰り返し指摘しておられます。そして、主はそこにいて、いつでも喜んで祝福すると約束してくださっています。……

……主はわたしたちが自分でできることやすべきことを代わりに行ってはくありません。それでも、聖徒たちを守ることは主の御心<sup>みこころ</sup>です。全人類の経済的、社会的、霊的な福利に関係するすべてのことが、現在も今後も常に末日聖徒イエス・キリスト教会の関心事なのです。<sup>5</sup>

福祉プログラムのどの側面を進めるときも、それを設けるに至った第一の目的を常に忘れないようにしなければなりません。その目的とは、「可能なかぎり、忌まわしい怠惰を打破し、施しのもたらす悪弊を除去し、独立心、勤勉、儉約、自尊心を再びわたしたちの間に確立する体制を築くことです。教会の目的は、人々の自助努力を助けることにあります。勤労が再び教会員の生活を貫く原則にならなければなりません。」<sup>6</sup>

教会の福祉プログラムの強みは、十分な備えを通して自立するようという教会指導者の靈感に基づく指示に従うすべての家族にあります。神が望んでおられるのは、聖徒たちが自らを備え、それによって「〔主が言っておられるように〕教会が日の栄えの世界の下にある他のすべての造られたものの上で自立する」ことです（教義と聖約 78：14）。<sup>7</sup>

聖文で語られている5人の思慮深いおとめと5人の思慮の浅いおとめのたとえは〔マタイ 25：1－13 参照〕、大切なことを思い起こさせてくれます。それは、自分を霊のおよび物質的に整える努力を先延ばしにしすぎると手遅れになることがある、ということです。わたしたちは備えができていますでしょうか。<sup>8</sup>

---

## 2

---

### 精神的に、目的を持って、無私の心で働くことによって、 わたしたちは生活に必要なものを得、神の属性を身に付ける

アダムがエデンの園から追放されたとき、最初に父祖アダムに示された原則の一つは次のようなものでした。「あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る。」（創世 3：19）わたしたちがこの世で手に入れる物質的なものはすべて労働の産物であり、神の摂理によってもたらされます。労働だけが生活に必要なものを生み出すのです。<sup>9</sup>

人は他人の汗によってではなく、自分自身の額に汗して生きるように神から命じられています。<sup>10</sup>

わたしたちの福音は労働の福音です。すなわち目的を持って、無私の心で、真のキリストの愛の精神によって行われる労働です。そのような労働によってのみ、わたしたちは神の属性を身に付けることができます。そのような労働によってのみ、主の御手に使われる者としてふさわしくなり、人々の生活をより良いものへと導くことのできる神の力によって、他の人々に祝福をもたらすことができます。

わたしたちはこのチャレンジ、この受け継ぎ、この奉仕の機会とその豊かな報いにへりくだって感謝しなければなりません。この力を身に付け、他の人々に祝福をもたらすために用いるという主の計画に従う人々は何と幸せでしょう。それこそキリストがなさったことです。それこそわたしたちが行うよう特権を与えられていることなのです。<sup>11</sup>

福祉援助を受ける人は、自己の能力の範囲で物品の援助や断食献金による援助に相当する分の労働を行うべきです。有意義な労働の機会が提供されず、働くよう奨励されなければ、教会によって勤労意欲を失わせるような施しが行われることになり、福祉プログラムが設けられた目的が損なわれてしまいます。人が自分でできること、またすべきことを代わってあげては、永久にそ

の人を助けることはできません。これは天の律法であり、わたしたちはそのことをこの世でまだ十分に学んでいません。<sup>12</sup>

わたしたちは自分の行うすべてのことについて主の祝福を求めるべきであり、主の祝福を求めることができないようなことは一切行うべきではありません。自分でできることを主が代わりに行ってくださると期待してはいけません。わたしは信仰と労働の価値を信じており、主は祈るだけの人よりも、祈り求めるもののために働く人をより一層祝福してくださると信じています。<sup>13</sup>

精力的に、目的を持って働くとき、はつらつとした健康な体、称賛に値する成果、澄んだ良心、さわやかな眠りを得ることができます。労働は人にとって常に恩恵となってきました。頭、心、手のいずれを用いる仕事であろうと、皆さんが労働に対して心からの敬意を抱くことができますように。正直に骨折って働くことがもたらす満足感を味わっていますように。……天国へは、願ったり夢見たりして行くではありません。骨折って働き、犠牲を払い、義にかなった生活を送ることによって代価を払わなければならないのです。<sup>14</sup>

---

### 3

---

#### 食糧を生産し貯蔵するとき、わたしたちは現在の生活において 恵みを受け、将来の必要に備えることになる

皆さんは輸送機関が完全に麻痺したり、戦争や不況が起こったりした場合のことを考えたことがあるでしょうか。もしそのような事態になったら、わたしたちの地域社会や国家はどうなるでしょうか。皆さんや近所の人々は、どのようにして食糧を手に入れるでしょうか。街角の食料品店やスーパーマーケットは、いつまで地域社会の需要に応えることができるでしょうか。

第二次世界大戦の直後、わたしは大管長会からの召しを受けて、ヨーロッパへ渡り、そこで伝道部を再開し、聖徒たちに食糧と衣類を供給するプログラムを確立しました。今でも鮮明に覚えているのは、毎朝あらゆる種類の古い品物を抱えて汽車に乗り込む人々の姿です。田舎へ行って、持ち物を食糧と交換してくるのです。夕方になると、両手に野菜や果物、キーキー鳴く豚や鶏などを抱えた人が駅にあふれていました。皆さんはあのように混乱した状態をご存じないと思います。彼らは食糧という命をつなぐものと交換するためであれば、何でも喜んで差し出したのです。

経済的に自立する手段の中で、多くの人々がなござりにしているものがあります。それは、家庭における食糧の生産です。わたしたちは店に行って必要な品物を購入する生活に慣れすぎています。自分の手で幾らかでも食糧を生産するならば、物価の高騰が家計に与える影響をかなり抑えることができます。さら



食糧を生産する取り組みには家族全員が参加できる。

に大切なことは、食糧を自給する方法を学び、家族みんなで有益な作業に従事できることです。……

……わたしは、他の人々が実際に行ったことを試してみるようにお勧めします。人々と協力して、空き地を菜園として使用する許可を求めてください。あるいは、土地の一画を借りて自分の菜園を造ってもよいでしょう。ある長老定員会では定員会の活動としてこれを行い、参加したすべての人が野菜や果物の収穫にあずかったばかりか、協力し合うことや家族で働くことを通して様々な祝福を受けました。芝生を掘り返して菜園を造った家族も多くあります。

わたしたちは皆さんに、もっと自立するようにお勧めします。主はこのように宣言しておられます。「それは、あなたがたに下る<sup>かんなん</sup>艱難があるにもかかわらず、……教会が日の栄えの世界の下にある他のすべての造られたものの上で自立するためである。」(教義と聖約 78:14) 今の時代は艱難の日となるので、主はわたしたちに他に依存せず自立するように求めておられます。不測の事態に備えるように警告しておられるのです。……

法律で許されている地域では……食糧を貯蔵するように繰り返し強調されており、食糧の生産はその一環です。教会はどういった食糧を貯蔵すべきであると指定してはしません。この判断は個々の会員に任されています。……

……食糧の生産と貯蔵を行うようにという啓示は、箱舟に乗ることがノアの時代の人々にとってきわめて重要であったのと同じように、今日のわたしたちの物質的な福利にとって欠かせないものであると言えるでしょう。……

……貯金をするときと同じように、徐々に貯蔵食品を増やす計画を立ててください。給料を受け取る度に少しずつ節約して、その分を貯蔵に回してください。菜園や果樹園で採れた野菜や果物を、缶詰めかビン詰めにしてください。乾燥や、可能であれば冷凍による保存方法を学んでください。貯蔵に必要な経費を家計に組み込んでください。種の保存も忘れず行い、作業に必要な道具をそろえましょう。もし皆さんが、2台目の車やテレビなど、単に快適さや楽しみを求める品物を購入するために貯金をしているとしたら、優先順位を変える必要があります。祈りの気持ちでよく考え、今すぐ実行してください。……

わたしたちはしばしば、現在の快適で安らかな生活に浸り切ってしまい、戦争や経済危機、飢饉、地震などの脅威が自分の身に降りかかることなどありはしないと勝手に考えてしまいます。しかし、そう思い込んでいる人は、主から与えられた啓示を知らない人か、信じていない人です。災害は起こらない、聖徒たちの義のゆえに自分は何らかの方法で災害から守られる、などと独りよがりな考えを持つ人々は、欺かれているのであって、そのような妄想を抱いていたことを後悔するでしょう。

主は聖徒たちに、大いなる艱難の日について繰り返し警告を与え、御自分の僕たちを通して、その困難な時代に備える方法を示しておられます。わたしたちは主の勧告に耳を傾けているのでしょうか。……

兄弟姉妹の皆さん、この勧告に忠実に従ってください。そうすれば皆さんは祝福を受けて、地上で最も祝福された民になるでしょう。皆さんは善良な人々です。わたしはそのことを知っています。しかし、わたしたちは皆、より善い人になる必要があります。家庭における生産と貯蔵を通して、自分自身の食糧だけでなく、他の人々の分も備えるようにしましょう。

神の祝福があって、わたしたちの前途に横たわる最も過酷な日々を備えることができますように。<sup>15</sup>

#### 4

### 収入の一部を貯蓄に回し、不必要な負債を避けるとき、 わたしたちの心に平安と満足感がもたらされる

労働、儉約、自立という基本原則に従って生活するように、そして皆さんの模範によって子供たちを教えるように謹んでお勧めします。……自分自身の収入の範囲内で生活してください。収入の一部を定期的に貯蓄に回してください。不必要な負債を避けてください。賢くあって、性急に所有物を増やそうとしな

いようにしてください。さらに増やすことを考える前に、今あるものをうまく管理する方法を身に付けてください。<sup>16</sup>

悲しむべきことですが、一部の人々は生活が困難なときや、無分別でぜいたくな暮らしをして自分の収入だけで生活できなくなったときは、教会か政府に助けてもらえばよいという考えでいます。そのような教会員は、教会福祉計画の根底にある原則を忘れてしています。すなわち、「真の末日聖徒であれば、身体的に健康でありながら、自立の責任を自分から避けることはしない」のです。……

わたしたちは以前にも増して、経済的な自立の原則を学び、応用していく必要があります。病気や失業などの危機がいつ自分たちを襲うか、わたしたちには分かりません。わたしたちが知っているのは、将来全世界で災いが起こることを主が定めておられ、備えるようにわたしたちに警告しておられるということです。このようなわけで、教会幹部の兄弟たちは、物質的および霊的な福利のための「基本に立ち返る」プログラムを繰り返し強調しているのです。<sup>17</sup>

主はこれから訪れる危機的な時代において聖徒たちが自由であり、自立していることを望んでおられます。しかし、経済的に束縛されている人はだれも本当の意味で自由ではありません。<sup>18</sup>

列王紀に、涙を流しながら預言者エリシャのもとにやって来た一人の女性のことが記されています。その女性は夫を亡くし、自分では支えられないほどの負債を抱えていました。債主が彼女のもとに向かっており、彼女の二人の息子を取って奴隷として売ろうとしていたのです。

奇跡によって、エリシャは女性がたくさんの油を得られるようにしました。その後、エリシャは彼女に言いました。「行って、その油を売って負債を払いなさい。あなたと、あなたの子供たちはその残りで暮すことができます。」(列王下 4:1-7 参照)

「負債を払い……暮[らしなさい。]」この言葉は、これまでどれほど豊かな実りをもたらしてきたことでしょうか。今日のわたしたちにとって何と賢明な勧告でしょう。……

深刻な不況などもう来ないだろうと思っている人が大勢います。そうした人々は雇用が継続し、順調に賃金や給料が得られることを期待して安心し、将来の収入を当てにして負債を作ります。万一失業した場合や、他の何らかの理由で収入が止まった場合にどうするか、彼らはまったく考えません。しかし、わたしたちはまだ景気の後退という調整の時期を経ずに経済を支配できるほど賢くないと、この分野に最も精通している人々が繰り返し述べています。遅かれ早かれ、そうした調整の時期がやって来るのです。



収入以上の暮らしをすると「大きな悲しみ」を味わう恐れがある。

負債が増えているもう一つの理由は、より根が深く、大きな不安を抱かせるものです。霊的な価値観への献身と相反する、物質主義の台頭です。多くの家族が、体裁のために、高級住宅地に必要以上に大きくて高価な家を持つことに力を注ぎます。……生活水準が上がるにつれて、目新しい物が発売される度にその誘惑は増していきます。現代の広告は入念に計画された巧妙な手法を用いて、消費者の抵抗力が最も弱いところをねらってきます。その結果、残念なことですが、待つことも、貯蓄することも、自制することもなく、物質的なものを今すぐ手に入れるべきだという感情が高まっています。

さらに悪いことに、個人的な負債を抱えている家族の大半が、頼ることのできる流動資産〔貯金〕をまったく持っていません。万一収入が突然途絶えたり、大幅に減ったりしたならば、どのような困難を招くことになるのでしょうか。わたしたちは皆、支払える以上の負債を抱えている家族を知っています。そのような人々は大きな悲しみを味わうことになります。<sup>19</sup>

負債はすべて悪いものであると言うつもりはありません。もちろん、そうではありません。健全な事業融資は成長をもたらす要素の一つです。健全な住宅ローンは家を得るために借入れをしなければならない家族にとって大きな助けになります。<sup>20</sup>

長期的には、収入の範囲内で生活し、どうしても必要な場合以外は将来の蓄えを犠牲にしてお金を借りるのを差し控える方が楽です。決してぜいたくをす

るために負債を作らないでください。先のことを考えずにお金を使い、収入がなくなったときに支援機関や教会の財政的援助に頼らなければならなくなるというのでは、わたしたち自身に対して、または地域社会に対して公正ではありません。

わたしは厳粛にお勧めします。法外な割増金を課せられることが多い分割払いで自分自身を束縛しないでください。今は貯蓄して、後で購入してください。そうすればはるかに余裕ができることでしょう。高い利息やその他の支払いを免れることができ、貯蓄したおかげで、後に相当な現金割引で購入する機会が得られるかもしれません。

……自分がほんとうに必要とするよりもずっと豪華な、または広々とした不動産物件に飛びつきたいという衝動をはねのけてください。

幼い子供のいる家族はなおさらですが、まず比較的短期間で支払いが終えられる小さな家を買う方が、どれほど暮らし向きが良くなることでしょう。……

自分自身や自分の家族を、経済的な嵐<sup>あらし</sup>に対して無防備な状態で放置してはいけません。少なくとも当面の間は、ぜいたくを慎み、貯蓄をしてください。子供たちの今後の教育や自分の老後のために備えるのは、何と賢明なことでしょう。……

兄弟姉妹の皆さん、収入に応じた生活をするときに、心に平安と満足感をもたらされます。神がわたしたちに知恵と信仰を与えてくださって、わたしたちが神権者の靈感に基づく勧告に耳を傾けて負債から抜け出し、収入に応じた生活をし、支出を収入内に収めることができますように。つまり、「負債を払い……暮〔らす〕」ことができますように。<sup>21</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- 第1項で、ベンソン大管長は教会の福祉プログラムの基本原則の概要を述べています。これらの原則はわたしたちの物質的な福利にどのような形で役立つでしょうか。わたしたちの霊的な福利にどのような形で役立つでしょうか。
- 「精力的に、目的を持って働く」ことはどのような益をもたらすでしょうか（例として、第2項参照）。あなたが働いていて楽しいと感じるのはどのようなことでしょうか。子供や青少年が働くことを楽しめるようになるために、どのような助けができるでしょうか。

- 第3項にあるベンソン大管長の勧告に従うとき、どのような祝福が得られるでしょうか。自分の現在の状況について考え、この勧告に従うためにどのようなことを行うか考えてください。
- お金を賢く使うことが「平安と満足感」につながるのはなぜだと思いますか。反対に、「自分自身の収入の範囲内で生活」しないときにどのようなことを経験する可能性があるでしょうか（第4項参照）。

### 関連聖句

モルモン書ヤコブ 2 : 17 - 19 ; アルマ 34 : 19 - 29 ; 教義と聖約 19 : 35 ; 42 : 42 ; 75 : 28 - 29 ; 104 : 78 ; モーセ 5 : 1

### 教える際のヒント

「生徒に質問に答える準備をさせるために、何かを読んだり、提示したりする前にあらかじめ生徒から意見を求めるつもりであることを告げておくとよい。……例えば、『これから読む聖句を聞いて、いちばん関心を持ったことを話してください』……などと言うことができる。』（『教師、その大いなる召し』 69）

### 注

1. ヒーバー・J・グラント, Conference Report, 1936年10月, 3
2. "Church Welfare — Economically Socially Spiritually Sound," in Welfare Agricultural Meeting, 1972年10月7日, 5
3. シェリー・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography* (1987年), 119
4. 「主の倉庫制度によって人々の必要を満たす」『聖徒の道』1977年10月号, 519 参照
5. Conference Report, 1945年10月, 160, 163, 164
6. 「主の倉庫制度によって人々の必要を満たす」519 参照。ヒーバー・J・グラント, Conference Report, 1936年10月, 3からの引用
7. "Prepare Ye," *Ensign*, 1974年1月号, 81
8. Conference Report, 1967年4月, 61
9. 「艱難かんなんの日に備える」『聖徒の道』1981年4月号, 59 参照
10. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 481
11. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 484
12. 「主の倉庫制度によって人々の必要を満たす」519 参照
13. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 485
14. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 481
15. 「艱難の日に備える」60 - 61, 62, 63 参照
16. "The Ten Commandments: America at the Crossroads," *New Era*, 1978年7月号, 39
17. 「艱難の日に備える」59, 60 参照。マリオン・G・ロムニー, "Church Welfare — Some Fundamentals," *Ensign*, 1974年1月号, 91で引用の "Welfare Plan Handbook (1952年), 2を引用
18. "Prepare Ye," 69
19. "Pay Thy Debt, and Live," *Ensign*, 1987年6月号, 3 - 4
20. Conference Report, 1957年4月, 54
21. "Pay Thy Debt, and Live," 4, 5



## 福音を世界に携えて行く

「わたしたちは、天の御父と共同して、御父の子供たちの救いと昇栄の偉大な御業<sup>みわざ</sup>に携わることができることを喜んでいきます。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

エズラ・タフト・ベンソン大管長にとって、伝道活動は家族の伝統であった。大管長は次のように説明している。「わたしの父には、11 人の子供がいました。そして、一人残らず伝道に出ました。わたしの妻も帰還宣教師で、最後の半年間は、寡婦であった母親と一緒に伝道する機会に恵まれました。長男のわたしは、父が伝道中にアメリカ中西部の伝道地から送ってくれた手紙を今でもよく覚えています。それによって、わたしの家庭は伝道の御霊<sup>みたま</sup>に満たされ、二度とその御霊が失われることはありませんでした。そのことに心から感謝しています。」<sup>1</sup>

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、1921 年から 1923 年まで英国伝道部で専任宣教師として奉仕した。そして、その「伝道の精神」は、伝道中の 2 年半を超えて、いつも途切れることはなかった。例えば、1953 年から 1961 年まで合衆国農務長官を務めた大管長は、異なった信仰を持つ数多くの人々との出会いがあった。1961 年 4 月の総大会のときには、聖徒にこう語っている。「わたしが公務にあって個人的にコンタクトを取った人々の数はおよそ 9,000 人に及びます。わたしはその人々の照会カードを教会本部に送りたいと思っています。その人々に一人残らず福音を聞いていただきたいのです。天の御父の子供たちがそろってイエス・キリストの福音を受け入れ、それに従って生活することからもたらされる祝福をぜひとも享受してほしいと切に望んでいます」。<sup>2</sup>

ベンソン大管長の伝道活動に対する熱意は、晩年になっても決して衰えることはなかった。むしろ、同じような熱意を持って欲しいと全教会員に説いたほどである。若い男性に対しては、専任宣教師としての奉仕に自ら備えるように直接語りかけている。「今から準備を始めてください。肉体的に、また知的、社交的、霊的に自分を備えてください。」<sup>3</sup> また、両親に向かって、その息子たちにそうした備えをさせるようにと訴えている。さらに、若い姉妹たちや教会の高齢者に向かって、専任宣教師として奉仕することについて真剣に考えて



「わたしたちは喜んで自分の時間と手段とをささげ、御父はそれを用いて、わたしたちを祝福し、……神の王国を打ち建てようとしておられます。」

ほしいと勧告している。そのうえで、全教会員に向かって、隣人と福音を分かち合うようにと強く訴えたのである。

トーマス・S・モンソン大管長は、ベンソン大管長が伝道活動を深く愛していたために一人の将来の宣教師が大いに力づけられたことがあったとして、次のような話をしている。「ある金曜日、ベンソン夫妻はいつものようにジョーダンリバー神殿に参入して、セッションを受けました。そのとき、ある青年が喜びに胸をときめかせながらベンソン大管長に近づき、専任宣教師に召されたばかりであることを告げました。ベンソン大管長はこの召されたばかりの宣教師の手を取り、笑みを浮かべて、こう言ったのです。『わたしも一緒に連れて行ってください。一緒に伝道に行きましょう。』この宣教師は、ある意味で自分はベンソン大管長と一緒に伝道に出たのだと証あかししました。というのも、神殿での出会いを通してベンソン大管長の伝道活動に対する変わらぬ愛と献身、そして大管長の望みが常に主に仕えることにある、ということを知ったからです。』<sup>4</sup>

天の御父のあらゆる子供たちを愛する思いは、福音を分かち合うために自分をささげるといふベンソン大管長の思いの中心であった。「わたしたちの天の御父の子供たちは福音を必要としています。……わたしは、主が彼らを愛していることを知っています。わたしは、主のふつつかな僕しもべとして、この世のあまたの人々に対して心の中に愛を持っています。』<sup>5</sup> 救い主の愛の力に思いを向けつつ、大管長は次のように証した。「確かに、わたしたちが主の愛を隣人と分かち合うときに、祝福は幾倍にも増すのです。』<sup>6</sup>

生涯にわたって伝道活動に参加し続け、同じ業に働く聖徒たちに同じように実践しようと励ますベンソン大管長だからこそ、こう証できたのである。「わたしは伝道活動の喜びの実を味わってきました。世界のどこを見ても、個人にこれ以上の喜びと幸福とをもたらしてくれる業は他にありません。』<sup>7</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

世界は真の宗教に飢えており、わたしたちにはそれがある

父なる神と御子イエス・キリストがジョセフ・スミスに栄光のうちにその御姿みすがたを現されたその後は、回復された教会に与えられた第一の重要な責任は全世界に、すなわち世界中の御父の子供たちに福音を携えて行くことであったと思われます。

これは実に他に変わるもののないほど重要なドラマでした。犠牲と喜びと困難と勇気のドラマであり、何にも増して、同胞ほろからうに対する愛のドラマでした。地上にこれに匹敵するような人間ドラマを見つけることはできません。確かに、この

愛の働きを押し進めるには、血や汗、そして涙といった代価が必要でした。では、なぜわたしたちはそのようなことを実践してきたのでしょうか。それは、天の神がそうお命じになったからであり、神がその子供たちを愛しておられたからです。地上にいるあまたの人々がイエス・キリストの福音の栄光に満ちた救いと昇栄の原則について聞き、自らの自由意思によって、それを受け入れ、それに従って生活することは神の御心<sup>みこころ</sup>なのです。<sup>8</sup>

わたしは、世界が、何にも増して、イエス・キリストの福音を必要としていると確信しています。世の民は、福音が提供してくれるものを求めながら、それを認識できずにいます。彼らは、福音が提供してくれている基盤、直面する問題の答えを提供してくれる基盤を求めています。また、安心感をもたらし、心に平安を与えてくれる基盤を求めています。わたしの兄弟姉妹の皆さん、福音こそ世の問題に対する唯一の答えなのです。<sup>9</sup>

福音において他に自滅という災難から世を救い出せるものはありません。福音だけがあらゆる人種、あらゆる国籍の人々を平和のうちの一つにすることができるのです。福音しか、人類という家族に喜びと幸福そして救いをもたらすことができるものはないのです。<sup>10</sup>

世界は真の宗教に飢えており、わたしたちにはそれがあります。<sup>11</sup>

わたしたちが世と分かち合いたいと熱望している栄光に満ちたメッセージとは、父なる神と御子イエス・キリストを通して、神の王国が回復されたということです。これは、イエス・キリストの復活以来、最も偉大なメッセージです。<sup>12</sup>

わたしたちは、へりくだって、また感謝をもって、教会に託されたこの大きな責任を受け止めています。わたしたちは、天の御父と共同して、御父の子供たちの救いと昇栄の偉大な御業<sup>みわざ</sup>に携わることができることを喜んでいます。わたしたちは喜んで自分の時間と手段とをささげ、御父はそれを用いて、わたしたちを祝福し、地上において神の王国を打ち建てようとしておられます。わたしたちはこれが、わたしたちの最初の義務であり、偉大な機会であることを知っています。この精神こそ、あらゆる時代のイエス・キリストの教会の伝道活動の特徴づけるものです。それは、時満ちる神権時代、すなわちわたしたちの時代の到来を告げる、顕著なしるしだったのです。信仰深い末日聖徒がいる所ではどこでも、場所を問わず、この最大の大義のために己を犠牲にする精神がみなぎっています。<sup>13</sup>

わたしたちには大いなる使命があります。わたしたちは老いも若きも、備えをする必要があります。国々の中にあってパン種となり、義の原則に忠実でなければなりません。<sup>14</sup>

## 2

わたしたちは、どのような環境や地位にしようとも、  
誰でも、宣教師となることができる

わたしたちは主の教会の会員として、伝道活動について真剣に考える必要があります。なすべきことを行い、伝道活動を愛している人は、やがて人の子らを救いに導く業に携わるようになります。<sup>15</sup>

福音を伝えることを神権の義務として捉えるだけでなく、心からの喜びと期待とをもってこの経験を待ち望む必要があります。福音を伝える真の目的は、天の御父の子供たちをキリストのみもとに導き、教えを授け、バプテスマを施し、御父の王国において彼らとともに喜びにあずかる（教義と聖約 18：15 参照）ことができるようにすることです。<sup>16</sup>

全ての会員は、この大切な責任を負っています。逃れることはできません。どこに住もうと、どのような社会で生活しようと、いかなる職業や役職に就こうと、それを理由にこの責任から逃れられるなどと、決して考えてはならないのです。<sup>17</sup>

若い男性と若い女性

わたしたちは、若い男性には皆、主の御使<sup>みつか</sup>いとなるための計画を立ててほしいと望んでいます。<sup>18</sup>

それでは、伝道に出たいという強い望みを少年の心に植えつけるには、どうすればよいのでしょうか。伝道に出る年代になるまで……決意できるよう助けるのを待つ必要はありません。9歳、10歳、11歳のときに、伝道を決意できるように助けるのです。家庭こそ、若い子供たちを備える苗床です。全ての男の子は、家庭で伝道に出る備えをする必要があります。

初期の段階の準備としては、子供に祈る方法を教える、モルモン書や他の聖典からの物語を話して聞かせる、家庭の夕べを開いて〔教える〕レッスンの一部を担当させる、道徳的な清さの原則を教える、将来の伝道のために預金口座を持たせる、働くことを教える、人に仕える機会を与えるなどです。<sup>19</sup>

わたしたちが伝道地に入ってほしいと望む宣教師は、「常に前進を心がけている」若い男性です。そのような人は、自ら正しく清い生活をすることで生み出された信仰を持っており、非常に力ある伝道をすることができます。<sup>20</sup>

主は全ての若い男性に、伝道に出るように望んでおられます。……伝道は神権者の義務としてだけ考えるべきものではありません。全ての若い男性は、心からの喜びと期待をもって、伝道の機会を待ち望むべきです。若い男性にとってこれ以上に重要なものはありません。学業は先に伸ばすことができます。

奨学金も延期できます。職業上の目的についてもそうです。神殿結婚さえも、若い男性が主のために専任宣教師としての立派な働きを終えるまで待ってくれるのです。

……若い女性の皆さん……もまた専任宣教師として働く機会があることを心にとどめておいてください。わたしの永遠の伴侶が、ソルトレーク神殿で結婚をする前にハワイで伝道をしたことに感謝しています。3人の孫娘が専任宣教師として働いたこともうれしく思っています。わたしたちの最も優れた宣教師の中に若い姉妹宣教師も名を連ねているのです。<sup>21</sup>

### シニア宣教師

教会は、もっと大勢の年配の宣教師の働きを必要としています。<sup>22</sup>

年配の夫婦の中にも、伝道に出ることのできる方がたくさんいます。そうすることにより、伝道が子、孫、ひ孫にも祝福をもたらすということがわかるようになることでしょう。そして、それは伝道以外の方法ではかなえられないことです。子孫にすばらしい模範を示すことができるのです。<sup>23</sup>

多くの人々は、夫婦で伝道したときほど幸せを感じたことはない<sup>あかし</sup>と証します。夫婦が一つの目的のために、すなわち伝道活動のために全てをささげて献身できたからです。<sup>24</sup>

### 会員伝道

会員伝道の活動をもっと進める必要があることを強調しなければなりません。これまでの経験から、この活動が最も実りの多い伝道だということが分かっています。会員伝道は、会員たち一人一人の成長にとっても、大いなる鍵の一つです。わたしは、会員伝道が実行されるワードはどこであってもその靈性が高められると確信しています。<sup>25</sup>

前に<sup>せいさん</sup>聖餐会やステーキ大会、あるいは家庭の夕べに近所の人々を誘ってから、どれくらいの時間がたっていますか。福音について真剣に話し合ったのはいつだったのでしょうか。そのような体験をするのは、実にすばらしいことです。<sup>26</sup>

わたしたち教員が信仰をもって努力するならば、主はわたしたちが伝道の責任を果たせるよう支えてくださいます。<sup>27</sup>

今こそより高い目標を掲げ、この偉大な<sup>みわざ</sup>御業の重要性を理解しなければなりません。主がわたしたちにそれを望んでおられるのです。教会に籍を置き、聖餐会に出席し、<sup>じゅうぶん</sup>自分の一を納め、福祉プログラムを支援するというだけでは十分ではありません。それは確かにすばらしいことですが、まだ十分とは言えないのです。主がわたしたちに望んでおられるのは、宣教師になり、福音を実践



「主がわたしたちに望んでおられるのは、宣教師にな……ることです。」

することなのです。しかも完全に実践することです。主は王国の建設に力を尽くすよう、わたしたちに期待しておられるのです。<sup>28</sup>

### 3

#### モルモン書は偉大な旗であって、 わたしたちの伝道活動の中で活用する必要がある

モルモン書は教会員だけでなく、まだ教会員となっていない人々のためにも与えられた書物です。主の御霊とモルモン書が一つになれば、世の人々の改宗のために神から与えられた最も強力な手段となります。人々を収穫へと導くには、そのために主から与えられた道具すなわちモルモン書を活用しなければなりません。

またモルモン書を読むことは、伝道に出るための最大の動機付けとなります。教会はもっと多くの宣教師を必要としています。しかし、わたしたちが必要としているのは、モルモン書をよく読み、愛している家庭、ワード、支部から出てくる、備えの十分にできた宣教師です。モルモン書の神聖さについて燃えるよう

な証あかしを持っている宣教師が欲しいのです。主が聖霊の力によってその真実性を示してくださるという揺るぎない確信を持って、求道者にモルモン書を読みその内容について深く考えるようにチャレンジができる宣教師が求められています。神のメッセージを伝えるにふさわしい宣教師が必要なのです。<sup>29</sup>

モルモン書は偉大な旗であって、伝道活動の中で活用する必要があります。それはジョセフ・スミスが預言者であったことを示し、キリストの御言葉みことばを告げるものです。そしてモルモン書の持つ大きな使命は、人々をキリストのみもとに導くことにあります。その他の事柄は全て二義的なものです。「あなたはキリストについてもっと知りたいですか」というのが、モルモン書の黄金の質問です。モルモン書によって立派な求道者が見つかります。そこには「俗世の人々に喜ばれること」は書かれていません。したがって、世俗的な生活を追う人々はモルモン書には関心を示しません。この書物は実に人々をえり分ける大きなふるいなのです。(1ニーファイ6:5 参照)

モルモン書を通じてキリストという岩の上に家を建て、鉄の棒につかまり続ける改宗者とそうでない改宗者との間には大きな差があります。<sup>30</sup>

主御自身が大切な証人としてモルモン書を備えてくださったことを忘れてはなりません。モルモン書は今なお最も力ある伝道の道具なのです。活用しましょう。<sup>31</sup>



#### 伝道で成功するためには、御霊みたまを得、謙遜けんそんになり、 人々を愛し、熱心に働く必要がある

時々宣教師がこう尋ねます。「どうしたら成功できますか。どうしたら効果的に伝道できるようになりますか。」これから、宣教師にとっても会員にとっても役立つ、伝道を成功させるためにすでに立証された4つの鍵かぎについて紹介しましょう。

まず、御霊を得ようと努める。

成功するためには、主の御霊が必要です。わたしたちは、清くない住まいには御霊は宿らないと教えられています。そこで、まず第1に優先すべきことは、わたしたち自身の生活を確実に整えることです。主はこう宣言されました。「主の器を担う者たちよ、清くありなさい。」(教義と聖約 38:42)

救い主は福音を教えることについて、次のような律法をお授けになりました。「御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない。」(教義と聖約 42:14)<sup>32</sup>

もし十二使徒の兄弟たちに繰り返し伝えたメッセージが一つあるとしたら、それは、大切なのは御霊である、ということです。重要なのは御霊なのです。わたしはこれまで何度そう言ってきたか、分かりません。しかし、決して飽きることなく繰り返します。最も重要なことは御霊なのです。<sup>33</sup>

第2に、謙遜になる。

謙遜であって愛に満ちた人でなければ、この御業みわざを助けることはできないと主は言われました。(教義と聖約 12:8 参照)しかし、謙遜とは弱気という意味ではありません。臆病とか、恐怖心を抱くという意味でもありません。人は謙遜でありながら、恐れを知らず、勇敢であることがあります。謙遜とは、自分がより高い存在に依存しており、主の業を進めるときには絶えず主の支えがなければならぬことを自覚していることなのです。<sup>34</sup>

わたしたちはこの業を独りで行うことはできません。これは主の業であり、主の福音だからです。わたしたちには主の助けが不可欠です。絶えず、それを求め、それにふさわしく生き、それを受けられるよう主に真心から願い求めましょう。<sup>35</sup>

第3に、人々を愛する。

わたしたちは人々に対する愛を育む必要があります。福音の純粋な愛を込めてわたしたちの思いを届ける必要があります。人々を高め、強くし、より高く、また、よりすばらしい人生があることに気づかせ、最終的には神の日の栄えの王国で昇栄にあずかることができるようにしたいという望みを持っている必要があります。わたしたちは、自分が交わる人々の持つすばらしい資質を高く評価し、主の愛される神の子供として、人々を愛するのです。……

わたしたちは、天の御父のあらゆる子供たちに心を寄せるようになるまでは、つまり人々を愛するようになるまでは、決して成功したとは言えないのです。人々は愛の思いが伝わればそれを感じ取ります。そのような愛を待ち望んでいる人は大勢います。わたしたちが人々の心に寄り添うとき、人々はその報いとしてわたしたちに好意を持つようになります。そうやって初めて、友となるのです。<sup>36</sup>

わたしたちには、隣人を愛するという大切な責任があります。これは、偉大な二つの戒めの2番目に当たります。わたしたちの隣人の多くは、まだ教会員ではありません。わたしたちはよき隣人になる必要があります。すなわち、神の全ての子供を愛して、親しく交わるのです。

わたしたちが同胞はらからに対して神の愛で満たされるようにと、わたしはどれほど祈っていることでしょうか。<sup>37</sup>

第4は、熱心に働く。

御霊に常にとどまってほしいと望むのなら、わたしたちは働く必要があります。1日一生懸命働いた後、自分は最善を尽くしたと思えること以上に深い高揚感や満足感はありません。

伝道活動の最大の秘訣<sup>ひけつ</sup>の一つは働くことにあります。宣教師が働けば、御霊を受けられますし、御霊を受けられれば、御霊によって教えることもできるようになります。御霊によって教えることができれば、人々の心の琴線に触れることができるようになり、宣教師も幸せになります。……働き、働き、働くこと。とりわけ伝道活動では、これ以上に効果的なものは見当たりません。<sup>38</sup>

わたしは神が生きておられることを知っています。これは神の御業です。神は再び天から語りかけ、全世界のためにメッセージをお伝えになりました。これは一握りの末日聖徒のためだけではなく、教会員であるなしを問わず、全ての兄弟姉妹のためでもあります。わたしたちが神から力を賜って、そのメッセージを世に携えて行き、福音に従って生き、教会の標準を守ることができるように、そして、それによって、約束された祝福にふさわしい者となることができるよう、祈っています。<sup>39</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- 世界はなぜ「何にも増して」福音を必要としているのでしょうか。（例として、第1項を参照する。）「世界が飢えている」と考えられる回復された真理にはどのようなものがあるでしょうか。
- 第2項を見直して、自分や自分の家族に当てはまる勧告について考えてみましょう。わたしたち一人一人は、置かれた環境にかかわらず、どのように福音を分かち合うことができるでしょうか。専任宣教師として奉仕をするためにどんな準備ができるでしょうか。他の人が専任宣教師として奉仕をする備えをしているとき、どのように助けることができるでしょうか。
- ベンソン大管長は、モルモン書は「世の人々の改宗のために神から与えられた最も強力な手段」と言っています（第3項）。モルモン書の研究を通じて改宗した人を見たのはいつのことでしょうか。モルモン書を紹介しようというわたしたちの働きをどのように改善することができるでしょうか。
- ベンソン大管長は「伝道を成功させるためにすでに立証された4つの鍵<sup>かぎ</sup>」を紹介しています（第4項）。どうして、この4つの鍵が伝道活動を成功へと導くと思いますか。この原則に従った人々のどのような模範を見ましたか。

## 関連聖句

マルコ 16 : 15 ; 1 テモテ 4 : 12 ; アルマ 17 : 2 - 3 ; 26 : 1 - 16 ; 教義と聖約 4 章 : 12 : 7 - 9 ; 15 : 4 - 6 ; 88 : 81 ; 123 : 12 - 17

## 学ぶ際のヒント

「学んだことを分かち合う。これは学んだことを整理し、記憶力を高めるのに役立つ。」(『教師、その大いなる召し』 17)

## 注

1. 「福音を分かち合う責任」『聖徒の道』 1985 年 7 月号, 8
2. Conference Report, 1961 年 4 月, 112 - 113
3. 「伝道に備える」『聖徒の道』 1985 年 7 月号, 40
4. トーマス・S・モンソン, 「神よ、また逢うまで」『聖徒の道』 1991 年 1 月号参照, 96
5. Conference Report, 1970 年 4 月, 129
6. 「永遠なる生命」『聖徒の道』 1972 年 4 月号, 157
7. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988 年), 213
8. Conference Report, 1970 年 4 月, 128
9. Conference Report, 1961 年 4 月, 113
10. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 188
11. Conference Report, 1955 年 4 月, 49
12. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 110
13. *God, Family, Country: Our Three Great Loyalties* (1974 年), 49 - 50
14. Conference Report, 1950 年 10 月, 147
15. 「最も価値あるもの」『聖徒の道』 1990 年 2 月号, 2 参照
16. 「最も価値あるもの」 5 参照
17. 「福音を分かち合う責任」 7
18. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 189
19. 「福音を分かち合う責任」 7 参照
20. 「高貴な生得権を持つ若人へ」『聖徒の道』 1986 年 7 月号, 48 参照
21. 「教会の若い女性の皆さんに」『聖徒の道』 1987 年 1 月号, 90 - 91 参照
22. 「教会の高齢の方々へ」『聖徒の道』 1990 年 1 月号, 5
23. 「神聖な務め」『聖徒の道』 1986 年 7 月号, 78
24. 「福音を分かち合う責任」 8
25. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 208 - 209
26. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 210
27. 「最も価値あること」 2 参照
28. 「最も価値あること」 2 参照
29. 「最も価値あること」 4 参照
30. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 203 - 204
31. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 204
32. *Come unto Christ* (1983 年), 91 - 92
33. 新任伝道部会長のためのセミナー, 1985 年 4 月 3 日
34. *Come unto Christ*, 94
35. "Principles for Performing Miracles in Missionary Work," 新しい伝道部会長のためのセミナー, 1988 年 6 月 21 日
36. *Come unto Christ*, 96
37. 「福音を分かち合う責任」 7 - 8 参照
38. *Come unto Christ*, 96, 97
39. Conference Report, 1943 年 10 月, 21



ステークの一つの目的は、「教会のプログラムや儀式、福音の指導を提供することによって、……会員が一つとなり、完全な者となる」ことにあります。



## 「あなたの<sup>く</sup>杭を強固にせよ」

「シオンのステーキや地方部は、主が語られた聖なる場所の象徴です。そこは、終わりの日に、<sup>あらし</sup>嵐の避け所として主の聖徒たちが集まることになっています。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

1935年1月13日、アイダホ州ボイスステーキの会員は35歳のエズラ・タフト・ベンソンをステーキ会長会の第一顧問として支持した。スコット・S・ブラウン会長の指示の下で、ベンソン会長は仕え、導き、教える機会に数多く恵まれた。例えば、メルキゼデク神権者を助けて教会に改めて活発に集ってもらう活動の中心となって働いた。<sup>1</sup> また、教会の福祉プログラムを導入しようと努めるステーキを積極的に支援した。<sup>2</sup>

1938年にはこのステーキは8,000人以上の会員を持つまでに成長した。そこで大管長では、このステーキを3つのステーキに分割することに決定した。ベンソン大管長は、1938年11月27日にこの3つのステーキのうちの一つを管理するよう召され、「ショックを受けた。」妻のフローラは子供たちに、父親がこの召しを受けることは祝福だと語った。<sup>3</sup>

ベンソン大管長のステーキ会長としての奉仕は、ステーキ全体にとって祝福となった。引き続き、福祉の原則について教え、青少年に格別の関心を払った。あるステーキ大会の集会が始まる直前、何人かの若い男性が集会所から逃げ出そうと画策していることに気づいた。「彼らはゆっくりと廊下から裏口のドアに向かっていました。絶えず玄関ホールに目を向けて、自分たちが出て行く様子を誰からも決して察知されないようにしていたのです。ちょうどそのとき、ステーキ会長室から出てきたベンソン会長は、事情を察して、両腕を広げて廊下で立ちはだかりました。少年たちはその腕の中に取り込まれてしまったのです。大管長はこう言いました。『君たちに会えて本当にうれしいよ。さあ、一緒に<sup>あかし</sup>大会へ行こう。』ベンソン会長は、彼らを最前列に座らせ、その後、彼らに証を述べてくれるよう依頼したのです。』<sup>4</sup>

ベンソン大管長がステーキ会長として奉仕を始めてから2か月もたたないうちに、また新たな驚きもたらされた。全米農業協同組合評議会の事務局

長に就任しないかという打診があったのである。そのためには、ワシントン D.C. で仕事をする必要があった。最初は、その申し出を断ろうとしたが、フローラや大管長と相談した結果、引き受ける決断を下した。<sup>5</sup> 1939年3月26日にステーキ会長を解任された大管長は、こう書いている。その日は「自分の経験した中でも最もつらい日であった。……〔ステーキの会員に向けた〕話の中で、『自分は主から大いに祝福を受けてきましたが、今、自分の感情を抑えきれずにいます。世界中で皆さんほど素晴らしい人々はいないし、自分は皆さん一人一人を愛しています』と伝えた。」<sup>6</sup>

ベンソン家族は、ワシントン D.C. の近郊、メリーランド州のベセスタに移り住んだ。1年ほどたったとき、十二使徒定員会会長であったラトガー・クロソン会長とやはり十二使徒定員会の会員であったアルバート・E・ボウエン長老の二人が、新しいステーキを組織するためにこの地域を訪問した。エズラ・タフト・ベンソンと面接をしたクロソン会長はこう言った。「ベンソン兄弟、主はあなたがこのステーキの会長になるようお望みです。それについて何か言わないといけないことはありますか。」ベンソン大管長にとってはまたも驚きであった。そこでこう言った。「わたしはこの人々についてよく知りません。住み始めてからまだ1年もたっていませんから。」<sup>7</sup> しかし、へりくだってこの召しを受け、地理的に広大なステーキの2,000人以上の会員を管理することになった。フローラは、ステーキ会長として奉仕をした夫についてこう語っている。「夫はこの召しを心から愛しています。あの人にとって大切なのは肩書きではないんです。できるだけ多くの人々が福音の真理を理解できるように助けることのできる喜びが大切なのです。」<sup>8</sup>

その後、使徒となったベンソン大管長は、世界中のステーキを訪問した。こう言っている。「わたしはステーキの訪問から戻ると、時々、妻にこう言っていました。『天がどのようなものか、正確には分からないけれど、シオンのステーキやワード、また地上の伝道部で指導している人々と交わることから生まれる楽しみや喜び以上に素晴らしいものを天で求められるとは思えないよ。』わたしたちは実に豊かに祝福されています。」<sup>9</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え

### 1

#### わたしたちは教会員としてシオンのステーキに集まる

教会員でない人は時々こう尋ねます。「ステーキって何ですか。」会員たちも同じように尋ねます。「ステーキにはどのような意味がありますか。教会員であるわたしたちにとってどのような意義があるのですか。」

教会員でない人に申し上げますが、ステーキとは、他の教会の教区と類似した組織です。ステーキは、幾つかのワード（地元の会衆）から構成される地理上の地域のことで、会長会によって管理されています。

教会員に申し上げますが、ステーキという語は、象徴的な表現となっています。頭の中に、大きな天幕を思い浮かべてください。その天幕は綱で支えられ、その綱は地面にしっかりと固定された杭すなわちステーキに結ばれています。預言者たちは末日のシオンを、地を取り囲む大きな天幕にたとえました〔イザヤ 54：2 参照；3 ニーフай 22：2〕。その天幕は杭すなわちステーキに固定された綱によって支えられています。もちろん、こうしたステーキは世界中に広まる様々な地理上の組織となっています。現在では、イスラエルは様々なシオンのステーキに集められているところです。<sup>10</sup>

ステーキには少なくとも4つの目的があります。

1. それぞれのステーキは、3人の大祭司によって管理され、高等評議員という役職の12人の男性によって支えられており、ある特定の地理上の地域に住む聖徒にとって、規模の小さな教会となります。その目的は、教会のプログラムや儀式、福音の指導を提供することによって、その境界内に住む会員が一つとなり、完全な者となることにあります。

2. ステーキの会員は、義の模範あるいは標準となります。

3. ステーキは守りの場となります。そのために、会員たちは、地元の神権役員の下で一つとなり、自分の義務を果たし聖約を守るために自らをささげる必要があります。その聖約をきちんと守れば、過ちや悪、災難から守ってもらえます。

教会が神殿を建設する場所は、ステーキが存在する地域に限られています。神殿の祝福や儀式は、人が昇栄するための備えとなるものです。もちろん、全てのステーキが神殿を一つずつ持てるわけではありません。しかしながら、現在わたしたちは目を見張るような、そうです、奇跡的な発展を目にしています。世界の様々な場所で神殿が建築されているのです。そのようなプログラムのおかげで、教会員たちは主の完全な祝福を受けることができます。

4. ステーキは、地球に襲いかかる<sup>あらし</sup>嵐の避け所となります。<sup>11</sup>

---

## 2

ステーキが組織される目的は、福音を教え、子供たちを  
救いの儀式へと導く両親を助けることにある

教義と聖約には次のように書かれています。

「シオンにおいて、または組織されているそのいずれかのステーキにおいて、子供を持つ両親がいて、八歳のときに、悔い改め、生ける神の子キリストを信じ

る信仰、およびバプテスマと<sup>あんしゅ</sup> 接手による聖霊の<sup>たまもの</sup> 賜物の教義を理解するように彼らを教えなければ、罪はその両親の頭にある。これが、シオン、または組織されているそのいずれかのステーキに住む者への律法である。」(68:25 - 26; 強調付加)

ここからはステーキが存在する主な目的の一つが読み取れます。ステーキが組織されるのは、「シオンにおいて、子供を持つ」両親がイエス・キリストの福音を教え、救いの儀式を執り行なうのを助けることにあります。ステーキは聖徒を完全な者とするために組織されますが、そのような成長は効果的に福音を教える家庭から始まります。<sup>12</sup>

---

### 3

ステーキの会員が主の標準に従って<sup>きよ</sup> 聖さを表すとき、  
ステーキは世界中の人々が注目する美しい象徴となる

主はこう述べておられます。「シオンは美しさと聖さを増し、その境は広げられ、そのステーキは強くされなければならない。まことに、わたしはあなたがたに言う。シオンは立ち上がり、その美しい衣を着なければならない。」(教義と聖約 82:14)

ここで、主はステーキを組織するもう一つの大きな目的を述べておられます。つまり、全世界の人々が注目する美しい象徴となるということです。「美しい衣を着る」という表現は、もちろん、心の中の聖さのことを指しており、自らを聖徒と呼ぶ全ての会員によって到達しなければならない状態を示しています。シオンは「心の清い者」だからです(教義と聖約 97:21)。

シオンのステーキが強固にされ、シオンの境が広げられるためには、主がその選ばれた民に求める聖さの標準を会員たちが生活に反映させる必要があります。<sup>13</sup>

---

### 4

それぞれのステーキは、目に見えるかどうかにかかわらず、  
敵からの防御、避け所としての役割を果たす

さらに主からもう一つの啓示が下されて、ステーキが存在する目的が説明されています。「まことに、わたしはあなたがたすべてに言う。立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためであり、シオンの地とそのステーキに集合することが、防御のためとなり、また嵐と<sup>あらし</sup> 激しい怒りが全地にありのままに注がれるときに、その避け所となるためである。」(教義と聖約 115:5 - 6)

この啓示の中で、わたしたちは光を輝かし、国々の旗となるように命じられています。旗とは、人が正確さや完全さを判定するために用いる測定の標準のことを指しています。聖徒は、世界が注目するような聖さの旗、すなわち標準になる必要があります。それがシオンの美しさです。

主は次に、シオンのステーキは「防御のためとなり、また嵐と激しい怒りが全地にありのままに注がれるときに、その避け所となる」必要があると啓示されました。ステーキは、目に見えるかどうかにかかわらず、敵から聖徒を守る防御となります。この防御とは、神権の経路を通じて与えられる指導のことを指し、それによって証が強められ、家族の連帯と個人の義がさらに強化されます。

主は教義と聖約の啓示のはしがきの中で、次のように警告されました。「その日が速やかに来る……。平和が地から取り去られ、悪魔が自分の領域を支配する力を持つ時はまだ来ていないが、それはもう近い。」〔教義と聖約1:35〕

今日では……この預言の成就が見られます。サタンは一向に衰えない怒りのうちに、「自分の領域」すなわち地上でその力を発揮しています。サタンの影響力がこれまでに強く強いため、聖なる御霊をその導き手として受け入れて、神権指導者の勧告に従っている者だけしか、サタンの邪悪な影響力による破壊から身を守ることでできる人はいません。

主はまた同じのはしがきの啓示の中で、主も聖徒たちを支配する力を得て、「彼らの中で治め」る、と述べておられます〔教義と聖約1:36〕。主がその選ばれた僕たちを通じて、またステーキやワードの権能を持つ者を通じて働かれるときに、それが起こります。<sup>14</sup>

教会が成長するにつれ、非常に重要な点として、堅固に上手に教会を建てること、ステーキの予備軍が成功に必要な基本的な要素を持っていること、そして、既存のステーキが霊性面での完成を目指すという意味で完全なステーキらしさを求めてたゆまず努力していることが挙げられます。このようなステーキは、現在のシオンにとって集合の地となるはずですが、また、霊の聖所とならなければならない、できるだけ多くの面で自立していなければなりません。<sup>15</sup>

シオンのステーキや地方部は、主の語られた聖なる場所の象徴です。そこには、終わりの日に、嵐の避け所として主の聖徒たちが集まることになっています。皆さんも皆さんの子供たちもここに集い、礼拝を行い、神聖な儀式を施し、互いに交わり、学び、音楽やダンス、演劇や運動を行います。普通に言えば、自らを高め、互いに高め合うわけです。わたしたちの教会の礼拝堂の上に尖塔が設置されていることは、大切な意味があるとよく考えられています。その先端が天を指しているわけですが、それはわたしたちの生活が絶えず神に向かって上昇し続けていなければならないということ象徴するものとなっています。<sup>16</sup>



わたしたちが仲間の聖徒たちと一緒に集うことによって、ステーキは「防御のためとなり、また嵐……の避け所となります」(教義と聖約 115:6)。

モルモン書に登場する預言者ニーファイは、聖徒たちが世界中のステーキに散らされる光景を予見しました。破壊の嵐によって聖徒の存在が脅かされ、聖徒が危険な状態になったとき、主が守りの御手を差し伸べてくださるのですが、ニーファイはその日を予見したのです。「そしてわたしニーファイは、神の小羊の力が、地の全面に散っている小羊の教会の聖徒たち、すなわち主の聖約の民のうえに下るのを見た。彼らは義と神の力とをもって、大いなる栄光のうちに武装していた。」(モルモン書、1 ニーファイ 14:14)

わたしたちは啓示によって、末日には危難や災難、迫害があるということが分かっています。しかし、聖徒たちは義によって命が救われます。モルモン書にある主の約束は確かなものです。「神は……御自分の力によって義人を守られる。」(1 ニーファイ 22:17)<sup>17</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- 第1項を読んだ後で、教会員はなぜステーキの中に組み込まれるのか、と尋ねられたらどのように答えますか。

- ベンソン大管長は、ステーキの役割は両親が子供たちに福音を教え、神権の儀式を施す助けをすることにあると教えました（第2項参照）。あなたのステーキはこれまであなたの家庭における働きを、どのように強めてくれたでしょうか。
- ステーキの会員が一緒になって、「全世界の人々が注目する」ような模範を示した様子を見たことがあるでしょうか（第3項参照）。こうした活動からあなたはどのような利益を得てきましたか。
- ステーキはどのようにして「目に見えるかどうかにかかわらず、敵」からの守りとなるのでしょうか（第4項参照）。ステーキの活動に参加するために、どのような機会が与えられているのでしょうか。参加するわたしたちは、どのような祝福を受けることができるのでしょうか。

### 関連聖句

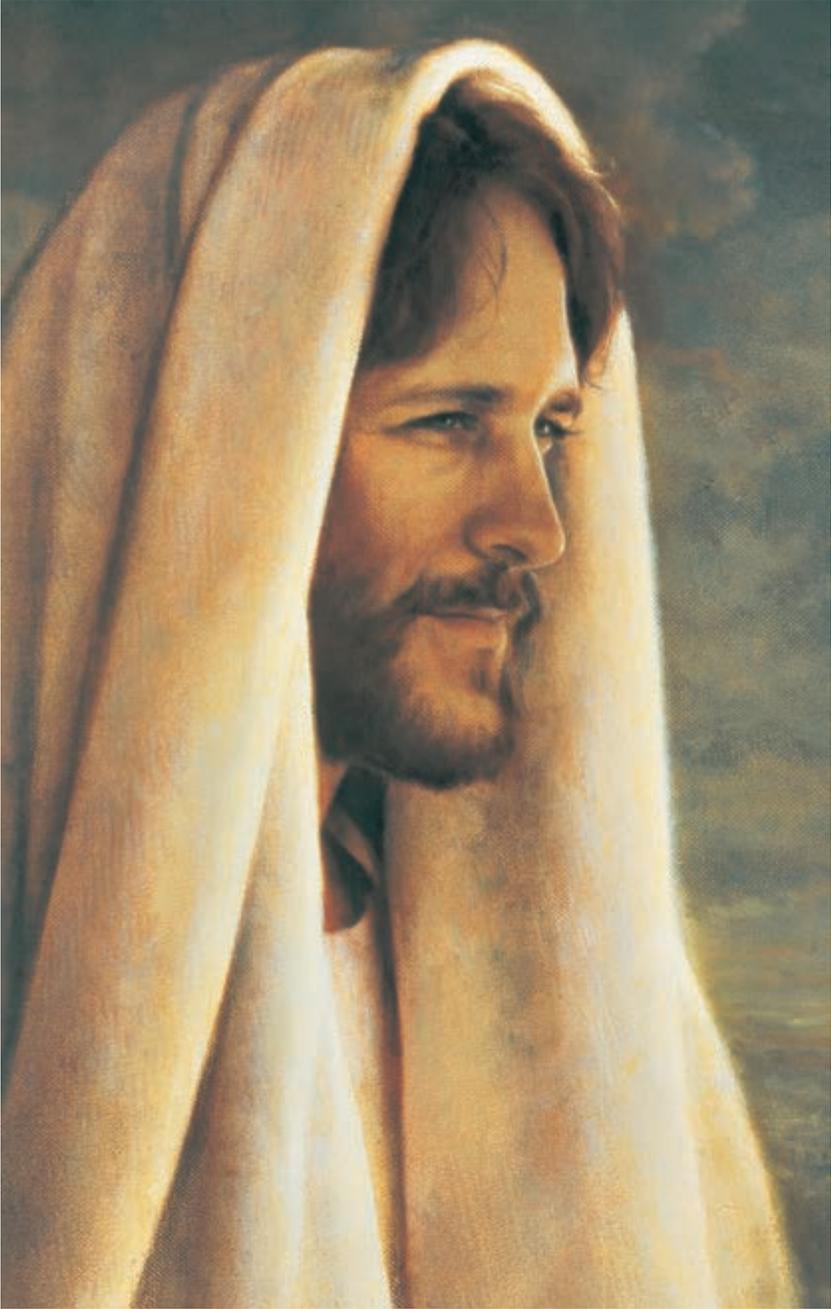
イザヤ 25：3 - 5；マタイ 5：14 - 16；モロナイ 10：31 - 33；教義と聖約 101：17 - 21；133：7 - 9

### 教える際のヒント

「熟練した教師は『今日のレッスンで、わたしは何をしようか』ではなく、『今日のレッスンで、生徒は何をするだろうか』と、『今日は何を教えようか』ではなく、『生徒が知らなければならぬことを、彼らが気づけるように、どう助けられるだろうか』と考えます。」（バージニア・H・ピアス『教師、その大いなる召し』61で引用）

### 注

1. 本書第20章参照
2. 本書第21章参照
3. シェリー・L・デュー, *Ezra Taft Benson: A Biography* (1987年), 122；フランシス・M・ギボンス, *Ezra Taft Benson: Statesman, Patriot, Prophet of God* (1996年), 104 参照
4. シェリー・L・デューの言葉, ドン・シュラーフの記録に基づく, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 122で引用
5. 本書第1章参照
6. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 144より
7. *Ezra Taft Benson: A Biography*, 156 - 157より
8. フローラ・アムッセン・ベンソンの言葉, *Ezra Taft Benson: A Biography*, 159で引用
9. Conference Report, 1948年10月, 98
10. *Come unto Christ* (1983年), 101
11. *Come unto Christ*, 104 - 105
12. *Come unto Christ*, 101 - 102
13. *Come unto Christ*, 102
14. *Come unto Christ*, 103 - 104
15. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 151
16. *The Teachings of Ezra Taft Benson*, 151 - 152
17. *Come unto Christ*, 104



「イエスは……言われた、『わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。』」(ヨハネ 14:6)



## キリストを中心とする生活

「人間の真の偉大さは、その人がどれほどキリストに近い生活をしているかどうかによって最も測ることができるのです。」

### エズラ・タフト・ベンソンの生涯から

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、救い主がニーファイ人の 12 人の弟子たちにお与えになった勧告を度々引用した。「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならない」（3 ニーファイ 27:27）。<sup>1</sup> もっとキリストのような者となる必要があるというこの原則は、ベンソン大管長の教え導いた時代には、繰り返し取り上げられるテーマであった。とりわけ、十二使徒定員会会長として、また大管長として奉仕をしている時期には、それが顕著であった。

主に仕えるという生涯を貫いたベンソン大管長は、次のような証<sup>あかし</sup>を伝えるとき、力強く確信をもって語った。

「キリストについて学び、その歩みに倣<sup>なら</sup>うようにとの呼びかけ以上に、心を湧きたたせるすばらしいチャレンジはありません。イエス・キリストはわたしたちの『模範』として地上での生涯を送られました。キリストは天の御父とわたしたちとの仲保者です。キリストは偉大な贖<sup>あがな</sup>いの業を成し遂げ、わたしたちが主の恵みにより、また自分自身の悔い改めと正しい行いとによって、全き喜びを得、昇栄できるようにしてくださいました。キリストは自らすべてのことを完全な形で成し遂げ、そのうえでわたしたちにも、天の御父と御自身と同じように完全な者になるようにと命じておられるのです（3 ニーファイ 12:48 参照）。

「イエスならどうされるだろうか」、「イエスはわたしに何をするよう望んでおられるのだろうか」と自問するのは非常に大切なことです。主の道を歩むことこそ、人生の最高の偉業です。主に最も近い生活をする人こそ、真の成功を収めた人と言えます。」<sup>2</sup>

救い主の完全な模範に従うようにと聖徒たちに強く勧めるベンソン大管長は、同時に、そのためには救い主の助けを頂くしか方法はないことを聖徒たちに思い起こさせて、次のように宣言している。

「わたしは主が実在の御方であり、わたしたちを愛しておられることを知っています。主を離れて成功を取めることはできません。しかし、主と同じ道を歩む人は決して人生につまずくことはありません。

神は、わたしたちが自分の力でなし得る以上に、わたしたちの生活を実りあるものにしてくださいます。

今より後、皆さんが日々キリストを思い、キリストについて学ばれるように、また勇気を持って主の道を歩み、主に望まれていることを行うことができますように。」<sup>3</sup>

## エズラ・タフト・ベンソンの教え



### イエス・キリストの模範と教えは、 全人類にとって偉大な標準となっている

2000年の昔、完全な御方が地上を歩かれました。キリスト・イエスです。イエスは天の御父と地上の母との間に生まれた御子であられました。御父のもと、この地上の神でもあられます。イエスは人々が自由になれるよう、真理を教えられました。その模範と教えは全人類にとって偉大な標準、すなわち唯一の確かな道となっています。<sup>4</sup>

キリスト・イエスの生涯ほど地上に重大な影響を及ぼしたものが、果たして他にあるでしょうか。わたしたちはキリストの教えのない人生というものを考えることができません。キリストがおられなければ、わたしたちは信仰と礼拝の妄想の中に自分を見失い、直観と唯物論だけに揺り動かされる恐れと暗闇の中に生を受けることになるでしょう。わたしたちは、イエスの示された目標にはまだほど遠い存在ですが、決してその目標を見失ってはなりません。光に向かい、完全へと向かって進む険しい道は、イエスの教えとその生涯、死、そして復活がなければ、決して登ることができないことを忘れてはなりません。

……わたしたちは、救い主が教えられた愛の福音を学んでそれに従って生活することによってのみ、そして、御心を行うことによってのみ、わたしたちを縛る無知と疑惑の縄目を断ち切ることができるのだということを、繰り返して学び直していく必要があります。わたしたちが今も永遠にわたっても、霊の喜びを経験するためには、この簡潔で栄光に満ちた真理を知らなければならないのです。自らをささげて御心を行う必要があります。主を生活の第一に置かなければならないのです。<sup>5</sup>

ヨハネによる福音書の第14章で、イエスは最後の晩餐を終えた後、弟子たちに向かって優しく別れを告げておられます。そして、御父の家で彼らのため

に場所を備えるために行くのであって、自分がいる場所には、彼らもまた行くのだと告げられます。それに対して、トマスがイエスにこう言います。

『主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう。』

イエスは彼に言われた、『わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。』(ヨハネ 14:5-6) その道はわたしたちの前にあり、誰にも分かるようになっているのです。<sup>6</sup>

---

## 2

### 思いを尽くしてキリストを仰ぎ見、その属性に倣<sup>なら</sup>おうと するとき、わたしたちはキリストのみもとに行く

モルモン書の中で言われているように、わたしたちに必要なことは、「キリストを信じること、キリストを否定しないこと」です(2 ニーファイ 25:28)。肉の腕に頼るのではなく、キリストに頼るのです(2 ニーファイ 4:34 参照)。わたしたちは、「キリストのもとに来て、キリストによって完全になる」必要があります(モロナイ 10:32)。また、義に飢え渴きながら(3 ニーファイ 12:6 参照)、「打ち砕かれた心と悔いる霊」をもって主のもとに来る必要があります(3 ニーファイ 12:19)。そして主の聖文を通し、主に油注がれた者を通し、そして主の聖なる御<sup>みたま</sup>霊を通してキリストの言葉を受けるとき、「キリストの言葉をよく味わう」必要もあるのです(2 ニーファイ 31:20)。

つまり、わたしたちは「生ける神の御子の模範」に倣う必要があるということです(2 ニーファイ 31:16)。<sup>7</sup>

主は言われました。「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。」(教義と聖約 6:36) あらゆる思いの中で主を仰ぎ見ること、これこそ主に似た者となるための唯一の方法なのです。

主は弟子たちに「あなたがたはどのような人物であるべきか」と問いかけられた後、自ら御自身の質問に答え、こう言われました。「わたしのようでなければならぬ。」(3 ニーファイ 27:27) 主のような者となるためには、心の中に主を思っている必要があります。つまり、絶えず思いの中に入れておく必要があるのです。わたしたちは聖<sup>せいさん</sup>餐を頂く度に、「いつも御子を覚え」る約束をします(モロナイ 4:3; 5:2; 教義と聖約 20:77, 79)。

もし心の思いが現在の自分自身を形作り、そのうえ、わたしたちがキリストのような者となることを望んでいるとしたら、わたしたちはキリストのような思いを抱く必要があります。繰り返します。もし心の思いが現在の自分自身を形作り、

そのうえ、わたしたちがキリストのような者となることを望んでいるとしたら、わたしたちはキリストのような思いを抱く必要があるのです。

……わたしたちの思いは主に向けられていなければなりません。キリストを仰ぎ見る必要があるのです。<sup>8</sup>

わたしたちの私的な生活も、家庭も、仕事も、キリストのような人格を反映したものとしましょう。あなたの生活を見た人々から、「本当のクリスチャンがここにいた」と言ってもらえるように生活しましょう。

確かにわたしたちはイエス・キリストを信じていますが、実はイエスはそれ以上の存在です。わたしたちはイエスを仰ぎ見、イエスに頼り、その属性に倣おうと努力しているのです。<sup>9</sup>

キリストはわたしたちの理想であり、模範です。……人間の真の偉大さは、その人がどれほどキリストに近い生活をしているかどうかによって最もよく測ることができるのです。<sup>10</sup>

救い主のような人物になる。——それはいかなる人にとっても、何という大きなチャレンジでしょうか。主は神会の一員であり、救い主であり、<sup>あがな</sup>贖い主であります。その生涯はあらゆる点から見て完全なものでした。主に欠点や落ち度というものはまったくありませんでした。わたしたちは……救い主と同じような人物になることなどできるのでしょうか。答えは、<sup>しか</sup>然りです。それは単に可能であるだけでなく、わたしたちの義務であり、責任なのです。主がわたしたちにその戒めをお与えになるのは、まさしくわたしたちにそうさせたいというお考えがあるからなのです〔マタイ5:48;3 ニーファイ12:48 参照〕。

使徒ペテロは、どのようにすれば「神の性質にあずかる者」(2ペテロ1:4)となることができるのか、その過程について語っています。これは非常に大切な教えです。もしわたしたちが本当に神の性質にあずかる者となるならば、わたしたちは神に似た者となるからです。この過程についてペテロが教えていることを、よく吟味して見てみましょう。彼はこのように述べています。

「それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、

知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、

信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい。」(2ペテロ1:5-7)

ペテロの挙げた徳は神の性質、すなわち救い主の持ちたもう特質の一部です。救い主に似た者になろうとするのならば、わたしたちはこれらの徳を身につけるよう努力しなければなりません。ここで、この大切な特質を幾つか取り上げてみたいと思います。



使徒ペテロは、ここで描かれているように復活されたイエス・キリストとともに、わたしたちがどのようにしたら救い主の特質に倣うことができるのか、その方法を教えた。

まず最初の特質は信仰です。これはその他の全ての徳の基本となるものです。信仰は、神のような特質を身につけるための土台であって、他のどのような徳にも欠くことができません。……

ペテロは続けて、信仰に徳を加える必要があると述べています。……徳高き〔人とは〕清い思いを抱き、汚れのない行いをする人のことです。そのような人は心の中に情欲を抱くことはないでしょう。それは「信仰を否定するのであり」、御霊を失うことになるからです（教義と聖約 42：23）。つまり、この御業を果たすうえで御霊以上に大切なものはありません。……

徳は神の属性である神聖さに近いものです。〔わたしたちは〕徳高く好ましいものを積極的に探し求めて、汚れたものや卑しいものを求めてはなりません。〔わたしたちは〕絶えず徳をもってその思いを飾るのです（教義と聖約 121：45 参照）。ポルノグラフィ―、冒瀆、卑わいなどの悪に身を任せていて、どうして自分自身を徳高い人間と考えることができるでしょうか。

成長の次の段階としてペテロが述べたことは、信仰と徳に、知識を加えることです。主は「人が無知で救われることは不可能である」（教義と聖約 131：6）と言われました。また別の箇所では、神は次のような戒めを与えておられます。「最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい」（教義と聖約 88：118）。……真理の探求はどのような分野でも

価値あるものですが、救いに関わる真理は、人が学ぶことのできる最も大切な真理です。「たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。」(マタイ 16:26)主が投げかけられたこの質問は、この世の富を求める場合だけではなく、教育の探求にも当てはめることができます。主はまた次のような質問もなさいました。「たとえ人がこの世の事柄をすべて学んだとしても、救われる方法を学ばなければ、何の得になろうか。」……

この世の学問に霊的な教育を加えるならば、この地上の生涯で最も大切な事柄に心を集中させる助けとなるでしょう。……

神の性質の一つとしてペテロが述べたもう一つの特徴は、節制です。〔節制できるとは〕感情や言葉遣いを抑制できるという意味です。そのような人は節度をもって物事を行い、放縦に陥ることがありません。つまり、自制心があります。感情を抑制し、感情に左右されることはありません。……

さて節制の次には、忍耐を加える必要があります。……忍耐は自制心の別の姿です。それは満足感を後回しにし、情熱を抑える力です。愛する人と接するとき、忍耐心のある人はいずれ後悔するような衝動的な行動を取ることがありません。忍耐とはストレスの下にあっても落ち着きを持つことです。忍耐心のある人は他の人の欠点を理解できる人です。

忍耐強い人は主を待ち望みます。主から祝福を求め、それが直ちに与えられないといらいらする人について読んだり聞いたりすることがあります。神のようになることは、主を十分に信頼し、「安らかにしていて、〔主が〕神であることを知」ることです(教義と聖約 101:16)。

忍耐強い〔人〕は愛する人の過ちや失敗に寛容です。彼らを愛すればこそ、あら探しをしたり、批判したり非難したりしないのです。

ペテロが述べたもう一つの特徴は兄弟愛です。……親切な人とは他人に対して同情心のある優しい人のことです。他人の気持ちを思いやり、礼儀正しい行動を取り、よく人を助けます。また、他の人の弱点や欠点を許します。そして、全てのもの、すなわち年齢を問わず、動物にも、身分の上下に関わりなく誰にでも親切にするのです。

これらは真に神に属する性質です。わたしたちがこれまで以上に徳を加え、親切で、忍耐強く、自分の感情を制御するようになれば、より一層キリストのような者となることができることがお分かりいただけるでしょうか。

教会員はこの世の人々とは異なっていなければならないことについて、使徒パウロは非常に生き生きとした表現を使って説明しています。「キリストを着」(ガラテヤ 3:27),「古き人を脱ぎ捨て……新しき人を着る」(エペソ 4:22, 24)ようにパウロは勧めています。

神の性質の中で究極かつ最高の徳は慈愛、すなわちキリストの純粋な愛です（モロナイ 7: 47 参照）。わたしたちが心から主である救い主のようになろうとするならば、主が愛されたような愛を身につけることをわたしたちの最高の目標としなければなりません。モルモンは、慈愛は「最も大いなるものである」と言っています（モロナイ 7: 46）。

今日ではよく愛のことが話題になり、また多くの人が愛を求めています。しかしキリストの純粋な愛は、この世の人々が考える愛とは非常に異なります。慈愛は決して個人的な満足感を求めません。キリストの純粋な愛は永遠の進歩と他の人の幸福のみを求めます。……

永遠の命とは、唯一のまことの神と御子イエス・キリストとを知ることであり、救い主は宣言されました（ヨハネ 17: 3）。もしもそれが真実であるならば、そしてわたしはそれが真実であると証しますが、では、どのようにしたら神を知ることができるのでしょうか。ペテロが説明しているように、神の性質を一つ一つ増し加えることが、永遠の命へと導く知識を得る鍵となります。そうした過程を説明したすぐ後で、ペテロが述べた約束に注意してください。

「これらのものがあなたがたに備わって、いよいよ豊かになるならば、わたしたちの主イエス・キリストを知る知識について、あなたがたは、忘る者、実を結ばない者となることはないであろう。」（2 ペテロ 1: 8, 強調付加）

…… 救い主のこのような特質や性質をわたしたちが豊かに身につけ、裁きの日に、主が「あなたはどのような人物であるのか」と問われたとき、感謝と喜びをもって頭を上げ、「あなたのようにしております」と答えることができますように。<sup>11</sup>

### 3

#### 救い主は、御自分の示された道を歩もうと 努力するわたしたちを慰め、高めてくださる

わたしたちはガリラヤの御方の示された道からはずれ、…… 闘いに負けることがあるかもしれませんが。しかし、わたしたちには主の助けがあります。主は弟子たちに、そしてわたしたちすべての者に繰り返し言われました。「あなたがたは、心を騒がせないがよい。……」

何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。

わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。……

わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。……」（ヨハネ 14: 1, 14, 18, 27）<sup>12</sup>

ここでもう一度モルモン書に戻り、キリストに堅くつき、キリストを基とし、キリストへの熱い思いをもって、キリストのみもとへ来ることについて、幾つかの原則を見てみたいと思います。このテーマに関する聖句は数多くあり、引用できるのはほんの少しだけです。

まず第1にわたしたちは、キリストがわたしたちをそのみもとへ招いておられることを知る必要があります。「見よ、主はすべての人を招き、憐れみの御腕を伸べ……。まことに、主は言われる。『わたしのもとに来なさい。あなたがたは命の木の實を食べるであろう』」(アルマ5:33-34)。

キリストのみもとへ来てください。キリストは「両腕を広げて……あなたがたを受け入れようとして」おられるのです(モルモン6:17)。

キリストのみもとへ来てください。キリストは「苦難のときにあなたがたを慰めてくださる。また、あなたがたのことを弁護してください」るからです(モルモン書ヤコブ3:1)。

「まことに、キリストのもとに来て、自分自身をキリストへのささげ物としてささげ……なさい」(オムナイ1:26)。

モロナイはヤレド人の文明の記録を閉じるに当たり、こう記しています。「わたしは、預言者たちと使徒たちが書き記してきたイエスを求めるように、あなたがたに勧めたい」(エテル12:41)。

またモロナイはニーファイの民の文明の最後の頃に書かれた結びの記録の中で、「まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。……もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であ……る」(モロナイ10:32)と書いています。

キリストに堅くつく人は、「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になることを望んで」います(モーサヤ18:9)。このような人々は、キリストの「名をいつも心にしっかりと記しておくことを忘れない」ようにしています(モーサヤ5:12)。そして、「最後までキリストに仕える決心をしてキリストの名を受け」ています(モロナイ6:3)。

キリストを中心とした生活をする人は、「キリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し」ます(2ニーファイ25:26)。また、「喜びをもたらす神の御言葉を受け入れ、神の愛をよく味わい」ます(モルモン書ヤコブ3:2)。ニーファイは自分の罪のために苦しんでいたときにさえ、「わたしは、これまでに自分がだれに頼ってきたかを知っている。わたしを支えてこられたのは神である」と言っています(2ニーファイ4:19-20)。

アルマの勧告が思い起こされます。「あなたの行くことはすべて、主のために行くようにしなさい。どこへ行くにも主にあって行くようにしなさい。まことに、あなたの思いを常に主に向けるようにしなさい。まことに、あなたの心の愛情をどこしえに主に向けるようにしなさい。あなたのすべての行いについて主と相談しなさい」(アルマ 37:36 - 37)。

ヒラマンの言葉を読んでみましょう。「覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を……送るときにも、それが不幸……の淵にあなたたちを引きずり落とすことはない」(ヒラマン 5:12)。

ニーファイは、主が「わたしの肉体が燃え尽きるほどに、わたしを愛で満たされた」と言っています(2 ニーファイ 4:21)。キリストに全ての思いを向ける人は、「キリストによって生かされて」います(2 ニーファイ 25:25)。また、「キリストの喜びにのまれてしまう苦難のほか、彼らがどのような苦難も受けること」もありません(アルマ 31:38)。そして、「イエスの腕の中にしっかり抱き締められる」ことになります(モルモン 5:11)。ニーファイは「イエスがわたしを……贖ってくださったので、わたしはイエスを誇りとする」と言っています(2 ニーファイ 33:6)。リーハイも、「主の愛の御腕に永遠に抱かれている」と言っています(2 ニーファイ 1:15)。……

……偉大な人物モルモンは、愛する息子モロナイへの手紙を次のように〔書いています〕。

「わが子よ、キリストに忠実でありなさい。わたしの書いたことを悲しんで、打ちひしがれて死ぬことのないように。キリストに支えられて、キリストの苦しみと死と、キリストがわたしたちの先祖に御自分の体を示されたことと、キリストの憐れみと寛容と、キリストの栄光と永遠の命とを願う望みが、どこしえにあなたの心の中にとどまるように。

天の高い所にある王座に着いておられる父なる神の恵みと、また万物が従うまで神の右に座する主イエス・キリストの恵みが、どこしえにあなたとともにあるように」(モロナイ 9:25 - 26)。

皆さん一人一人へのわたしの祈りは、わたしたちが「キリストに忠実でありなさい」との靈感あふれる勧告に従うことです。そうすれば、わたしたちはキリストによって支えられ、キリストの恵みはわたしたちとともにあって永遠にとどまることでしょう。<sup>13</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ベンソン大管長は、「イエス・キリストの生涯ほど地上に重大な影響を及ぼしたものは、他にありません」(第1項)と言っています。救い主の生涯は地上にどのような影響を与えてきましたか。救い主の生涯はあなたにどのような影響を与えてきましたか。
- 「キリストを思う」ときに、わたしたちの生活はどのように変化するでしょうか。わたしたちの思いはわたしたちの属性とどのような関係があるでしょうか。第2項を学習するとき、そこで述べられているキリストが持っておられる属性をもっと完全に自分のものにするためには、何ができるか、深く考えてみましょう。
- 第3項の教えは、もっと救い主のような者になりたいと努力するわたしたちに、どのような希望を与えてくれるでしょうか。主に従おうと努力するあなたを、救い主はこれまでどのように助けてくださいましたか。

### 関連聖句

マルコ 8 : 34 ; ピリピ 4 : 13 ; 1ヨハネ 3 : 23 - 24 ; 2 ニーファイ 25 : 23, 26 ; モーサヤ 3 : 19 ; アルマ 7 : 11 - 13 ; モロナイ 7 : 48

### 学ぶ際のヒント

「救い主を信じる信仰を築〔ける〕ように、学習活動を計画する」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』, 22)。例えば、勉強を続けていくと、次のような疑問が生じるかもしれない。「こうした教えは、わたしがイエス・キリストの贖い<sup>あがな</sup>について理解を深めるうえでどのような助けになるのだろうか。もっと救い主のような者となるためにどんな助けになるのだろうか。」

### 注

1. 「[「くい」を強めよ]『聖徒の道』1991年8月号, 5 ; 「キリストを思う」『聖徒の道』1989年6月号, 3 ; 「主の歩みにならって」『聖徒の道』1989年1月号, 3などを参照
2. 「キリストを思う」『聖徒の道』1989年6月号, 4
3. 「キリストを思う」, 4
4. 大会報告, 1967年4月, 58
5. 「永遠なる生命」『聖徒の道』1972年4月号, 156 - 157 参照
6. 大会報告, 1966年4月, 128
7. 「キリストにあって得る喜び」『聖徒の道』1986年10月号, 5 参照
8. 「キリストを思う」, 4 参照
9. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 328
10. 「神聖な務め」『聖徒の道』1986年7月号, 78.
11. 「神の性質」『聖徒の道』1987年1月号, 51 - 55 参照
12. 「永遠なる生命」, 157 参照
13. 「キリストのみもとに来て」『聖徒の道』1988年1月号, 91 - 92 参照



## 絵画・写真リスト

表紙——背景 © Artbeats

表紙——エズラ・タフト・ベンソンの写真  
© Busath.com

32 ページ—「キリストと若い金持ちの役人」の一部, ハインリッヒ・ホフマン画。C.Harrison Conroy Co., Inc. の厚意により掲載

36 ページ—「いにしへの模範, 現代の約束」ジェフ・ワード画

54 ページ—「前世のキリスト」ロバート・T・バレット画

76 ページ—「心から悔い改めるアルマ」ロバート・T・バレット画

80 ページ—「主はよみがえられた」の一部, デル・パーソン画

84 ページ—「墓の前のキリストとマリヤ」ジョセフ・ブリッキー画

87 ページ—「わたしは平安をあなたがたに残して行く」(ヨハネ 14:27) ウォルター・レーン画

92 ページ—「ベテロとアンデレを召されるキリスト」ハリー・アンダーソン画

96 ページ—「ジョセフ・スミスの最初の示現」グレッグ・K・オルセン画

101 ページ—「金版を受け取るジョセフ・スミス」ケネス・ライリー画

118 ページ—「ジョセフ兄弟」デビッド・リンズリー画

118 ページ—「聖書とモルモン書はキリストについて証する」グレッグ・K・オルセン画

128 ページ—「クモラの丘でジョセフに金版を渡すモロナイ」ルイス・A・ラムジー画

214 ページ—「キリストの肖像」の一部, ハインリッヒ・ホフマン画。C.Harrison Conroy Co., Inc. の厚意により掲載

218 ページ—「ノア王の前に立つアビナダイ」アーノルド・フライベルグ画

232 ページ—「イエスはこの十二人を遣わされた」ウォルター・レーン画

236 ページ—「もう失われることはない」グレッグ・K・オルセン画

276 ページ—「優しき癒し手」グレッグ・K・オルセン画

281 ページ—「わたしの羊を飼いなさい」カミーユ・コリー画





# 索引

## あ

### 愛

- 「いなくなった羊」への\_\_, 235 - 243
- 家庭における\_\_, 167 - 169
- 神への\_\_, 33 - 39
- 指導者の務めにおける\_\_, 229 - 230
- 伝道活動における\_\_, 259, 265

愛国心, 19 - 22

### 悪事

- \_\_は決して幸福を生じたことがない, 57 - 58, 74, 205
- 世の\_\_, 109 - 110

## い

### イエス・キリスト

- \_\_に関するモルモン書の記述, 121 - 123
- \_\_に対するエズラ・タフト・ベンソンの愛, 85
- \_\_の証に雄々しくなる, 89 - 90
- \_\_の教会, 81
- \_\_の使命, 85 - 88
- \_\_の贖罪, 85 - 88
- \_\_の属性, 279 - 283
- \_\_の復活, 88 - 89
- \_\_の模範に従う, 91 - 94, 227, 230 - 231, 239 - 240, 277 - 285
- \_\_のようになろうとする, 79 - 81, 93 - 94
- \_\_はわたしたちが生活を変えるのをぜひ助けたいと思っておられる, 78 - 79
- \_\_を信じる信仰, 74, 91 - 92
- 思いを尽くして\_\_を仰ぎ見る, 279 - 280
- 十字架にかけられた, 87 - 88
- ジョセフ・スミスに御姿を現された, 98 - 99
- 救い主としての\_\_, 83 - 94, 278 - 279

- 人々を変え、それによって彼らがこの世を変えられるようにされる, 71, 73
- 人を慰め、高めてくださる, 283 - 285
- わたしたちに対する\_\_の愛, 34 - 35, 86

### 一致

- 親の務めにおける\_\_, 185 - 186
- 家族の\_\_, 45 - 46, 172 - 173
- 謙遜は\_\_に不可欠である, 220 - 221
- 効果的な指導者は\_\_する, 229
- 夫婦の\_\_, 169 - 172

委任, 230 - 232

### 祈り(祈る)

- \_\_の答え, 48 - 51
- \_\_を改善する, 47 - 48
- イエスが示された\_\_の手本, 44 - 45
- エズラ・タフト・ベンソンのために祈るベンソン家, 43 - 44
- 家族の\_\_, 45 - 46
- 聖霊を受けるために\_\_, 149 - 150
- 絶えず\_\_, 44 - 45, 66
- ふさわしくないと感じて\_\_も\_\_, 78 - 79
- 誘惑に耐えるために\_\_, 206

## お

思い, 清い\_\_, 205 - 206

## か

### 改心

「心の変化」の項を参照

回復, 102

過去に心向けない, 80 - 81

### 家族

- \_\_の祈り, 45 - 46
- \_\_の中で福音を教える, 173 - 174
- \_\_の中の高齢者との関係, 195 - 197
- \_\_を強める, 169 - 174, 177, 179
- 永遠の\_\_, 160, 167, 174 - 175

この世においても永遠にわたっても大切である, 169  
 「父親」「祖父母」「家庭」「結婚」「母親」「両親」の項も参照  
 家族の祈り, 45 - 46  
 家族歴史, 160 - 161  
 家庭  
 この世からの避け所, 168  
 生涯で最も心満たされる経験をする場所, 168 - 169  
 「家族」「結婚」「両親」の項も参照  
 家庭の夕べ, 137 - 138, 174  
 悲しみ, 神の御心に添った\_\_は悔い改めに至る, 76 - 77  
 神, 父なる  
 「天の御父」の項を参照  
 神の御言葉  
 \_\_には聖典や生ける預言者の教えや個人の啓示が含まれる, 110  
 \_\_を軽視してはならない, 115  
 \_\_を熱心に研究すると忠実になる, 110 - 113  
 \_\_を学ぶことの祝福, 113 - 114  
 現代の様々なチャレンジに耐える力を高めてくれる, 109 - 110  
 「モルモン書」「聖文研究」の項も参照  
 き

---

希望, 79 - 81  
 教会にあまり活発でない会員に手を差し伸べる, 235 - 243  
 教会にあまり活発でない会員を教え導く, 235 - 243  
 教会における兄弟愛, 23, 235 - 243  
 教会の会員であることの意味, 73 - 74, 81  
 教会の大管長  
 \_\_に従うことの祝福, 137 - 138, 142 - 143  
 \_\_は教会のための啓示を受ける, 138 - 140

\_\_はわたしたちにとって最も大切な預言者である, 139 - 140  
 教会を間違った方向に導くことはない, 142  
 わたしたちの聞くべきことを伝える, 140 - 142

#### 教会の福祉プログラム

\_\_の第一の目的, 248 - 249  
 エズラ・タフト・ベンソン, 自分のステータクに\_\_を導入する, 245, 247  
 第二次世界大戦後のヨーロッパにおける\_\_の影響, 15 - 18, 49, 245, 247  
 労働の機会を提供する, 249 - 250

#### 教義と聖約, 124 - 125

#### キリスト

「イエス・キリスト」の項を参照

#### く

#### 悔い改め

\_\_と希望, 79 - 81  
 \_\_と心の変化, 71, 73, 74 - 76  
 \_\_は行動を変える以上のことである, 74  
 神の御心に添った悲しみは\_\_に至る, 76 - 77  
 キリストを信じる信仰に続く, 74  
 性的な罪に対する\_\_, 208 - 209

#### け

#### 啓示

生ける預言者を通して与えられる, 138  
 神殿参入を通して受ける, 163  
 聖霊を通して受ける, 148 - 149

#### 結婚

\_\_生活を育む, 167 - 168  
 \_\_における幸福, 169 - 172  
 エズラ・ベンソンとフローラ・ベンソンの\_\_, 167 - 168, 189  
 聖約, 169 - 172  
 「家族」「家庭」「両親」の項も参照

#### 決断

\_\_するときはよく祈って努力する必要がある, 58 - 59

- \_\_はわたしたちの永遠の行く末を左右する, 57 - 58
- 謙遜  
 エズラ・タフト・ベンソンの\_\_の模範, 213, 215  
 高慢と\_\_の対比, 213, 215, 221 - 223  
 指導者としての\_\_さ, 228  
 伝道活動における\_\_さ, 265  
 「高慢」の項も参照
- 
- こ
- 幸福  
 \_\_には努力が必要である, 67  
 神を信じる信仰の結果, 67  
 キリストのような生活をする\_\_を受け  
 る, 93 - 94  
 試練に関わらず\_\_を得る, 63, 65  
 天の御父はわたしたちが\_\_を経験するよ  
 うに望んでおられる, 68 - 69  
 福音の計画は\_\_の計画である, 73 - 74  
 幸福の計画, \_\_を理解することは悔い改め  
 に導く, 73 - 74
- 高慢  
 \_\_と謙遜の対比, 213, 215, 221 - 223  
 \_\_の形, 219 - 220  
 \_\_の結果, 217 - 221  
 \_\_の治療薬は謙遜, 221 - 223  
 神と同胞に対する敵意, 215 - 217  
 神の裁きよりも人の裁きを恐れる, 217 -  
 218  
 主は\_\_について警告されている, 215 -  
 216  
 成長を制限する, 220 - 221  
 「謙遜」の項も参照
- 高齢者  
 \_\_との関係, 196 - 197  
 \_\_に関する, 教会指導者への勧告, 197  
 - 198  
 \_\_に対する主の愛, 190 - 191  
 \_\_の責任, 190 - 191  
 \_\_の強さ, 190  
 \_\_を家族の活動に参加させる, 196 -  
 197
- \_\_を世話する, 195 - 198  
 充足感を見いだす, 191 - 193, 198  
 病気のときも強さを保つ, 194
- 心の変化  
 \_\_と悔い改め, 71, 73, 74 - 76  
 内側から外側へ変わる, 71, 73  
 少しずつ起きる, 79 - 81
- 子供  
 純潔の律法について教える, 209 - 210  
 神殿について教える, 161 - 163
- 
- さ
- 最初の示現, 98 - 99  
 財政管理, 252 - 255
- サタン  
 \_\_が告げる偽り, 73, 78  
 わたしたちを憎んでいる, 38 - 39
- 
- し
- 慈愛, 34 - 35
- シオンのステーク  
 \_\_におけるエズラ・タフト・ベンソンの  
 指導力, 12, 225, 235 - 238, 245,  
 247, 269 - 270  
 \_\_の目的, 271 - 274
- 指導者  
 \_\_としての務めにおいて救い主の模範に  
 倣う, 227, 230 - 231  
 \_\_の模範の重要性, 227 - 228  
 委任する, 230 - 232  
 エズラ・タフト・ベンソンの\_\_としての模  
 範, 25 - 26, 107, 213, 215, 225,  
 227, 235 - 238  
 効果的な\_\_の特質, 228 - 230  
 人を成長させる, 233
- 借金, 252 - 255
- 従順  
 \_\_がもたらす祝福, 38 - 39, 73 - 74,  
 152 - 153  
 人生における大いなる試し, 34, 39
- 純潔  
 \_\_について子供に教える, 209 - 210

\_\_の標準は神の戒めである, 203  
 \_\_の律法, 201 - 210  
 \_\_の律法を破らせる誘惑に抵抗する,  
 205 - 208  
 \_\_は喜びをもたらす, 210  
 時代遅れになることはない, 201  
 将来に心を向けて生活する, 81  
 食糧貯蔵, 250 - 252  
 ジョセフ・スミス  
 「スミス, ジョセフ」の項を参照  
 自立, 245 - 255  
 試練, 63, 65, 67, 109 - 110  
 神権  
 完全な\_\_は神殿でのみ受けられる, 158  
 - 159  
 神殿の儀式を通して家族を結び固める\_\_  
 の力, 160  
 信仰  
 \_\_とはイエス・キリストに従うことも含ま  
 れる, 91 - 92  
 アイダホの農場主たちが表した\_\_, 65  
 悔い改めに先立つ, 74  
 第二次世界大戦後のヨーロッパの聖徒た  
 ちが示した\_\_, 63, 65  
 楽観的な見方と平安につながる, 66  
 神殿  
 \_\_がもたらす守りと導き, 159 - 160  
 \_\_で交わす聖約, 158 - 159  
 \_\_で啓示を受ける, 163  
 \_\_で先祖に奉仕する, 160 - 161  
 \_\_について子供に教える, 161 - 163  
 \_\_の儀式を受ける, 158 - 159  
 エズラ・タフト・ベンソン, 母親から\_\_に  
 ついて学ぶ, 155  
 完全な神権は\_\_でのみ受けられる, 158  
 - 159  
 象徴としての\_\_, 157 - 158  
 す

---

スミス, ジョセフ  
 \_\_とモルモン書, 100 - 101

\_\_の祈りは何百万の人々に影響を及ぼし  
 ている, 58 - 59  
 \_\_の最初の示現, 98 - 99  
 \_\_の殉教, 102 - 103  
 \_\_の忠実さ, 102 - 103  
 \_\_の予任, 103 - 104  
 \_\_への啓示, 99 - 100  
 \_\_を通して地上に再び神の王国が設立さ  
 れた, 102  
 最後の神権時代の長である, 104 - 105  
 天使の訪れ, 99 - 100

## せ

## 性的な罪

\_\_に対する赦し, 208 - 209  
 \_\_の危険, 203 - 204  
 誘惑に耐える, 205 - 208

## 聖文研究

\_\_により教会の活動にさらに活発になる,  
 110 - 113  
 \_\_の価値, 115  
 \_\_の祝福, 109 - 114  
 \_\_は御霊を招く, 150 - 152  
 「モルモン書」「神の御言葉」の項も参照

## 聖約, 159 - 160

## 聖霊

\_\_の導きは主の業に不可欠である, 145,  
 147  
 \_\_を伴侶とする, 147 - 148  
 祈りと断食を通して\_\_を受ける, 149 -  
 150  
 神の律法に従う人のもとにとどまる, 152  
 - 153  
 感情に働きかける, 148 - 149  
 聖文研究を通して\_\_を受ける, 150 - 152  
 伝道活動と\_\_, 264 - 265

## 選択の自由

\_\_の行使は, 現世と永遠にわたる幸福を  
 もたらす, 57 - 61  
 \_\_は永遠の原則である, 55 - 56

## そ

## 祖父母

\_\_としてのエズラ・ベンソンとフローラ・ベンソン, 189  
 \_\_との関係, 195 - 197  
 「家族」の項も参照

## た

大恐慌, 245, 247

## ち

### 父親

\_\_の永遠の召し, 179 - 180  
 霊的な指導を与えることに関する, \_\_への  
 勧告, 180 - 182  
 「両親」「母親」の項も参照

## つ

慎み深さ, 207

## て

天での戦い, 55 - 56

### 伝道活動

\_\_における愛, 259, 265  
 \_\_における成功, 264 - 266  
 \_\_における聖霊の影響, 264 - 265  
 \_\_に対するエズラ・タフト・ベンソンの熱  
 意, 257, 259  
 \_\_に熱心に携わる, 265 - 266  
 \_\_のために青少年を備える, 261 - 262  
 \_\_の喜び, 259  
 エズラ・タフト・ベンソンの家族における  
 \_\_の伝統, 257  
 謙遜と\_\_, 265  
 シニアと\_\_, 191, 262  
 人生のあらゆる段階における\_\_, 260 -  
 262  
 全世界における\_\_, 259 - 260  
 モルモン書を使った\_\_, 119, 127, 129 -  
 130, 133 - 135, 263 - 264  
 若い女性と\_\_, 262  
 若い男性と\_\_, 261 - 262

### 天の御父

\_\_との交わりを改善する, 47 - 48  
 \_\_に人生をゆだねることがもたらす祝福,  
 38 - 39

\_\_の戒め, 34 - 39, 73 - 74  
 \_\_の御心に従う, 68 - 69  
 \_\_は祈りに答えられる, 48 - 51  
 \_\_は常に近くにおられる, 41  
 \_\_はわたしたちが生活を変えるのをぜひ  
 助けたいと思っておられる, 78 - 79  
 \_\_への愛, 33 - 39  
 \_\_を信じる信仰, 92  
 ジョセフ・スミスに御姿を現された, 98  
 - 99  
 福音に従って生活するよう強制はされな  
 い, 56  
 わたしたちが幸福になることを望んでお  
 られる, 68 - 69  
 わたしたちに対する\_\_の愛, 38 - 39

## は

### 母親

神によって定められた\_\_の役割, 182 -  
 183  
 子供と時間を過ごすことについて勧告す  
 る, 183 - 185  
 「父親」「両親」の項も参照

## ふ

福祉, 物質的および霊的な\_\_の原則, 245 -  
 255

## へ

### ベンソン, エズラ・タフト

\_\_の家族における伝道活動の伝統, 257  
 \_\_の謙遜さ, 213, 215  
 \_\_の死, 1, 29  
 \_\_の指導方法, 25 - 26, 107, 213, 215,  
 225, 227, 235, 237 - 238  
 \_\_の両親, 3 - 5, 35, 53, 83  
 愛国心, 19 - 22  
 新しいステーキ会長を召すよう靈感を受け  
 る, 145  
 あらゆる年齢層の教会員に向けて話す,  
 28  
 イエス・キリストに対する愛, 85  
 イエス・キリストについて証する, 22 -  
 25, 28, 83, 85, 277 - 278

祈りの答えとして政府官僚の協力を得る、  
49  
 受けた教育、10 - 12  
 家族、13, 167 - 169, 177, 179  
 家族を連れて出張に出かける、168 - 169,  
179  
 合衆国の農務長官としての任務、19 -  
21, 41, 43, 225  
 教会にあまり活発でない男性を指導者と  
して召す、235, 237  
 教会の活動の中で若い男性を強める、5  
- 6, 269  
 教会や仕事の責任があっても家族と時間  
を過ごす、179  
 悔い改めを宣べ伝えるために召される、  
71  
 健康の衰え、29  
 ゴードン・B・ヒンクレイが語った、\_\_の  
祈り、43  
 子供時代、1 - 3, 53  
 地元の教会における奉仕、5 - 6, 11 - 12,  
225, 235 - 238, 245 - 247, 269 -  
270  
 十二使徒定員会会長として召される、25  
- 26  
 十二使徒定員会に召される、13 - 15  
 職業、11 - 12, 33, 225, 269 - 270  
 ジョセフ・スミスについて証する、97 -  
98  
 ステークに教会の福祉プログラムを導入  
する、245, 247  
 スペンサー・W・キンボールの預言者とし  
ての召しについて証する、138  
 政府関係者に示した模範、33, 41, 43  
 政府の会議で祈る、41, 43  
 専任宣教師としての\_\_の伝道、8 - 9, 97  
- 98, 257  
 大管長になる、26 - 27, 138, 227  
 第二次世界大戦後のヨーロッパにおける  
奉仕、15 - 18, 49, 63, 65, 245, 247,  
250  
 誕生、1 - 2  
 父親から祈りについて学ぶ、41  
 父なる神に対する愛、34

伝道の準備をしている若い男性を励ます、  
259  
 母親から神殿について学ぶ、155  
 フローラ・アムッセンとの交際、7 - 8, 9  
- 11  
 フローラ・スミス・アムッセンとの結婚、  
10, 167 - 169, 177, 189  
 モルモン書について証する、26 - 27, 117,  
119 - 120, 127, 129 - 130  
 ロシアのモスクワでバプテスト教会を訪問  
する、23 - 25

ベンソン、サラ・ダンクレー（母親）  
 \_\_の信仰、83  
 夫が伝道に召されたときに信仰を示す、4  
- 5  
 息子エズラに神殿について教える、155  
 ベンソン、ジョージ・タフト・ジュニア（父  
親）  
 \_\_の信仰、83  
 専任宣教師としての\_\_の伝道、4 - 5,  
35, 257  
 息子エズラに祈りを教える、41  
 預言者に従うよう家族を導く、137  
 ベンソン、フローラ・スミス・アムッセン（妻）  
 \_\_の死、29  
 エズラ・タフト・ベンソンとの結婚、10,  
167 - 169, 177, 189  
 エズラ・タフト・ベンソンとの交際、7 -  
8, 9 - 11  
 専任宣教師としての\_\_の伝道、9 - 10

---

**ほ**


---

奉仕  
 教会での\_\_、233  
 結婚における、169 - 172  
 高齢者への\_\_、197 - 198  
 ボルノグラフィー、205 - 206

---

**み**


---

御霊  
 「聖霊」の項を参照

---

**も**


---

模範によって導く、227 - 228

## モルモン書

- \_\_で生活を洪水のごとく満たす, 133 - 135  
 \_\_と教義と聖約, 124 - 125  
 \_\_の力, 26 - 28, 131 - 132  
 \_\_はイエス・キリストについて証する, 121 - 123  
 \_\_は真の教義を教える, 123 - 124  
 \_\_を学習と教えの中心に置くべきである, 119  
 \_\_を軽視することへの警告, 117, 119 - 120  
 \_\_を使った伝道活動, 119, 127, 129 - 130, 133 - 135, 263 - 264  
 \_\_を毎日研究する, 131 - 132  
 幼い子供たちと\_\_を読む, 127, 129  
 家族で読む祝福, 122 - 123  
 ジョセフ・スミスと\_\_, 100 - 101  
 末日聖徒の宗教のかなめ石, 117 - 125  
 末日のために記されたものである, 130 - 131  
 わたしたちを神に近づけてくれる, 121 - 123  
 「聖文研究」「神の御言葉」の項も参照

## ゆ

## 誘惑

- \_\_に耐える, 205 - 208  
 \_\_を避ける, 206 - 207

## 赦し

- \_\_の約束, 80 - 81  
 性的な罪に対する\_\_, 208 - 209

## よ

ヨーロッパにおけるエズラ・タフト・ベンソンの働き, 15 - 18, 49, 63, 65, 245, 247, 250

## 預言者

「教会の大管長」の項を参照

弱さ, \_\_を克服する, 78 - 79

## ら

楽観主義, 66

## り

## 両親

- \_\_の一致, 185 - 186  
 \_\_の役割, 179 - 186  
 \_\_は子供に純潔について教えるべきである, 209 - 210  
 \_\_は子供に神殿について教えるべきである, 161 - 163  
 \_\_を敬う, 195 - 196  
 「家族」「父親」「家庭」「結婚」「母親」の項も参照

## ろ

## 労働(働き)

- \_\_の価値, 249 - 250  
 \_\_は成功の鍵である, 53  
 伝道活動における\_\_, 265 - 266

末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会

